

西長岡宿遺跡（1）

（弥生時代以降編）

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

東日本高速道路株式会社
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

西長岡宿遺跡
（1）
（弥生時代以降編）

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一〇

東日本高速道路株式会社
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

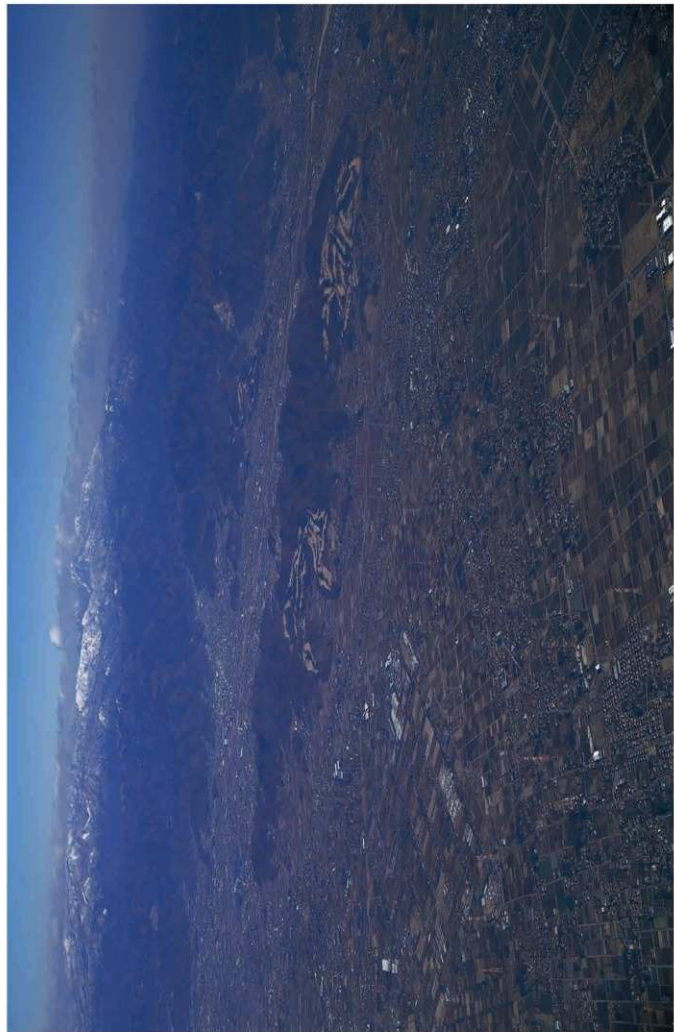


西長岡宿遺跡（1） （弥生時代以降編）

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

東日本高速道路株式会社
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



原 遠 繪 空 繪 宿 宿 國 長 西



西長岡宿遺跡（矢印）空撮近照

序

西長岡宿遺跡は、太田市西長岡に所在し、北関東自動車道（伊勢崎～県境）の建設工事に伴い、平成13年度から15年度と3年にわたる長い期間の発掘調査が実施されました。

本遺跡の周辺には、成塚向山古墳、成塚住宅団地遺跡、駒形神社埴輪窯址など古墳時代の遺跡が多く分布する地域です。この度の発掘調査においては、古墳時代から、平安時代にかけての水路跡を主体に発見されています。古代において、八王子丘陵南麓の沖積地は、一大穀倉地帯と推定されます。これらの生産地に関連する水路や旧河川から当時の生活用具である土器が多量に発見されました。いわば、この地は、集落と生産地の中間に位置する場所として利用されたところであります。

本書には、これらの成果が報告されております。本書により、考古学の研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をもお持ちの県民の皆様、さらには、学校教育における郷土学習にも大いに役立つものと確信しております。

最後に、東日本高速道路株式会社、群馬県教育委員会文化財保護課、太田市教育委員会及び地元関係者の皆様には発掘調査から報告書刊行まで終始ご協力を賜り、感謝の意を表します。

平成22年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 須田 栄 一

例言

- 1 本書は、北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設工事に伴い発掘調査された西長岡宮遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。本書では、弥生時代以降について掲載した。縄文時代については、次編に掲載する。
- 2 事業主体 東日本高速道路株式会社
- 3 調査・整理主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査期間 平成13年4月1日～平成16年1月31日
- 5 整理期間 平成20年4月1日～平成22年3月31日
- 6 調査組織

管理指導 平成13年度 理事長 小野宇三郎 常務理事 吉田 豊・赤山容造
東毛調査事務所 水田 稔・津金沢吉茂
平成14年度 理事長 小野宇三郎 常務理事 吉田 豊 事業局長 神保佑史
東毛調査事務所 能登 健・真下高幸
平成15年度 理事長 小野宇三郎 常務理事 住谷永市 事業局長 神保佑史
東毛調査事務所 平野進一・真下高幸

事務担当 平成13年度 相京建史 柳岡良宏 田中賢一
平成14年度 佐藤明人 笠原秀樹 柳岡良宏 中澤恵子
平成15年度 佐藤明人 笠原秀樹 柳岡良宏 北野勝美 中澤恵子 金子三枝子

調査担当 平成13年度 石塚久則・金子伸也・大塚俊和・小林 徹・久保 学・石田 真
平成14年度 石塚久則・金子伸也・黒澤照弘・小林 徹・坂井 隆・伊平 敬・齊田智彦
橋崎修一郎・本間 昇
平成15年度 坂井 隆・谷藤保彦・矢村 哲・大澤 努・小林 徹・本間 昇・黒澤照弘
山田精一
- 7 整理組織

管理指導 理事長 高橋勇夫・須田栄一 常務理事 津金沢吉茂・木村裕紀 事業局長 相京建史

事務担当 総務部長 笠原秀樹・資料整理部長 石坂茂・佐嶋芳明・須田朋子・矢島一美・齋藤陽子
齊藤恵利子・柳岡良宏・田口小百合・高橋次代・今井もと子・佐藤美佐子・本間久美子
北原かおり

整理担当 関根愼二・齊田智彦
- 8 本書作成の担当者は以下の通りである。

編集 関根愼二・齊田智彦
本文執筆・遺物観察 関根愼二
石造物観察 新倉明彦
獣骨分析 宮崎重雄
遺物写真撮影 佐藤元彦
金属器保存処理 関 邦一・小村浩一・津久井圭一・多田ひさ子・増田政子

機械実測 田所順子・岸 弘子・小池益美

デジタル図版作成 牧野裕美・市田武子・酒井史恵・廣津真希子・安藤美奈子・矢端真観・高梨由美子
横塚由香・須藤絵美・下川陽子

テフラ・プラントオーバー分析 古環境研究所

- 9 出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

発掘調査及び報告書作成では、以下の方々にご協力・ご指導をいただいた。記して感謝の意を表します。
(敬称略・順不同)

太田市教育委員会・宮崎重雄・橋崎修一郎・深澤敦仁

凡 例

- 1 遺跡に使用した方位は、座標の北を表している。
- 2 本書中の遺構番号は、発掘調査時に付したものをそのまま使用している。そのため、遺構名称と遺構の種類が一致しない部分もある。これは、遺物注記が発掘調査時に付した遺構名によって作成されているためである。また、遺構名称の重複や図面等の欠落によるものは、欠番としている。
- 3 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。なお、図中に縮尺を記入している。

遺構図 住居 1 : 60 土坑・ピット・井戸 1 : 20、1 : 40

溝・その他の遺構 1 : 40、1 : 80、1 : 160、1 : 200 1 : 250、1 : 300、(平面図)
1 : 20、1 : 40、1 : 50 (断面図)

遺物図 土器 1 : 2 1 : 3 大形土器 1 : 4

石造物・木器 1 : 4、大形石造物・木器 1 : 6 1 : 8

- 4 遺物写真の倍率は原則として遺物実測図と同等にしたが、一部異なるものもある。
- 5 本報告書で使用したテフラの略号は以下の通りである。
浅間A軽石(1783年)As-A、浅間B軽石(1108年)As-B、榛名二ツ岳伊香保テフラ(6世紀中葉)Hr-Fp
榛名二ツ岳渋川テフラ(6世紀初頭)Hr-FA、浅間C軽石(4世紀中葉)As-C。
- 6 本報告書で使用した地図は、以下の通りである。
国土地理院 地形図 1 : 25,000「桐生・上野境」地勢図 1 : 200,000「宇都宮」
- 7 遺物の色調については、農林水産省農業水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』に拠った。

序

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第1章 調査に至る経過と遺跡の概要	1
第1節 発掘調査に至る経過	1
第2節 調査の方法	2
第3節 西長岡宿遺跡調査経過（日誌抄）	4
第4節 遺跡の位置と周辺の遺跡	6
第5節 遺跡地の環境と基本層序	9
第2章 I区検出された遺構	24
第1節 遺構の概要	24
第2節 検出された遺構と遺物	25
第3章 II区検出された遺構	45
第1節 遺構の概要	45
第2節 検出された遺構と遺物	46
第4章 III区検出された遺構	71
第1節 遺構の概要	71
第2節 検出された遺構と遺物	72
第5章 IV区検出された遺構	111
第1節 遺構の概要	111
第2節 検出された遺構と遺物	112
第6章 V区検出された遺構	121
第1節 遺構の概要	121
第2節 検出された遺構と遺物	122
第7章 VI区検出された遺構	139
第1節 遺構の概要	139
第2節 検出された遺構と遺物	140
第8章 VII区検出された遺構	152
第1節 遺構の概要	152
第2節 検出された遺構と遺物	153
第9章 まとめ	185
第1節 自然化学分析	185
1. 獣骨類の分析	185
2. I区の土層とテフラ・プラントオパール分析	191
第2節 調査の成果	199

挿入目次

第1図	西長岡宿道跡配置図	1	第56図	Ⅲ区16号・17号土坑、1号ビット群	83	第108図	Ⅶ区13号～16号・18号・20号～23号土坑	161
第2図	西長岡宿道跡グリッド設定図	2	第57図	Ⅲ区1号・2号構列	84	第109図	Ⅶ区2号～8号c'外、1号埋設桶	162
第3図	西長岡宿道跡調査範囲全体図	3	第58図	Ⅲ区1号～6号溝	85	第110図	Ⅶ区9号・2号溝	163
第4図	西長岡宿道跡周辺道跡分布図	7	第59図	Ⅲ区7号・11号溝	86	第111図	Ⅶ区3号・5号・6号溝	164
第5図	西長岡宿道跡周辺の地形断面図	9	第60図	Ⅲ区12号・15号溝	88	第112図	Ⅶ区7号・8号溝	165
第6図	I区1号観察地点	10	第61図	Ⅲ区13号・14号・16号溝	89	第113図	Ⅶ区12号・14号・18号・19号溝	166
第7図	I区基本土層	11	第62図	Ⅲ区18号～22号溝	90	第114図	Ⅶ区9号・11号・15号～17号・21号溝	167
第8図	Ⅱ区1号観察地点	12	第63図	Ⅲ区23号～27号溝	91	第115図	Ⅶ区20号・22号～25号溝	168
第9図	Ⅱ区基本土層	13	第64図	Ⅲ区28号～28号溝	92	第116図	Ⅶ区26号～30号溝	169
第10図	Ⅲ区1号観察地点	14	第65図	Ⅲ区39号～42号溝	93	第117図	Ⅶ区出土物(1)	174
第11図	Ⅲ区基本土層	15	第66図	Ⅲ区44号～47号・50号溝	94	第118図	Ⅶ区出土物(2)	175
第12図	Ⅳ区1号観察地点	16	第67図	Ⅲ区44号～47号・50号溝c'外	95	第119図	Ⅶ区出土物(3)	176
第13図	Ⅳ区基本土層	17	第68図	Ⅲ区48号・49号・51号溝	96	第120図	Ⅶ区出土物(4)	177
第14図	V区1号観察地点	18	第69図	Ⅲ区出土物(1)	102	第121図	Ⅶ区出土物(5)	178
第15図	V区基本土層	19	第70図	Ⅲ区出土物(2)	103	第122図	Ⅶ区出土物(6)	179
第16図	Ⅵ区1号観察地点	20	第71図	Ⅲ区出土物(3)	104	第123図	Ⅶ区出土物(7)	180
第17図	Ⅵ区基本土層	21	第72図	Ⅲ区出土物(4)	105	第124図	Ⅶ区出土物(8)	181
第18図	Ⅶ区1号観察地点	22	第73図	Ⅲ区出土物(5)	106	第125図	Ⅶ区出土物(9)	182
第19図	Ⅶ区基本土層	23	第74図	Ⅲ区出土物(6)	107	第126図	Ⅶ区出土物(10)	183
第20図	I区全体図	24	第75図	Ⅲ区出土物(7)	108	第127図	Ⅶ区出土物(11)	184
第21図	I区1号遺構	28	第76図	Ⅲ区出土物(8)	109			
第22図	I区3号・4号遺構	29	第77図	Ⅲ区出土物(9)	110			
第23図	I区6号～8号遺構	30	第78図	Ⅳ区全体図	111			
第24図	I区9号～11号遺構	31	第79図	Ⅳ区15号～18号遺構・1号井戸	113			
第25図	I区1号・2号溝	32	第80図	Ⅳ区3号～5号溝	114			
第26図	I区3号・4号・10号溝	33	第81図	Ⅳ区6号溝	115			
第27図	I区7号・8号・13号溝	34	第82図	Ⅳ区出土物(1)	118			
第28図	I区出土物(1)	39	第83図	Ⅳ区出土物(2)	119			
第29図	I区出土物(2)	40	第84図	Ⅳ区出土物(3)	120			
第30図	I区出土物(3)	41	第85図	V区全体図	121			
第31図	I区出土物(4)	42	第86図	V区1号・3号～9号土坑	127			
第32図	I区出土物(5)	43	第87図	V区10号～17号土坑	128			
第33図	I区出土物(6)	44	第88図	V区18号～28号土坑	129			
第34図	Ⅱ区全体図	45	第89図	V区1号～5号焼土	130			
第35図	Ⅱ区1号・2号土坑、7号～12号遺構	50	第90図	V区1号・3号・4号・15号溝	131			
第36図	Ⅱ区14号・15号・17号～25号遺構	51	第91図	V区2号・5号～14号溝	132			
第37図	Ⅱ区26号～28号・31号～34号遺構	52	第92図	V区溝c'外・1号c'外	133			
第38図	Ⅱ区1号溝	53	第93図	V区出土物(1)	135			
第39図	Ⅱ区2号溝	54	第94図	V区出土物(2)	136			
第40図	Ⅱ区3号～5号溝	55	第95図	V区出土物(3)	137			
第41図	Ⅱ区6号～12号溝	56	第96図	V区出土物(4)	138			
第42図	Ⅱ区出土物(1)	61	第97図	Ⅳ区全体図	139			
第43図	Ⅱ区出土物(2)	62	第98図	Ⅳ区1号住居	144			
第44図	Ⅱ区出土物(3)	63	第99図	Ⅳ区2号住居、1号・2号井戸	145			
第45図	Ⅱ区出土物(4)	64	第100図	Ⅳ区6号～15号土坑	146			
第46図	Ⅱ区出土物(5)	65	第101図	Ⅳ区1号c'外、1号・2号焼土	147			
第47図	Ⅱ区出土物(6)	66	第102図	Ⅳ区4号・5号溝、1号高状遺構	148			
第48図	Ⅱ区出土物(7)	67	第103図	Ⅳ区出土物(1)	150			
第49図	Ⅱ区出土物(8)	68	第104図	Ⅳ区出土物(2)	151			
第50図	Ⅱ区出土物(9)	69	第105図	Ⅳ区全体図	152			
第51図	Ⅱ区出土物(10)	70	第106図	Ⅳ区1号～10号・12号土坑	160			
第52図	Ⅲ区全体図	71	第107図					
第53図	Ⅲ区1号～3号・5号土坑	80						
第54図	Ⅲ区4号・6号～8号土坑	81						
第55図	Ⅲ区9号～15号土坑	82						

表目次

表1	西長岡宿道跡周辺道跡一覧表	8
表2	I区遺構一覧表	27
表3	I区出土物観察表	35
表4	Ⅱ区遺構一覧表	48
表5	Ⅱ区出土物観察表	57
表6	Ⅲ区遺構一覧表	76
表7	Ⅲ区出土物観察表	97
表8	Ⅳ区遺構一覧表	112
表9	Ⅳ区出土物観察表	116
表10	V区遺構一覧表	125
表11	V区出土物観察表	134
表12	Ⅳ区遺構一覧表	143
表13	Ⅳ区出土物観察表	149
表14	Ⅳ区遺構一覧表	158
表15	Ⅳ区出土物観察表	170

写真目次

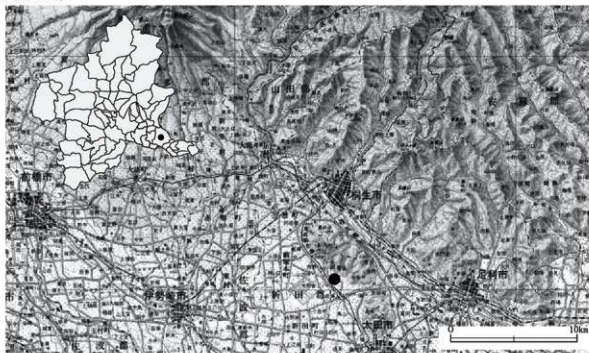
PL. 1	I 区調査区近景 (東)	PL.11	II 区 2 号溝遺物出土状況 (東)	PL.21	III 区16号溝遺物出土状況 (東)
	I 区調査区近景 (南)		II 区 2 号溝遺物出土状況 (東)		III 区16号溝遺物出土状況 (南)
PL. 2	I 区調査区近景 (西)		II 区 2 号溝遺物出土状況 (東)		III 区16号溝遺物出土状況 (南)
	I 区調査区近景 (西)		II 区 6 号・7 号溝全景 (南)		III 区16号溝遺物出土状況 (東)
PL. 3	I 区 1 号道溝遺物出土状況 (南)	PL.12	III 区調査区全景 (東)		III 区19号溝断面 (南)
	I 区 1 号道溝遺物出土状況 (南)		III 区調査区全景 (東)		III 区20号溝断面 (南)
	I 区 1 号道溝遺物出土状況 (南)	PL.13	III 区 1 号土坑断面 (南)		III 区21号溝断面 (北)
	I 区 1 号道溝遺物出土状況 (南)		III 区 1 号土坑全景 (南)		III 区22号溝断面 (南)
	I 区 1 号道溝遺物出土状況 (西)		III 区 2 号土坑断面 (東)	PL.22	III 区23号溝断面 (北)
	I 区 1 号道溝遺物出土状況 (南)		III 区 2 号土坑全景 (南)		III 区29号溝断面 (南)
	I 区 3 号道溝遺物出土状況 (東)		III 区 3 号土坑断面 (東)		III 区39号溝断面 (西)
	I 区 3 号道溝遺物出土状況 (西)		III 区 3 号土坑全景 (東)		III 区40号溝断面 (南)
PL. 4	I 区 4 号道溝遺物出土状況 (東)		III 区 4 号土坑断面 (南)		III 区43号溝全景 (東)
	I 区 4 号道溝遺物出土状況 (西)		III 区 4 号土坑全景 (南)	PL.23	III 区44号～47号・50号溝全景 (北)
	I 区 4 号道溝遺物出土状況 (南)	PL.14	III 区 5 号土坑断面 (北)		III 区44号溝断面 (南)
	I 区 4 号道溝遺物出土状況 (南)		III 区 5 号土坑全景 (北)		III 区45号溝断面 (南)
	I 区 6 号道溝遺物出土状況 (東)		III 区 6 号土坑断面 (西)		III 区46号溝断面 (南)
	I 区 6 号道溝遺物出土状況 (西)		III 区 7 号土坑断面 (北)		III 区46号溝遺物出土状況 (南)
	I 区 6 号道溝遺物出土状況 (西)		III 区 7 号土坑全景 (南東)	PL.24	III 区47号溝断面 (南)
	I 区11号道溝遺物出土状況 (西)		III 区 8 号土坑断面 (北)		III 区48号溝断面 (南)
PL. 5	I 区12号道溝断面 (南西)		III 区 8 号土坑全景 (東)		III 区49号溝断面 (南)
	I 区15号道溝全景 (東)		III 区 9 号土坑断面 (南)		III 区50号溝断面 (南)
	I 区15号道溝遺物出土状況 (東)	PL.15	III 区 9 号土坑全景 (南)		III 区51号溝全景 (東)
	I 区15号道溝遺物出土状況 (東)		III 区10号土坑断面 (東)		III 区51号溝全景 (東)
	I 区 3 号溝断面 (東)		III 区10号土坑全景 (東)		III 区51号溝全景 (東)
	I 区 5 号・6 号溝全景 (西)		III 区14号土坑断面 (南)		III 区51号溝遺物出土状況 (南)
	I 区 5 号・6 号溝全景 (西)		III 区14号土坑遺物出土状況 (北)	PL.25	IV 区調査区全景 (北西)
	I 区 5 号・6 号溝全景 (南)		III 区16号土坑出土状況 (東)		IV 区調査区全景 (北西)
PL. 6	I 区 5 号・6 号溝全景 (東)		III 区16号土坑断面 (東)	PL.26	IV 区As-8下水田 (西)
	I 区 6 号溝遺物出土状況 (東)		III 区16号土坑全景 (東)		IV 区As-8下水田 (西)
	I 区 6 号溝遺物出土状況 (東)	PL.16	III 区 1 号 ^b ・ ^c 群全景 (南)		IV 区As-8下水田 (西)
	I 区 6 号溝遺物出土状況 (北)		III 区 1 号 ^b ・ ^c 群全景 (南東)		IV 区As-8下水田 (南西)
	I 区 6 号溝遺物出土状況 (東)		III 区 1 号溝埋全景 (南)		IV 区As-8下水田 (西)
	I 区 6 号溝遺物出土状況 (東)		III 区 1 号溝全景 (東)	PL.27	IV 区15号道溝断面 (西)
	I 区 6 号溝遺物出土状況 (東)	PL.17	III 区溝調査状況 (南)		IV 区16号道溝全景 (西)
	I 区 6 号溝遺物出土状況 (東)		III 区溝調査状況 (東)		IV 区17号道溝全景 (西)
PL. 7	I 区 8 号溝遺物出土状況 (南東)	PL.18	III 区 1 号～6 号溝調査状況 (南)		IV 区18号道溝全景 (南)
	I 区 8 号溝全景 (南)		III 区 2 号溝南部分 (西)		IV 区 4 号溝全景 (北東)
	I 区 8 号溝遺物出土状況 (北)		III 区 2 号溝全景 (南東)		IV 区 6 号溝全景 (北)
	I 区 8 号溝遺物出土状況 (南)		III 区 6 号溝全景 (南)		IV 区 5 号溝全景 (西)
	I 区 8 号溝遺物出土状況 (北東)		III 区 2 号・3 号溝全景 (南)	PL.28	V 区I河河道 (西)
PL. 8	II 区調査区全景 (西)		III 区 3 号・4 号溝全景 (南東)		V 区I河河道 (西)
	II 区調査区近景		III 区 1 号～4 号溝全景 (東)	PL.29	V 区調査区全景 (南東)
	II 区 7 号道溝全景 (西)		III 区 5 号溝全景 (西)		V 区調査区全景
PL. 9	II 区 8 号道溝全景 (西)	PL.19	III 区 7 号・11号溝全景 (東)	PL.30	V 区 1 号土坑全景 (南)
	II 区17号道溝全景 (北)		III 区 7 号・11号溝全景 (南)		V 区 3 号土坑全景 (北)
	II 区18号道溝断面 (南)		III 区 7 号・11号溝全景 (南)		V 区 4 号土坑全景 (東)
	II 区18号～20号道溝全景 (南)		III 区 7 号溝遺物出土状況 (北)		V 区 5 号土坑全景 (北)
	II 区19号道溝断面 (南)		III 区 7 号溝遺物出土状況 (東)		V 区 6 号土坑全景 (北)
	II 区20号道溝断面 (南)		III 区 8 号溝断面 (西)		V 区 7 号土坑全景 (東)
	II 区21号道溝断面 (南)		III 区 8 号溝全景 (西)		V 区 8 号土坑全景 (東)
	II 区21号道溝全景 (南)	PL.20	III 区 9 号溝全景 (南)		V 区 9 号土坑全景 (南)
	II 区22号道溝断面 (西)		III 区10号溝全景 (南西)	PL.31	V 区10号土坑全景 (東)
	II 区22号道溝全景 (西)		III 区10号溝全景 (東)		V 区11号土坑全景 (東)
	II 区23号道溝断面 (南)		III 区12号溝断面 (東)		V 区12号土坑全景 (南)
	II 区25号道溝全景 (西)		III 区13号溝全景 (南)		V 区13号土坑全景 (西)
	II 区33号道溝全景 (南)		III 区14号溝全景 (南)		V 区14号土坑全景 (南)
	II 区34号道溝全景 (南)		III 区16号溝 (東)		V 区14号土坑遺物出土状況 (北)
PL.11	II 区 1 号溝石塔出土状況 (南東)		III 区16号溝全景 (西)		V 区15号土坑全景 (南)

PL-31	V区16号土坑全景 (南東)	PL-42	MI区1号溝全景 (南東)	PL-53	MI区5号溝全景 (東)
PL-32	V区17号土坑全景 (東)		MI区1号溝断面 (東)		MI区6号溝全景 (南)
	V区18号土坑全景 (南)		MI区1号溝半掘出土状況 (西)		MI区7号溝全景 (東)
	V区19号土坑全景 (南)	PL-43	MI区2号溝全景 (北西)		MI区8号溝全景 (東)
	V区20号土坑全景 (南西)		MI区3号溝全景 (西)	PL-54	MI区8号溝断面 (東)
	V区21号・22号土坑全景 (南)		MI区4号溝全景 (北西)		MI区8号溝右輪塔出土状況 (東)
	V区23号土坑全景 (南)		MI区5号溝断面 (西)		MI区8号溝馬背出土状況
	V区26号・27号土坑断面 (南東)		MI区5号溝全景 (西)		MI区8号溝馬背出土状況 (南東)
	V区28号土坑断面 (北東)	PL-44	MI区1号高状遺構検出土状況 (南)		MI区9号溝全景 (南)
PL-33	V区1号焼土検出土状況 (南)		MI区1号高状遺構検出土状況 (西)		MI区11号溝全景 (東)
	V区1号焼土全景 (西)		MI区旧河道全景 (東)		MI区12号溝全景 (東)
	V区3号焼土全景 (南東)		MI区旧河道全景 (西)		MI区12号溝全景 (西)
	V区4号焼土全景 (南西)		MI区旧河道全景 (東)	PL-55	MI区14号溝全景 (南)
	V区5号焼土全景 (南)		MI区旧河道断面 (西)		MI区15号溝全景 (北)
	V区5号焼土全景 (南)		MI区旧河道断面 (西)		MI区16号溝全景 (南)
	V区旧河道遺物出土状況 (西)	PL-45	MI区中近世世面全景 (南東)		MI区17号溝全景 (北西)
	V区旧河道遺物出土状況 (西)		MI区中近世世面全景 (北西)		MI区18号溝全景 (南)
PL-34	V区1号溝全景 (南)	PL-46	MI区中近世世面全景		MI区19号溝全景 (北)
	V区2号溝全景 (北)		MI区中近世世面近景		MI区20号溝断面 (北)
	V区3号溝全景 (南)	PL-47	MI区1号〜3号土坑全景 (西)		MI区21号溝全景 (北)
	V区3号溝全景 (北)		MI区3号土坑断面 (南)	PL-56	MI区22号溝断面 (西)
PL-35	V区5号溝全景 (北)		MI区4号土坑断面 (東)		MI区23号溝全景 (東)
	V区8号溝全景 (南)		MI区4号・5号土坑全景 (西)		MI区23号溝全景 (南)
	V区9号・10号溝全景 (北)		MI区5号土坑断面 (西)		MI区23号溝全景 (西)
	V区14号溝全景 (北)		MI区6号土坑断面 (東)		MI区24号溝全景 (南)
PL-36	V区15号溝全景 (東)		MI区7号・8号土坑断面 (東)		MI区23号・25号溝断面 (南)
	V区1面溝群全景 (北)		MI区7号・8号土坑全景 (西)		MI区26号溝断面 (南)
PL-37	MI区中近世世面全景 (南)	PL-48	MI区9号土坑断面 (北)	PL-57	MI区26号溝全景 (北)
	MI区古墳面全景		MI区9号土坑全景 (東)		MI区27号溝全景 (北)
PL-38	MI区1号住居全景 (西)		MI区10号土坑断面 (東)		MI区27号溝全景 (南)
	MI区1号住居全景 (西)		MI区10号土坑全景 (東)		MI区28号溝全景 (西)
	MI区1号住居遺物出土状況 (西)		MI区12号土坑断面 (西)		MI区28号溝断面 (南)
	MI区1号住居遺物出土状況 (東)		MI区12号土坑全景 (北)		MI区29号・30号溝全景 (北)
	MI区1号住居遺物出土状況 (西)		MI区13号土坑全景 (南西)		MI区30号溝断面 (南)
PL-39	MI区2号住居全景 (西)		MI区13号土坑全景 (東)		MI区8号溝調査状況 (北)
	MI区2号住居全景 (南)	PL-49	MI区14号土坑断面 (西)		MI区8号溝調査状況 (北)
	MI区2号住居掘方全景 (西)		MI区14号土坑全景 (北)	PL-58	I区出土遺物 (1)
	MI区2号住居掘方全景 (西)		MI区15号土坑断面 (北)	PL-59	I区出土遺物 (2)
	MI区1号井戸断面 (南)		MI区15号土坑全景 (西)	PL-60	I区出土遺物 (3)
	MI区1号井戸全景 (北)		MI区16号土坑全景 (北)	PL-61	II区出土遺物 (1)
	MI区2号井戸断面 (南)		MI区20号土坑全景 (東)	PL-62	II区出土遺物 (2)
	MI区2号井戸全景 (西)		MI区21号土坑全景 (北)	PL-63	II区出土遺物 (3)
PL-40	MI区1号土坑全景 (西)		MI区23号土坑全景 (北)	PL-64	II区出土遺物 (4)
	MI区2号土坑全景 (南)	PL-50	MI区2号ビット全景 (東)	PL-65	II区出土遺物 (5)
	MI区3号土坑全景 (東)		MI区3号ビット断面 (北)	PL-66	II区出土遺物 (6)・III区出土遺物 (1)
	MI区4号土坑全景 (南)		MI区4号・5号ビット断面 (西)	PL-67	III区出土遺物 (2)
	MI区5号土坑断面 (西)		MI区4号・5号ビット全景 (西)	PL-68	III区出土遺物 (3)
	MI区6号土坑全景 (東)		MI区6号ビット断面 (東)	PL-69	III区出土遺物 (4)
	MI区7号土坑全景 (南)		MI区6号ビット全景 (東)	PL-70	III区出土遺物 (5)
	MI区8号土坑全景 (西)		MI区7号ビット断面 (北)	PL-71	III区出土遺物 (6)
PL-41	MI区9号土坑全景 (西)		MI区8号ビット全景 (北)	PL-72	III区出土遺物 (7)・IV区出土遺物 (1)
	MI区10号土坑全景 (東)	PL-51	MI区1号埋設補輪検出土状況 (東)	PL-73	IV区出土遺物 (1)
	MI区11号土坑全景 (南東)		MI区1号埋設補輪全景 (東)	PL-74	V区出土遺物 (1)
	MI区12号土坑全景 (北)		MI区1号埋設補輪馬背出土状況 (南)	PL-75	V区出土遺物 (2)・VI区出土遺物 (1)
	MI区13号土坑全景 (南)		MI区1号埋設補輪断面 (北)	PL-76	VI区出土遺物 (2)・VII区出土遺物 (1)
	MI区14号土坑断面 (南)		MI区1号埋設補輪外周 (北)	PL-77	VI区出土遺物 (2)
	MI区14号土坑遺物出土状況 (西)	PL-52	MI区1号溝全景 (南)	PL-78	VI区出土遺物 (3)
	MI区15号土坑遺物出土状況 (西)		MI区1号溝断面 (西)	PL-79	VI区出土遺物 (4)
PL-42	MI区1号ビット全景 (南)		MI区1号溝全景 (東)	PL-80	VI区出土遺物 (5)
	MI区1号焼土検出土状況 (南)		MI区2号溝全景 (東)	PL-81	VI区出土遺物 (6)
	MI区2号焼土検出土状況 (南)		MI区3号溝全景 (西)	PL-82	III区出土遺物・VII区出土遺物 (1)
	MI区2号焼土全景 (南)	PL-53	MI区5号溝全景 (西)	PL-83	VI区出土遺物 (2)

第1章 発掘調査に至る経過と遺跡の概要

第1節 発掘調査に至る経過

当事業は北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設に伴う伊勢崎インターチェンジから栃木県境までの17.7kmについて発掘調査が開始されたのは平成12年度である。建設事業に先立ち、埋蔵文化財発掘調査が行われるまでには、平成7年から調査を開始した北関東自動車道（高崎～伊勢崎）の発掘調査事業を平成12年7月までに終了し、12月まで基礎整理作業を行うこととなっていた。平成12年6月12日、日本道路公団東京建設局高崎工事事務所において公団・群馬県土木部道路建設課高速道路対策室・群馬県教育委員会文化財保護課・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の4者により、第1回目の伊勢崎～県境についての打ち合わせ会議を行った。公団からは用地買収等の状況、文化財調査と工事工程（カルバートボックスや橋梁等の下部工事発注）について、平成12年8月からの要請があった。当事業団としては、用地買収があまり進んでいない状況であること、残土処理場確保、側道部分の調査地の明瞭な区分等について問題点を出し合い調査への基礎固めを行うこととした。各所属で検討が進み文化財保護課の調整のもとに日本道路公団東京建設局・群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の3者は「北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を平成12年8月1日に締結し、この協定に基づき日本道路公団東京建設局と当事業団が「平成12年度北関東自動車道（伊勢崎～県境）埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を結び、8月からは書上遺跡から開始することとなった。平成8年度に道路公団から県教育委員会に北関東自動車道建設事業地内の埋蔵文化財包蔵地の状況について、問い合わせが行われ、県教育委員会は沿線市町村の協力のもとに詳細遺跡確認作業を行った。西長岡宿遺跡は、八王子丘陵を背景に古墳群の分布や駒形神社埴輪窯跡、西長岡横塚古墳群、成塚住宅団地遺跡など隣接諸遺跡との関連から、遺跡地として周知化され、北関東自動車道事業地内が発掘調査対象地となった。西長岡宿遺跡は太田市西長岡に所在し、発掘調査区域は北関東自動車道事業予定地内、延長600mの区間である。近世～縄文時代の遺物が散布していることから、事業予定地全面が調査対象地となり、平成13年4月1日から調査を実施することとなった。



第1図 西長岡宿遺跡配置図

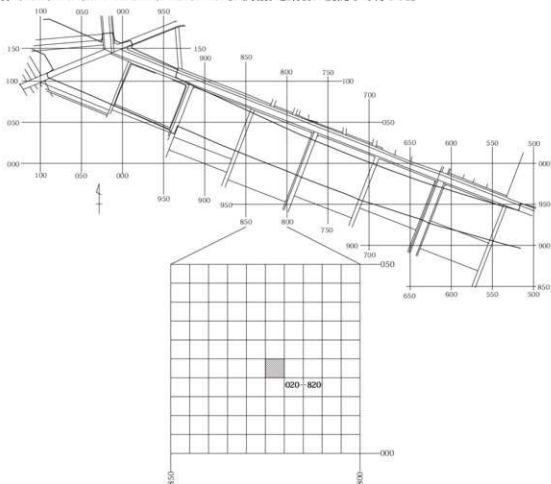
第2節 調査の方法

調査にあたってのグリッド設定は、国家座標IX系（本遺跡では2002.4改正前の日本測地系）を用い、遺跡調査範囲の西側にあるX軸38110、Y軸-45050を基点とした10mを基準としたグリッドを設定した。各グリッドの名称はX軸、Y軸ともに座標値の下3桁をとってグリッド名とした。このグリッド名は、南東隅をX軸、Y軸の順で表記している。先程あげた基準座標38110、-45050は110-050となる。調査区の名称は、西側から順に本遺跡を分断する道路により調査区を分けローマ数字の1からVII区を設定した。さらに各区において調査が分割された場合にはアラビア数字の1・2などを付した。

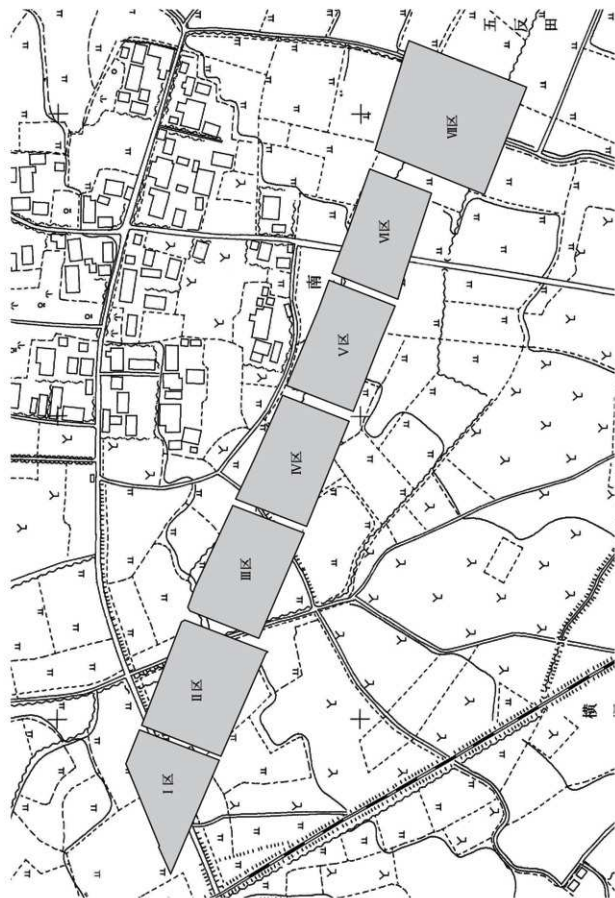
本遺跡の表土除去には、重機（バックホー）を使用し、遺構の確認作業及び覆土除去作業は、発掘作業員の手で行った。中近世から縄文時代の文化層が重複していたが、土層の堆積が薄い調査区では層位的な調査が行われず、同じ平面上での調査を行った。特に本遺跡は各調査区により発掘年度・担当者が異なることから、層位的な統一がとれていない。

遺構の名称は、各調査区・担当者において独自に行っているため統一がとれていない。そのため、遺構名称については各区ごとの調査概要で説明する。出土物については、遺構から出土したものは、そのまま遺構番号を付し取り上げた。

写真撮影は、中型と小型カメラを併用し、白黒フィルム、カラースライドフィルムを使用した。また、適宜、航空写真、ラジオコントロールのヘリコプターによる撮影を業者に委託して行った。



第2図 西長岡宿遺跡グリッド設定図



第3図 西長岡宿遷跡調査範囲全体図

第3節 西長岡宿遺跡調査経過

西長岡宿遺跡の発掘調査は、平成13年度から平成15年度にかけて行われた。遺跡の調査区は広範囲のため、調査区をⅠ区からⅧ区に分けて調査を行った。その中で、工事行程の関係から発掘調査は、各調査区の中を部分的に行った区もある。そのため調査区により調査年度・調査担当が異なった。また、遺跡全体を通して各区の調査は、モザイク状の調査となり、複雑なものとなっている。以下、各区の調査時期・担当者名を記して調査経過を掲載する。

平成13年度の調査

平成13年度は、当初1班2名体制での調査であったが、年度後半に増員になり2班体制で調査を行っている。調査期間は、平成13年4月～平成14年3月31日である。

調査担当は、石塚久則・金子伸也（平成13年4月～平成14年3月）、大塚俊和（平成13年9月～12月）・小林徹（平成13年10月～12月）、久保学・石田真（平成14年1月～3月）。

4月当初、石塚・金子により調査を開始する。Ⅰ・Ⅱ区の調査準備で、表土掘削とグリッド基準杭設定などを行う。5月～6月は、隣接する島谷戸遺跡調査のため、本遺跡の調査を一時中断する。7月に、本遺跡の調査を再開する。8月末までⅠ・Ⅱ区の表土掘削と遺構数量把握のためにトレンチによる調査を行う。9月にⅠ区の本格的な調査を開始する。（大塚が担当に加わる。）

10月新たに担当の小林が加わり、大塚と西長岡宿2班として調査を始める。Ⅰ区のHr-FA面の遺構検出作業を行う。11月から石塚・金子の1班と大塚・小林の2班でそれぞれ、Ⅰ区-1とⅠ区-2に分割し調査を行う。Ⅰ区-1は、遺構数量把握のためのトレンチ調査。Ⅰ区-2は、Hr-FA面の溝調査と、Ⅱ区表土掘削を行う。12月は、Ⅰ区-1溝調査、Ⅰ区-2南側低地部の調査。7日にⅠ区-1のHr-FA下面調査が終わり全景写真撮影。Ⅱ区溝掘り下げ等を行う。1月は、大塚・小林組と、久保・石田組に交替する。Ⅰ区の縄文時代包含層と北側低地部分にある溝主体の調査と併行して、Ⅲ区の遺構確認トレンチ調査を継続して行う。2月は、Ⅰ区北側低地部調査を終了し、埋め戻し。Ⅱ区南側低地Ⅳ層調査。Ⅲ区トレンチ調査を進める。3月は、Ⅰ区-2の5号・13号遺構調査を行い、Ⅰ区の調査を終了する。Ⅱ区6号遺構の石敷き検出と各区の遺構を中心に調査を行う。また、高所作業車による調査区全景写真撮影をする。9日には、現地説明会開催。Ⅲ区は、写真撮影、As-B下層調査を進める。

以上、本年度は、Ⅰ区の調査終了、Ⅱ区、Ⅲ区を一部調査し、次年度に継続する。

平成14年度の調査

平成14年度の調査は、当初2班体制で行い、年度途中に班数を増やして調査が行われた。調査期間は、平成14年4月1日～平成15年3月31日である。調査担当は、1班Ⅱ区・Ⅳ区担当は、石塚久則・黒澤照弘（平成14年4月～平成15年3月）、2班Ⅲ区担当は、金子伸也・小林徹（平成14年4月～平成15年3月）、3班Ⅴ区担当は、坂井隆・伊平敬・齊田彦彦（平成15年2月～3月）、4班Ⅶ区担当は、橋崎修一郎・本間昇（平成15年2月～3月）である。

Ⅱ区・Ⅳ区担当、石塚久則・黒澤班の調査経過は、次の通りである。

4月は、Ⅱ区-1縄文時代包含層。遺構確認調査を主体に行う。5月は、西長岡横塚の試掘により一時中断する。6月は、Ⅱ区-1の溝調査と、遺構確認のためのトレンチによる調査を主体に行う。7月は、溝、縄文時代包含層を主体に調査。8月も前月に続き、縄文時代包含層を主体に調査する。9月は、縄文時代包含層と旧河道を調査する。河道からは、流木の出土が多い。

10月は、Ⅱ区縄文面下層の調査と、Ⅳ区の遺構確認トレンチ調査を行う。Ⅳ区からは、縄文時代の遺物が多く出土することから、遺物出土状況実測を行う。11月は、Ⅳ区遺構確認のために、全面を南北方向に5m間隔でトレンチ掘削を行う。12月は、先月に続きⅣ区調査区全面にトレンチによる掘削。Ⅳ区As-B軽石下の水田遺構検出。1月～3月は、Ⅳ区縄文面・旧河道調査の調査。

Ⅲ区担当、金子・小林班の調査経過は、次の通りである。

4月は、前年度調査の継続でAs-B軽石下遺構確認のため、トレンチによる調査を行う。5月はHr-FA軽石層下にある溝の調査と並行して、東北部の縄文時代包含層を精査する。6月～8月は、Hr-FA軽石層下の溝を継続し、東側縄文時代包含層を主体に調査する。9月は、旧河道(古墳時代)、北部ローム台地トレンチ調査、縄文面を主体に調査。

10月は、古墳時代河道を主体に調査を行う。11月～1月中旬は、Ⅲ区-2を重機による排水溝掘削、掘り下げ。As-B軽石下面黒ネノ層掘り下げ、Hr-FA面調査。1月下旬から2月は、Ⅲ区-2のHr-FA混土除去。3面(ローム面)の調査。3月は、縄文面調査。最終面全景写真撮影、Ⅲ区の調査を終了する。

V区担当、坂井・伊平・齊田班の調査期間は平成15年2月～3月で、調査経過は次の通りである。

2月にV区調査を開始する。グリッド設定、基準杭設置の後、As-B軽石下調査。土坑・溝が確認され調査する。3月も前月に続き、As-B軽石下の土坑・溝調査。さらにその下面の古墳時代を調査するが、検出された遺構は少なかった。古墳時代下の遺構面を来年度に残し、3月末に調査を終了する。

Ⅵ区担当、橋崎・本間の調査期間は平成15年2月～3月で、調査経過は次の通りである。

工事行程の関係でⅦ区の一部を先行して調査する。2月にⅦ区調査開始、As-B軽石層下遺構確認。As-B軽石層下の溝検出。3月はAs-B軽石層下確認作業。As-B軽石層下の溝検出、調査。旧河道検出。2つのトレンチ、北側の集石検出調査。3月末に調査終了。

以上本年度の調査は、Ⅱ区、Ⅲ区調査終了、Ⅳ区縄文面調査継続、V区、Ⅵ区古墳時代面まで調査終了。Ⅶ区の一部調査終了し、来年度に継続することとなった。

平成15年度の調査

本年度は、西長岡宿遺跡調査の最終年度でⅣ～Ⅶ区を調査した。調査体制は、2班体制で行った。調査期間は、平成15年4月1日～平成16年1月31日である。調査担当は、坂井隆、谷藤保彦、小林徹、矢村哲、大澤努、黒澤照弘、山田精一である。

4月は、Ⅳ～Ⅶ区遺構調査、遺構検出作業を行った。5月は、Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ区掘削、排土。Ⅵ区住居跡・土坑、Ⅶ区土坑調査。6月は、Ⅳ区配石遺構、V～Ⅶ区遺物包含層、溝、桶埋設遺構調査。7月は、V区河道、集石、Ⅵ区遺物包含層、溝、Ⅶ区遺構確認。27日には、現地説明会を開催する。8月は、Ⅳ区河道、Ⅵ区遺構、Ⅶ区縄文時代包含層、河道の調査。9月は、Ⅳ区・Ⅵ区遺構確認、グリッド設定、Ⅶ区河道跡掘削、縄文時代包含層、遺構確認を行う。

10月は、Ⅳ区縄文時代包含層、V～Ⅵ区遺物包含層調査。Ⅶ区河道跡調査を主体に行う。11月は、Ⅳ区遺物包含層調査。V区遺物包含層の調査。12月は、Ⅳ区遺構、盛り土遺構調査、V区河道跡調査。1月は、Ⅳ区縄文遺構調査を行い、西長岡宿遺跡の調査を終了した。

第4節 遺跡の位置と周辺の遺跡

周辺の遺跡

旧石器時代

本遺跡は、沖積地の低地帯にあるため、旧石器時代のものは確認されなかった。周辺では、成塚住宅団地遺跡群(73)で確認されている。また、八王子丘陵や金山丘陵などの丘陵地帯に旧石器時代の遺跡が分布する傾向にある。

縄文時代

草創期の資料は、本遺跡周辺の低地部では発見されていないが、太田市内の沖積地で確認されている。早期では、岩崎遺跡(27)や滝之入前遺跡(4)で茅山式の土器が出土しているが、遺構は確認されていない。前期は、黒浜式土器が出土した遺跡として岩崎遺跡(27)、滝之入前遺跡(4)などがある。成塚石橋遺跡(78)では、住居跡・陥とし穴などが検出されている。

中期では、滝之入前遺跡(4)で竪穴住居1棟と陥し穴・土坑が調査されている。成塚住宅団地遺跡(73)でも中期の加曾利Eの住居跡14軒が調査されている。

その他、現在整理中の遺跡が多いが、北関東自動車道の調査では、縄文時代の遺構が確認されている。菅塩遺跡群(65)では、早期から晩期の土器が主体的に出土している。また西野原遺跡(51)では、中期を中心とした集落が調査されている。

弥生時代

弥生時代は、縄文時代に比べ遺跡数が少ないが、近年の北関東自動車道関連の調査により、資料が増加している。北関東自動車道関連以前の調査では、元屋敷遺跡(16)で中期後半の竜見町式の壺形土器、滝之入前遺跡(4)で後期の樽式土器が出土していることが知られる程度で資料的に少なかったのであるが、西野原遺跡(51)では、近年、埼玉北部から栃木に分布する中期後半の北島式土器が、住居と共に発見されている。今後、当該期の資料としての好例になると考えられる。成塚住宅団地遺跡(73)では、後期後半の竪穴住居跡が7軒検出されている。この他にも、鳥谷戸遺跡(52)、成塚向山古墳群(67)などからも少量の弥生土器片が検出されている。

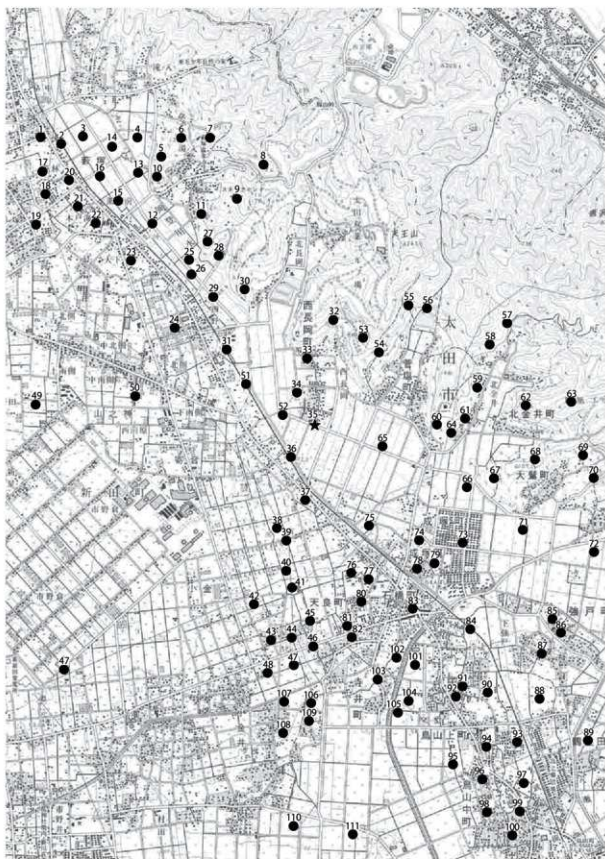
古墳時代

古墳時代墳墓では、北東側にある八王子丘陵から金山丘陵にかけての平地部には、西野原遺跡(51)、西長岡宿古墳群(34)、西長岡横塚古墳群(36)、成塚石橋遺跡(78)などの後期を中心とした古墳群が見られる。八王子丘陵上には全長34mの前方後円墳である西山古墳(10)がある。本遺跡の3km程東にある八王子丘陵南東部には、前期古墳の成塚向山1号墳がある。集落遺跡は、遺跡一覧表に示したように、八王子丘陵南側の平地部に数多く見られる。古墳と共に集落址の多いことから、この地域における生産性の高さを示している。

埴輪窯としては、駒形神社埴輪窯址(61)がある。生産遺跡としては、金山丘陵、八王子丘陵における埴輪・須恵器の窯業遺跡が多く分布する。

飛鳥・奈良・平安時代

本時代の遺跡数も多く、住居跡等の集落址は、八王子丘陵南西側の平地部で数多く発見されている。滝之入前遺跡(4)、中原下遺跡(1)、元屋敷遺跡(16)、六地藏遺跡(2)、薬師前遺跡(15)、成塚住居団地遺跡(73)、成塚石橋遺跡(78)などで発掘調査が行われている。本地域で注意されるのは、西野原遺跡(51)における7世紀後半の製鉄遺跡である。その他に窯業遺跡関係では金山丘陵東側に須恵器窯や瓦窯が見られる。その他、水田址も周辺の遺跡では、検出されている。



第4図 西長岡宿道跡周辺遺跡分布図(35★西長岡宿道跡)

第1章 発掘調査に到る経過と遺跡の概要

西長岡宿遺跡周辺遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中近世
1	中原下遺跡		○		○	○	
2	六地蔵遺跡					○	
3	新井前遺跡		○		○		
4	縄之入前遺跡		○	○			
5	扇取遺跡			○	○		
6	縄之入古墳群				○		
7	縄之入新遺跡		○				
8	雷電山古墳						○
9	影山古墳群				○		
10	西山古墳				○		
11	縄之入東遺跡					○	
12	八石遺跡		○	○	○		
13	三島神社境内遺跡				○		
14	三島前遺跡		○		○		
15	薬師前遺跡				○	○	
16	元塚敷遺跡		○	○	○		
17	萩林遺跡		○	○	○		
18	石之原庵寺		○	○	○		
19	十輪寺遺跡						
20	長上寺遺跡		○				
21	木戸海遺跡				○	○	
22	木戸海遺跡1遺跡		○		○		
23	三島遺跡					○	
24	西野西遺跡		○				
25	街道橋遺跡		○	○	○		
26	西野東上遺跡				○	○	
27	宮崎遺跡		○				
28	谷遺跡		○				
29	西野東中遺跡		○	○	○		
30	西長岡天神山古墳				○		
31	西野東下遺跡		○	○	○		
32	愛宕山遺跡		○	○	○		
33	長岡城址						○
34	西長岡宿古墳群				○		
35	西長岡宿遺跡		○	○	○	○	○
36	西長岡扇塚古墳群				○		
37	愛大塚遺跡		○				
38	二ツ山古墳1号墳				○		
39	二ツ山古墳2号墳				○		
40	天良蛇塚古墳				○		
41	新生割古墳						
42	蟹廻遺跡		○	○	○		
43	蟹廻古墳						
44	天良七堂遺跡						
45	上根遺跡		○				
46	寺井塚古墳				○		
47	東山道駅路下新田ルート					○	
48	常松遺跡				○	○	
49	山之神野田遺跡						
50	山之神南側遺跡						○
51	西野原遺跡		○	○	○		
52	鳥ヶ谷戸遺跡		○	○	○		
53	西長岡東山古墳群				○		
54	菅塩西山古墳群				○		
55	菅塩祝入堂跡				○		
56	菅塩祝入古墳群				○		

遺跡番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中近世
57	西高坪古墳群					○	
58	北奈井西山古墳群					○	
59	北奈井川西古墳群					○	
60	菅塩山崎古墳群					○	
61	駒形神社須輪堂跡					○	
62	北奈井御原山古墳群					○	
63	北奈井東前古墳群					○	
64	菅塩田谷遺跡					○	
65	菅塩遺跡群		○				○
66	成塚山古墳群					○	
67	成塚向山古墳群				○	○	○
68	大鷲梅ヶ谷古墳群					○	
69	大鷲大平古墳群					○	
70	大鷲向山古墳群					○	
71	大鷲遺跡群					○	○
72	上強戸遺跡群					○	○
73	成塚住宅田地遺跡群					○	○
74	栗平塚古墳群					○	○
75	成塚街道北古墳群					○	○
76	寺井庵寺北遺跡					○	○
77	寺井庵寺東遺跡					○	○
78	成塚石橋遺跡					○	○
79	成塚古墳群					○	○
80	寺井庵寺跡					○	○
81	新田遺跡					○	○
82	寺井古墳群					○	○
83	石橋地蔵久保遺跡					○	○
84	寺裏遺跡					○	○
85	強戸の寄居					○	○
86	強戸宮西遺跡					○	○
87	畑中遺跡					○	○
88	鶴生田・下強戸古墳群					○	○
89	中妻遺跡					○	○
90	鳥山寺中遺跡					○	○
91	上遺跡					○	○
92	龜山古墳					○	○
93	中道遺跡					○	○
94	土泉開戸遺跡					○	○
95	大光寺跡					○	○
96	鳥山宿屋敷遺跡			○			
97	踏石遺跡					○	
98	鳥ヶ谷戸遺跡					○	
99	鳥形神社古墳					○	
100	鳥山御湯遺跡					○	○
101	久保遺跡					○	○
102	鶴ノ谷遺跡					○	○
103	久保畑遺跡					○	○
104	龜山古墳					○	○
105	八幡遺跡					○	○
106	推定東山道駅路新田地区					○	○
107	松屋神社古墳					○	○
108	七雲遺跡					○	○
109	寺井本郷遺跡					○	○
110	脇塚深町遺跡					○	○
111	脇塚古墳群					○	○

第5節 遺跡地の環境と基本層序

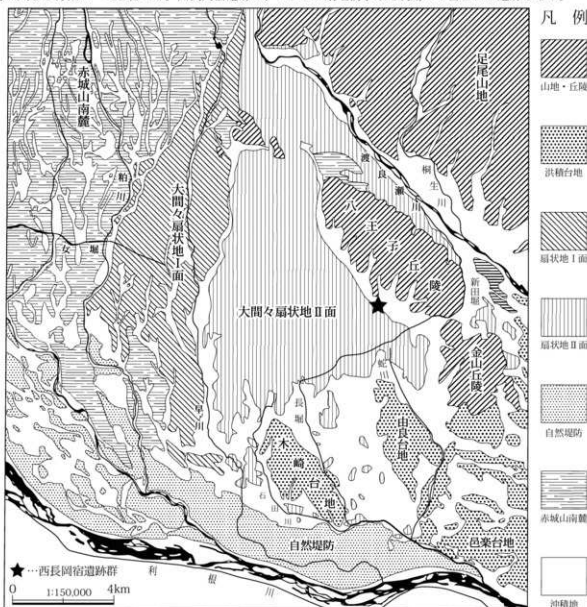
1. 地勢的環境

西長岡宿遺跡が位置する太田北部の平野部は、関東平野の北西部、群馬県桐生市から太田市にかけての、渡良瀬川右岸に沿って連なる八王子丘陵から金山丘陵に、南から西接する位置にある。

この一帯は、渡良瀬川が更新世に形成した「大間々扇状地（Ⅱ面）」に相当するが、西長岡宿遺跡が位置する標高70m付近のエリアはちょうどその扇状地先端部に相当する。

この扇状地先端部一帯は、大間々扇状地の自由地下水が地表面に排出され、扇状地内の伏流水が湧水として地表面に現れるエリアであり、所謂「扇端湧水帯」を形成している。

本地域の基幹河川の一つである蛇川は、その元々の源流がこの扇端湧水帯であると言われており、本地域の地勢の大きな特徴の一つと言える。西長岡宿遺跡は、これらの扇端湧水帯を利用して営まれた遺跡である。



第5図 西長岡宿遺跡周辺の地形分類図

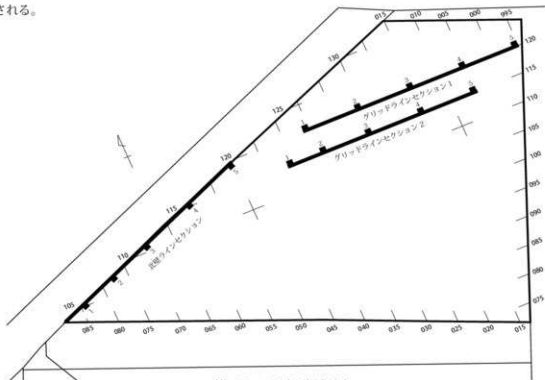
2 基本層序

本遺跡周辺は、昭和40年代から50年代にかけて圃場整備が実施され、現在は水田地帯となっている。そのため、現状では、旧地形を見ることが出来ないが、発掘調査の結果から、礫層の高まりが残る微高地と、旧河道によって形成された低地に分けられることが判明した。各調査区により遺構確認地山までの土層変化が大きい。そのため、各調査区ごとに基本層序を示す。

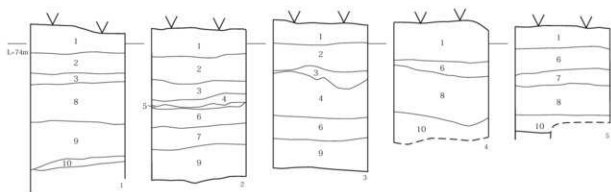
1 区の基本層序

本区は、調査区の西側にある。標高は現地表で標高74.5mを測る。調査の経過から、本区はグリットの120-050と105-000を結ぶラインで調査時期を異にし、北側を先行して調査した。北側では、グリッドラインに沿うようにトレンチを掘り、基本土層の確認を行った（グリッドラインセクション1・2）。また、調査区の南側は、北側の調査が進んでから掘削が始まった。北側の調査から基本土層を知ることが出来たために、遺跡地の傾斜を見るために、北側の壁に沿ってセクションの調査を行った（北壁ラインセクション）。

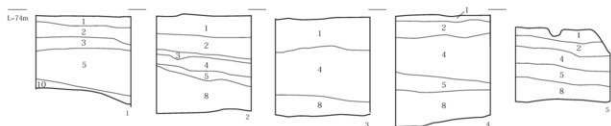
その結果、表土から50～60cmは、現耕作土が覆っている（北壁ラインセクション1）。現地表面は、西から東へ緩やかに傾斜している。耕作土下部の層は、耕作の影響や湧水のために粘質土が堆積している（北壁ラインセクション2、グリッドラインセクション1）。その下層では、As-B軽石を含む土層の堆積を確認した。鉄分を含んだ層にAs-B軽石が混入する形で堆積していることから、本区ではこの時期湧水などによる影響を多く受けていたと推測される。本区で確認された遺構は、この層を掘り込んで作られているものと、その下位層にあるものがある。現地表から1.5m下の標高73m付近ではHr-FA軽石を含む土層が検出されており、古墳時代中期における地表面が推定された。また、その下層は、砂礫層が本区全体にある。砂礫層は、調査区の南西に北壁ラインセクション1やグリッドラインセクション2の3地点で深くなっていることから、本区では、北西部と中央部に埋没した谷・河川の存在が予想される。これらの結果、古墳時代Hr-FA軽石降下以前は、北西から南東に緩やかに傾斜した谷が放射状に入っており、当時の地形が波打っていたことが推測される。それ以降、Hr-FA軽石混じりの土が再堆積し、As-B軽石混じり層がその上に乗る形で次第に平坦になっていったと推測される。



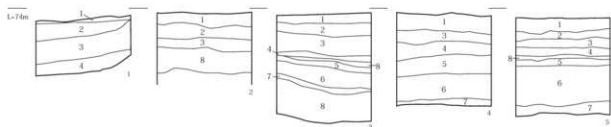
第6図 1区土層観察地点



北壁ラインセクション



グリッドラインセクション1



グリッドラインセクション2

第7図 I区基本土層

I区の基本土層

北壁ラインセクション

- 1層 表土層
- 2層 灰色粘質土 As-軽石混じり。
- 3層 灰色粘質土 Hr-FA軽石多量。
- 4層 灰色粘質土 植物質混入。
- 5層 Hr-FA純層

- 6層 褐色粘質土 シルト質。
- 7層 砂質土層 軽石多く含む。
- 8層 黄灰色ローム質土
- 9層 砂礫層
- 10層 淡黄色砂質ローム層

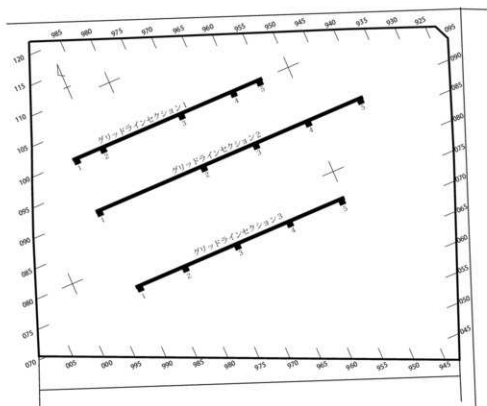
グリッドラインセクション1・2

- 1層 茶褐色粘質土
- 2層 にぶい黄色鉄分。軽石多量。
- 3層 にぶい褐色粘質土。
- 4層 灰茶褐色土 濃い褐色。
- 5層 黒色強粘質土
- 6層 灰褐色粘質土 シルト質。
- 7層 Hr-FA純層
- 8層 砂礫層

II区の基本層序

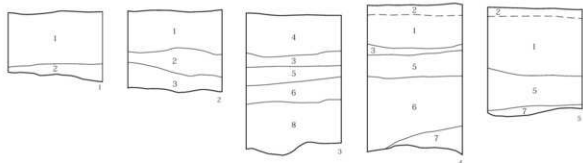
本区は、I区の東隣にある。調査当時本区は、水田であった。現地表は、I区からの続きで僅かに下がり、74mを測る。本区ではI区の土層確認調査の結果から、地表から50～60cmは現耕作土が覆っているため、現耕作土を掘削した状態でグリッドラインに沿うように、土層確認のためのトレンチ調査を行った。(グリッドラインセクション1・2)。また、調査区の南半分の一部は、I区同様に調査時期が異なったため、一部表土からの土層確認になった(グリッドラインセクション3)。

その結果、遺構確認面は、I区よりかなり下がっており73m前後である。現表土には、耕作によりAs-B軽石が攪乱され混じり込んでいた(グリッドラインセクション3)。調査区北側と南側では、現表土下では地形的な状況が異なっていた。調査区北西側では、湧水のためにローム中に鉄分の凝集した層が見られる。(グリッドラインセクション1)。その下層に、灰色シルトや砂礫層が堆積していることから、ロームが堆積した台地上の高まりであったと推定された。それに対して、調査区のほぼ中央部(グリッドラインセクション2)では、黒色粘質土やラミナ層、シルト層など土層堆積状況が安定しないことから、小河川による流水によるものと考えられた。調査区南側(グリッドラインセクション3)では、Hr-FA軽石を含む土層の堆積を確認した。このことから、古墳時代中頃は、本グリッドラインの北側に比べ安定した地形であった。Hr-FA軽石層の下層には、砂礫層が堆積しており、古墳時代中頃以前においては、本調査区全体が砂礫層にあり、安定していない地形であった。



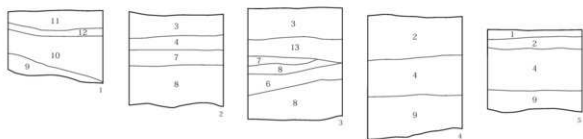
第8図 II区土層観察地点

L-74m



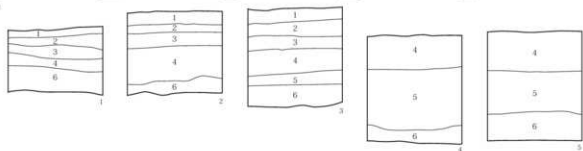
グリッドラインセクション1

L-74m



グリッドラインセクション2

L-74m



グリッドラインセクション3

第9図 II区基本土層

II区基本土層

グリッドラインセクション1

- 1層 褐色土壌
- 2層 灰黄褐色ローム層
- 3層 暗褐色ローム層 鉄分凝集。
- 4層 黄灰色砂層
- 5層 灰黄褐色シルト
- 6層 褐灰色シルト 砂質上。
- 7層 褐灰色砂層
- 8層 砂礫層

グリッドラインセクション2

- 1層 黒褐色粘質土 軽石含む。
- 2層 褐灰色粘質土
- 3層 褐色粘質土
- 4層 橙色、鉄分含む。
- 5層 黒色粘質土
- 6層 黒色粘質土 砂層ラミナ
- 7層 砂層
- 8層 にぶい黄褐色 粗い砂層。
- 9層 褐灰色砂層
- 10層 灰黄色シルト
- 11層 黄灰色粘質土

- 12層 明黄褐色砂層
- 13層 黄褐色粘質土 鉄分・マンガン層。

グリッドラインセクション3

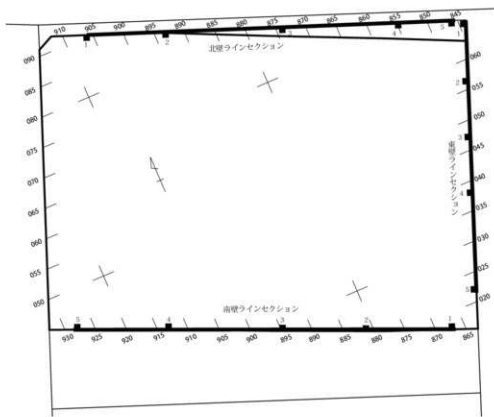
- 1層 灰白色 As-B軽石含む、現耕作上、表上。
- 2層 にぶい黄褐色粘質土層 As-B軽石含む。
- 3層 褐灰色粘質土 Hc-FA上層。
- 4層 褐灰色粘質土 Hc-FA上層。
- 5層 明黄褐色土 鉄分含む粘質土。
- 6層 砂礫層

Ⅲ区の基本層序

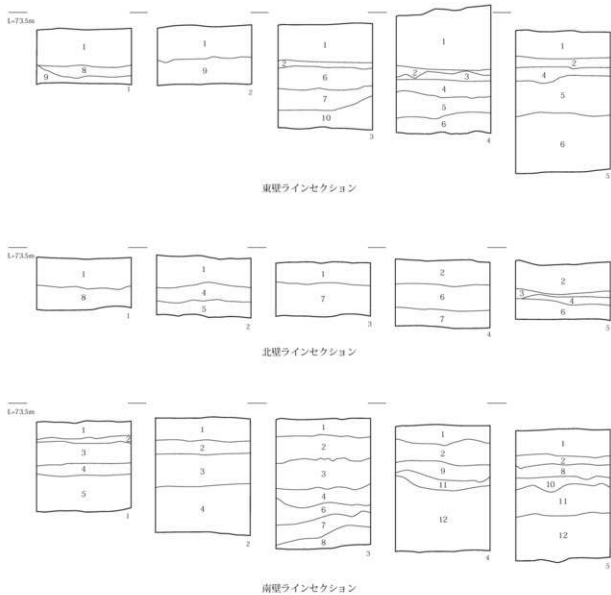
本区は、遺跡の中段にある。調査当時本区は、水田であった。現地表は、Ⅱ区からの続きで傾斜しており、73mを測る。本区では、土層確認のためのトレンチを調査区壁面に沿って設定し土層確認を行った。(東壁、北壁、南壁ラインセクション1～5)。

土層確認の結果、遺構確認面は、Ⅱ区よりさらに下がっており、72.5m前後である。現耕作土下層に調査区全体にAs-B軽石混じり層が、北東部を除いて一定量堆積していることから、本地区では、古代以降比較的安定した場所であったと推定された。As-B軽石混じり層は、As-B軽石降下以降に攪乱された土層であるため、この層より上は年代的に中世より新しいことになる。そのため、発掘調査では現耕作土を重機により除去し、その下部にあるAs-B軽石層から調査を行うことで効率化を図った。

遺構確認面のAs-B軽石混じり層の下層では、調査区の中で状況が異なっていることが分かった。調査区南東側では、As-C軽石層の堆積が確認されている(東壁、南壁ラインセクション)。北壁側では、ロームの二次堆積などが見られ、その反対側の南壁ではシルト層にマンガンの凝集層が見られた。このことから、古代以前の地形は、北から南へ傾斜し、南側に水が流れていた状況をしめしている。東側が低くなり、As-C軽石混じり層が堆積することになったと考えられる。また、東壁の北側土層からは縄文時代包含層が確認されている(東壁ラインセクション1・2)。これらのことから、調査区の北東部は、台地上の高まりに縄文時代以降の文化層があり、南側に傾斜して谷に至る地形が復元できた。また、調査区北東部では、古墳時代以前の旧地表が削平されたため、縄文土器の包含層が現地表から比較的浅い上層で確認されたのである。



第10図 Ⅲ区土層観察地点



第11図 III区基本土層

III区基本土層

東壁ラインセクション

- 1層 表土・現水田耕作土。
- 2層 暗黄褐色土 As-B軽石、マンガン、鉄分含む。
- 3層 黒ネバ
- 4層 黒灰色ネバ こげ茶色粒子混入。
- 5層 灰色ネバ As-C軽石、炭化物混入。
- 6層 黒灰色ネバ 全体に砂が混じる。
- 7層 黄灰褐色粘土
- 8層 暗褐色土 As-B軽石混入。
- 9層 暗褐色土 縄文土器を多く包含する礫層。
- 10層 黄灰褐色土 粘質、砂を多く含む。

北壁ラインセクション

- 1層 表土・現水田耕作土。
- 2層 黒色粘質土 As-B軽石混入。
- 3層 暗褐色土 粘性強い。
- 4層 暗灰褐色土 Hr-FM軽石混じる。
- 5層 黒褐色粘質土
- 6層 暗灰色土 As-B軽石混じる、砂質。
- 7層 暗褐色土 粘性有り。
- 8層 褐色土 ローム二次堆積、礫多い。

南壁ラインセクション

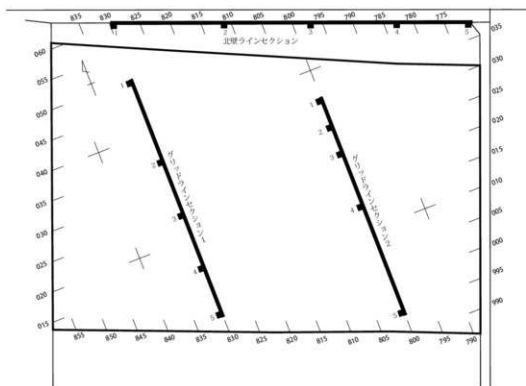
- 1層 表土・現水田耕作土。
- 2層 灰褐色粘質土 As-C軽石混入。
- 3層 褐色ローム マンガン多く含む。
- 4層 暗褐色土 マンガン多く含む。
- 5層 黒褐色土 As-C軽石混入。
- 6層 褐色土 硬質。
- 7層 褐色土 砂質。
- 8層 青灰色土 砂質、小礫含む。
- 9層 黒灰色ネバ 黄色粒、白色粒混入。
- 10層 暗灰色粘質土 マンガン少量含む。
- 11層 黄灰色シルト マンガン少量含む。
- 12層 灰褐色シルト マンガン少量含む。

IV区の基本土層

本区は、遺跡の中程にある。調査当時本区は、水田であった。現地表は、北から南へ傾斜しており、73～72.5mを測る。本区では、土層と遺構確認のためのトレンチを調査区北壁面と、調査区の中程に南北のグリッドラインに沿って設定し土層確認を行った。(北壁、グリッドラインセクション1・2)。

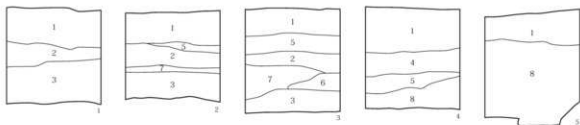
土層確認の結果、遺構確認は、Ⅲ区よりさらに下がっており、72m前後である。調査区内の土層堆積状況は、場所により異なった。北西寄りでは、現耕作土下の層に縄文時代包含層が認められた。これは、Ⅲ区の東寄りから続くもので、本区ではさらに南に広がっているのが確認された(グリッドラインセクション1)。また、縄文時代包含層の下層でローム層の堆積もみられた。調査区の南東部では、As-B軽石やHr-FA軽石が堆積していることが確認されている(グリッドラインセクション2)。古墳時代遺構面の標高は72m前後で北東部の縄文時代包含層は、これに近い高さで確認されている。このことは、調査区の北西部では、古代・古墳時代の文化層が削平されていることを示しており、南東部に傾斜して低くなることを示している。ローム層は、南東部に向かって深い位置に堆積し、谷地部を形成するようになる。また、谷地部の一部には、ローム層に相当する土層がシルト化しているところがあり、谷地部に小河川が流れ込んでいたことが推測される。

調査区の北西部では、古代から古墳時代の文化層面が削平され、縄文時代包含層が現耕作土直下にあった。調査区の南東部ではAs-B軽石堆積面が認められることから、本調査区では、古墳時代以降の土層堆積部分を先行して調査したのち、縄文土器の文化面を調査した。



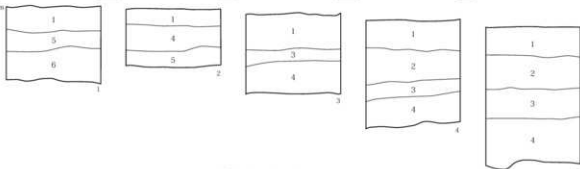
第12図 IV区土層観察地点

L-73.2m



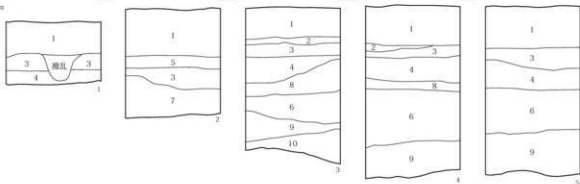
北壁ラインセクション

L-73.2m



グリッドラインセクション1

L-73.2m



グリッドラインセクション2

第13図 IV区基本土層

IV区基本土層

北壁ラインセクション

- 1層 表土・現水田耕作土。
- 2層 黒褐色土 粘性強い縄文時代包含層。
- 3層 暗褐色土 粘性強い縄文時代包含層。
- 4層 褐灰色土 As-Fe軽石、φ1～10cmの礫含む。
- 5層 黒ネバ Hr-FA軽石含む。
- 6層 黒ネバ
- 7層 黄褐色ローム 縄文時代包含層。
- 8層 黒褐色土 粘性弱い、礫含む。

グリッドラインセクション1

- 1層 表土・現水田耕作土。
- 2層 茶褐色粘質土 Hr-FA軽石少量含む。
- 3層 茶褐色粘質土 Hr-FA軽石少量含む、灰色強い。
- 4層 黄灰色土 シルト、ローム少量含む。
- 5層 褐灰色土 シルト、軽石を含む。
- 6層 明黄褐色土 砂質土、鉄分含む。

グリッドラインセクション2

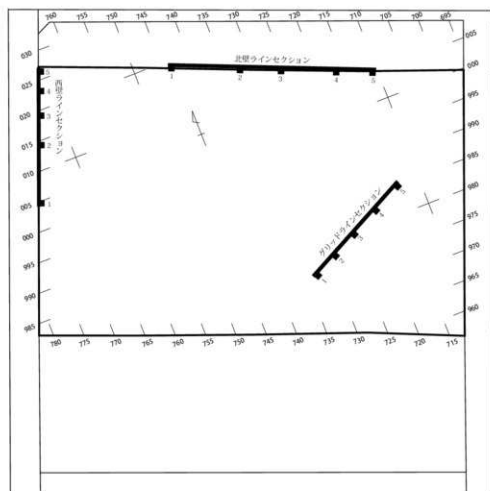
- 1層 表土・現水田耕作土。
- 2層 As-Fe軽石層
- 3層 茶褐色粘質土 Hr-FA軽石少量含む。
- 4層 黄灰色土 シルト、ローム含む。
- 5層 黄灰色土 細粒砂質。
- 6層 暗褐色土 縄文時代包含層。
- 7層 浅褐色土 粘質土ローム。
- 8層 黄灰色土 粘質土。
- 9層 淡黄色ローム質土 φ3～5cm礫多く含む。
- 10層 にぶい黄色土 砂質のローム層。

V区の基本層序

本区は、遺跡の中程にあり調査当時本区は、水田であった。現地表は、北から南へ傾斜しており、72.5～72mを測る。本区では、土層と遺構確認のためのトレンチを北壁面、西壁面、調査区南東寄りに設定し土層確認を行った。(北壁ラインセクション、西壁ラインセクション、グリッドラインセクション)。

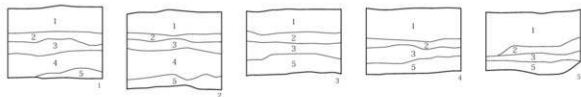
土層確認の結果北西寄りに、一部As-B軽石混じり層が堆積していることが確認出来た。これは、IV区の北西寄りに台地上の高まりがあり、本区へ向かって緩やかな傾斜を持つことから、低くなったところにAs-B軽石混じりの層が堆積したと推定される。また、それより下層の縄文時代包含層は、西壁ラインセクションの下層で確認されている。西側は、IV区と境を接していることから、IV区から縄文時代包含層が続いている。土層から東側方向に縄文時代面が傾斜しており、さらに深くなると縄文時代包含層が切れる。

調査区南西部では、部分的にHr-FA軽石混じり層が耕作土下に見られる。北壁ラインセクションでHr-FA軽石混じり層が検出される高さに、高低差があることから、当時の地形は、平坦ではなく多少のうねりがあったと推測される。Hr-FA軽石混じり層は古墳時代中頃以降の堆積である。この層より下からは、粘質土とシルト質層、マンガンの凝集層など、湧水があった状況を示している。このことから、古墳時代前半には、本調査区の南東部に小河川が蛇行して入り込んでいたと推定される。



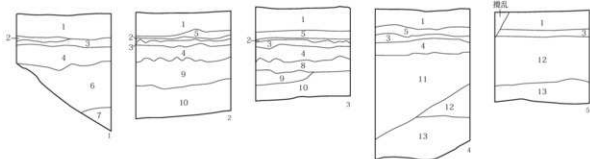
第14図 V区土層観察地点

I-73a



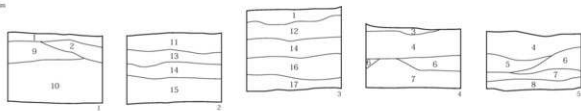
北壁ラインセクション

I-73b



西壁ラインセクション

I-723a



グリッドラインセクション

第15図 V区基本土層

V区基本土層

北壁ラインセクション

- 1層 表土・現水田耕作土。
- 2層 黒褐色砂質土 As-B軽石混じる。
- 3層 黒褐色粘質土 粒子粗い、白色軽石粒(φ1~3mm)混じる。
- 4層 灰黄褐色砂質土 粒子粗い。
- 5層 暗褐色砂質土 粒子粗い、φ1~3cmの小礫混じる。

- 9層 にぶい黄褐色土 砂礫層。
- 10層 黄褐色土 粘性弱い、灰白粘質土混じる。
- 11層 にぶい黄褐 粘性弱い、小石含む。
- 12層 暗褐色土 白色円礫多く含む(縄文時代急含層)。
- 13層 明黄褐色土 二次堆積ローム層。

- 6層 褐灰色土 5層と同じ。
- 7層 褐灰色土 粘性強い、シルト質。
- 8層 黒褐色土 粘質土、φ1~10cmの礫含む。
- 9層 褐灰色土 ネバ土、鉄分沈着。
- 10層 褐灰色土 ネバ土と灰白色粒の互層。
- 11層 にぶい褐色土 鉄分沈着。
- 12層 にぶい黄褐色土 ネバ土と灰白色砂粒の互層。
- 13層 褐色土 シルト層に鉄分沈着。
- 14層 褐灰色土 ネバ土に炭化物混入。
- 15層 黒褐色土 ネバ土と灰白色砂粒の互層。
- 16層 にぶい褐色 シルト質、マンガン沈着。
- 17層 灰白色土 ネバ土、マンガン沈着。

西壁ラインセクション

- 1層 表土・現水田耕作土。
- 2層 暗褐色土 二次堆積のAs-B軽石層。
- 3層 黒褐色土 粘質土。
- 4層 褐灰色土 粘質、白色ハミス含む。
- 5層 灰黄褐色土 As-B軽石多く含む。
- 6層 灰黄褐色土 粘性弱い。
- 7層 にぶい黄褐色土 砂粒多く混じる。
- 8層 にぶい黄褐色土 粘性弱い。

グリッドラインセクション

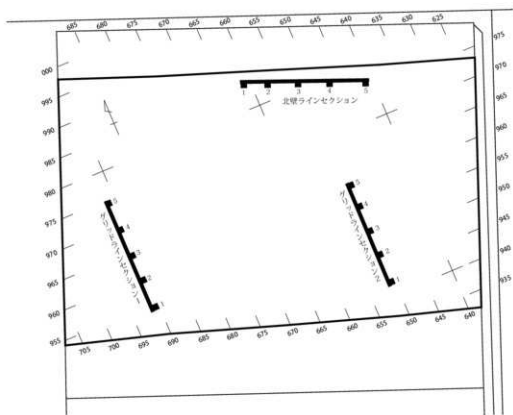
- 1層 黒褐色土 黒ネバ、Hr-F軽石多く含む。
- 2層 灰褐色土 黒ネバ、鉄分沈着、白色粒少量含む。
- 3層 褐灰色土 黒灰ネバに鉄分沈着、白色粒少量含む。
- 4層 灰褐色土 砂質。
- 5層 褐灰色土 褐色粒子、マンガン沈着多い。

VI区の基本層序

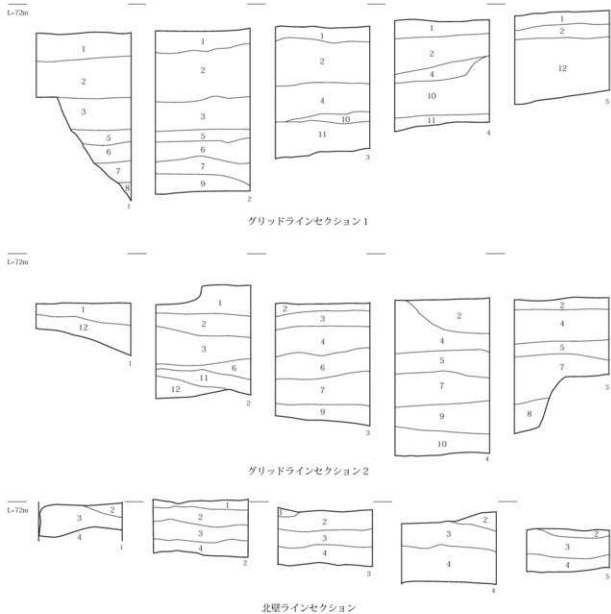
本区は、遺跡の東にあり調査当時本区は、V区と水路を境にした水田であった。現地地表は、北から南へ傾斜しており、72.5～72mを測る。本区では、土層と遺構確認のためのトレンチを南北のグリッドラインに沿って二箇所（グリッドラインセクション1・2）、北壁に一箇所を設定した。

土層確認の結果、本調査区南半部では、現耕作土下はHr-FA軽石混じり層が確認された。古代以降のAs-B軽石混じり層が確認されないことから、現耕作地造成に伴い削平されたと思われる。また、調査区の北側では、As-C軽石混じり層の上面まで削平されていた。そのため本区では、表土をHr-FA軽石面とAs-C軽石面を繋ぐ形で掘削し、発掘調査を行った。

北壁面の土層観察では、縄文時代包含層が認められた。これは、IV区から連続している縄文時代包含層である。包含層は、東側に傾斜しているが、グリッドラインセクション1・2では、確認出来なかった。このため調査区の中央北よりの微高地に、縄文時代の文化層があったことが推定される。グリッドラインセクション1・2では、Hr-FA軽石層の下にある層で鉄分沈着層やシルト層が堆積している。また、これらの層に混じり流木などの木片が検出されている。このことから、調査区南側に谷と小河川が入り込んでいることが推定される。



第16図 VI区土層観察地点



第17図 VI区基本土層

VI区基本土層

グリッドラインセクション1

- 1層 にぶい黄褐色土 Hr-FA軽石混じり、砂質。
- 2層 褐灰色粘質土 マンガン沈着多い、炭化物含む。
- 3層 灰褐色粘質土 炭化物を多く含む。
- 4層 暗褐色粘質土 ϕ 5mmの礫混じる、炭化物含む。
- 5層 橙褐色土 鉄分沈着多い。
- 6層 暗灰色シルト 炭化物多く含む。
- 7層 黒灰色シルト 炭化物多く含む。
- 8層 黒褐色シルトと緑灰色細砂の互層、木片などを含む。
- 9層 緑灰色砂層 木片を含む。

- 10層 黒褐色土 粘性強い、炭化物粒、白色粒含む。
- 11層 褐色土 粘性有り、礫が混じる。
- 12層 黒色土 ϕ 10~20cmの礫が多い。

グリッドラインセクション2

- 1層 黒褐色粘質土 Hr-FA軽石含む。
- 2層 暗褐色粘質土
- 3層 暗褐色粘質土 鉄分沈着。
- 4層 褐灰色土 細砂、マンガン沈着多い。
- 5層 褐灰色土 シルト質。
- 6層 褐色土 褐色砂と灰色粘質土の互層。

- 7層 褐色土 砂礫層。
- 8層 暗褐色シルト 大小の淡水含む。
- 9層 暗褐色土 ϕ 20cmの礫含む。
- 10層 オリーブ砂礫層
- 11層 淡緑灰色土 細砂に ϕ 3~8cmの円礫層。
- 12層 黒色粘質土 ϕ 5~10cmの円礫層。

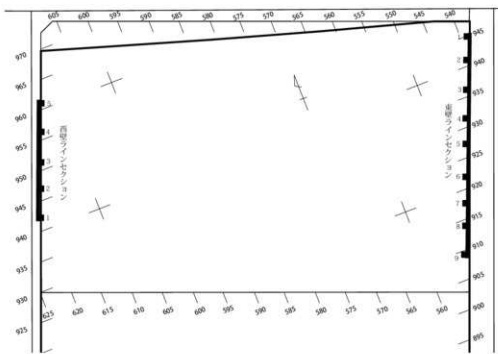
北壁ラインセクション

- 1層 黒褐色粘質土 As-c軽石少量混じる。
- 2層 黒褐色粘質土 縄文時代包層。
- 3層 黒褐色粘質土 粒子粗い。
- 4層 黒褐色粘質土 シルト質。

Ⅶ区の基本土層

本区は、遺跡の東端にあり、西側でⅥ区と市道を間に挟んでいる。東側は、菅塩遺跡群である。調査当時本区は、水田であった。現地表は、北から南へ傾斜しており、72m程度である。本区では、土層調査確認のためのトレンチを西壁面と東壁面に沿って設定した。

調査区の東西で、現耕作土の下層からAs-B軽石混じりの層が検出されている。この土層の下位層は、南東部でロームの二次堆積層・粘質土層などが堆積している。また、Ⅵ区と接する西側では、砂と粘質土の互層から流木が検出されており、Ⅵ区からの小河川が繋がっていることが推定される。As-B軽石混じり層下からは、遺構が確認された。調査区北西部は、As-B軽石混じり層が、現代の耕作により削平されている。現耕作土の下層には、砂層やローム層が堆積しており、南側に向かって急激に傾斜している。傾斜し低くなった所に湧水が見られる。As-C軽石層は、調査区の南東端で確認されている。土層観察では、谷地状の傾斜地にのりような形で薄く堆積しているのみで、平坦な堆積状況ではなかった。流水によりAs-C軽石層の堆積薄かった可能性がある。このためか、本区での古墳時代の遺構・遺物は少ないものとなっている。調査区東側では、現地表下の2m程下に大間々扇状地基盤の砂礫層が確認された。



第18図 Ⅶ区土層観察地点

Ⅶ区基本土層

東壁ラインセクション

- 1層 表土・現水田耕作土。
- 2層 黒褐色土 砂質。
- 3層 黄褐色土 礫層。
- 4層 暗褐色土 As-B軽石混じり、鉄分沈着。
- 5層 黄褐色ローム二次堆積層。
- 6層 黒褐色粘質土 白色の軽石粒を含む。
- 7層 灰褐色粘質土
- 8層 黒褐色粘質土
- 9層 灰白色土 As-C層。
- 10層 砂礫層

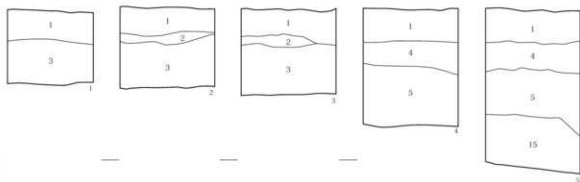
- 11層 褐色粘質土
- 12層 褐色粘質土 褐色のローム含む。
- 13層 灰色粘質土
- 14層 暗褐色土と砂層が交互に混じる。
- 15層 10～20cmの礫
- 16層 暗褐色粘質土

西壁ラインセクション

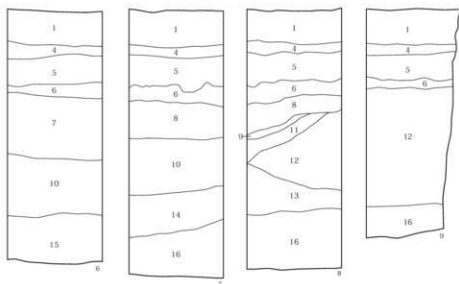
- 1層 表土・水田耕作土。
- 2層 As-B軽石

- 3層 黒褐色粘質土
- 4層 褐色土 φ 3～5cmの礫混じる。
- 5層 黄土色ローム二次堆積土
- 6層 褐色粘質土
- 7層 黒褐色粘質土 砂と互層になる。流木を含む。
- 8層 砂層
- 9層 明黄褐色土 砂質土壌。
- 10層 灰褐色 砂層。
- 11層 黄褐色ローム層
- 12層 礫層 黒褐色粘質土が混入。

L-72a

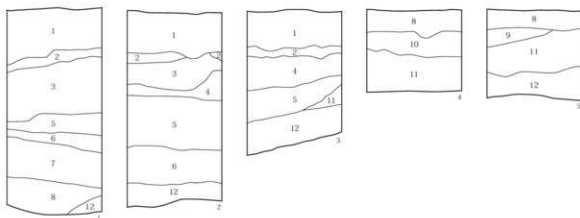


L-72b



東壁ラインセクション

L-72c



西壁ラインセクション

第19図 VII区基本土層

第2章 I区検出された遺構と遺物

第1節 調査の概要

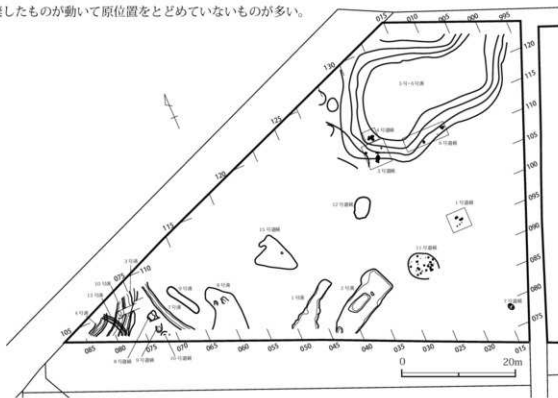
I区は、現地表標高が74m程で、北西から南東に緩やかに傾斜している。平成13年度に調査を行った。調査当初、用地の関係で北側部分を先行して行い、年度後半に南側部分の調査を行った。I区の調査では、As-B軽石層は、表土からの耕作により攪乱されている状況であった。Hr-FA軽石は、純層が所々で検出されている。一部の溝、流路を除き遺構の大半が、Hr-FA軽石層下から検出されている。

出土遺構の内訳は古墳時代前期の土器溜まり5箇所、土壇1基、性格不明の落ち込み4基、風倒木2箇所、水路2条、溝4条。古代の水路になる溝2条、近代の溝1条等である。

古墳時代前期（4世紀後半から5世紀前半）では、本調査区は、北側から南側に向けて傾斜し放射状に溝状の谷地が入る（1号・2号・8号溝）。これらの溝の傾斜変換点や北側の微高地に土器を遺棄した祭祀と思われる土器溜まりが見られた。南東側では、墓壇等が確認されている。また、南西隅に南北方向の走行を持つ水路と思われる溝が検出されている。これらのことから、水田や畑などの生産遺構は、本区からは検出されなかったが、古墳時代前期には、北側の微高地は、集落に関連する施設があり、南側の低地に耕作地があったと推定される。

古代の時代の遺構は少なく、調査区南西部に水路が2条確認（3号・7号溝）された。出土遺物から9世紀後半と思われる。北側の微高地からは、遺構は検出されなかったが、古墳時代の水路と重なるように水路が検出されたことから、同様の土地利用があったと推定される。

検出された遺物は、弥生時代終末から古墳時代前期の土器を主としている。特にS字口縁土甕が目立つ。その他に、高坏、器台、碗などが出土している。溝等から出土している遺物については、摩滅が多く水路に廃棄したものが動いて原位置をとどめていないものが多い。



第20図 I区全体図

第2節 検出された遺構と遺物

1号遺構 (21図・PL 3)

本遺構の掘り込みは、確認されなかった。地山上に古墳時代前期の土器が検出された。高坏や埴が出土していることから、祭祀に関係するものとも考えられるが、石製模造品などは出土していない。図示したものは、古墳時代前期の高坏・埴であるが、他に図示できない小破片が多数出土している。土器溜まり。

3号遺構 (22図・PL 3)

調査区北東部にある5号・6号溝(流路)から検出された。掘り込みは認められず、流路内にある土器の廃棄場所或いは、窪地に廃棄された土器が、流水によって集中した場所と考えられる。図示したものは、古墳時代前期のS字口縁台付甕破片である。他に同時期の図示できないような流水により摩滅した小破片が多数出土している。古墳時代前期の土器溜まり。

4号遺構 (22図・PL 4)

調査区北東部にある5号・6号溝(流路)から検出された。掘り込みは認められず、流路内にある土器の廃棄場所或いは、溝内に廃棄された土器が、流水によって流され集中した場所と考えられる。図示したものは、古墳時代前期のS字口縁台付甕部や環破片であるが、他に同時期の図示できない小破片や礫など多数出土している。古墳時代前期の土器溜まり。

6号遺構 (23図・PL 4)

調査区北東部にある5号・6号溝(流路)から検出された。掘り込みは認められず、流路内にある土器の廃棄場所或いは、溝内に廃棄された土器が、流水によって集中した場所と考えられる。古墳時代前期のS字口縁台付甕・高坏脚部が出土している。他に土師器小破片多数出土。古墳時代前期の土器溜まり。

7号遺構 (23図)

隅丸長方形になる。掘り込みは比較的垂直である。遺物は、床面直上から出土している。北東隅に皿形の手捏ね土器が出土し、南側にS字口縁台付甕の下半部が出土している。出土状況から、上半部付近に皿形土器を下半部に甕を副葬した古墳時代前期の墓と考えられる。長軸1.14m、短軸0.78m、深さ0.42m。

8号遺構 (23図)

3号溝と7号溝の間にある不整形の落ち込み。古墳時代遺物包含。9号、10号遺構に繋がる。自然地形あるいは、河川の流路による古墳時代前期の窪地と思われる。古墳時代前期の高坏脚部が出土。

9号遺構 (24図)

3号溝と7号溝の間にある不整形の落ち込み。古墳時代遺物包含。8号、10号遺構に繋がる。遺物の出土量も少なく、自然地形あるいは、河川の流路による古墳時代前期の窪地と思われる。摩滅した土師器小破片が多数出土しているが、図示できるものはなかった。

10号遺構 (24図)

3号溝と7号溝の間にある不整形の落ち込み。古墳時代遺物包含。8号、9号遺構に繋がる。遺物の出土量も少なく、自然地形あるいは、河川の流路による窪地と思われる。土師器小破片出土。古墳時代前期。

11号遺構 (24図・PL 4)

遺構形状が不整形で、土層の逆転も見られることから風倒木の可能性がある。弥生式土器や土師器の小片・小礫多数出土する。確認面の状況から古墳時代前期である。

第2章 Ⅰ区検出された遺構と遺物

1号溝 (25図)

調査区南側中央部から北東に向いてある。平面形は、南側にラッパ状に広がる不整形な形状をする。溝底面は、平坦である。本遺構の性格は不明である。S字口縁台付裏口縁部、裏口縁部などが出土している。

2号溝 (25図)

調査区、南側中央部から北東に1号溝と並行して作られる。溝中に長方形のイモ穴が重複している。底面は平坦である。遺物が平安時代の物から近代の物まで混じることから比較的新しい溝と考えられる。図示したものは、須恵器平底部片である。その他に近代の陶磁器片も出土している。近代以降の溝である。

3号溝 (26図・PL 5)

調査区西隅にある。南北に弧を描くように作られている。溝の掘り込みは比較的浅い。溝内からは、土師器S字口縁台付裏口縁部や裏などの破片が出土している。出土遺物は、摩滅した小片が多い。古代の水路。

4号溝 (26図)

調査区西隅にある。東西に弧を描くように作られている。掘り込みの浅い溝。溝内からは、土師器などの摩滅した小片が出土している。台付裏口縁部などの土師器片出土。古墳時代前期の溝。

5号・6号溝 (20図・PL 5・6)

調査区の北側にある。自然流路を溝として調査した。北側から北東側へ蛇行するように作られている。遺物は、S字口縁台付裏や弥生～古墳時代前期の遺物が多く出土し、これ以降のものが出土していないことから、古墳時代前半期には埋没したと考えられる。古墳時代前期の溝。

7号溝 (27図)

調査区西側に9号溝と並行している。掘り込みは浅く、底面は、椀状になる。形状から水路と考えられる。土師器の小片が出土している。古墳時代高環脚部などが出土。古代の溝。

8号溝 (27図・PL 7)

調査区南西にある。調査時には、溝としているが、南に開く谷地部に土器が集中して出土している。土器廃棄場或いは祭祀場と考えられる。図示したものは、古墳時代のS字口縁台付裏や器台、碗であるが、他に土師器小片が多数出土している。

9号溝 (20図)

調査区西側、7号溝と8号溝の間にある。形状は、直線的で、掘り込みは浅い。覆土中からは、S字口縁台付裏や壺などが出土している。正確不明の溝である。出土遺物が古墳時代前半期のもので、他に新しい遺物が出土していないことから古墳時代前期のものと考えられる。

10号溝 (26図)

調査区西側に4号溝と並行している。底面は比較的平坦であるが流路と思われる。手握ね土器や環、高環脚部がまとまって出土していることから、一括してこれらの土器を遺棄する場があったと考えられる。古墳時代土師器環、手握ねなどが出土し、その他に摩滅した土師器小片が出土している。

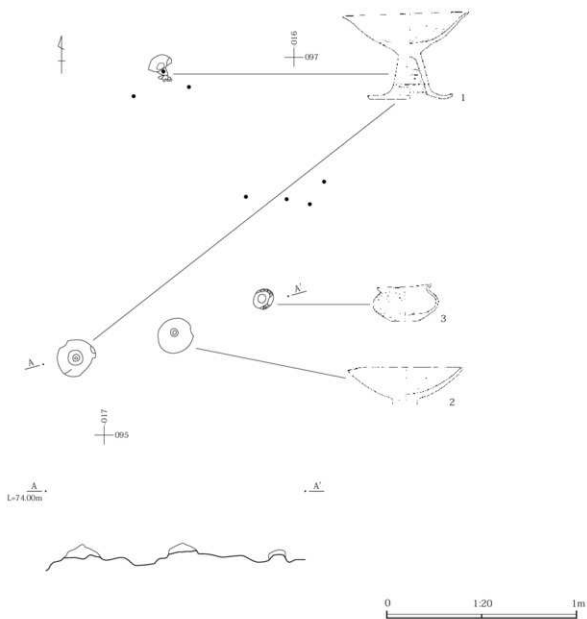
13号溝 (27図)

調査区南西端に10号溝と直行するように作られる。底面は、比較的平坦である。流路と思われる。出土遺物は、摩滅した土師器小片が多く、図示できるものはなかった。古墳時代前期。

表2 1区遺構一覧表

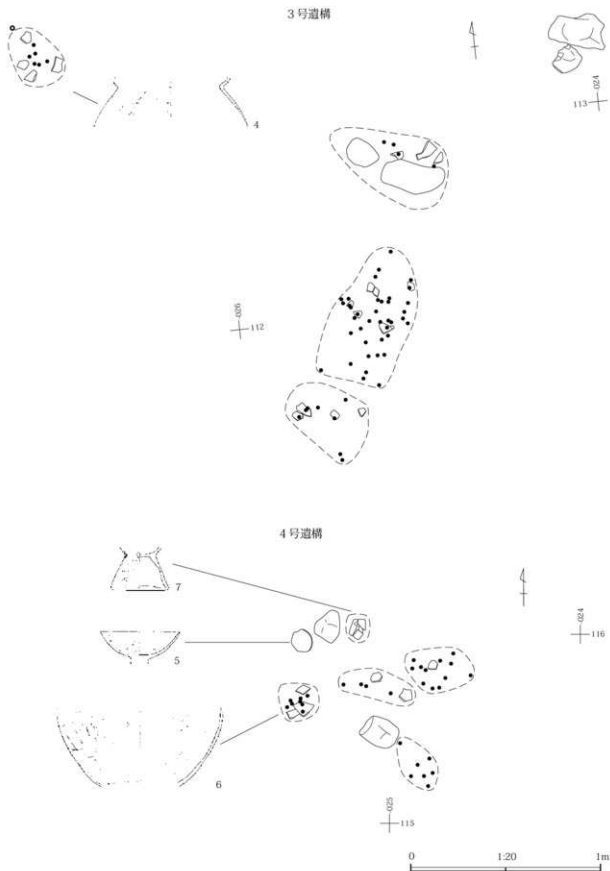
遺構名	遺構種類	図	PL	検出位置 X	検出位置 Y	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期・備考
1号遺構	土器部まわり	21	3	38095- 38097	45016- 45018	土器 分布範囲	—	2.5	1.7	—	古式土師器高環・ 用	古墳時代前期
3号遺構	土器部まわり	22	3	38111- 38114	45024- 42027	土器 分布範囲	—	2.8	3.3	—	S字口縁台付費、 他	古墳時代前期
4号遺構	土器部まわり	22	4	38115- 38116	45024- 45026	土器 分布範囲	—	1.2	1.1	—	S字口縁台付費、 他	古墳時代前期
6号遺構	土器部まわり	23	4	38111- 38113	45012- 45020	土器 分布範囲	—	2.3	0.7	—	S字口縁台付費、 他	古墳時代前期
7号遺構	瓦礫	23		38104- 38105	45077- 45079	隅丸長方形	N-28°-W	11.4	7.8	0.42	S字口縁台付費、 手捏瓦皿	古墳時代前期
8号遺構	窪地	23		38101- 38103	45071- 45074	不整形	N-15°-W	(16.2)	17.0	0.38	土師器器台	古墳時代前期
9号遺構	不明	24		38099- 38100	45072- 45073	不整形	N-8°-E	(11.2)	10.4	0.27	不明	不明
10号遺構	不明	24		38097- 38099	45071- 45073	不整形	N-68°-W	(15.0)	(6.3)	—	弥生、 土師器	不明
11号遺構	楓樹木	24	4	38089- 38094	45023- 45027	不整形	N-34°-W	(56.0)	45.6	—	弥生、 土師器	不明
12号遺構	楓樹木	20	5	38013- 38017	45030- 45033	楕円形	N-39°-W	7.9	5.24	—	不明	不明
15号遺構	遺物 埋設場	20	5	38100- 38107	45045- 45055	不整形	N-33°-W	7.64	3.9	0.05~ 0.4	弥生遺、 縄文土器小片	不明
1号溝	水路	25		38088- 38096	45042- 45052	弧状	N-51°-E	(9.4)	1.5~ 3.84	0.24	S字口縁台付費、 土師器費	古墳時代前期
2号溝	水路	25		38085- 38095	45031- 45043	弧状	N-62°-E	(13.0)	4.1~ 5.2	0.18~ 0.38	近世陶磁器、 須恵器環	近代以降
3号溝	水路	26	5	38100- 38106	45075- 45080	弧状	N-40°-E	(7.6)	1.58~ 1.78	0.52	土師器費	古代
4号溝	水路	26		38102- 38105	45080- 45084	弧状	N-51°-E	(4.0)	1.56	0.6	S字口縁台付費	古墳時代前期
5・6号溝	水路	20	5・6	38100- 38130	45000- 45028	弧状	N-81°-W N-28°-E N-73°-E	(68.8)	2.7~ 5.1	0.11~ 0.40	弥生遺、 S字口縁台付費、 木器	弥生~ 古墳時代前期
7号溝	水路	27		38096- 38108	45067- 45073	弧状	N-19°-W	(10.8)	0.8~ 1.2	0.21	須恵器環	古代~
8号溝	土器部まわり	27	7	38093- 38103	45057- 45064	不整形	N-0°	(9.56)	2.18~ 5.96	0.04~ 0.25	S字口縁台付費、 土師器器台、碗	古墳時代前期
9号溝	水路	20		38099- 38106	45065- 45068	弧状	N-34°-W	6.35	0.9~ 1.4	0.04	土師器蓋、 器台	古墳時代前期
10号溝	水路	26		38100- 38108	45074- 45081	弧状	N-32°-E	(8.4)	2.6~ 3.0	0.4	手捏瓦皿、 土師器環	古墳時代前期
13号溝	水路	27		38100- 38108	45075- 45080	弧状	N-30°-W	(5.12)	0.4~ 0.64	0.2	土師器小片	古墳時代前期

Ⅰ号遺構



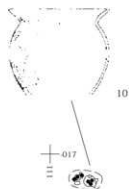
第21図 Ⅰ区Ⅰ号遺構

第2節 検出された遺構と遺物



第22図 1区3号・4号遺構

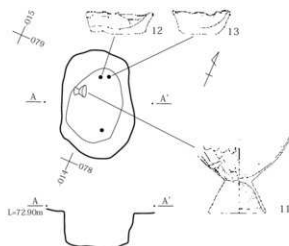
6号遺構



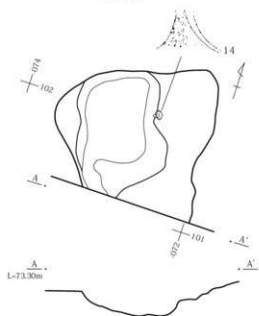
0



7号遺構

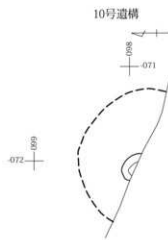
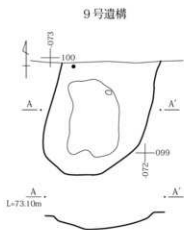


8号遺構

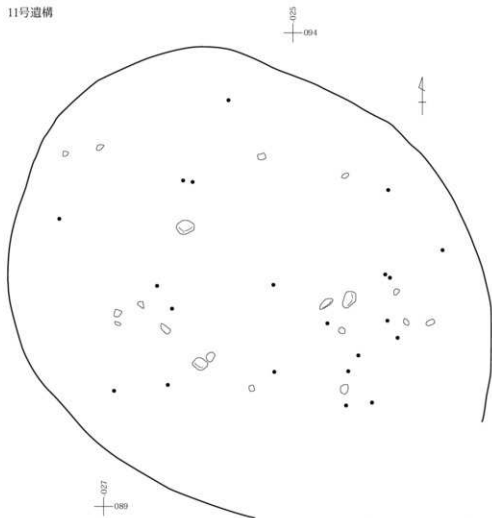


第23図 1区6号～8号遺構

第2節 検出された遺構と遺物

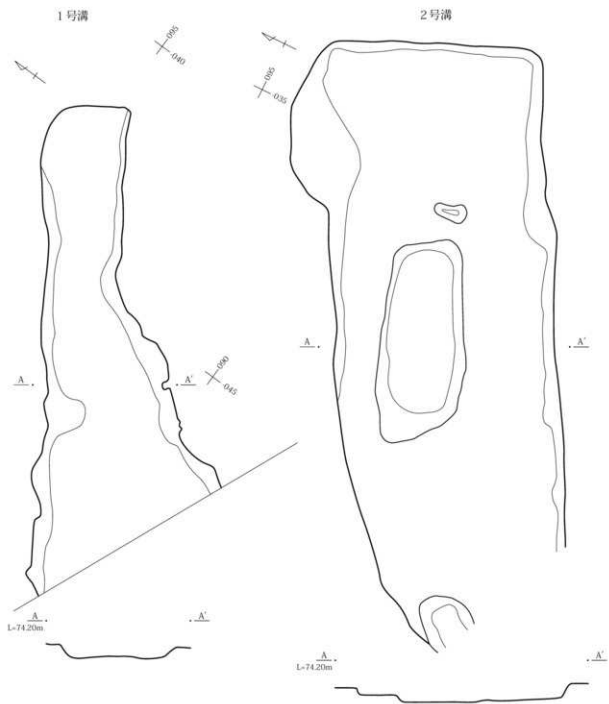


11号遺構

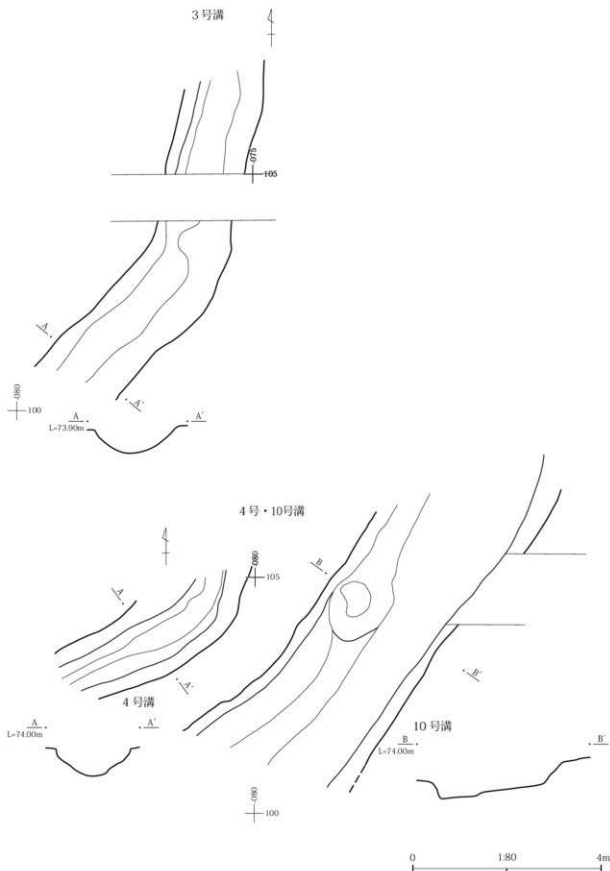


第24図 1区9号～11号遺構

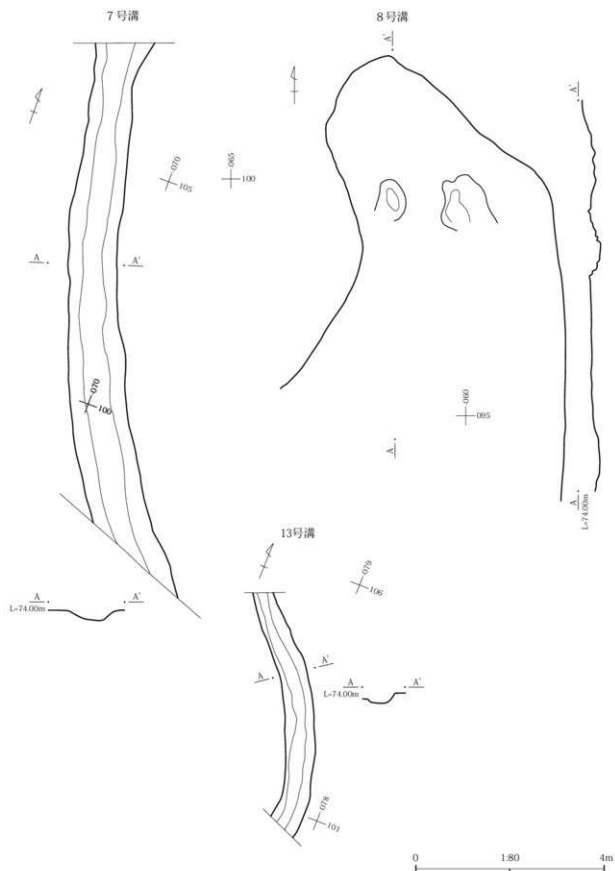
第2章 Ⅰ区検出された遺構と遺物



第25図 Ⅰ区1号・2号溝



第26図 I区3号・4号・10号溝



第27図 I区7号・8号・13号溝

表3 1区出土遺物観察表

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	28 58	土師器 高坏	ほぼ完形	1号遺構	19.9 13.3 13.5	白色粒・砂粒 多い。不良。	にぶい褐色 7.5YR6/3	坏部に段を持ち、湾曲し外反する。丸味のある腹面からラッパ状に脚部が開く。脚部内外面横撫で、坏部内面に放射状の磨磨き。摩滅多い。	坏部と脚部分割して出土
2	28 58	土師器 高坏	坏部	1号遺構	18.0 — (5.4)	粗砂粒。 不良。	暗赤褐色 5YR3/4	坏部は湾曲する。内外面横撫で。摩滅多い。	外面煤付着
3	28 58	土師器 埴	ほぼ完形	1号遺構	(8.5) 4.4 5.8	白色粒・砂粒。 不良。	褐色 7.5YR6/6	口縁「く」の字状に屈曲。肩部が張る。横撫で。摩滅多い。	内面、灰褐色
4	28 58	S字口縁 台付甕	頸部～ 胴部1/5	3号遺構	— — (6.8)	粗砂粒。不良。	にぶい褐色 7.5YR6/4	口縁部内外面横撫で。外面胴部右上刷毛目。粗間隔。7条単位。	
5	28 58	土師器 高坏	坏部	4号遺構	12.4 — (4.3)	粗砂粒。白色 粒。不良。	明赤褐色 5YR5/8	坏部内湾する。横撫で。摩滅多い。	外面煤付着
6	28 58	S字口縁 台付甕	胴部下半 1/2	4号遺構	— — (11.5)	粗砂粒多い。 不良。	灰褐色 5YR5/2	右上、左上と交互の刷毛目より磨歯状になる。摩滅多い。	外面煤付着
7	28 58	S字口縁 台付甕	台部	4号遺構	— 9.0 (6.3)	粗砂粒。白色 粒。不良。	にぶい褐色 5YR6/4	台部内面端部折り返し。台部接合部に刷毛目。摩滅多い。	
8	28 58	埴輪	胴部片	5号遺構	— — —	— — —	にぶい褐色 7.5YR7/4	刷毛目整形。凸帯断面は台形。	
9	28 58	土師器 高坏	脚部	6号遺構	— — (6.2)	粗砂粒多い。 不良。	にぶい褐色 7.5YR7/4	外面履位の磨磨き。内面に輪積み痕。摩滅多	外面煤付着
10	28 58	土師器 甕	口縁部～ 胴部1/2	6号遺構	(15.8) — (13.1)	粗砂粒多い。 不良。	にぶい褐色 7.5YR6/3	口縁「く」の字状に外反。外面刷毛目、胴部上半右上、下半左上、7条単位で細目。摩滅多い。	
11	29 58	S字口縁 台付甕	胴部下半 ～台部	7号遺構	— 9.0 (11.3)	粗砂粒。 普通。	褐色 5YR6/6	台部内面端部折り返し。刷毛目8条か。やや粗め。	
12	29 58	手捏ね 土器坏	完形	7号遺構	7.0 (6.0) 5.7 2.3	細砂、白色粒。 良好。	にぶい褐色 5YR7/4	内外面に輪積み痕、指溝痕が見られる。	
13	29 58	手捏ね 土器坏	口縁一部 欠損	7号遺構	(6.0) 3.5 2.4	細砂、白色粒。 良好。	にぶい褐色 5YR7/4	内外面に輪積み痕、指溝痕が見られる。	
14	29 58	土師器 器台	脚部	8号遺構	— — (6.0)	— — —	明赤褐色 2.5YR5/8	外面履位の磨磨き整形。	内面 暗赤灰色
15	29 58	甕	底部1/2	15号遺構	— 13.4 (7.2)	— — —	淡黄 2.5YR/4	細目の刷毛目整形。	弥生中期 赤色塗彩
16	29 58	甕	頸部破片	11号遺構	— — —	— — —	黄灰 2.5Y5/1	甕頸部にやや太めの沈線が廻る。	弥生後期
17	29 58	土師器 甕	口縁部～ 胴部	1号溝	(10.0) — (7.3)	— — —	暗赤褐色 2.5YR3/3	外面刷毛目。内面に口縁の接合痕が残る。	
18	29 58	S字口縁 台付甕	口縁部 破片	1号溝	(22.0) — (3.2)	— — —	にぶい褐色 5YR7/4	外面刷毛目。内面横撫で整形。	外面煤付着
19	29 58	須恵器 高台付坏	底部1/2	2号溝	— 3.2 (1.6)	— — —	灰白 7.5YR8/1	回転ロコク成形。高台貼り付け。内面摩滅。	

第2章 I区検出された遺構と遺物

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
20	29 58	土師器 甕	口縁部 1/3	3号溝	(20.0) — (3.3)	細砂。良好。	ㄱ黄橙 7.5YR7/4	口縁部内外面撫で。	212同一個体
21	29 58	土師器 甕	底部1/2	3号溝	(7.6) (2.3)	細砂。良好。	ㄱ黄橙 7.5YR7/4	外面撫で整形。	202同一個体
22	29 58	S字口縁 台付甕	台部1/2	4号溝	— (9.0) (4.3)	細砂、黒色粒。 普通。	明褐色 5YR7/2	台部内面端部折り返し。外面端部方向の撫で。	
23	29 58	壺	肩部破片	5号溝	— — —	細砂、細かい 白色粒。普通。	ㄱ黄橙 10YR7/4	口縁には、柳状工具による重状文。肩部は、 波状文が施文される。肩部に刺突を持つ円形 貼付文。	弥生後期
24	29 58	S字口縁 台付甕	台部1/2	5号溝	(11.4) (6.9)	細砂、黒色粒。 普通。	ㄱ黄橙 7.5YR7/4	台部内面端部折り返し。外面に指頭による整 形痕がみられる。全体に摩滅。	
25	30 58	土師器 小形壺	胴部～ 底部	6号溝	— 4.3 (5.5)	細砂、φ1mm の小石。普通。	ㄱ黄橙 10YR7/4	胴部上半粗い刷毛目整形、下半撫で。底部貼 り付け。表面摩滅。	
26	30 59	壺	口縁部 1/3	6号溝	(16.0) — (6.1)	細砂、黒色粒。 普通。	ㄱ黄橙 5YR7/4	口縁折り返し。頸部に縦位の粗い刷毛目整形。 内面横位の撫で整形。表面摩滅。	弥生～ 古墳時代
27	30 59	壺	口縁部	6号溝	19.1 — (7.6)	細砂、白色・ 黒色粒。良好。	淡黄 2.5YR8/4	外面横位の撫で整形。表面摩滅。	弥生～ 古墳時代
28	30 59	壺	口縁部～ 胴部	6号溝	(14.0) — (11.2)	細砂、黒色粒。 普通。	灰白 5Y8/1	口縁部～頸部横位の撫で、胴部縦位の撫で整 形。表面摩滅。	弥生～ 古墳時代
29	30 59	壺	底部	6号溝	(8.0) (7.8)	細砂、黒色粒。 不良。	ㄱ黄橙 5YR7/4	外面粗い刷毛目整形。内面輪積みに指頭によ る整形痕。表面摩滅。	弥生～ 古墳時代
30	30 59	甕	胴部	6号溝	— (17.5)	細砂。普通。	灰白 5Y8/2	胴部縦位方向の撫磨き。表面摩滅。	弥生～ 古墳時代
31	30 59	土師器 壺	底部	6号溝	— 6.3 (2.5)	細砂、φ1mm の小石。普通。	淡橙 5YR8/4	外面撫磨き。底部貼り付け。表面摩滅。	
32	30 59	S字口縁 台付甕	口縁部 1/3	6号溝	(16.8) — (4.6)	細砂、黒色粒。 不良。	浅黄 2.5Y7/3	肩部右上7条単位の粗い刷毛目整形。	
33	30 59	S字口縁 台付甕	口縁部～ 肩部1/4	6号溝	(14.0) — (4.5)	細砂、黒色粒。 良好。	浅黄 2.5Y7/4	肩部右上7条単位の粗い刷毛目整形。	
34	30 59	S字口縁 台付甕	台部	6号溝	(9.8) (6.0)	細砂、白色・ 黒色粒。普通。	灰白 5Y8/2	台部内面端部折り返し。胴部との接合部に左 上の粗い刷毛目。内面指頭による整形痕。	台部内外面 一部赤斑
35	30 59	S字口縁 台付甕	台部	6号溝	— 9.8 (7.0)	細砂。普通。	灰白 5Y8/2	台部内面端部折り返し。胴部との接合部に左 上の粗い刷毛目。内面指頭による整形痕。	台部内外面 一部赤斑
36	30 59	S字口縁 台付甕	台部1/3	6号溝	(13.0) — (6.4)	細砂、白色・ 黒色粒。普通。	淡黄 5Y8/3	台部内面端部折り返し。胴部との接合部に左 上の粗い刷毛目。内面指頭による整形痕。	台部内外面 一部赤斑
37	30 59	S字口縁 台付甕	台部1/3	6号溝	(9.0) (5.0)	細砂、白色・ 黒色粒。普通。	浅黄橙 10YR8/3	台部内面端部折り返し。胴部との接合部に左 上の粗い刷毛目。内面指頭による整形痕。	台部内外面 一部赤斑
38	30 59	S字口縁 台付甕	台部1/3	6号溝	— (9.0) (5.3)	粗砂、φ1mm 以下の小石多 い。普通。	淡黄 5Y8/3	台部内面端部折り返し。外面撫で、内面指頭 による整形痕。	
39	31 59	S字口縁 台付甕	台部1/3	6号溝	— (9.0) (4.3)	細砂、白色・ 黒色粒。普通。	灰白 7.5Y8/2	台部内面端部折り返し。外面撫で、内面指頭 による整形痕。	台部端黒斑

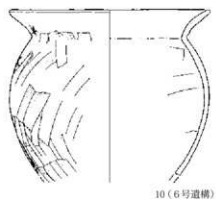
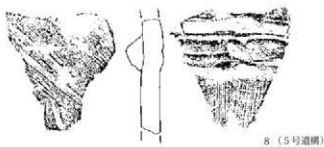
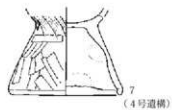
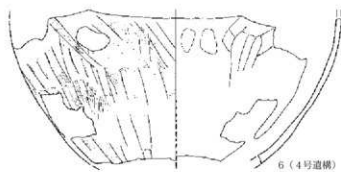
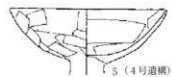
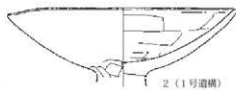
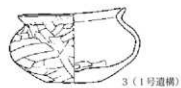
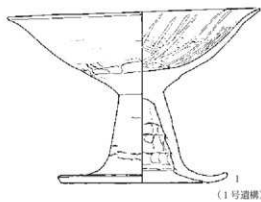
第2節 検出された遺構と遺物

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
40	31 59	土師器 高坏	坏部1/3	6号溝	(19.0) — (6.7)	細砂。不良。	灰白 5Y8/2	外面撫で整形。表面厚減。	
41	31 59	土師器 高坏	脚部	6号溝	— (8.6)	細砂、白色・ 黒色粒。普通。	灰白 5Y7/2	脚部外面縦位の磨磨き。内面輪積み痕。	
42	31 59	土師器 高坏	脚部	6号溝	— (7.5)	細砂。普通。	灰砂-ア 5Y6/4	脚部外面縦位の磨磨き。内面横位の磨き。	
43	31 59	土師器 器台	脚部	6号溝	— (5.2)	粗砂、白色粒。 普通。	にぶい橙 5YR7/4	脚部外面縦位の磨削り。内面横位の磨削り。 裾部に円形の孔を4単位持つ。	
44	31 59	土師器 高坏	脚部	6号溝	— (7.2)	細砂。普通。	橙 5YR6/8	脚部外面縦位の磨削り。内面指頭による撫で。	外面 赤色塗彩
45	31 59	須恵器 坏	1/4	7号溝	(12.0) — (2.8)	細砂、白色粒。 良好。	暗褐灰 7.5YR7/1	回転ロクロ成形。	
46	31 59	S字口縁 台付費	口縁部～ 胴部	8号溝	(17.0) — (16.1)	細砂、黒色粒。 普通。	浅黄橙 7.5YR8/6	胴部右上、胴部左上の粗い刷毛目。内面横撫 でと指頭痕。	外面煤付着
47	31 59	S字口縁 台付費	口縁部～ 胴部	8号溝	(17.0) — (6.8)	細砂、黒色粒。 普通。	浅黄橙 7.5YR8/6	胴部右上、胴部左上の粗い刷毛目。内面横撫 でと指頭痕。	
48	31 59	S字口縁 台付費	口縁部～ 胴部	8号溝	(17.9) — (10.0)	細砂。普通。	明褐 7.5YR5/8	胴部右上、胴部左上の6条単位の粗い刷毛目。 粗間隔。内面横撫でと指頭痕。	
49	31 59	S字口縁 台付費	口縁部～ 胴部	8号溝	(18.6) — (10.3)	細砂。良好。	にぶい橙 5YR6/4	胴部右上、胴部左上の6条単位の細かい刷毛 目。粗間隔。内面縦位の撫でと指頭痕。	外面煤付着
50	31 60	S字口縁 台付費	口縁部～ 胴部	8号溝	(16.4) — (6.3)	細砂。良好。	灰褐 5YR5/2	胴部右上細かい刷毛目。密間隔。内面撫で整 形。	
51	31 60	S字口縁 台付費	口縁部～ 胴部	8号溝	(12.0) — (8.0)	細砂、白色粒。 良好。	CR赤褐 2.5YR4/3	胴部右上、胴部左上細かい刷毛目。密間隔。 内面撫で整形。	
52	32 60	壺	口縁部 1/3	8号溝	(36.4) — (8.5)	粗砂、φ1mm の小石。普通。	淡黄 2.5YR/4	複合口縁になる。縦位に細かい刷毛目。三条 の棒状貼付文。	赤生後期
53	32 60	壺	胴部破片	8号溝	— — —	粗砂、φ1mm の小石。普通。	淡黄 2.5YR/4	結束の羽状縄文。	赤生後期
54	32 60	S字口縁 台付費	台部	8号溝	— (3.4)	細砂、黒色粒。 普通。	CR赤褐 2.5YR5/4	台部接合部左上粗い刷毛目。密間隔。台部内 面接合部に指頭痕。	
55	32 60	S字口縁 台付費	台部	8号溝	— 5.9 (2.8)	細砂、白色粒。 良好。	CR赤褐 2.5YR5/4	外面縦位の磨磨き。内面横撫で。	
56	32 60	土師器 器台	完形	8号溝	7.4 10.8 7.9	細砂。良好。	明褐 7.5YR5/8	器台内面横撫で。器台外面放射状の磨き。 脚部縦位の磨磨き。φ11mmの孔を3単位持つ。	赤色塗彩
57	32 60	土師器 器台	脚部	8号溝	— 13.3 (6.5)	細砂、白色粒。 良好。	褐 7.5YR4/3	脚部外面縦位の磨磨き。内面斜め方向に粗い 刷毛目。裾部横撫で。φ15mmの孔を3単位持 つ。	
58	32 60	土師器 器台	完形	8号溝	7.5 11.2 6.9	細砂。良好。	明赤褐 5YR5/6	器台内面指頭痕と撫で。脚部外面細かい刷毛 目。密間隔。脚部、裾部内面横撫で。φ11mm の孔を3単位持つ。	
59	32 60	土師器 碗	口縁部～ 底部1/3	8号溝	(11.6) 5.0 6.8	細砂、黒色粒。 普通。	浅黄橙 7.5YR8/4	頸部右上、胴部左上の7条単位の細かい刷毛 目。密間隔。底部上げ底。内面剥落多い。	

第2章 I区検出された遺構と遺物

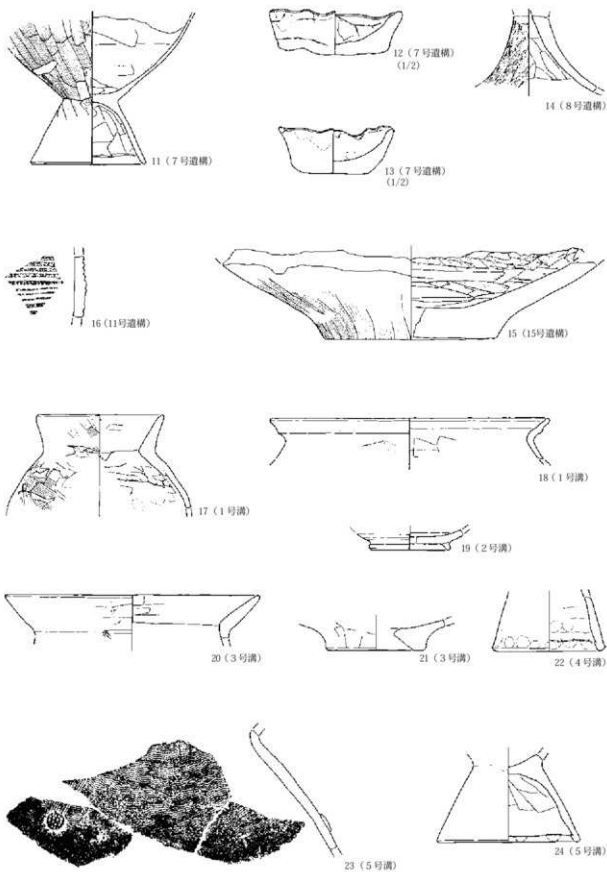
遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
60	32 60	S字口縁 台付甕	口縁部へ 肩部1/5	9号溝	(14.0) — (5.7)	礫粒、黒色粒。 普通。	黒褐 7.5YR3/1	口縁部横撫で。肩部右上刷毛目。	外面煤付着
61	32 60	S字口縁 台付甕	口縁部へ 肩部1/5	9号溝	(13.6) — (3.1)	礫砂、黒色粒。 普通。	黒褐 7.5YR3/1	口縁部横撫で。肩部右上刷毛目。	外面煤付着
62	32 60	土師器 甕	口縁部へ 胴部1/5	9号溝	(12.0) — (5.6)	礫砂、白色粒。 良好。	にぶい橙 5YR7/4	口縁部内外面横撫で整形。	
63	32 60	土師器 壺	口縁部へ 胴部1/5	9号溝	— — (6.9)	礫砂、φ1mm 程の小石。 良好。	にぶい橙 5YR7/3	外面磨き。内面指頭による横位の整形痕。	
64	32 60	土師器 壺	口縁部	9号溝	(16.0) — (2.9)	粗砂。普通。	明赤褐 2.5YR5/8	外面撫で整形。	
65	32 60	土師器 壺	口縁部 2/3	9号溝	— — (4.3)	粗砂、φ1～ 2mmの小石。 普通。	明褐 7.5YR5/8	肩部が張る。口縁部と胴部は撫で整形、口縁 接合部に刷毛目が残る。	
66	33 60	手捏ね 杯	完形	10号溝	7.5 4.6 2.7	礫砂。良好。	明赤褐 5YR5/6	内外面に整形時の指頭痕が残る。	
67	33 60	手捏ね 杯	ほぼ完形	10号溝	(7.4) (5.2) 2.9	礫砂。良好。	明赤褐 5YR5/6	内外面に整形時の指頭痕が残る。	
68	33 60	土師器 杯	口縁部へ 底部1/5	10号溝	(12.0) — (3.9)	粗砂。普通。	にぶい橙 5YR6/3	口縁部横撫で整形。底部寛削り。口縁部に稜 を持つ。	
69	33 60	S字口縁 台付甕	台部1/5	10号溝	(10.0) (5.5)	礫砂。良好。	にぶい橙 7.5YR7/4	台部内面端部折り返し。外面に指頭による整 形痕がみられる。	
70	33 60	土師器 高杯	脚部	10号溝	— — (3.5)	礫砂。普通。	橙 5YR6/6	外面撫で。内面に輪轡み痕。	
71	33 60	須恵器 高台付杯	底部	10号溝	6.6 (1.7)	礫砂。普通。	灰褐 7.5YR4/2	回転ロコク成形。高台貼り付け。底部寛削り。	
72	33 60	土師器 高杯	杯部	遺構外	(27.2) — (8.0)	粗砂、白色粒。 普通。	橙 7.5YR6/8	杯部下端で屈曲する。横撫で整形。表面摩滅。	
73	33 60	土師器 高杯	脚部	遺構外	15.6 (9.6)	粗砂、白色・ 黒色粒。普通。	橙 5YR7/6	外面撫で整形。脚部内面縦位の指頭痕。裾部 内外面横撫で。	外面 赤色塗彩
74	33 60	土師器 高杯	脚部	遺構外	— (11.0) (6.3)	礫砂、黒色粒。 普通。	灰白 10Y8/2	表面撫で整形。脚部内面寛削り後撫で。表面 摩滅。	
75	33 60	S字口縁 台付甕	台部	遺構外	9.6 (6.4)	粗砂、白色粒。 普通。	淡橙 5YR8/4	台部内面端部折り返し。胴部接合部に左上の 粗い刷毛目。台部下半は撫で。内面に指頭痕。 表面摩滅。	内面 一部赤斑
76	33 60	S字口縁 台付甕	台部1/3	遺構外	(10.2) (5.8)	粗砂、白色粒。 普通。	橙 7.5YR6/6	台部内面端部折り返し。胴部接合部に左上の 粗い刷毛目。台部下半は撫で。内面に指頭痕。 表面摩滅。	
77	33 60	S字口縁 台付甕	台部	遺構外	7.0 (4.8)	粗砂、白色粒。 普通。	明赤褐 2.5YR5/6	台部内面端部折り返し。外面撫で。内面指頭 痕。表面摩滅。	
78	33 60	土師器 杯	口縁部へ 底部1/3	遺構外	12.0 — (3.0)	礫砂、黒色粒。 普通。	淡黄橙 7.5YR8/3	杯部立ち上がり部に稜を持つ。内外面撫で。異 磨き。底部寛削り。表面摩滅。	
79	33 60	須恵器 高台付杯	底部	遺構外	7.0 (2.3)	粗砂、白色粒。 良好。	灰白 7.5Y6/1	底部寛削り。高台貼り付け。	
80	33 60	ガラス瓶	口縁部 欠損	遺構外	2.3 (6.9)	—	青緑	ニッキ水を入れる瓶。ひょうたん形。	近代

第2節 検出された道構と遺物



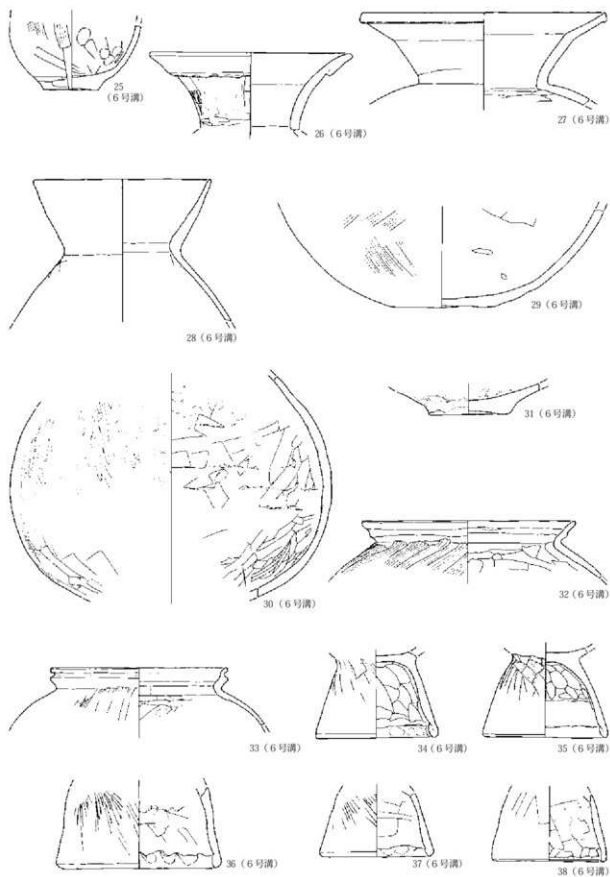
第28図 I区出土遺物(1)

第2章 I区検出された遺構と遺物



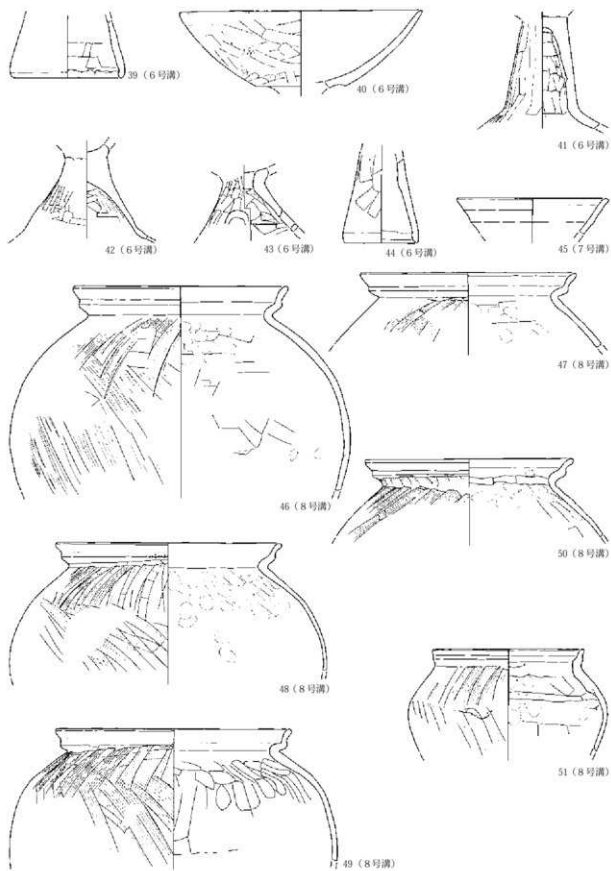
第29図 I区出土遺物(2)

第2節 検出された遺構と遺物



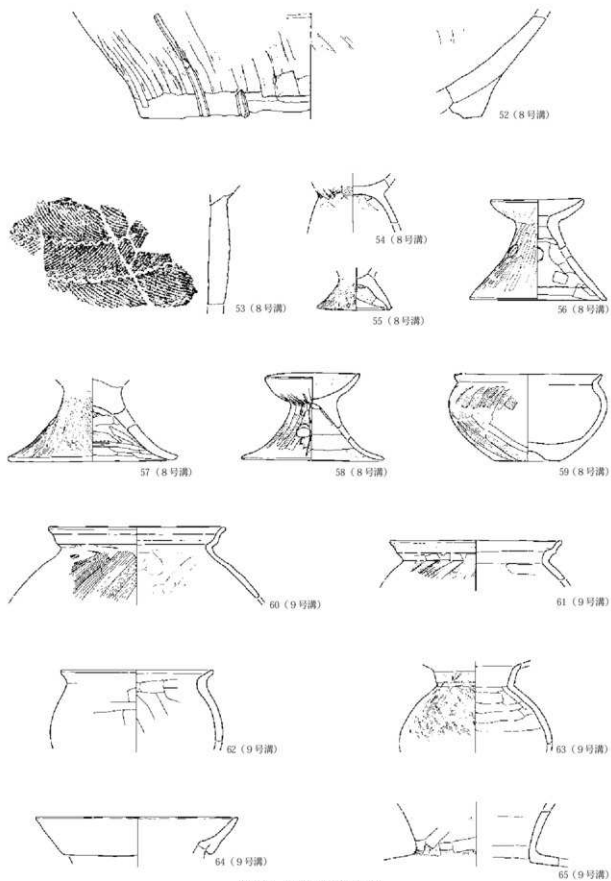
第30図 I区出土遺物(3)

第2章 I区検出された遺構と遺物



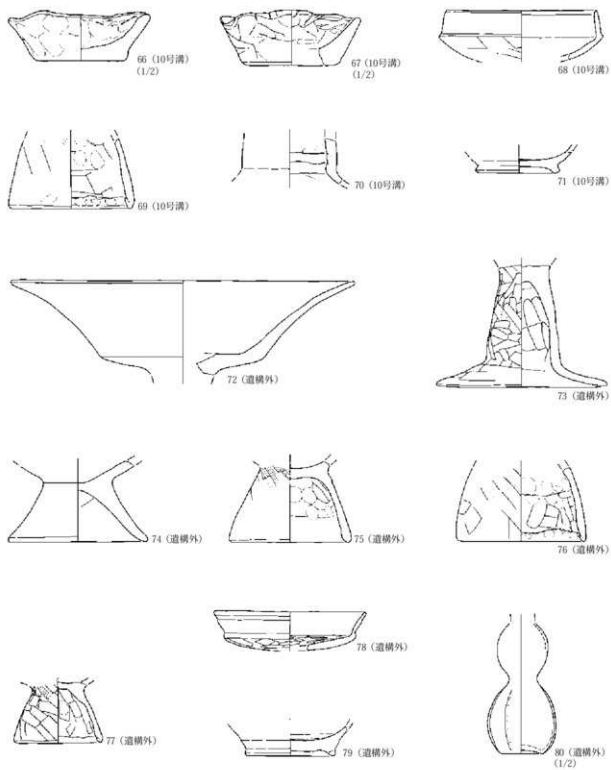
第31図 I区出土遺物(4)

第2節 検出された遺構と遺物



第32図 I区出土遺物(5)

第2章 I区検出された遺構と遺物



第33図 I区出土遺物(6)

第3章 II区検出された遺構と遺物

第1節 調査の概要

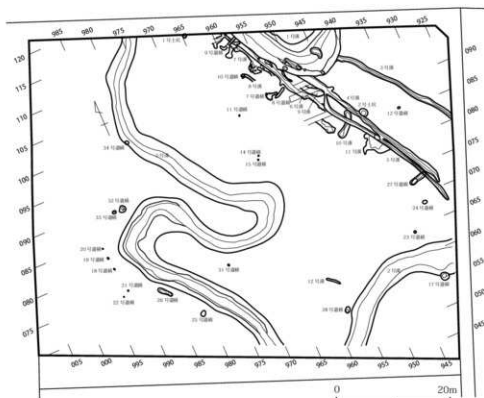
II区は、現地表標高が73.5m程で、1区側の北西から南東に緩やかに傾斜している。平成13年度・14年度に調査を行った。用地の関係から南北に二分割し平成13年度・14年度に北側部分、14年度に南側部分の調査を行った。II区の調査では、As-B軽石は、表土からの耕作により攪乱されている状況であった。そのため、掘り込みの浅い遺構は削平され、検出遺構は少ない。Hr-FA軽石は、遺構の深いところに、検出されている。遺構の内訳は、古墳時代では、小河川1条、土坑15基、風倒木痕1箇所、溝1条。古代では土坑4基、溝2条、その他近世の小河川、地割り区画の溝、井戸2基である。

古墳時代には、調査区を南北に縦断するように蛇行する小河川があり、調査区を二分している。他に、貯蔵などに使われたと思われる土坑が検出されている以外、遺跡の性格を表す遺構はなかった。

古代の遺構も検出数が少なく、貯蔵に使われた土坑や性格不明の溝が検出されているのみである。

近世では、小河川が調査区の中央北側に東西方向に流れている。本遺構からは、埴輪などの廃棄された遺物に混じり、五輪塔や板碑等の近世のものが入り込んでいる。同じく近世の溝が、北東部に10m前後の間隔を取って、並行して作られている。溝には、陶磁器の小片が入り込んでいることから、近世の地割り区画の溝と思われる。この溝に隣接する位置で、井戸が検出されている。

検出された遺物は、古墳時代前期の土器を主としている。特にS字口縁台付甕が目立った。その他に、古墳時代から古代にかけての高環、器台、碗、中世の板碑などの石造物が出土している。



第34図 II区全体図

第2節 検出された遺構と遺物

1号土坑 (35図)

調査区中央北側端にある。平面形は円形で断面は緩やかに掘り込まれている。底面やや凹凸がみられる。長軸0.73m、短軸0.66m、深さ0.29m。土師器小片が出土。

2号土坑 (35図)

調査区北東部、5号溝に接している。平面形は円形で掘り込みが深く底面を検出できなかった。井戸と思われる。φ1.55m。出土遺物無し。

7号遺構 (35図・PL 9)

調査区中央北側にある。不整形の窪み。おそらく木の根痕と思われる。長軸2.1m、短軸1.33m、深さ0.2m。土師器小片が出土している。覆土にAs-B軽石を含むことから平安時代以降のものである。

8号遺構 (35図・PL 9)

調査区中央北側、7号遺構に接してある。溝状の落ち込み。出土遺物無し。長軸2.46m、幅0.28～0.38m、深さ0.08m。遺構の性格不明。平安時代以降のものである。

9号遺構 (35図)

中央北側に調査区外へ伸びている。溝状の落ち込みと現代土坑の重複。溝は、3m以上ある。幅0.38m、深さ0.2m。

10号遺構 (35図)

円形の土坑。断面皿状になる。底面は平坦である。長軸0.56m、短軸0.36m、深さ0.1m。

11号遺構 (35図)

円形のビット状。掘り込みは深い。長軸0.24m、短軸0.20m、深さ0.2m。Hr-FA軽石を覆土に含むことから古墳時代のものと思われる。

12号遺構 (35図)

円形の土坑。断面皿状になる。底面は平坦である。長軸0.46m、短軸0.32m、深さ0.8m。Hr-FA軽石を覆土に含むことから古墳時代のものと思われる。

14号遺構 (36図)

円形のビット状になる。φ0.23m、深さ0.21m。遺構確認面から古墳時代のものである。

15号遺構 (36図)

円形のビット状になる。長軸0.24m、短軸0.21m、深さ0.2m。遺構確認面から古墳時代のものである。

17号遺構 (36図・PL 9)

壁面や覆土中から礫が多くみられた。形状から、古墳時代の井戸である。長軸1.45m、短軸1.37m、深さ0.77m。

18号遺構 (36図・PL 9)

楕円形のビット。断面皿状になる。底面は平坦である。長軸0.37m、短軸0.25m、深さ0.09m。

19号遺構 (36図・PL 9)

南側が細くなる卵形の土坑。断面は円筒形に近い。底面は平坦である。長軸0.34m、短軸0.3m、深さ0.11m。覆土にHr-FA軽石を含むことから古墳時代のものと思われる。

20号遺構 (36図・PL 9)

円形の浅いビット。断面皿状になる。長軸0.2m、短軸0.18m、深さ0.04m。覆土にHr-FA軽石を含むことか

ら古墳時代のもと思われる。

21号遺構 (36図・PL10)

楕円形のピット。底面が二段になる。長軸0.28m、短軸0.22m、深さ0.08m。覆土から古墳時代のものである。

22号遺構 (36図・PL10)

楕円形のピット。断面皿状になる。長軸0.17m、短軸0.14m、深さ0.04m。覆土から古墳時代のものである。

23号遺構 (36図・PL10)

楕円形の土坑。底面が二段になる。長軸0.53m、短軸0.44m、深さ0.33m。覆土から古墳時代のものである。

24号遺構 (36図)

隅丸方形の土坑。底面は平坦である。覆土中に炭化物を含む。性格不明の土坑。長軸0.75m、短軸0.4m、深さ0.4m。主軸N-83°-E。

25号遺構 (36図・PL10)

調査区中央南側にある。不整形の窪み。風倒木と思われる。長軸1.11m、短軸0.7m、深さ0.35m。主軸N-48°-E。古墳時代。

26号遺構 (37図)

調査区南西側にある。溝状の落ち込み。底面は平坦になる。地山に礫が見える。長軸2.71m、短軸0.7m、深さ0.27m。主軸N-40°-W。

27号遺構 (37図)

調査区中央東寄りにある。溝状の落ち込み。底面が二段になり、西側に楕円形の落ち込みがある。長軸3.24m、短軸0.82m、深さ0.35m。主軸N-73°-W。古代。

28号遺構 (37図)

調査区南東部にある。楕円形の落ち込みで、底面に凹凸が見られる。長軸1.14m、短軸0.85m、深さ0.3m。主軸N-42°-W。堆積土層から古代のもと思われる。

31号遺構 (37図)

楕円形の土坑。底面は若干凹凸がある。覆土にAs-C軽石を含むことから古墳時代前半のもと考えられる。長軸0.47m、短軸0.26m、深さ0.18m。主軸N-17°-W。

32号遺構 (37図)

調査区中央西寄りにある。粘土質地山に黒色土の覆土。覆土中に土師器坏、底面に礫出土。平面形は、円形に近く、底面は平坦ではなく、傾斜している。長軸1.29m、短軸1.24m、深さ0.61m。主軸N-28°-E。

33号遺構 (37図・PL10)

粘土質地山に楕円形の土坑。底面は平坦ではなく、湾曲する。長軸0.66m、短軸0.48m、深さ0.18m。主軸N-77°-E。古代。

34号遺構 (37図・PL10)

調査区中央北寄り。粘土質地山に楕円形の土坑。形状は、ほぼ円形で、底面は平坦である。長軸0.68m、短軸0.66m、深さ0.13m。主軸N-11°-E。覆土の堆積土層から古代のもと思われる。

1号溝 (38図・PL11)

調査区北側にある蛇行した落ち込み。掘り込みは比較的浅く、底面は平坦である。水の流れた痕跡があることから旧流路と思われる。板碑、五輪塔、宝篋印塔などの石造物片やガラス・陶磁器片などが入り交じって出土していることから、近現代のもと考えられる。

第3章 II区検出された遺構と遺物

2号溝 (39図・PL11)

調査区を北西から南東に蛇行している。旧流路と思われる。底面に地山の礫層が見えている。覆土中から古墳時代土師器など多数出土している。

3号溝 (40図)

調査区北西部にある。4号・5号溝とほぼ並行する。掘り込みは浅く断面は皿状になる。土師器片やガラス・陶磁器など雑多な小片が出土していることから、1号溝とほぼ同じ時期のものと考えられる。地割りや区画のための溝と考えられる。

4号溝 (40図)

調査区北西部にある。5号溝とほぼ並行する。掘り込みは浅い。土師器片やガラス・陶磁器などが出土していることから、1号溝とほぼ同じ時期のものと考えられる。地割りや区画のための溝と考えられる。

5号溝 (40図・PL11)

調査区北西部にある。4号溝とほぼ並行する。掘り込みは浅い。土師器片やガラス・陶磁器などが出土していることから1号溝とほぼ同じ時期のものと考えられる。4号溝と同様に地割りや区画のための溝と考えられる。

6号～9号溝 (41図・PL11)

調査区北東部にあり、4号・5号溝と重複関係にある。土師器片や陶磁器片など各時代のものが混じることから4号・5号溝と同様に地割りに関係する溝と考えられる。

10号溝 (41図)

溝状の落ち込み。出土遺物もなく掘り込みも浅い。性格不明の溝。

11号溝 (41図)

4号・5号溝と重複関係にある。不整形を呈している。掘り込みが浅く、出土遺物がないことから、溝と言うよりは、地形的な落ち込みと考えられる。

12号溝 (41図)

調査区南東に見られる。掘り込みが浅い堀である。断面形は皿状になる。出土遺物は無く性格不明である。覆土から古代のものである。

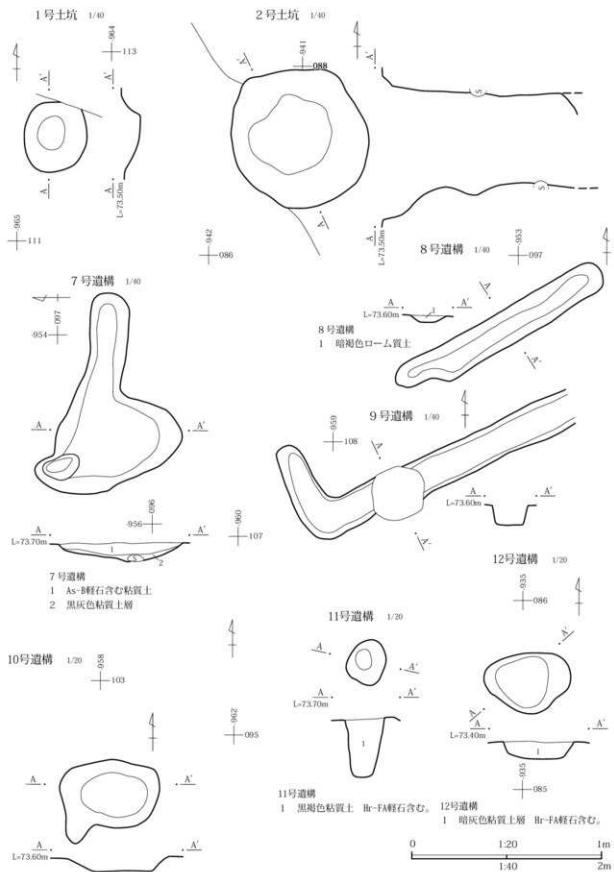
表4 II区遺構一覧表

遺構名	遺構種類	図	PL	検出位置 X	検出位置 Y	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期・備考
1号土坑	土坑	35		38111- 38113	44964- 44965	円形	N-0°	0.73	0.66	0.29	土師器小片	古墳時代
2号土坑	井戸	35		38086- 38088	44940- 44942	円形	N-0°	1.55	1.55	(2.7)	土師器小片	古墳時代
7号遺構	木相痕	35	9	38095- 38098	44954- 44956	不整形	N-0°	2.1	1.33	0.2	土師器小片、礫	古代
8号遺構	不明	35	9	38096- 38097	44951- 44953	溝状	N-60°-E	2.46	0.28~ 0.38	0.08	土師器小片	古代
9号遺構	水路	35		38107- 38109	44956- 44960	溝状	N-29°-W N-66°-E	(4.0)	0.38	0.2	土師器小片	古代
10号遺構	土坑	35		38102- 38103	44957- 44958	円形	N-90°	0.56	0.36	0.1	土師器小片	古代
11号遺構	土坑	35		38095- 38096	44961- 44962	円形	N-20°-E	0.24	0.2	0.2	土師器小片	古墳時代
12号遺構	土坑	35		38085- 38086	44934- 44936	円形	N-88°-E	0.46	0.32	0.08	土師器小片	古墳時代
14号遺構	土坑	36		38087- 38088	44960- 44962	円形	N-0°	0.23	0.23	0.21	土師器小片	古墳時代
15号遺構	土坑	36		38086- 38088	44961	円形	N-0°	0.24	0.21	0.2	土師器小片	古墳時代

第2節 検出された遺構と遺物

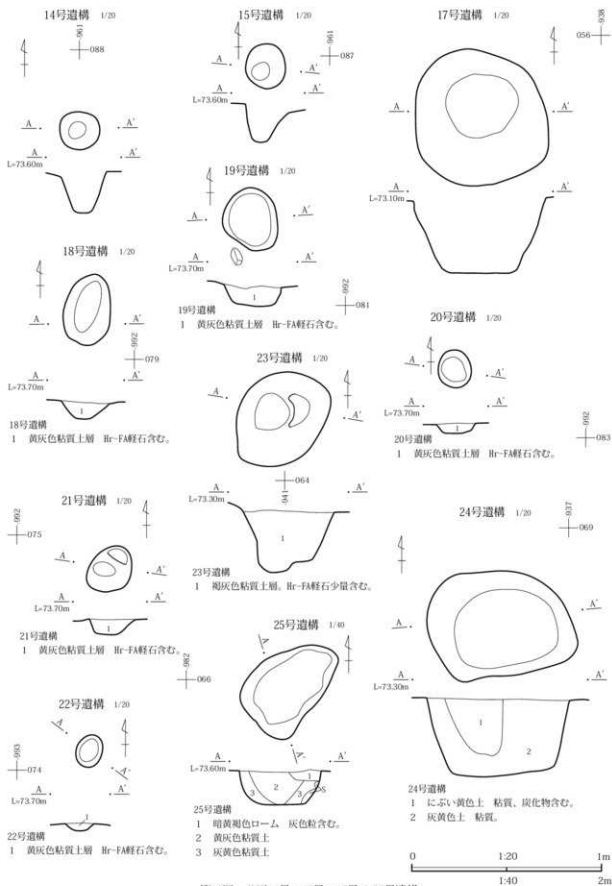
遺構名	遺構種類	図	PL	検出位置 X	検出位置 Y	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期・備考
17号遺構	井戸	36	9	38055- 38056	44938- 44939	円形	N-3°-W	1.45	1.37	0.77	土師器小片	古墳時代
18号遺構	土坑	36	9	38079- 38080	44992- 44993	ほぼ円形	N-13°-E	0.37	0.25	0.09	土師器小片	古墳時代
19号遺構	土坑	36	9	38081- 38082	44992- 44993	ほぼ円形	N-9°-W	0.34	0.3	0.11	土師器小片	古墳時代
20号遺構	土坑	36	9	38083- 38084	44992- 44993	ほぼ円形	N-0°	0.2	0.18	0.04	土師器小片	古墳時代
21号遺構	土坑	36	10	38074- 38075	44991- 44992	ほぼ円形	N-35°-E	0.28	0.22	0.08	土師器小片	古墳時代
22号遺構	土坑	36	10	38074- 38075	44992- 44993	ほぼ円形	N-23°-E	0.17	0.14	0.04	土師器小片	古墳時代
23号遺構	土坑	36	10	38064- 38065	44940- 44942	ほぼ円形	N-28°-E	0.53	0.44	0.33	土師器小片	古墳時代
24号遺構	土坑	36		38068- 38069	44937- 44938	隅丸方形	N-83°-E	0.75	0.4	0.4	土師器小片	古墳時代
25号遺構	風倒木	36	10	38065- 38067	44980- 44982	不整形	N-48°-E	1.11	0.7	0.35	土師器小片	古墳時代
26号遺構	水路	37		38071- 38073	44984- 44987	長楕円形	N-40°-W	2.71	0.7	0.27	土師器小片多数	古墳時代
27号遺構	水路	37		38072- 38074	44935- 44939	長楕円形	N-73°-W	3.24	0.82	0.35	土師器小片	古代
28号遺構	土坑	37		38056- 38057	44956- 44958	楕円形	N-42°-E	1.14	0.85	0.3	土師器小片	古代
31号遺構	土坑	37		38071- 38072	44973- 44974	楕円形	N-17°-W	0.47	0.26	0.18	土師器小片	古墳時代前期
32号遺構	土坑	37		38088- 38089	44986- 44988	円形	N-28°-E	1.29	1.24	0.61	土師器小片	古墳時代
33号遺構	土坑	37	10	38088- 38089	44988- 44989	楕円形	N-77°-E	0.66	0.48	0.18	土師器小片	古代
34号遺構	土坑	37	10	38098- 38100	44981- 44982	ほぼ円形	N-11°-E	0.68	0.66	0.13	土師器小片	古代
1号溝	小河川	38	11	38096- 38108	44934- 44957	蛇行	N-34°-W N-65°-E	(26.4)	4.5 ~ 7.2	0.56	埴輪、中世陶磁器、ガラス瓶、青磁、近・現代陶磁器、石塔	古代～近代
2号溝	区画溝	39	11	38049- 38115	44935- 44989	蛇行	N-5°-W	(138.2)	2.4 ~ 6.0	0.8 ~ 1.9	土師器、高坏・歯・甕	弥生～ 古墳前期
3号溝	区画溝	40		38080- 38098	44926- 44941	直線	N-29°-W	(23.04)	0.64 ~ 1.04	0.1 ~ 0.4	土師器小片多数	近代
4号溝	区画溝	40		38070- 38098	44932- 44949	直線	N-38°-W	(31.36)	0.6 ~ 1.4	0.5	土師器、近現代陶磁器など	近代
5号溝	区画溝	40	11	38067- 38093	44933- 44946	直線	N-28°-W	(29.6)	0.3 ~ 0.8	0.1 ~ 0.25	土師器・ガラス瓶等 近現代陶磁器	近代
6号溝	区画溝	41	11	38090- 38109	44944- 44959	直線	N-28°-W	(22.2)	(1.12)- (1.68)	0.52	須恵器大甕	近代
7号溝	区画溝	41	11	38086- 38110	44946- 44959	直線	N-23°-W	(26.5)	0.4 ~ 1.12	0.16 ~ 0.4	土師器高坏等	近代
8号溝	区画溝	41		38100- 38102	44956- 44959	直線	N-32°-W	(2.4)	0.4	0.4	陶磁器小片	近代
9号溝	区画溝	41		38089- 38092	44945- 44950	直線	N-33°-W	(8.8)	0.8 ~ 1.4	0.25	土師器片、陶磁器片など小破片	近代
10号溝	水路	41		38084- 38088	44943- 44946	直線	N-35°-E	5.24	0.84 ~ 1.36	0.15	土師器片、陶磁器片など小破片	不明
11号溝	窪地	41		38081- 38085	44941- 44944	不整形	N-27°-W	5.92	0.83 ~ (3.2)	0.12	土師器片、陶磁器片など小破片	不明
12号溝	水路	41		38061- 38062	44956- 44958	直線	N-47°-W	2.62	0.24 ~ 0.4	0.08	土師器小片	古代

第3章 II区検出された遺構と遺物



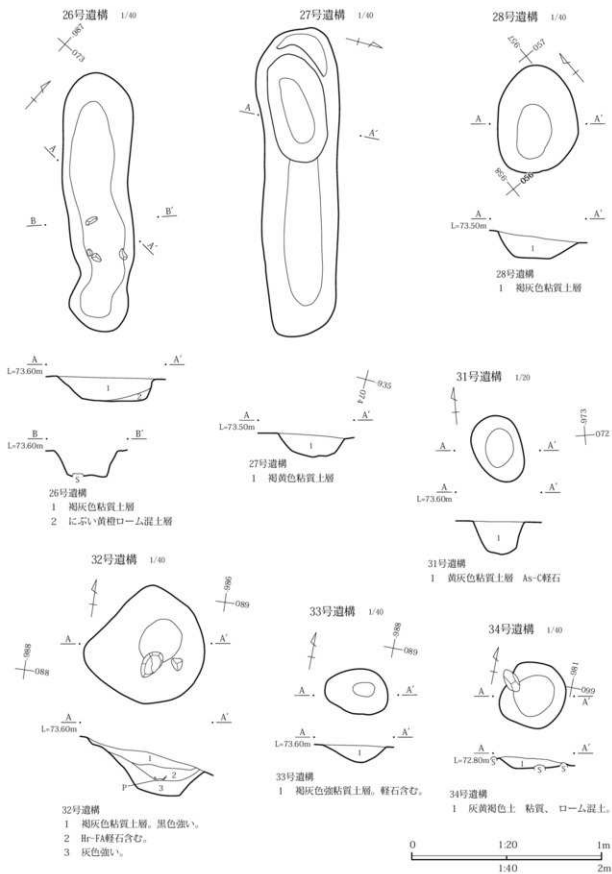
第35図 II区1号・2号土坑、7号～12号遺構

第2節 検出された遺構と遺物

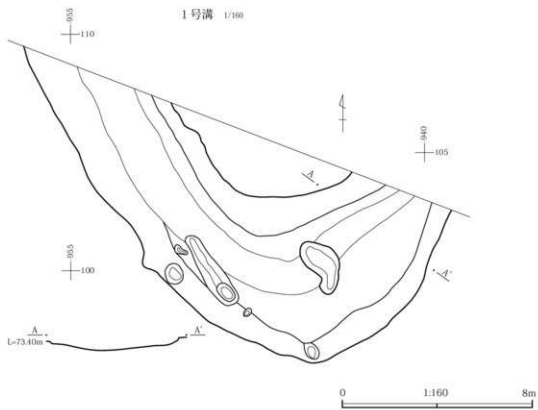


第36図 II区14号・15号・17号～25号遺構

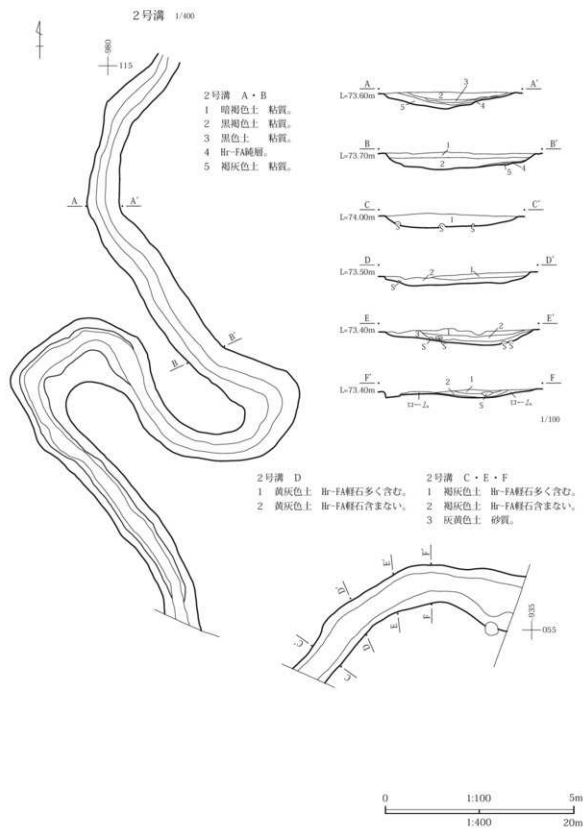
第3章 II区検出された遺構と遺物



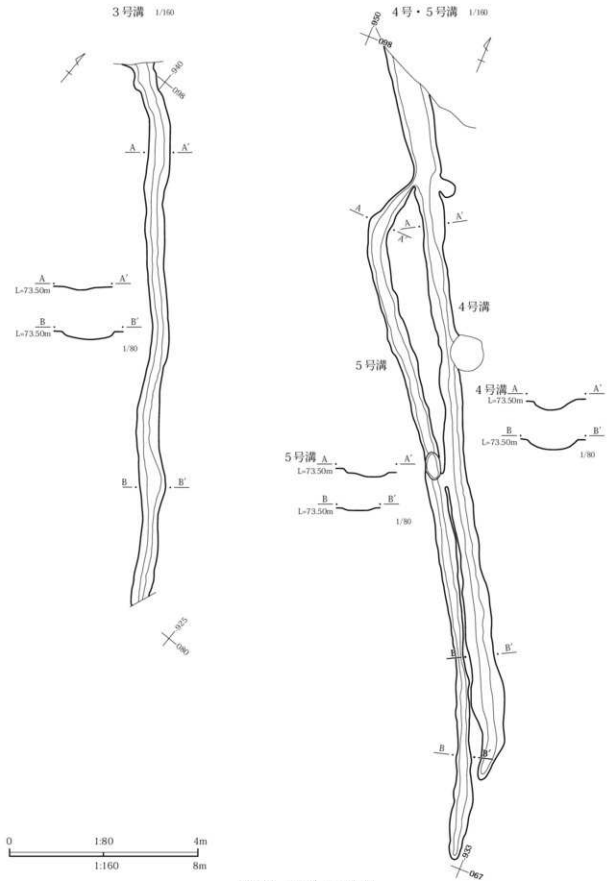
第37図 II区26号～28号・31号～34号遺構



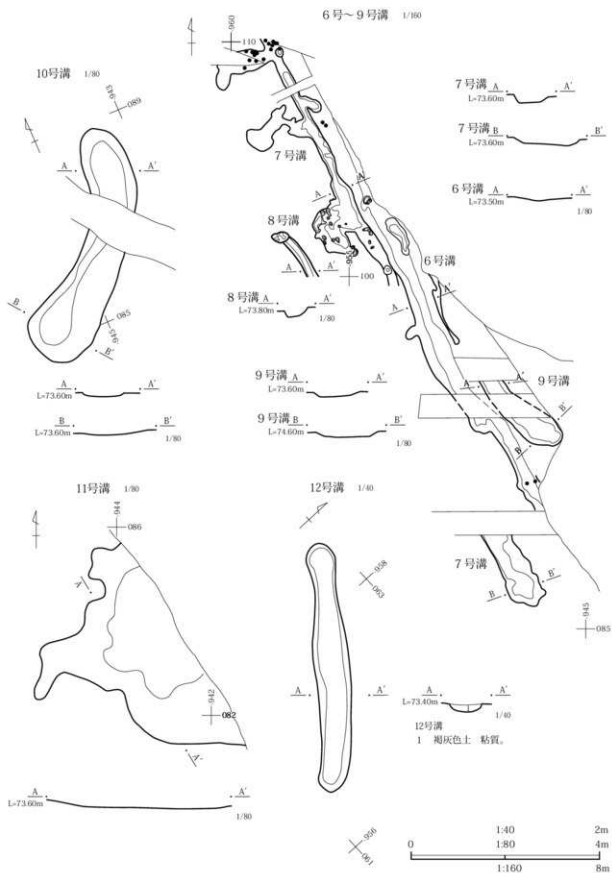
第38図 II区1号溝



第39図 II区2号溝



第40図 II区3号~5号溝



第41図 II区6号～12号溝

表5 II区出土遺物観察表

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	42 61	須恵器 高台付杯	1/2	3号道溝	(18.0) (12.0) 8.5	細砂、細かい 小石。普通。	灰白 10Y8/1	回転口ロ成形成。高台貼り付け。底部蹴切り。やや 摩滅。	
2	42 61	土師器 高环	脚部	3号道溝	— (9.6)	— 細砂。良好。	灰白 7.5Y8/1	脚部外面蹴位の蹴削り。基部との接合部蹴位の撫で。 内面輪積み痕と蹴位の撫で。	
3	42 61	須恵器 高台付杯	体部～ 底部1/2	5号道溝	— (7.6) (4.6)	— 細砂、黒色粒。 普通。	灰白 5Y8/1	回転口ロ成形成。高台貼り付け。底部蹴切り。全体 に摩滅。	
4	42 61	土師器 甕	胴部～ 底部1/3	6号道溝	— (8.0) (9.5)	— 粗砂。φ1mm の小石。不良	— にぶい 橙 10YR7/2	外面撫で整形。	底面 煤付着
5	42 61	形染埴輪	破片	1号溝	— —	— 粗砂、白色粒。 石粒。普通。	— 橙 5Y86/6	盾状の張り出し。横位の刷毛目。斜位の掻き。	
6	42 61	円筒埴輪	基部破片	1号溝	— (31.0) (9.4)	— 粗砂、黄色粒。 普通。	— 明赤褐 5YR5/6	蹴位の刷毛目。	
7	42 61	朝顔形 埴輪	破片	1号溝	— —	— 粗砂、黒色粒 多い。普通。	— 淡橙 5YR8/4	凸帯断面は台形。蹴位の刷毛目。	
8	42 61	円筒埴輪	破片	1号溝	— (7.4)	— 粗砂、細かい 黒色粒子。 普通。	— 淡橙 5YR8/4	凸帯断面は台形が別れ三角に近い。蹴位の刷毛目。	
9	42 61	青磁 (中国製) 甕	破片	1号溝	— 5.4 (2.2)	— 良好。	— 明緑灰 7.5G7/1	高台甕、内面に菊花文。	
10	42 61	ガラス瓶	胴部～ 底部	1号溝	— 2.2 (3.8)	— 良好。	— 薄い透明 の緑	胴部に6本の隆線。ニッキ水の容器。	近代 混入品
11	43 61	土師器 高环	环部	2号溝	— 21.3 — 5.8	— 細砂。φ1mm 以下小石。不良	— 橙 2.5YR7/8	环部下段に稜を持つ。全体に摩滅。	
12	43 61	土師器 高环	脚部	2号溝	— (8.4)	— 粗砂。φ1mm の白色粒。 普通。	— 淡橙 5YR8/4	脚部外面蹴位の蹴削り。内面、环接合部に絞り痕、 脚部下平は、指頭による整形痕。	
13	43 61	土師器 高环	脚部	2号溝	— (5.9)	— 細砂。普通。	— 橙 7.5YR7/6	蹴位の蹴整形。全体に摩滅。	
14	43 61	土師器 壺	底部	2号溝	— (13.3) (5.6)	— 粗砂、細かい 黒色粒。普通。	— 淡赤橙 2.5YR7/4	外面蹴削り整形。底部丸底。	外面 煤付着
15	43 61	土師器 鉢	口縁部～ 底部	2号溝	— 18.7 5.2 6.3	— 細砂。φ1mm の小石。不良。	— にぶい 橙 5YR7/4	胴部から口縁接合部に稜を持ち、口縁部は垂直に立ち 上がる。全体に摩滅。	
16	43 61	土師器 甕	口縁部～ 底部	2号溝	— (9.7) 4.4 11.3	— 粗砂。φ1～ 2mmの小石。 普通。	— にぶい 橙 5Y86/4	口縁部横撫で、胴部左上の刷毛目。底部蹴整形。	
17	43 61	土師器 甕	口縁部～ 底部	2号溝	— 18.7 6.8 28.4	— 粗砂。φ1mm の小石。普通。	— 明赤灰 2.5YR7/2	口縁部横撫での、胴部蹴位の蹴削り。	胴部中央 煤付着
18	43 62	土師器 壺	口縁部	2号溝	— 20.2 — 7.9	— 粗砂。φ1～ 2mmの小石。 不良。	— 橙 7.5YR7/6	口縁部に段を持つ複合口縁。表面は磨落している。	
19	43 61	土師器 甕	口縁部	2号溝	— (14.0) (5.6)	— 粗砂。φ1mm の白色粒。 普通。	— 赤灰 2.5YR5/1	口縁折り返し。内外面横方向の撫で整形か、摩滅多い。	
20	43 61	S字口縁 台付甕	口縁部～ 胴部	2号溝	— (18.0) (5.0)	— 粗砂。φ1mm 以下の軽石 粒。不良。	— 明緑灰 5YR7/2	胴部右上の刷毛目。全体に摩滅。	

第3章 II区検出された遺構と遺物

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
21	43 62	S字口縁 台付甕	胴部下平 ～台部	2号溝	— (2.6)	粗砂、黒色粒 多い。普通。	橙 5YR6/6	縦位の刷毛目。	
22	43 62	須恵器 甕	口縁破片	6号溝	(17.0) — (5.2)	細砂、極小の 白色粒。良好。	濁灰 10YR4/1	回転口縁口成形。	
23	44 62	壺	頸部～ 底部	遺構外	(7.6) 7.8 32.4	粗砂、φ1mm 以下の小石多 い。不良。	にぶい橙 5YR7/4	頸部に沈線が横位に廻り横帯を持つ。胴部には、横 位の縄文。R.L。	弥生中期
24	44 62	土師器 碗	口縁部～ 底部1/2	遺構外	(10.6) (3.2) 5.0	細砂、細かい 黒色粒。普通。	淡橙 5YR8/4	外面撫で整形。底部蹴整形。	
25	44 62	土師器 小形壺	口縁部～ 胴部1/2	遺構外	10.4 — (5.4)	細砂。良好。	にぶい黄橙 10YR7/3	頸部に屈曲を持つ。外面撫で整形。	
26	44 62	土師器 高环	脚部	遺構外	— (8.2)	細砂。普通。	にぶい橙 5YR7/4	外面撫で整形。内面に輪積み痕。	
27	44 62	土師器 小形壺	口縁部～ 胴部1/4	遺構外	(9.0) — (5.3)	細砂。良好。	浅黄 2.5Y7/3	頸部に屈曲を持つ。外面撫で整形。	
28	44 62	土師器 高环	脚部	遺構外	— (8.7)	細砂。良好。	明赤褐 5YR5/6	外面撫で整形。内面輪積み痕。	
29	44 62	土師器 高环	脚部	遺構外	— (8.0)	粗砂。良好。	にぶい橙 5YR7/3	外面撫で整形。内面輪積み痕。	
30	44 62	土師器 高环	环部	遺構外	27.0 — (5.1)	粗砂、φ1mm の小石多い。 不良。	浅黄橙 10YR8/4	全体に摩滅が多く整形不明。	
31	44 62	土師器 壺 (用)	口縁部 一部欠損	遺構外	9.9 — (18.0)	粗砂、φ1mm の小石。普通。	浅黄橙 10YR8/4	外面撫で整形。全体に摩滅。	底部に 黒斑
32	44 62	土師器 器台	1/2	遺構外	8.1 (11.8) 8.5	粗砂。普通。	にぶい橙 5YR6/4	脚部φ8mmの孔。脚部下端蹴整形痕。	
33	44 62	土師器 高环	脚部	遺構外	(12.6) (8.3)	粗砂、φ1mm の小石。良好。	淡橙 5YR8/3	脚部外面に刷毛目整形。φ11mmほどの孔を3単位持 つ。	
34	44 62	土師器 器台	脚部	遺構外	— (4.8)	粗砂。普通。	にぶい橙 5YR7/4	外面縦位の蹴撫で整形。φ10mmの孔。	
35	44 62	土師器 小形壺	完形	遺構外	8.4 2.6 4.4	細砂、φ1～ 2mmの小石。 普通。	灰白 7.5YR8/2	外面蹴撫で整形。	
36	44 62	土師器 壺 (用)	口縁部～ 肩部・ 底部	遺構外	— 5.4 (7.8-3.8)	粗砂、φ1mm の黒色粒。 普通。	橙 2.5YR6/6	外面撫で整形。胴部中程欠損。	底面 煤付着
37	45 62	土師器 甕	口縁部	遺構外	(13.0) — (3.6)	粗砂、φ1mm の黒色粒。 普通。	にぶい橙 7.5YR7/4	外面蹴による撫で整形。	
38	45 62	土師器 甕	胴部～ 底部	遺構外	(5.4) (8.8)	粗砂、白色・ 黒色粒。普通。	にぶい橙 7.5YR7/4	外面撫で整形。内面に輪積み痕。	
39	45 63	土師器 鉢	口縁部 1/3	遺構外	(26.0) — (11.2)	粗砂、細かい 白色・黒色粒。 普通。	灰白 5YR8/2	外面撫で整形。	
40	45 63	土師器 甕	底部	遺構外	— 4.1 (2.9)	粗砂、φ1mm の小石多い。 良好。	浅黄橙 10YR8/3	内面蹴による整形痕。	

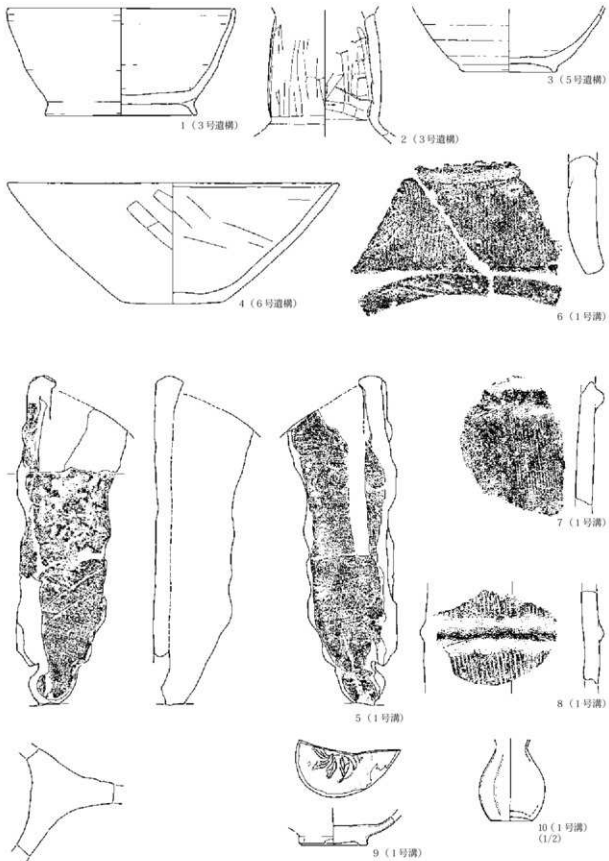
第2節 検出された遺構と遺物

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
41	45 63	土師器 甕	底部	遺構外	— 9.8 (3.6)	粗砂、白色・ 黒色粒、良好。	淡黄 2.5Y8/4	内・外面刷毛目整形。	
42	45 63	土師器 甕	底部	遺構外	— (5.4) (4.3)	粗砂、細かい 黒色粒、良好。	灰赤 2.5YR5/2	外面撫で整形。	
43	45 63	土師器 台付甕	台部	遺構外	— 10.0 (5.9)	細砂、良好。	灰白 7.5YR8/2	内面横位に刷毛目、外面に指頭痕。	
44	45 63	土師器 甕	口縁部～ 胴部	遺構外	(17.6) — (5.9)	粗砂、 $\phi 1\text{mm}$ の白色粒、小 石、普通。	灰白 5Y8/2	頸部に右上刷毛目痕。胴部撫で整形。	
45	45 63	土師器 甕	口縁部～ 胴部	遺構外	(19.5) — (10.6)	粗砂、 $\phi 1\text{mm}$ の小石、普通。	淡黄橙 10YR7/2	頸部右上の刷毛目、胴部左右交互に刷毛目整形。口縁部内面にも横位の刷毛目、胴部内面に指頭痕。	頸部 煤付着
46	45 63	S字口縁 台付甕	口縁部～ 胴部	遺構外	(19.0) — (4.5)	粗砂、良好。	にぶい、橙 5YR6/3	胴部に横位の刷毛目が廻る。右上の刷毛目整形。内面に指頭痕による整形痕。	口縁部 煤付着
47	45 63	S字口縁 台付甕	口縁部～ 胴部	遺構外	(20.0) — (4.6)	粗砂、 $\phi 1\text{mm}$ の黒色粒。 良好。	淡赤褐 5YR6/4	胴部に横位の刷毛目。右上の刷毛目整形。	
48	45 63	S字口縁 台付甕	口縁部～ 胴部	遺構外	(17.0) — (5.0)	細砂、良好。	淡黄橙 10YR8/3	胴部に右上刷毛目整形。内面縦位の整形痕。	
49	45 63	S字口縁 台付甕	口縁部～ 胴部	遺構外	(18.0) — (6.7)	細砂、 $\phi 1\text{mm}$ の黒色粒。 良好。	にぶい、褐 7.5YR6/3	胴部右上の刷毛目整形。	
50	45 63	S字口縁 台付甕	口縁部～ 胴部	遺構外	(16.0) — (4.6)	細砂、良好。	灰白 10YR8/2	胴部右上刷毛目整形。	
51	45 63	S字口縁 台付甕	台部	遺構外	— (9.8) (7.0)	細砂、良好。	灰白 10YR8/2	台部内面端部折り返し。内面に指頭による整形痕。	
52	46 63	土師器 壺	ほぼ完形	遺構外	14.6 8.2 26.0	粗砂、 $\phi 1\text{mm}$ の小石、不良。	橙 5YR7/8	折り返し口縁。口縁部縦位の撫で整形。胴部整形摩滅のため不明。	胴部中程 煤付着
53	46 63	土師器 甕	口縁部～ 胴部	遺構外	(12.0) — (7.9)	細砂、良好。	にぶい、橙 7.5YR7/4	外面横方向の刮削り。内面撫で痕。	
54	46 63	土師器 壺	口縁部～ 頸部	遺構外	15.8 — 7.0	細砂、良好。	淡橙 5YR8/4	外面撫で整形。	
55	46 63	土師器 壺	口縁部～ 頸部	遺構外	(16.2) — (8.1)	細砂、良好。	にぶい、橙 7.5YR7/4	複合口縁。外面撫で整形。	
56	46 63	土師器 甕	頸部～ 胴部	遺構外	— (5.7)	細砂、細かい 黒色粒、良好。	淡橙 5YR8/4	外面撫で整形。	
57	46 64	土師器 甕	口縁部～ 頸部	遺構外	(16.0) — (6.6)	粗砂、 $\phi 1\text{mm}$ の小石、白色 粒、良好。	にぶい、橙 5YR7/3	口唇部直下に沈線が廻る。口縁部縦位の撫で整形。	
58	46 64	土師器 壺	口縁部～ 胴部	遺構外	(15.0) — (24.7)	粗砂、 $\phi 1\text{mm}$ の小石、良好。	橙 5YR7/8	口縁部に稜を持つ複合口縁。外面撫で整形。内面に指頭痕。全体に摩滅している。	
59	46 64	土師器 壺	胴部～ 底部	遺構外	— 7.6 (15.5)	粗砂、 $\phi 1\text{mm}$ の小石、不良。	橙 5YR7/8	外面撫で整形。内面に指頭痕。全体に摩滅。	
60	46 64	土師器 甕	胴部～ 底部	遺構外	(10.0) — (5.5)	細砂、細かい 黒色粒、良好。	灰白 10YR8/2	外面撫で整形。	

第3章 II区検出された遺構と遺物

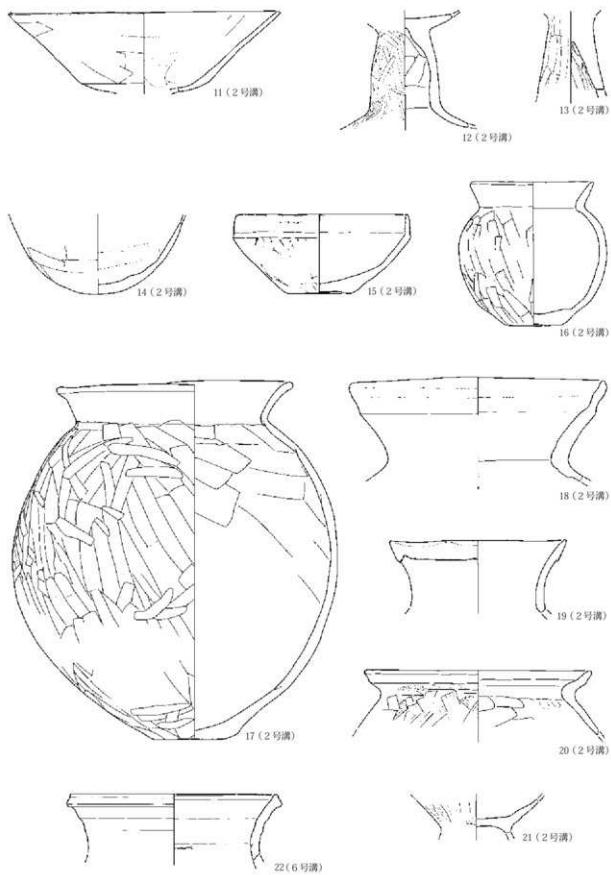
遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
61	47 64	土師器 環	ほぼ完形	遺構外	12.7 — 3.0	細砂、良好。	橙 5YR7/6	内面横位の撫で、指頭痕が残る。外面底部幾何形。立ち上がり部撫で整形。底部丸底。	
62	47 64	須恵器 環	体部～ 底部	遺構外	7.6 (2.1)	細砂、良好。	灰白 7.5Y8/1	回転口ケロ成形。底部右回転糸切り。	
63	47 64	黄面火鉢	側面 飾り部	遺構外	— —	細砂、良好。	黒褐 2.5Y3/1	把手獅子頭。	近代
64	47 64	陶磁器碗	底部	遺構外	(5.0) (2.4)	細砂、良好。		軸掛け	近代
65	47 64	陶磁器碗	破片	遺構外	— —	細砂、良好。		染付け	近代
66	47 64	ガラス 製品	完形	遺構外	縦(2.2)cm、幅2.2cm、厚み0.9cm			梅花形	近代
67	47 64	ガラス瓶	口縁部 欠損	遺構外	口径(1.3)cm、幅3.0cm、 高さ(5.3)cm			ハッカを入れる容器。	
遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	法量			成・整形の特徴	備考
68	47 64	砥石	完形	1号溝	①8.3cm、②3.7cm、③3.5cm、 ④110.5g			砥沢石	
69	47 64	砥石	破片	遺構外	①(4.9)cm、②(2.8)cm、③1.8cm、 ④35.5g			砥沢石	
70	48 64	板碑	破片	1号溝	①(26.6)cm、②15.3cm、③2.6cm			種子「キリーク」	
71	48 64	板碑	破片	1号溝	①(25.4)cm、②(14.2)cm、③2.5cm			種子「キリーク」	
72	48 64	板碑	破片	遺構外	①(15.7)cm、②(17.7)cm、③1.5cm			種子「キリーク」	
73	48 64	板碑	破片	1号溝	①(14.5)cm、②20.3cm、③1.7cm				
74	48 64	板碑	破片	1号溝	①(26.6)cm、②21.9cm、③6.5cm				
75	49 65	五輪塔	完形	1号溝	①28.7cm、②17.7cm、③12.5cm、 ④7.95kg			空風輪	
76	49 65	五輪塔	一部欠損	遺構外	①24.1cm、②13.3cm、③13.2cm、 ④6.0kg			空風輪	
77	49 65	首陀印塔	ほぼ完形	1号溝	笠基部(39.0)cm、②(37.5)cm、 ③(19.1)cm、④29.5kg			扉蓋部、隅飾り一部欠損。	
78	50 65	五輪塔	完形	1号溝	①30.7cm、②31.2cm、③24.6cm、 ④45.0kg			地輪	
79	50 65	五輪塔	完形	1号溝	①23.5cm、②23.2cm、③18.5cm、 ④20.5kg			地輪	
80	51 66	五輪塔	完形	1号溝	①23.1cm、②22.9cm、③17.8cm、 ④18.5kg			地輪	

第2節 検出された道構と遺物



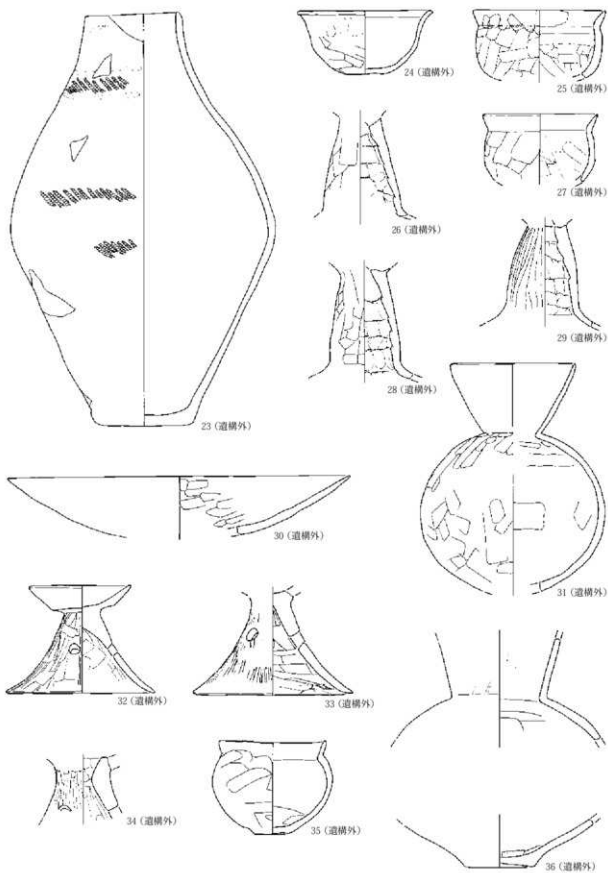
第42図 II区出土遺物(1)

第3章 II区検出された遺構と遺物



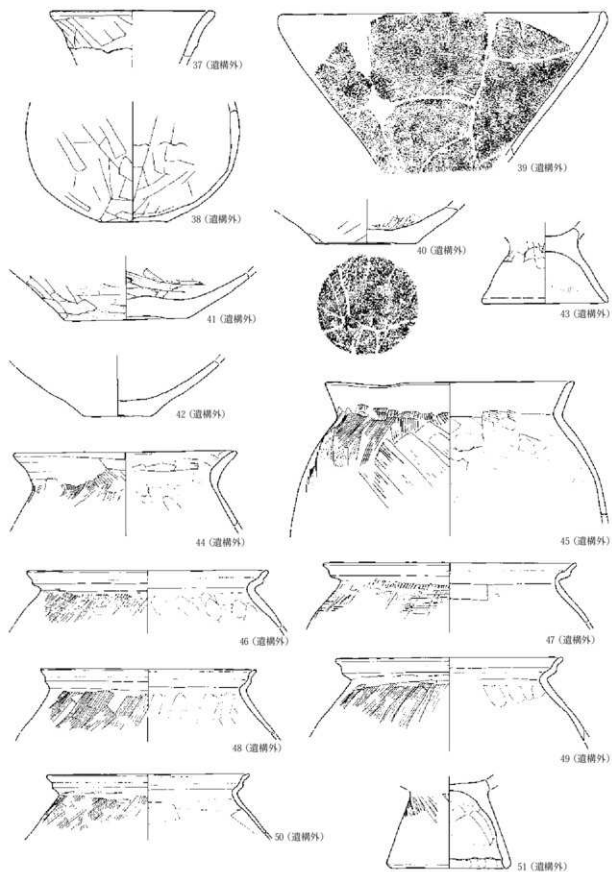
第43図 II区出土遺物(2)

第2節 検出された遺構と遺物



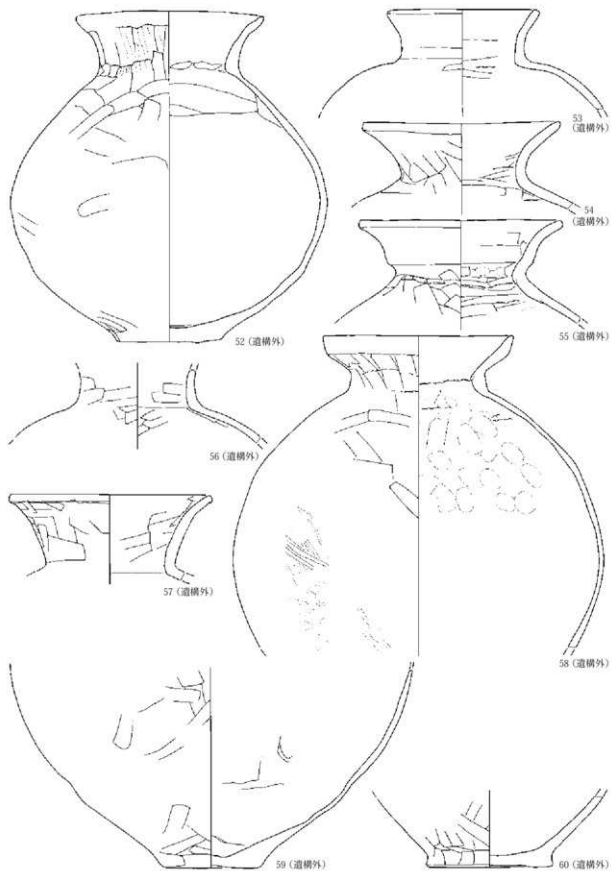
第44図 II区出土遺物(3)

第3章 II区検出された遺構と遺物



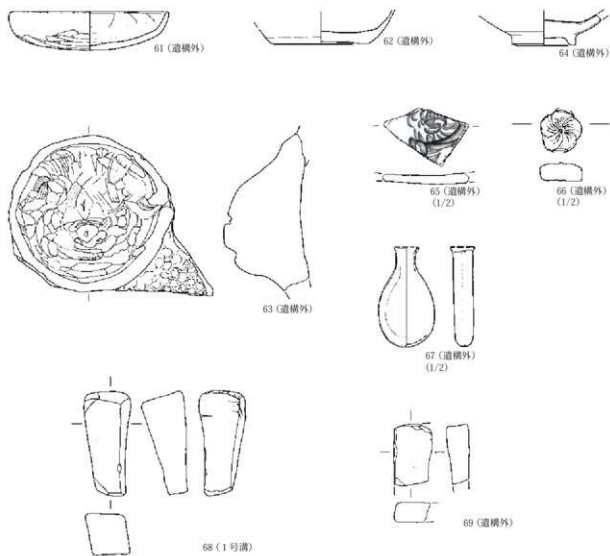
第45図 II区出土遺物(4)

第2節 検出された遺構と遺物

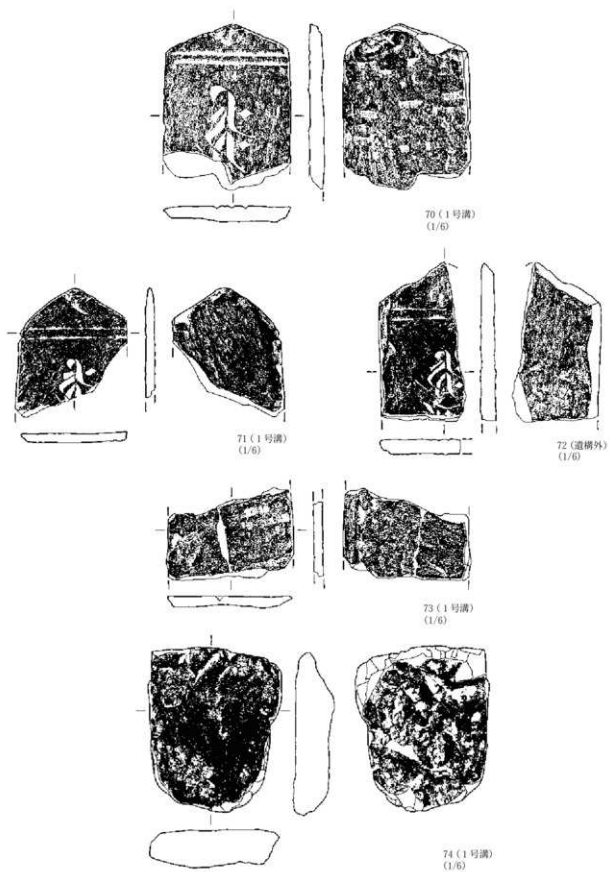


第46図 II区出土遺物(5)

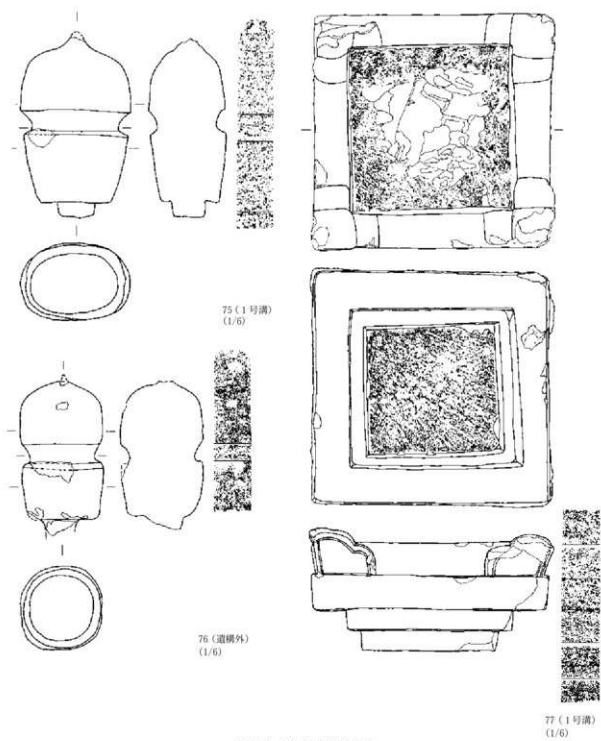
第3章 II区検出された遺構と遺物



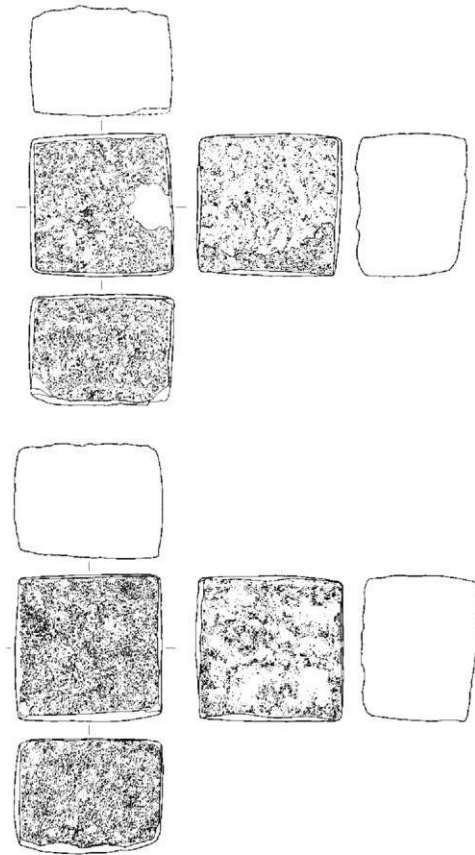
第47図 II区出土遺物(6)



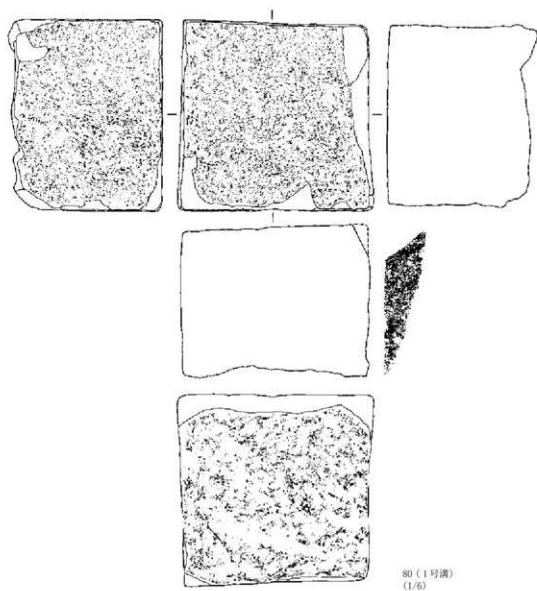
第48図 II区出土遺物(7)



第49図 II区出土遺物(8)



第50図 II区出土遺物(9)



第51図 II区出土遺物 (10)

第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物

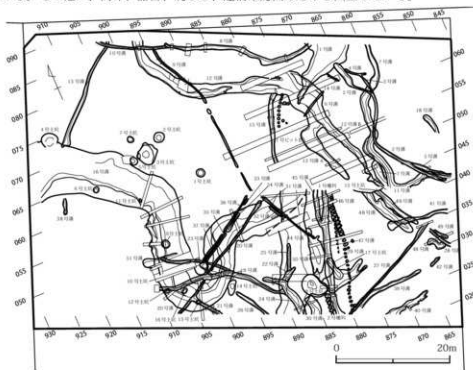
第1節 調査の概要

Ⅲ区は、現地表標高が73m程で、調査区の北西から南東に緩やかに傾斜している。本地区もⅡ区同様に平成13年度・14年度に調査を行った。用地の関係から南北に二分割し平成13年度・14年度に北側部分、14年度に南側部分の調査を行った。主な遺構は、古墳時代では、土坑10基、水路29条、柵列2箇所、地割り区画の溝2条。古代では、土坑2基、水路3条、区画溝14条、古代～近代の小河川1条となっている。

本調査区は、古墳時代において、北西から南東へ傾斜しており、その傾斜に沿って、調査区を北西から南東方向に蛇行する小河川（16号溝）が横断している。この小河川はⅡ区から続いているが、調査区の東側で12号溝に切られるようなかたちで消滅している。小河川は、As-C軽石を含む堆積土に埋もれており、古墳時代前期の土器が出土していることから、この時期以後に埋没したものと考えられる。古墳時代の遺構は、調査区を横断する小河川埋没以降のものが大半である。水路は、北西方向から南東方向へ蛇行している。15号溝、44号溝等が、調査区を分断するように南下している。柵列は、これらの溝に沿うように検出されている。溝と柵列に区画された東側に何らかの施設があったと思われるが、北西から流れる小河川（12号溝）により壊されているため詳細を把握できなかった。12号溝は、Hr-FA軽石に覆われていることから、これ以前のものである。その他、調査区内に散発的に貯蔵穴と思われる土坑などが検出されているが、規則性のないものとなっている。

古代の遺構は、調査区の中央南側に溝によって方形に区画が検出されている。この区画は、主軸を約50°程東へ傾けている。傾斜にあわせるように区画があることから、耕作地の区画と考えられる。区画の西側には、32号溝と35号～37号溝の間隔が1.8mで並行しており、耕作地間の道路区画と考えられる。これらの区画溝は、As-B軽石混じりの土が入り込んでいる。

検出された遺物は、古墳時代前期の土器を主としている。16号溝とした小河川から古墳時代前半期の土器が多く出土している。その他に、高環、器台、碗など、遺構確認面などから出土している。



第52図 Ⅲ区全体図

第2節 検出された遺構と遺物

1号土坑 (53図・PL13)

調査区中央西寄りにある。ほぼ円形を呈する。底面は比較的平坦である。長軸1.62m、短軸1.38m、深さ0.54m。主軸N-63°-W。遺物は検出されなかった。

2号土坑 (53図・PL13)

調査区中央西寄りにある。ほぼ円形を呈する。掘り込みは浅く、断面皿状になる。長軸1.98m、短軸1.84m、深さ0.18m。主軸N-55°-W。遺物は検出されなかった。覆土中にHr-FA軽石が混じることから古墳時代のものと思われる。

3号土坑 (53図・PL13)

調査区中央西より、5号土坑に接している。形状は、不整形で、底面に段を持ち平坦ではない。性格不明の遺構である。長軸4.18m、短軸3.60m、深さ0.57m。主軸N-11°-W。遺物は検出されなかった。覆土中にHr-FA軽石が混じることから古墳時代のものと思われる。

4号土坑 (53図・PL13)

調査区中央西際にある。形状は、円形を呈する。底面は比較的平坦であるが床面近くからは、礫が多量に出土している。南側は、流路により削られている。φ2.9m、深さ0.64m。覆土中にHr-FA軽石が混じる。古墳時代土師器出土。

5号土坑 (53図・PL14)

調査区中央西より、3号土坑に接している。形状は、楕円形で、底面に段を持ち平坦ではない。長軸1.5m、短軸1.26m、深さ0.37m。主軸N-43°-W。遺物は検出されなかった。As-C軽石混入することから古墳時代前半のものと思われる。

6号土坑 (53図・PL14)

調査区西側端にある。形状は、ほぼ円形を呈する。底面は、北側に若干傾斜する。長軸1.08m、短軸1.0m、深さ0.2m。主軸N-44°-W。遺物は検出されなかった。

7号土坑 (53図・PL14)

調査区西側端にある。形状は、楕円形を呈する。周辺に地山の礫がみられるが、本遺構部分で礫が途切れる。底面は、ほぼ平坦である。長軸1.2m、短軸1.06m、深さ0.4m。主軸N-40°-W。遺物は検出されなかった。

8号土坑 (53図・PL14)

調査区中央南側にある。形状は、不整形である。床面近くには、礫が見られ平坦ではなく、凹凸がある。覆土下層にはHr-FA軽石層があることから古墳時代のものであるが、覆土上層には、As-B軽石純層が見られることから、As-B軽石降下時にも、窪地になっていた。長軸4.8m、短軸3.5m、深さ0.9m。主軸N-45°-W。礫以外には、遺物は検出されなかった。

9号土坑 (55図・PL14・15)

調査区南西部にある。形状は、隅丸長方形を呈する。掘り込みは、垂直に近く底面は平坦である。長軸1.4m、短軸1.2m、深さ0.69m。主軸N-23°-W。遺物は検出されなかった。

10号土坑 (55図・PL15)

調査区南西部にある。22号溝に接している。形状は、不整形を呈する。掘り込みは浅く、なだらかに窪む。長軸1.5m、短軸1.2m、深さ0.08m。主軸N-25°-W。遺物は検出されなかった。

11号土坑 (55図)

調査区西側にある。遺跡を東西に蛇行する河道跡の南側に接する。形状は、円形を呈する。長軸0.58m、短軸0.54m、深さ0.25m。主軸N-60°-E。底面は比較的平坦である。遺物は検出されなかった。

12号土坑 (55図)

調査区西南にある。19号溝と重複している。本遺構が古い。形状は楕円形を呈する。長軸0.93m、短軸0.65m、深さ0.42m。主軸N-69°-W。遺物は検出されなかった。

13号土坑 (55図)

調査区南西側にある。21号溝に重複している。本遺構が古い。覆土上層にHr-FA軽石混じり層があることから古墳時代と思われる。形状は円形を呈する。底面は急角度に掘り込まれている。φ0.7m、深さ0.6m。遺物は検出されなかった。

14号土坑 (55図・PL15)

調査区南西側河道跡に接してある。形状は、長楕円形を呈する。底面は平坦ではなく凹凸が見られる。覆土上層にHr-FA軽石混じり層があることから古墳時代と思われる。長軸2.7m、短軸1.43m、深さ0.62m。主軸N-39°-E。出土遺物は少量の土師器と礫が出土している。

15号土坑 (55図)

調査区中央東寄りにある。49号溝に接する。形状は、細長く溝状になる。49号溝と7号溝の重複部にあることから、溝の落ち込みと考えられる。長軸5.0m、短軸0.78m、深さ0.44m。主軸N-24°-E。調査時に土坑としていることからそのままの遺構名にした。遺物は検出されなかった。

16号土坑 (56図・PL15)

調査区西南にあり、河道跡内にある。地山は礫層である。形状は、ほぼ円形になる。掘り込みの角度はきつく底面は平坦である。長軸0.96m、短軸0.76m、深さ0.26m。主軸N-44°-E。遺物は検出されなかった。

17号土坑 (56図)

調査区南東29号溝に接している。形状は円形を呈する。掘り込みは緩やかな角度で底面は湾曲する。φ0.4m、深さ0.19m。土師器の小破片が多く出土している。

1号ビット群 (56図・PL16)

調査区中央北側に位置する。φ30～40cm、深さ10～20cm程のビット列が南北に並び、それに直行するようにもビットが作られている。覆土中にHr-FA軽石を含むことから古墳時代のものと思われる。地割り区画の杭列或いは、木の根痕と思われる。

1号柵列 (57図・PL16)

調査地中央南寄りにある。南北にφ40～50cm、深さ20～30cmの穴が並ぶ。調査時の所見では、柵列になっている。1号ビット群に比べ大きさや深さがひとまわり大きく密接している。覆土中にHr-FA軽石を含むことから古墳時代のものと思われる。地割り区画のための杭列と思われる。

1号溝 (58図・PL16・PL18)

調査区中程北端にある。形状は不整形である。調査地に南から北に広がる谷地状にある。覆土下層にHr-FA軽石混じり層があり、上層にはAs-B軽石層などがある。遺構からは、近世の陶磁器が出土していることから、比較的古くから谷地状の落ち込みがあり、近世に続いたものと考えられる。

2号～5号溝 (58図・PL18)

調査区の北東寄りにある。2号溝に3号～5号溝が重複している。覆土中にAs-B軽石を含むことから古代の

第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物

溝と考えられる。

6号溝 (58図・PL18)

調査区中央北側にある。12号溝と重複している。12号溝より新しい。

7・11号溝 (59図・PL19)

調査区北東部にある。北から南東に向けて蛇行する流路である。覆土中にAs-B軽石を含むが、2号溝等と重複し本溝が古い。南東部で11号溝と枝分かれする。

8号溝 (60図・PL19)

調査区北側にある。西から東へ1号溝に向かう流路と考えられる。10号溝と接しているが本溝が新しい。覆土上層にAs-B軽石を含むことから古代の溝と考えられる。

9号溝 (60図・PL20)

調査区の北西方向から南東に作られる。地割り区画の溝。古代。

10号溝 (60図・PL20)

調査区北側にある。東西方向の流路と考えられる。8号溝と接しているが本溝が古い。覆土下層にHr-FA軽石層があることから古墳時代のもと考えられる。

12号溝 (61図・PL20)

調査区の北東から南西方向に蛇行して向かう流路と考えられる。6号、9号溝等と重複しているが本溝が古い。覆土下層にHr-FA軽石を含む層があることから古墳時代のものである。

13号溝 (62図・PL20)

調査区北西隅にある。南北方向に向かう溝で、南側で16号溝により分断されている。覆土中にHr-FA軽石を含むことから古墳時代のものである。

14号溝 (62図・PL20)

調査区北東側にある。1号溝に接している。深さ20cmと比較的深く、断面U字形になる。2号溝の先端部分が途切れたものと考えられる。

15号溝 (61図)

12号溝に接して南北方向に作られている。

16号溝 (62図・PL20・21)

調査区南西にある。東西方向に蛇行する流路である。出土遺物は、古墳時代前半期の土師器が多く出土している。複数の溝が重複しているが本溝が古い。覆土中にAs-C軽石を含むことから古墳時代前半期のものである。上層にHr-FA軽石層を含むことから、古墳時代後半に継続していた。

18号溝 (63図)

調査区の北東にある。性格不明の溝である。

19号溝 (63図・PL21)

調査区南西部に東西方向に弧を描くように作られている。溝の掘り込みは浅い。23号、24号溝と重複している。遺物は検出されなかった。覆土下層にHr-FA軽石、上層にAs-B軽石を含む。古墳時代の流路。

20号溝 (63図・PL21)

調査区北西部に南北方向に作られる。33号～37号溝と平行する。溝の掘り込みは浅い。21号溝が直行する。

21号溝 (63図・PL21)

20号溝に直行して作られる。溝の掘り込みは浅く、20号溝と共に地割り区画のための溝と考えられる。

22号溝 (63図・PL21)

調査区中央南側にある。24号、25号溝と接する。溝底面は、平坦ではなく凹凸が見られる。形状も不整形である。水の浸食によるものと考えられる。覆土にAs-軽石を含むことから古代の溝である。

23号溝 (64図・PL22)

調査区の南西部に東西方向にある。19号溝と合流する。溝の掘り込みは浅く、緩やかな傾斜で作られている。水の浸食によるものと考えられる。

24号溝 (64図)

調査区中央南側に弧を描くように作られている。22号、25号溝と接する。溝底面は、平坦ではなく凹凸が見られる。形状も不整形である。水の浸食によるものと考えられる。

25号溝 (64図)

調査区中央南側にある。22号、24号溝と接する。溝底面は、平坦ではなく凹凸が見られる。形状も不整形である。水の浸食によるものと考えられる。

26号溝 (64図)

調査区中央南側にあり21号溝に平行するように作られている。溝底面は比較的平坦である。掘り込みは浅く傾斜が緩やかである。地割り区画のための溝と考えられる。

27号溝 (64図)

調査区南東にある。20号溝と平行する。溝底面は比較的平坦である。掘り込みは浅く傾斜が緩やかである。20号溝と対になる地割り区画のための溝と考えられる。

28号溝 (65図)

調査区東側にある。27号溝の北端と直行する。掘り込みは浅く傾斜が緩やかである。地割り区画のための溝と考えられる。

29号溝 (65図・PL22)

調査区中央南端にある。形状は長楕円形の不整形。掘り込みが浅く傾斜が緩やかである。形状から水の浸食によるものと考えられる。

30号溝 (65図)

調査区中央南端にある。形状は長楕円形の不整形。掘り込みが浅く傾斜が緩やかである。形状から水の浸食によるものと考えられる。

31号溝 (65図)

調査区のはほぼ中央にある。20号溝の北端と直行する。掘り込みは浅く傾斜が緩やかである。地割り区画のための溝と考えられる。

32号溝 (65図)

調査区のはほぼ中央にある。20号溝の北端と直行し、31号溝と平行する。掘り込みは浅く傾斜が緩やかである。地割り区画のための溝と考えられる。

33号溝 (65図)

調査区南西寄りにある。20号溝と平行して作られる。掘り込みは浅く、傾斜が緩やかである。地割り区画のための溝と考えられる。20号溝との間隔が1.8m程あることからこの間が道路だった可能性がある。

34号溝 (65図)

調査区南西寄りにある。20号溝と平行して作られる。掘り込みは浅く、傾斜が緩やかである。地割り区画の

第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物

ための溝と考えられる。20号溝との間隔が1.8m程あることからこの間が道路だった可能性がある。

35号溝 (65図)

調査区南西寄りにある。20号溝と平行して作られる。掘り込みは浅く、傾斜が緩やかである。地割り区画のための溝と考えられる。20号溝との間隔が1.8m程あることからこの間が道路だった可能性がある。

36号溝 (65図)

調査区南西寄りにある。20号溝と平行して作られる。掘り込みは浅く、傾斜が緩やかである。地割り区画のための溝と考えられる。20号溝との間隔が1.8m程あることからこの間が道路だった可能性がある。

37号溝 (65図)

調査区南西寄りにある。20号溝と平行して作られる。掘り込みは浅く、傾斜が緩やかである。地割り区画のための溝と考えられる。20号溝との間隔が1.8m程あることからこの間が道路だった可能性がある。

38号溝 (65図)

調査区西側にある。形状は、不整形で、掘り込みは浅く傾斜は緩やかである。水の浸食によるものと思われる。

39号溝 (66図・PL22)

調査区南東にある。若干蛇行しながら北東へ向かう。掘り込みは浅く傾斜は緩やかである。水の浸食によるものと考えられる。

40号溝 (66図・PL22)

調査区南東にある。若干蛇行しながら北東へ向かう。掘り込みは浅く傾斜は緩やかである。水の浸食によるものと考えられる。

41号溝 (66図)

調査区中央東寄りにある。若干蛇行しながら東へ向かう。48号、49号溝と重複しているが本遺構が新しい。掘り込みは浅く傾斜は緩やかである。水の浸食によるものと考えられる。

42号溝 (66図)

調査区の南東にある。形状は不整形である。39号溝の延長上にあり、一連のものと考えられる。

44号～47号・50号溝 (67図・PL23・24)

調査区南西にある。蛇行しながら南・東へ向かう。44号～47号・50号溝が複雑に重複している。底面は凹凸が多い。掘り込みは深く流路と考えられる。覆土中にHr-FA軽石を含むことから古墳時代のものである。

48号・49号溝 (69図・PL24)

調査区東寄りにある。二つの溝が重なり合うように南東方向へ向かう。底面は凹凸が多い。掘り込みは比較的しっかりしている。12号溝から続く流路と考えられる。覆土中にHr-FA軽石を含むことから古墳時代のものである。

51号溝 (69図・PL24)

調査区の南西よりにある。上面は削平され掘り込みは浅く、底面は平坦である。本遺構は、16号溝に接するように作られていることから、16号溝へ流れ込む水路の一部と考えられる。古墳時代の土師器小片が出土したが図示できる物ではなかった。

表6 Ⅲ区遺構一覧表

遺構名	遺構種類	図	PL	検出位置 X	検出位置 Y	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期・備考
1号土坑	土坑	53	13	38058- 38060	44894- 44896	円形	N-63° -W	1.62	1.38	0.54	土師器小片	古墳時代
2号土坑	土坑	53	13	38066- 38068	44888- 44900	ほぼ円形	N-55° -W	1.98	1.84	0.18	土師器小片	古墳時代
3号土坑	土坑	53	13	38063- 38068	44900- 44903	不整形	N-11° -W	4.18	3.6	0.57	土師器小片	古墳時代
4号土坑	土坑	54	13	38073- 38076	44915- 44918	円形	N-19° -E	2.9	2.9	0.64	土師器壺	古墳時代
5号土坑	土坑	53	14	38064- 38066	44904- 44906	ほぼ円形	N-43° -W	1.5	1.26	0.37	土師器小片	古墳時代
6号土坑	土坑	54	14	38062- 38064	44912- 44914	ほぼ円形	N-44° -W	1.08	1.0	0.2	土師器小片	古墳時代
7号土坑	土坑	54	14	38068- 38070	44903- 44904	楕円形	N-40° -W	1.2	1.06	0.4	土師器小片	古代
8号土坑	土坑	54	14	38030- 38035	44882- 44886	不整形	N-45° -W	4.8	3.5	0.9	土師器小片	古代
9号土坑	貯蔵穴	55	14 15	38048- 38050	44904- 44906	隅丸長方形	N-23° -W	1.4	1.2	0.69	土師器小片	古代
10号土坑	不明	55	15	38042- 38043	44900- 44902	不整形	N-25° -W	1.5	1.8	0.08	土師器小片	古代
11号土坑	不明	55		38057- 38058	44905- 44906	円形	N-60° -E	0.58	0.54	0.25	土師器小片	古代
12号土坑	土坑	55		38041- 38042	44908- 44909	楕円形	N-69° -W	0.93	0.65	0.42	土師器小片	古墳時代
13号土坑	土坑	55		38037- 38039	44903- 44904	円形	N-90°	0.7	0.7	0.6	土師器小片	古墳時代
14号土坑	土坑	55	15	38036- 38039	44897- 44898	長楕円形	N-39° -E	2.7	1.43	0.62	土師器壺	古墳時代
15号土坑	土坑	55		38043- 38045	44866- 44871	不整形	N-24° -E	5.0	(0.78)	0.44	土師器小片	古墳時代
16号土坑	土坑	56	15	38040- 38041	44905- 44906	楕円形	N-44° -E	0.96	0.76	0.26	土師器小片	古墳時代
17号土坑	土坑	56		38033- 38034	44878- 44879	円形	N-45° -E	0.4	0.4	0.19	土師器小片	古墳時代
1号びっ群	杭列	56	16	38060- 38066	44875- 44879		N-30° -E				土師器小片	古墳時代
1号びっ	杭列	56	16	38065- 38066	44875- 44876	ほぼ円形	N-75° -W	0.48	0.4	0.1 ~ 0.14	土師器高坏	古墳時代
2号びっ	杭列	56	16	38064- 38065	44876- 44877	楕円形	N-48° -E	0.72	0.33	0.12	無し	古墳時代
3号びっ	杭列	56	16	38064- 38065	44876- 44877	ほぼ円形	N-30° -W	0.4	0.3	0.06	無し	古墳時代
4号びっ	杭列	56	16	38063- 38064	44875- 44876	楕円形	N-72° -W	0.6	0.42	0.12 ~ 0.2	無し	古墳時代
5号びっ	杭列	56	16	38063- 38064	44875- 44876	楕円形	N-62° -W	0.52	0.34	0.12	無し	古墳時代
6号びっ	杭列	56	16	38063- 38064	44877- 44878	隅丸方形	N-74° -W	0.42	0.4	0.12	無し	古墳時代
7号びっ	杭列	56	16	38062- 38063	44877- 44878	ほぼ円形	N-61° -W	0.41	0.4	0.1	無し	古墳時代
8号びっ	杭列	56	16	38062- 38063	44877- 44878	不整形	N-75° -W	0.44	0.38	0.16	無し	古墳時代
9号びっ	杭列	56	16	38061- 38062	44878- 44879	円形	N-75° -W	0.43	0.4	0.18	無し	古墳時代
10号びっ	杭列	56	16	38061- 38062	44878- 44879	円形	N-60° -W	0.32	0.34	0.08	無し	古墳時代

第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物

遺構名	遺構種類	図	PL	検出位置 X	検出位置 Y	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期・備考
11号 ν ト	杭列	56	16	38061- 38062	44877- 44878	円形	N-29° -E	0.4	0.38	0.1	無し	古墳時代
12号 ν ト	杭列	56	16	38060- 38061	44878- 44879	円形	N-62° -W	0.36	0.32	0.1	無し	古墳時代
13号 ν ト	杭列	56	16	38060- 38061	44877- 44878	円形	N-11° -W	0.26	0.24	0.06	無し	古墳時代
1号欄列	欄列	57	16	38025- 38047	44874- 44880	直線	N-12° -E (22.5)		0.4~ 0.5	0.2~ 0.3	無し	古墳時代
2号欄列	欄列	57		38026- 38030	44882- 44883	直線	N-7° -E (5.8)		0.4~ 0.6	0.23	無し	古墳時代
1号溝	谷津	58	16	38063- 38072	44861- 44873	不整形	N-48° -E (11.48)		0.72~ 7.68	0.24	陶磁器	近代
2号溝	水路	58	18	38040- 38067	44855- 44865	蛇行	N-20° -W (32.2)		0.3~ 1.2	0.06	無し	古代
3号溝	水路	58	18	38059- 38063	44861- 44862	蛇行	N-12° -W (3.7)		0.5	0.06	無し	古代
4号溝	水路	58	18	38063- 38065	44861- 44864	蛇行	N-58° -W 4.3		0.4	0.1	無し	古代
5号溝	水路	58	18	38040- 38045	44854- 44859	蛇行	N-50° -W (7.36)		0.4~ 0.64	0.05	無し	古代
6号溝	区画溝	58	18	38060- 38063	44869- 44873	直線	N-60° -E 5.6		0.08~ 0.32	0.06	無し	古代
7・11号溝	水路	59	19	38040- 38067	44864- 44865	蛇行	N-19° -E N-78° -W (38.28)		0.32~ 1.84	0.18~ 0.7	須恵器環	古代
8号溝	水路	60	19	38070- 38082	44868- 44891	蛇行	N-65° -W (26.76)		0.4~ 1.28	0.18~ 0.41	土師器小片	古代
9号溝	区画溝	60	20	38052- 38081	44887- 44893	直線	N-12° -W (28.4)		0.24~ 0.40	0.04	土師器小片	古代
10号溝	水路	60	20	38081- 38087	44891- 44902	直線	N-66° -W (14.96)		0.4~ 0.56	0.18~ 0.26	無し	古代
12号溝	水路	61	20	38043- 38084	44865- 44897	蛇行	N-38° -W (47.41)		0.8~ 5.4	0.29	無し	古墳時代
13号溝	区画溝	62	20	38072- 38086	44900- 44915	直線	N-47° -E (20.24)		0.34~ 1.4	0.48	無し	古墳時代
14号溝	水路	62	20	38063- 38066	44860- 44862	直線	N-54° -W 2.67		0.9~ 1.4	0.22	無し	古代
15号溝	区画溝	61		38055- 38065	44876- 44882	直線	N-21° -E (12.2)		0.5~ 1.0	0.18~ 0.33	無し	古墳時代
16号溝	水路	62	20	38036- 38070	44879- 44913	蛇行	N-21° -E N-13° -W (68.3)		4.6~ 7.8	0.34~ 0.64	土師器甕・壺	古墳時代
18号溝	不明	63		38048- 38052	44853- 44854	直線	N-12° -W (3.76)		0.64~ 1.0	1.72	無し	不明
19号溝	水路	63	21	38032- 38042	44889- 44909	直線	N-79° -W (23.16)		0.56~ 0.84	0.18	土師器小片	古墳時代
20号溝	区画溝	63	21	38037- 38049	44887- 44908	直線	N-59° -E (24.40)		0.16~ 0.36	0.1	土師器小片	古代
21号溝	区画溝	63	21	38034- 38039	44901- 44905	直線	N-38° -W (5.70)		0.48~ 1.08	0.12	土師器小片	古代
22号溝	水路	63	21	38034- 38036	44886- 44889	直線	N-60° -E (2.88)		0.44~ 1.08	0.18	土師器小片	古墳時代
23号溝	水路	64	22	38040- 38047	44896- 44907	直線	N-58° -W (12.18)		0.24~ 0.60	0.06	土師器小片	古墳時代
24号溝	水路	64		38028- 38037	44887- 44892	蛇行	N-58° -W N-11° -W (10.12)		0.6~ 1.40	0.28	土師器小片	古墳時代
25号溝	水路	64		38036- 38040	44885- 44887	直線	N-22° -E (5.76)		0.5~ 0.64	0.06	土師器小片	古墳時代
26号溝	区画溝	64		38031- 38036	44893- 44897	直線	N-31° -W (6.56)		0.36~ 0.68	0.06	土師器小片	古代

第2節 検出された遺構と遺物

遺構名	遺構種類	図	PL	検出位置 X	検出位置 Y	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期・備考
27号溝	区画溝	64		38025- 38034	44861- 44880	直線	N-65° -E	(20.7)	0.25 ~ 0.7	0.05	土師器小片	古代
28号溝	区画溝	65		38029- 38033	44859- 44861	直線	N-30° -W	(4.44)	0.38 ~ 0.52	0.06	土師器小片	古代
29号溝	水路	65	22	38031- 38035	44878- 44880	直線	N-9° -W	4.32	0.8 ~ 1.5	0.2	土師器小片	古墳時代
30号溝	水路	65		38027- 38030	44884- 44887	直線	N-10° -W	(3.44)	1.64	0.06	土師器小片	古墳時代
31号溝	区画溝	65		38039- 38050	44880- 44886	直線	N-28° -W	12.1	0.2 ~ 0.42	0.08	土師器小片	古代
32号溝	区画溝	65		38045- 38048	44884- 44886	直線	N-28° -W	3.16	0.36	0.06	土師器小片	古代
33号溝	区画溝	65		38050- 38051	44888- 44890	直線	N-57° -E	1.5	0.28	0.04	土師器小片	古代
34号溝	区画溝	65		38047- 38049	44891- 44894	直線	N-59° -E	3.88	0.36	0.04	土師器小片	古代
35号溝	区画溝	65		38043- 38046	44894- 44900	直線	N-59° -E	(6.30)	0.42	0.04	土師器小片	古代
36号溝	区画溝	65		38047- 38051	44888- 44895	直線	N-65° -E	7.72	0.34	0.06	土師器小片	古代
37号溝	区画溝	65		38044- 38047	44895- 44900	直線	N-58° -E	5.84	0.3	0.04	土師器小片	古代
38号溝	水路	65		38056- 38058	44918- 44920	直線	N-20° -E	(2.82)	0.4 ~ 0.64	0.06	土師器小片	古代
39号溝	水路	66	22	38025- 38027	44865- 44879	直線	N-4° -W	(13.68)	0.46 ~ 1.1	0.06	土師器小片	古墳時代
40号溝	水路	66	22	38021- 38023	44866- 44874	蛇行	N-80° -E	(8.44)	0.48 ~ 1.18	0.08	土師器小片	古墳時代
41号溝	水路	66		38034- 38037	44857- 44868	直線	N-80° -W	(10.72)	0.4 ~ 1.62	0.1	土師器小片	古墳時代
42号溝	水路	66		38027- 38028	44862- 44864	直線	N-65° -E	3.2	0.5	0.06	土師器小片	古墳時代
44号溝	水路	67	23	38028- 38050	44878- 44892	直線	N-24° -E	(21.7)	0.4 ~ 0.58	0.66	土師器小片	古墳時代
45号溝	水路	67	23	38041- 38047	44877- 44879	直線	N-15° -E	(6.3)	0.9	0.3	土師器小片	古墳時代
46号溝	水路	67	23	38035- 38046	44874- 44876	直線	N-7° -E	(8.3)	1.05	0.5 ~ 0.75	土師器高環	古墳時代
47号溝	水路	67	23	38025- 38047	44875- 44882	直線	N-18° -E	(21.95)	0.8 ~ 1.5	0.3 ~ 0.42	土師器小片	古墳時代
48号溝	水路	69	24	38029- 38044	44860- 44870	直線	N-28° -W	(14.4)	0.72 ~ 1.92	0.12	土師器小片	古墳時代
49号溝	水路	69	24	38030- 38043	44859- 44868	直線	N-30° -W	(12.08)	0.42 ~ 1.4	0.1 ~ 0.4	土師器小片	古墳時代
50号溝	水路	69	23	38034- 38042	44879- 44883	不整形	N-8° -E	8.2	0.7 ~ 2.45	0.6 ~ 0.7	土師器高環	古墳時代
51号溝	水路	69	24	38044- 38048	44904- 44910	直線	N-75° -W	(6.12)	1.52	0.8	土師器小片	古墳時代

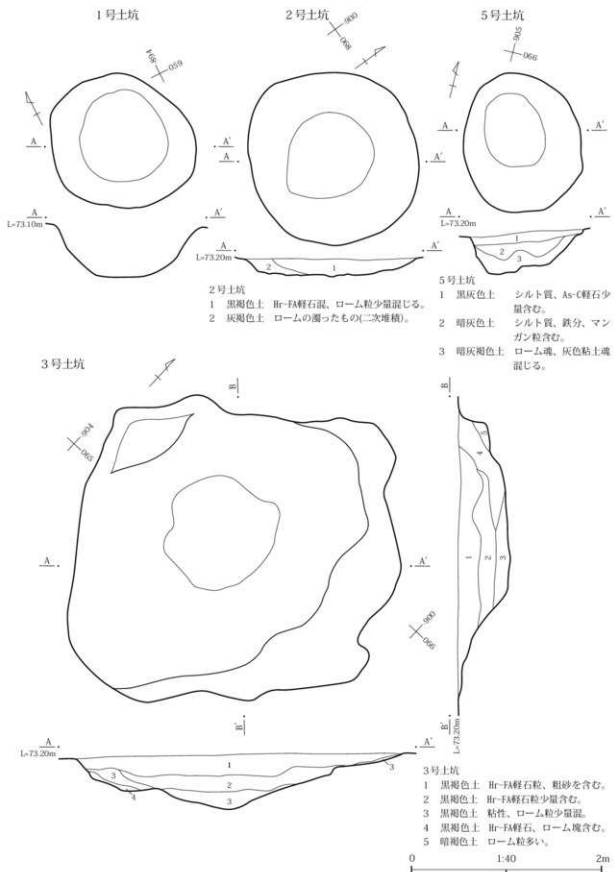
Ⅱ区1号杭列 PL.82

	出土位置	長さ(cm)	直径(cm)
1	No 1	35.4	5.9
2	No 3	39.7	4.9
3	No 4	40	6.3
4	No 5	28.7	3.3
5	No 6	27.3	5.5
6	No12	34.8	5.2

	出土位置	長さ(cm)	直径(cm)
7	No13	35	5.2
8	No15	29.3	3.5
9	No16	40.3	4.7
10	No19	43.6	4.4
11	No20	31.7	3.4
12	No21	49.3	4.1

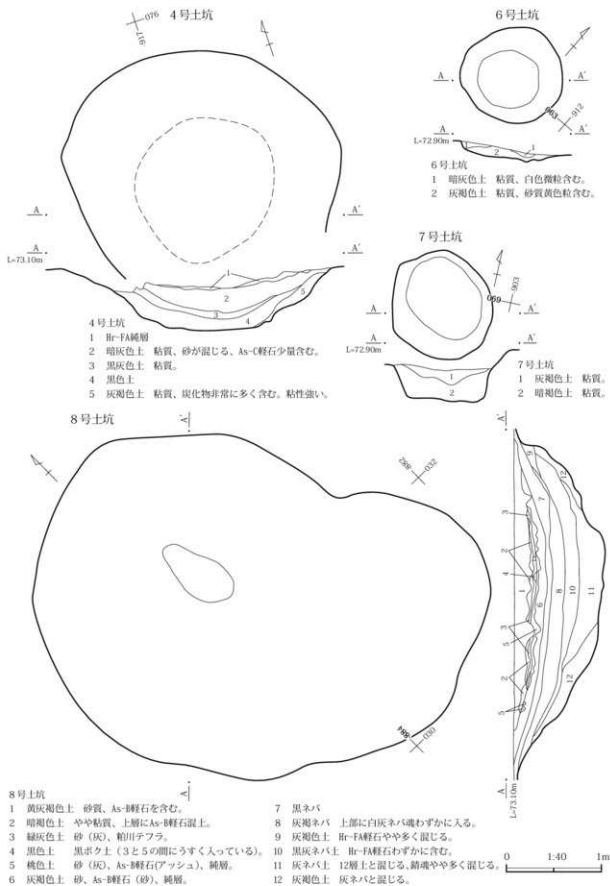
	出土位置	長さ(cm)	直径(cm)
13	No22	29.3	5.5
14	No23	35.4	2.5
15	No25	42.8	30
16	No26	33.2	6
17	No27	35.1	2.6
18	No30	35.4	4.7×3.5
19	045-905_No 6	31.4	4.3×2.5

第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物



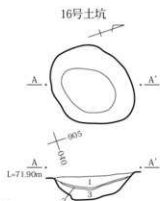
第53図 Ⅲ区1号～3号・5号土坑

第2節 検出された遺構と遺物



第54図 Ⅲ区4号・6号～8号土坑

第2節 検出された遺構と遺物



16号土坑

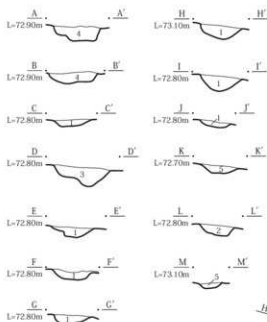
- 1 黒褐色粘質土 鉄分少量沈着、木皮質少量含む。
- 2 黒褐色粘質土 杉の表皮のような木皮質を多く含む。
- 3 黒色粘質土 しまりなし、植物繊維を含む。



17号土坑

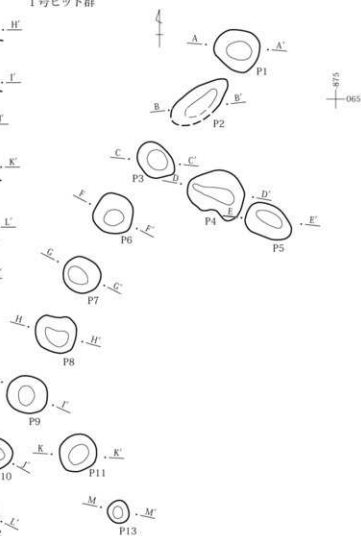
- 1 灰褐色土ネバ 鉄分の沈着。

1号ピット群



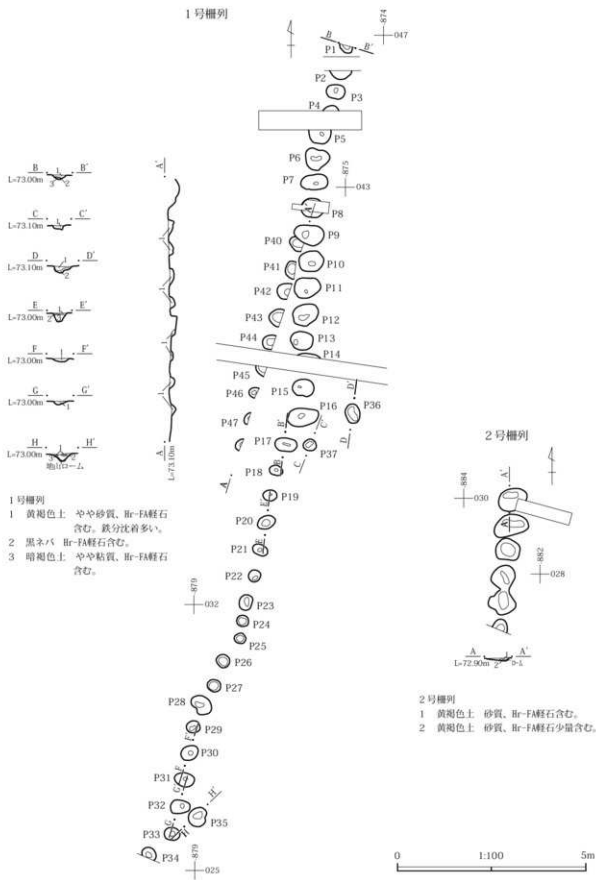
1号ピット群

- 1 黒褐色土 砂質、小礫、Hr-FA軽石を含む。
- 2 黄灰褐色土 Hr-FA軽石を含む。
- 3 黒褐色土 砂質、Hr-FA軽石を含む。
- 4 黒褐色土 砂質、Hr-FA軽石を含む。
- 5 褐色土 砂質、Hr-FA軽石を含む。

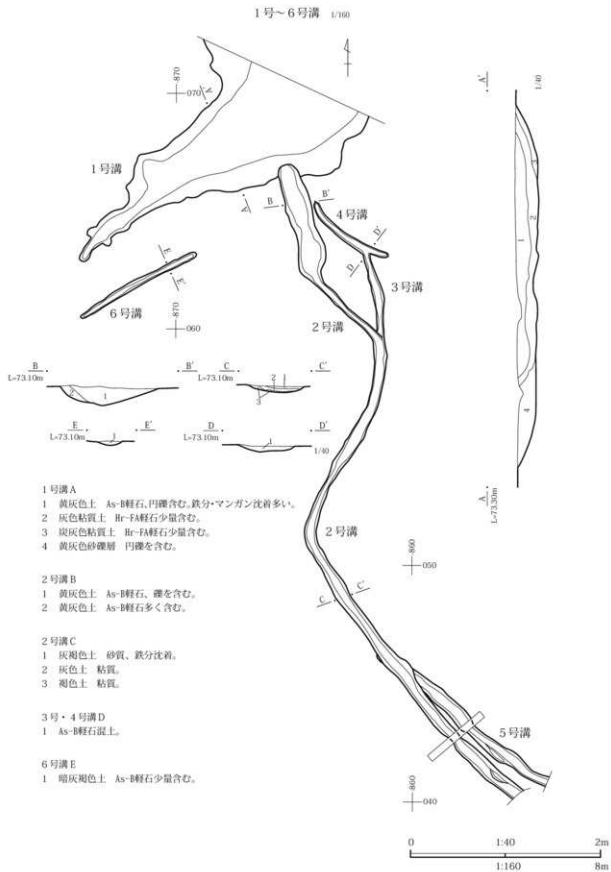


第56図 Ⅲ区16号・17号土坑、1号ピット群

第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物



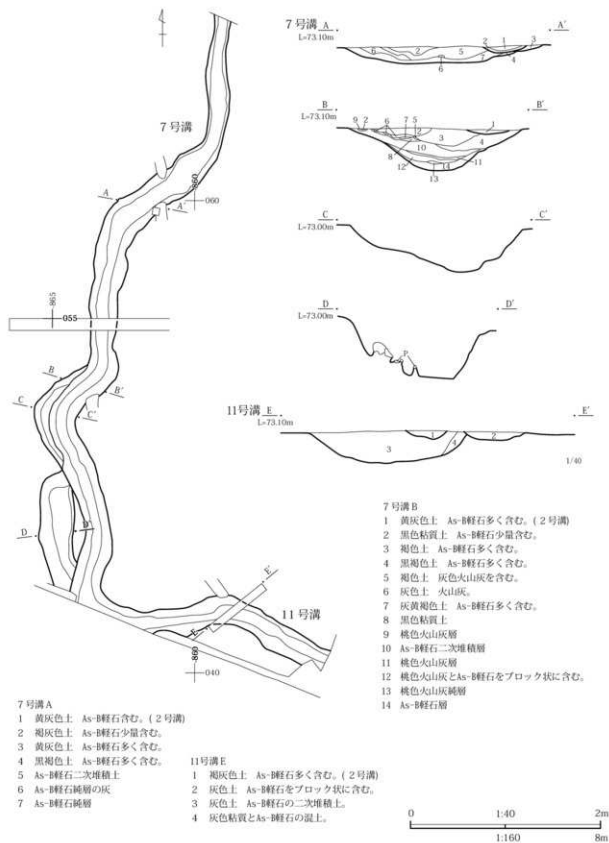
第57図 Ⅲ区1号・2号柵列



第58図 Ⅲ区1号～6号溝

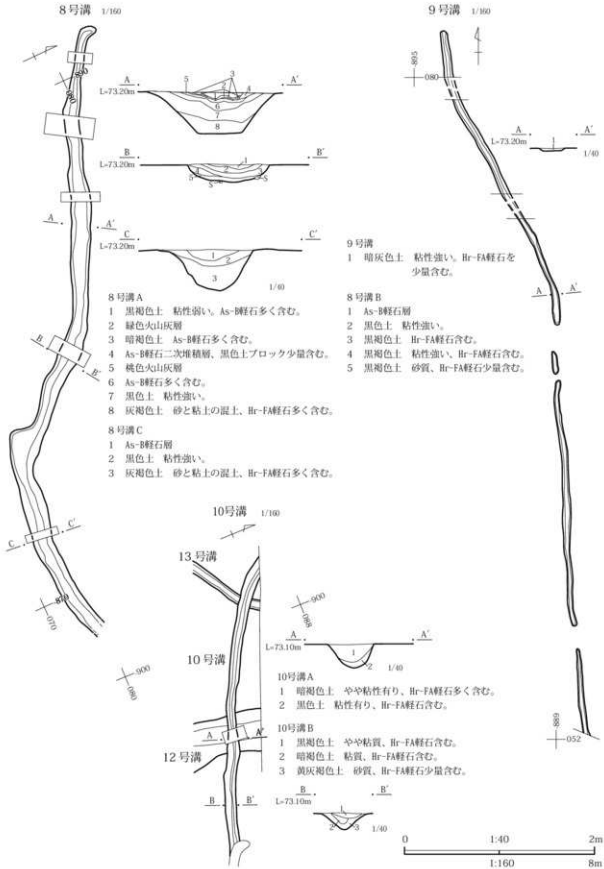
第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物

7号・11号溝 1/300

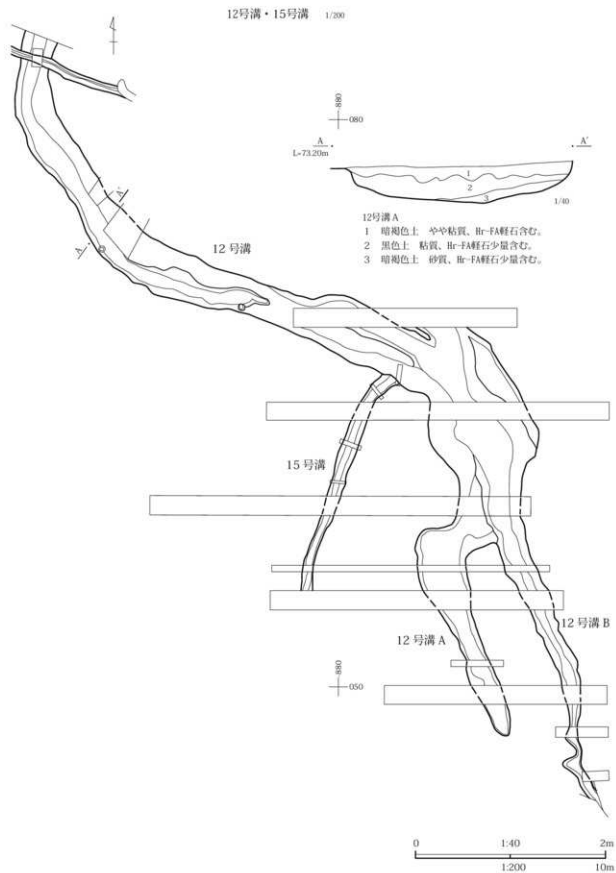


第59図 Ⅲ区7号・11号溝

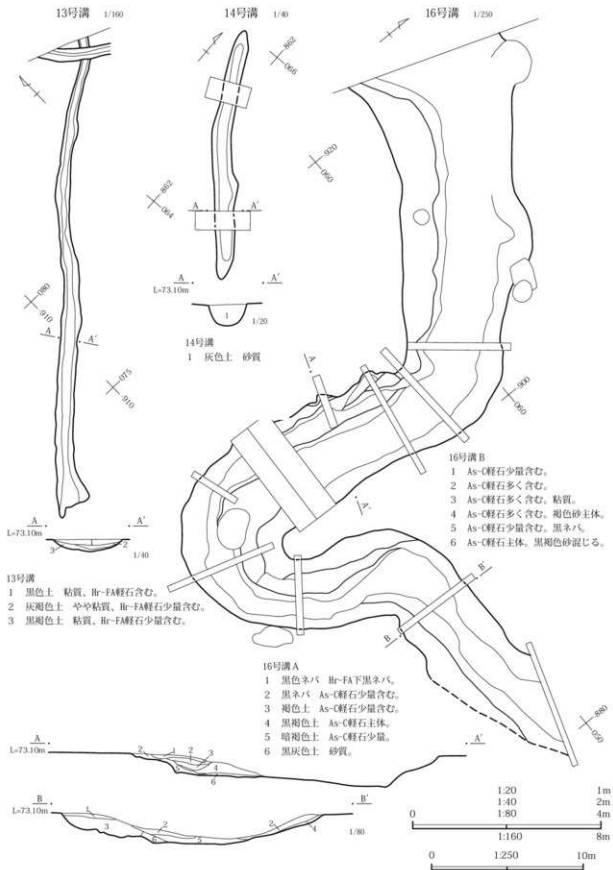
第2節 検出された遺構と遺物



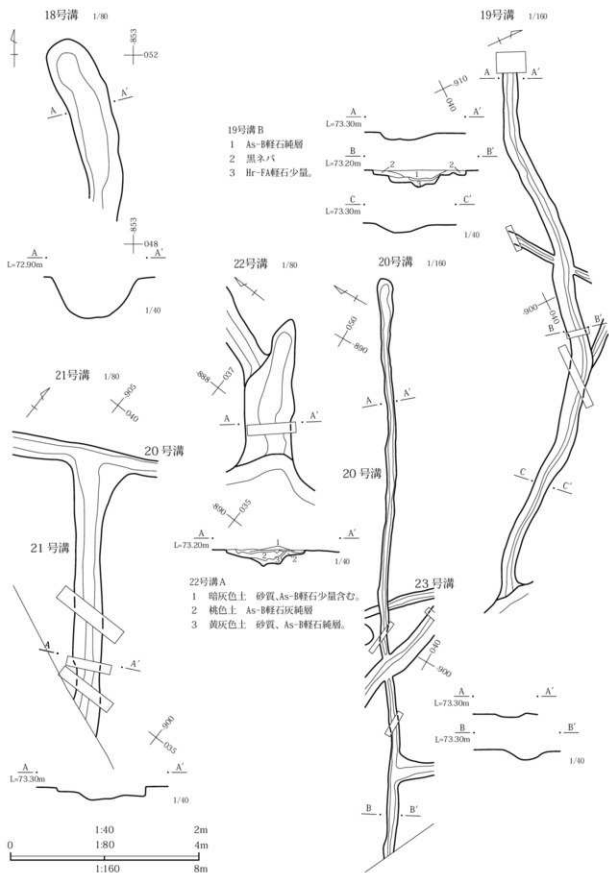
第60図 Ⅲ区8号～10号溝



第61図 Ⅲ区12号・15号溝

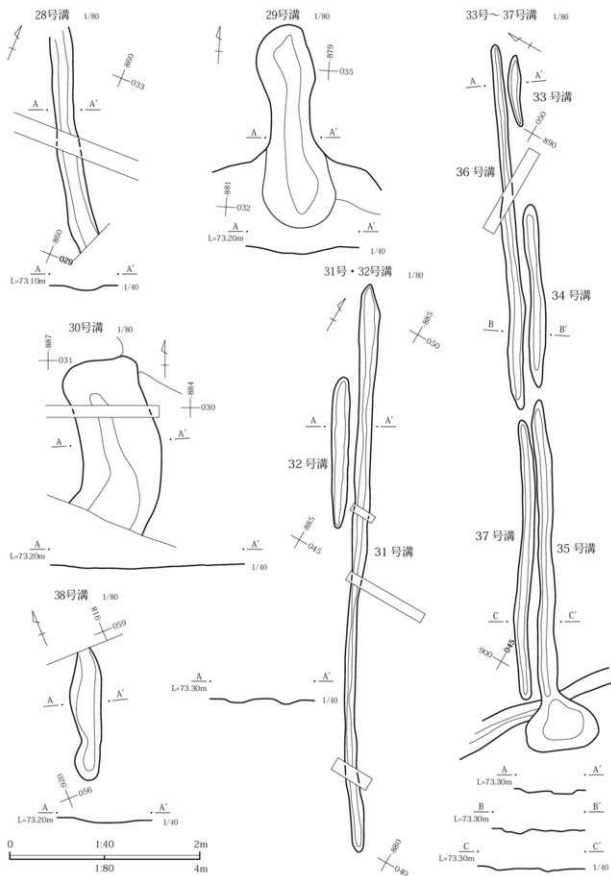


第62図 Ⅲ区13号・14号・16号溝



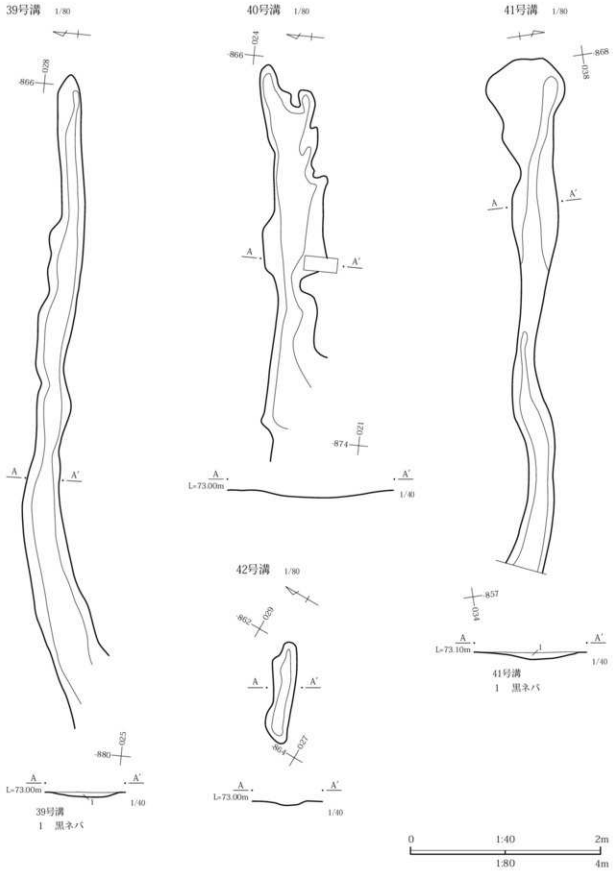
第63図 Ⅲ区18号～22号溝

第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物



第65図 Ⅲ区28号~38号溝

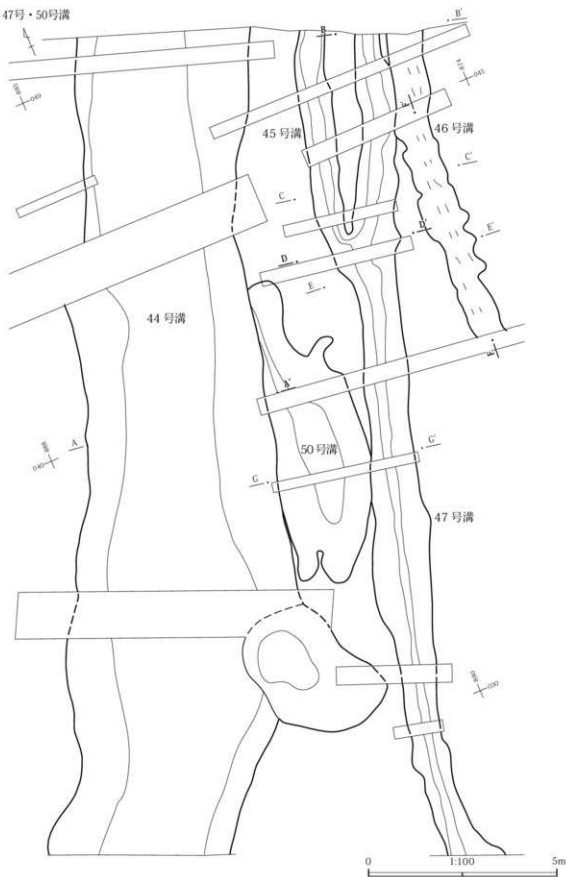
第2節 検出された遺構と遺物



第66図 Ⅲ区39号～42号溝

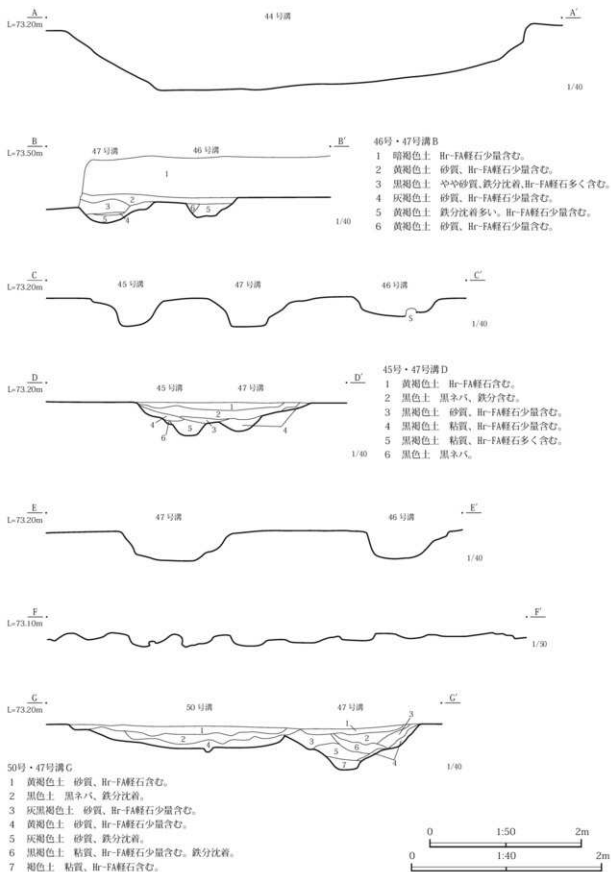
第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物

44号～47号・50号溝



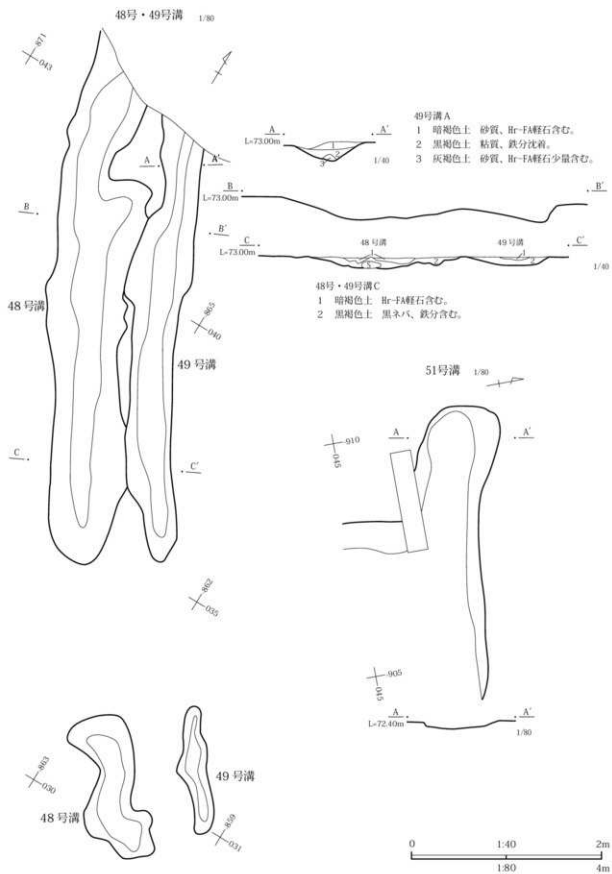
第67図 Ⅲ区44号～47号・50号溝

第2節 検出された遺構と遺物



第68図 Ⅲ区44号～47号・50号溝セクション・エレベーション図

第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物



第69図 Ⅲ区48号・49号・51号溝

表7 Ⅲ区出土遺物観察表

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	70 66	土師器 高環	坏部	6号遺構	18.5 - (6.0)	粗砂、普通。	にふい堀 7.5YR6/3	坏部外面磨き整形。坏部底部で屈曲し2段になる。全体に摩滅多い。	
2	70 66	土師器 高環	坏部	7号遺構	17.8 - (6.7)	粗砂、黒色粒、 不良。	淡黄 5YR8/3	内外面磨による磨き痕。全体に摩滅多い。	
3	70 66	土師器 甕	ほぼ完形	7号遺構	16.1 5.8 16.9	粗砂、白色粒、 普通。	灰褐 5YR4/2	内外面挽削り整形。	胴部下 煤付着
4	70 66	土師器 小形壺	口縁部	4号土坑	(13.8) - (6.6)	細砂、黒色粒、 良好。	淡橙 5YR8/3	外面履位の撫で整形。内面斜位の撫で整形。	
5	70 66	土師器 小形壺	ほぼ完形	14号土坑	12.2 3.0 14.2	粗砂、白色粒、 普通。	にふい・橙 7.5YR7/3	口縁部上部に沈線が廻り二重口縁になる。胴部磨き整形。全体に摩滅多い。	外面 赤色塗彩
6	70 66	土師器 高環	脚部	1号 ビレット	- (10.5)	粗砂、白色粒、 普通。	黄橙 10YR5/8	脚部外面磨き整形。内面履位の絞り痕、基部輪積み痕。脚部にφ8mmの透かし2単位を持つ。	
7	70 66	陶磁器 甕	1/3	1号溝	(12.8) (7.0) 3.9			18世紀 長崎波佐見焼。染め付、唐草文様。	
8	70 66	須恵器 高台付杯	一部欠損	7号溝	13.9 6.8 5.4	細砂、白色粒、 良好。	黒褐 7.5YR3/2	回転ロクロ成形。底部回転糸切り。高台貼り付け。	外面 煤付着
9	70 66	土師器 高環	坏部	16号溝	(12.8) - (4.5)	細砂、細かい 黒色粒。普通。	灰白 5YR2	外面磨による横位撫で整形。	
10	70 66	土師器 高環	坏部	16号溝	(19.0) - (8.7)	粗砂、φ1～ 2mmの小石、 普通。	淡赤橙 2.5YR7/4	坏下部に粘土縷を貼り付け様を持つ。	
11	70 66	土師器 高環	坏部	16号溝	(22.0) - (6.3)	粗砂、白色・ 黒色粒。良好。	にふい・橙 5YR7/3	内外面横位の撫で整形。	
12	71 66	土師器 高環	坏部2/3 欠損	16号溝	(27.6) (12.0) 13.9	細砂、白色粒、 良好。	にふい・橙 5YR7/3	坏部外面履位の撫で整形。脚部にφ13mmの孔を3単位持つ。	
13	71 66	土師器 高環	坏部・ 腹部一部 欠損	16号溝	(12.6) (10.9) 8.1	細砂、φ1～ 2mmの小石多 い、普通。	灰褐 5YR5/2	摩滅多く整形不明。脚部にφ14mmの孔を4単位持つ。	
14	71 66	土師器 器台	脚部	16号溝	- (4.8)	細砂、良好。	灰白 5YR8/2	外面履位の撫で整形。脚部にφ10～12mmの孔を3単位持つ。	
15	71 66	土師器 高環	脚部	16号溝	- (14.2) (8.4)	粗砂、細かい 白色・黒色粒、 普通。	にふい・堀 7.5YR6/2	外面履位の磨き整形。脚部内面輪積み痕。基部内面横位の撫で。	
16	71 67	土師器 高環	脚部	遺構外	- (10.5)	細砂、細かい 黒色粒、 良好。	橙 5YR7/6	外面磨き整形。内面輪積み痕。	
17	71 67	土師器 高環	脚部	46号溝	- (9.3)	粗砂、白色粒、 普通。	黄橙 7.5YR7/8	外面磨き整形。内面指頭による整形痕。全体に摩滅多い。	
18	71 67	土師器 高環	脚部	46号溝	- (6.3)	細砂、黒色粒、 普通。	淡黄橙 10YR8/3	脚部外面磨き整形。内面履位の絞り痕、輪積み痕。全体に摩滅多い。	
19	71 67	土師器 高環	脚部	16号溝	- (7.4)	細砂、φ1mm の黒色粒、 普通。	橙 7.5YR7/5	外面履位の撫で整形。内面輪積み痕と指頭痕。	外面 赤色塗彩
20	71 67	土師器 高環	脚部	46号溝	- (8.7)	細砂、黒色粒、 普通。	淡黄橙 10YR8/3	外面磨き整形。内面履位の絞り痕、輪積み痕。全体に摩滅多い。	

第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
21	71 67	土師器 高坏	胴部	50号溝	— (8.1)	粗砂、黒色粒。 普通。	橙 7.5YR6/8	外面磨き整形。内面縦位の絞り痕。全体に摩滅多い。	外面 赤色塗彩
22	71 67	土師器 壺	口縁部	16号溝	(12.0) — (7.0)	細砂、φ1mm の小石。普通。	灰白 10YR8/2	口縁上部横位の撫で、下半縦位の撫で整形。全体に 摩滅。	
23	71 67	土師器 壺	口縁部	16号溝	12.0 — (6.7)	細砂、φ1mm の小石。普通。	灰白 10YR8/2	口縁上部横位の撫で、下半縦位の撫で整形。全体に 摩滅。	
24	71 67	土師器 小形甕	ほぼ完形	16号溝	9.0 3.0 10.3	粗砂、白色粒。 普通。	灰褐 7.5YR5/2	口縁部内面刷毛目整形後撫で。外面篋削り整形。胴 下部内面には指頭による撫で痕。	
25	71 67	土師器 壺	胴部	16号溝	— (6.6)	粗砂、白色粒。 普通。	にぶい橙 7.5YR7/4	外面横位の撫で整形。内面指頭痕。	
26	71 67	土師器 壺	胴部～ 底部	16号溝	5.6 (13.1)	粗砂、φ1～ 2mmの白色粒・ 小石。普通。	橙 5YR7/6	球形の胴部。摩滅が多く、器面が荒れている。	外面 赤色塗彩
27	71 67	土師器 壺	胴部～ 底部	16号溝	3.2 (10.1)	粗砂、φ1～ 2mmの白色粒・ 小石。普通。	橙 5YR7/6	球形の胴部。摩滅が多く、器面が荒れている。	
28	72 67	土師器 壺	口縁部～ 胴部	16号溝	14.4 — 20.4	細砂、φ1mm の白色粒。 良好。	明細灰 5YR7/2	外面磨き整形。	
29	72 67	土師器 甕	口縁部	16号溝	20.0 — (6.5)	粗砂、φ1～ 2mmの小石。 普通。	浅黄橙 7.5YR8/3	口縁端部に撫でによる横線が廻る。横位の撫で整形。	
30	72 67	土師器 壺	胴部1/2	16号溝	— (16.8)	粗砂、φ1mm の黒色粒。 良好。	淡黄 2.5YR/3	胴部上半は横位、下半は縦位方向に磨き整形。	外面 赤色塗彩
31	72 67	土師器 壺	口縁部～ 肩部	16号溝	12.8 — (12.3)	細砂、φ2mm の黒色粒。 普通。	灰白 10YR8/2	口縁部～肩部にかけて刷毛目整形後横撫で。肩部横 位方向の磨き。	
32	72 68	土師器 壺	胴部～ 底部	16号溝	7.6 (16.4)	細砂、極小の 黒色粒。普通。	灰白 10YR8/2	外面磨き整形。	
33	72 68	土師器 壺	口縁部～ 肩部	16号溝	20.0 — (13.3)	細砂、φ1mm の小石。良好。	灰白 10YR8/2	折り返し口縁。口縁部内面は刷毛目後磨き整形。頸 部外面に縦位の磨き整形。胴部外面磨き整形。	
34	73 68	土師器 甕	口縁部～ 胴部	16号溝	(17.1) — (14.5)	粗砂、φ1mm の小石。良好。	にぶ黄橙 10YR7/2	頸部横撫で。胴部篋削り整形。	外面 煤付着
35	73 68	S字口縁 台付甕	台部	16号溝	— (9.6) (8.8)	細砂、φ1mm の白色粒・小 石。普通。	橙 7.5YR6/6	接合部に篋撫での整形痕が残る。台部縦位の撫で整形。	
36	73 68	土師器 甕	口縁部～ 胴部	16号溝	25.2 — 26.7	細砂、φ1mm の黒色粒。 普通。	灰白 5YR8/2	口縁部横撫で。頸部～胴部にかけて左下刷毛目整形。	
37	73 68	土師器 壺	胴部1/2	16号溝	— (16.0)	細砂、細かい 黒色粒。良好。	浅黄橙 7.5YR8/4	胴部外面縦位方向の磨き整形。	
38	73 68	S字口縁 台付甕	底部～ 台部	16号溝	— (4.8)	細砂、黒色粒。 普通。	灰黄褐 10YR6/2	台部接合部に刷毛目整形痕。	
39	74 69	土師器 壺	口縁部	16号溝	(28.8) — (9.3)	細砂、黒色粒。 普通。	灰黄褐 10YR6/2	口縁部と胴部に接合痕。胴部外面横位の撫で、内面 縦位の磨き整形。	
40	74 69	土師器 甕	口縁部～ 胴部	16号溝	(19.5) — (14.2)	粗砂、白色・ 黒色粒。普通。	にぶい橙 5YR6/4	外面篋削り整形。摩滅が多い。	

第2節 検出された遺構と遺物

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
41	74 68	S字口縁 台付甕	口縁部～ 胴部	16号溝	— (15.6) — (5.7)	細砂、黒色粒。 普通。	灰黄緑 10YR6/2	外面は左下刷毛目整形。	
42	74 69	土師器 甕	底部	16号溝	8.4 (11.8)	細砂、不良。	橙 5YR7/6	全体に摩滅。	
43	74 69	S字口縁 台付甕	台部	16号溝	— 9.8 (7.5)	細砂、細かい 黒色粒。普通。	浅黄橙 10YR8/3	胴部との接合部に右下の刷毛目痕。台部内面端部折り返し。指頭痕。	
44	74 69	S字口縁 台付甕	台部	16号溝	— 9.0 (6.7)	細砂、細かい 黒色粒。普通。	灰白 5Y8/2	胴部との接合付近に刷毛目痕。台部内面端部折り返し。	台部 保付着
45	74 69	S字口縁 台付甕	台部	16号溝	— (10.0) (8.1)	細砂、細かい 白色粒。普通。	灰白 7.5YR8/2	胴部との接合付近に刷毛目痕。台部内面端部折り返し。全体に摩滅。	
46	74 69	S字口縁 台付甕	台部	16号溝	— 8.9 (7.0)	細砂、細かい 黒色粒。普通。	浅黄橙 10YR8/3	胴部との接合部に右下の刷毛目痕。台部内面端部折り返し。指頭痕。全体に摩滅。	
47	74 69	S字口縁 台付甕	台部	16号溝	— 9.6 (5.7)	細砂、細かい 黒色粒。普通。	淡黄 2.5YR/3	外面麗位の撫で整形。台部内面端部折り返し。全体に摩滅。	
48	74 69	S字口縁 台付甕	台部	16号溝	— 10.0 (5.9)	細砂、細かい 黒色粒。普通。	灰白 7.5YR8/2	胴部との接合付近に刷毛目痕。台部内面端部折り返し。全体に摩滅。	
49	74 69	S字口縁 台付甕	台部	16号溝	— (9.2) (6.0)	細砂、細かい 黒色粒。普通。	浅黄橙 10YR8/3	胴部との接合部に右下の刷毛目痕。台部内面端部折り返し。指頭痕。全体に摩滅。	
50	75 69	土師器 高環	ほぼ完形	遺構外	20.0 15.0 18.0	細砂、細かい 黒色粒。良好。	橙 5YR6/6	環部内外面刷毛目整形。脚部撫で整形。脚部内面輪積み痕。裾部内外面横位の撫で整形。	
51	75 69	土師器 高環	裾部欠損	遺構外	18.5 (13.6) 15.5	細砂、細かい 黒色粒。良好。	浅黄橙 7.5YR8/3	環部外面横位の撫でと指頭痕。環部内面造による撫で。脚部外面撫で整形。脚部内面指頭による整形痕。裾部内外面横位の撫で整形。	
52	75 69	土師器 高環	脚部～ 裾部	遺構外	— 17.6 (10.0)	粗砂。φ1mm の小石多い。 良好。	黄橙 7.5YR7/8	裾部2段になる。脚部外面麗位の撫で整形。内面に麗位の絞り痕。	
53	75 69	土師器 高環	脚部～ 裾部	遺構外	— (13.5) (10.6)	細砂、黒色粒。 良好。	淡橙 5YR8/3	外面麗位の撫で整形。内面指頭による整形痕。	
54	75 69	土師器 高環	脚部	遺構外	— (11.0)	粗砂、黒色粒。 不良。	浅黄橙 7.5YR8/4	脚部外面麗位の撫で整形。内面麗位の絞り痕。裾部内面には輪積み痕。全体に摩滅多い。	
55	75 69	土師器 高環	脚部	遺構外	— (11.0)	細砂。φ1～ 2mmの小石。 良好。	淡黄 5YR/3	脚部外面麗位の撫で整形。内面麗位の絞り痕。裾部内面には輪積み痕。	
56	75 70	土師器 高環	脚部～ 裾部	遺構外	— (14.0) (9.1)	細砂、細かい 黒色粒。良好。	明赤褐 2.5YR5/6	脚部外面麗位の撫で整形。内面指頭による整形痕。裾部内外面横位の撫で整形。	
57	75 70	土師器 高環	脚部～ 裾部	遺構外	(14.7) (9.3)	細砂。良好。	にぶい橙 5YR6/4	脚部外面麗位の撫で整形。内面輪積み痕と指頭による整形痕。裾部内外面横位の撫で整形。	
58	75 70	土師器 高環	脚部	遺構外	— (10.1)	粗砂。普通。	橙 7.5YR6/6	脚部外面麗位の撫で整形。内面麗位の絞り痕。裾部内面には輪積み痕。	外面 赤色塗彩
59	75 70	土師器 高環	脚部	遺構外	— (10.2)	粗砂、黒色粒。 普通。	橙 7.5YR8/8	脚部外面麗位の撫で整形。内面麗位の絞り痕。裾部内面には輪積み痕。	
60	75 70	土師器 高環	脚部	遺構外	— (9.1)	細砂。普通。	にぶい橙 5YR6/4	脚部外面麗位の撫で整形。内面指頭による整形痕。	

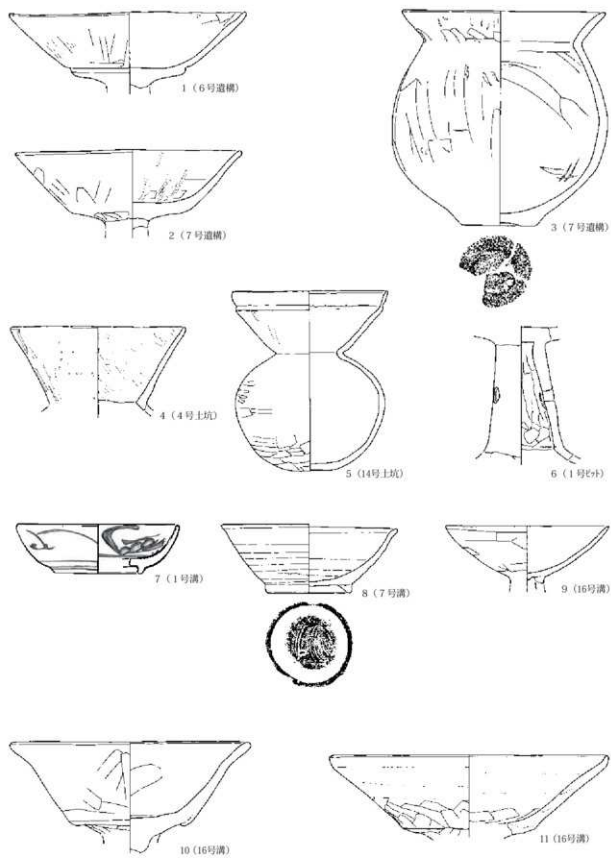
第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
61	75 70	土師器 高環	脚部	遺構外	— — (9.7)	粗砂、白色・ 黒色粒。普通。	浅黄橙 10YR8/3	脚部外面縦位の撫で整形。内面縦位の絞り痕。裾部 内面には輪積み痕。	外面 赤色塗彩
62	76 70	土師器 高環	脚部	遺構外	— — (8.2)	細砂。良好。	橙 5YR6/6	脚部外面縦位の撫で整形。内面縦位の絞り痕。裾部 内面には輪積み痕。	
63	76 70	土師器 高環	脚部	遺構外	— — (8.6)	細砂。普通。	にぶい橙 5YR6/4	脚部外面縦位の撫で整形。内面縦位の絞り痕。裾部 内面には輪積み痕。	
64	76 70	土師器 高環	脚部	遺構外	— 5.8 (9.5)	粗砂、白色粒。 普通。	橙 5YR6/6	脚部外面縦位の撫で整形。内面指頭による撫で痕。	
65	76 70	土師器 高環	脚部	遺構外	— — (7.3)	細砂、黒色粒。 普通。	橙 5YR6/6	脚部外面縦位の撫で整形。内面縦位の絞り痕。	
66	76 70	土師器 高環	脚部	遺構外	— — (7.3)	細砂、白色・ 黒色粒。普通。	灰黒 7.5YR6/2	脚部外面縦位の撫で整形。裾部内面には輪積み痕。	
67	76 70	土師器 高環	脚部	遺構外	— — (8.7)	粗砂、φ1mm の小石。普通。	橙 5YR7/6	脚部外面縦位の撫で整形。内面縦位の絞り痕。裾部 内面には輪積み痕。全体に厚減。	外面 赤色塗彩
68	76 70	土師器 高環	脚部	遺構外	— — (7.9)	細砂、白色粒。 普通。	明黄橙 10YR6/6	脚部外面縦位の撫で整形。内面縦位の絞り痕。裾部 内面には輪積み痕。全体に厚減。	
69	76 70	土師器 高環	環部	遺構外	19.6 — (7.2)	細砂。良好。	浅黄 2.5Y7/4	外面横位の撫で整形。内面横位の撫で整形と踵による 放射状の撫で痕。	
70	76 70	土師器 環	完形	遺構外	13.2 — 4.8	細砂。細かい 黒色粒。普通。	淡橙 5YR8/3	外面蹴り後撫で整形。内面踵による放射状の刻文。 底部丸底。	
71	76 70	土師器 環	完形	遺構外	14.0 — 5.7	粗砂、白色・ 黒色粒。普通。	淡橙 5YR8/3	内外面撫で整形。丁寧に作ってある。底部付近黒色。 底部丸底。	
72	76 70	土師器 小形壺	口縁部 欠損	遺構外	— — (5.6)	細砂、白色粒。 良好	にぶい橙 5YR7/4	外面横位の蹴り整形。内面蹴り整形。底部丸底。	
73	76 70	土師器 小形壺	口縁部 一部欠損	遺構外	(8.2) — (3.1) 9.0	粗砂、φ1mm の小石、黒色 粒。普通。	灰白 5YR8/2	外面蹴り整形。全体に厚減。	
74	76 70	土師器 小形壺	口縁部～ 胴部	遺構外	(9.6) — (7.8)	粗砂、φ1mm の小石。普通。	赤黒 5YR4/8	外面横位の撫で整形。全体に厚減。	
75	76 70	土師器 小形壺	口唇部 欠損	遺構外	— (3.0) (7.0)	粗砂。普通。	にぶい橙 7.5YR6/3	胴部外面蹴り整形。口縁部「く」の字状に外反。	
76	76 70	土師器 小形壺	口縁部 欠損	遺構外	— 2.8 (6.2)	粗砂、白色粒。 普通。	C ₁₀ 黄橙 10YR7/3	内外面蹴り整形。全体に厚減多い。	
77	76 70	土師器 小形壺	口縁部 欠損	遺構外	— 3.0 (5.4)	粗砂、白色粒。 不良。	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面蹴り整形。全体に厚減多い。	
78	76 70	土師器 小形壺	胴部1/3	遺構外	— (14.0) (5.6)	粗砂、白色粒。 普通。	にぶい橙 7.5YR6/4	外面撫で整形。	
79	76 70	土師器 小形壺	口縁部 欠損	遺構外	— 3.2 (5.0)	粗砂、黒色粒。 普通。	灰白 7.5YR/2	外面横位の蹴り整形。	
80	77 70	土師器 小形壺	ほぼ完形	遺構外	(14.0) 4.2 15.3	粗砂、φ1mm の小石多い。 良好。	灰白 5YR8/2	口縁部屈曲し垂直に立ち上がる。外面蹴り整形。	外面黒斑

第2節 検出された遺構と遺物

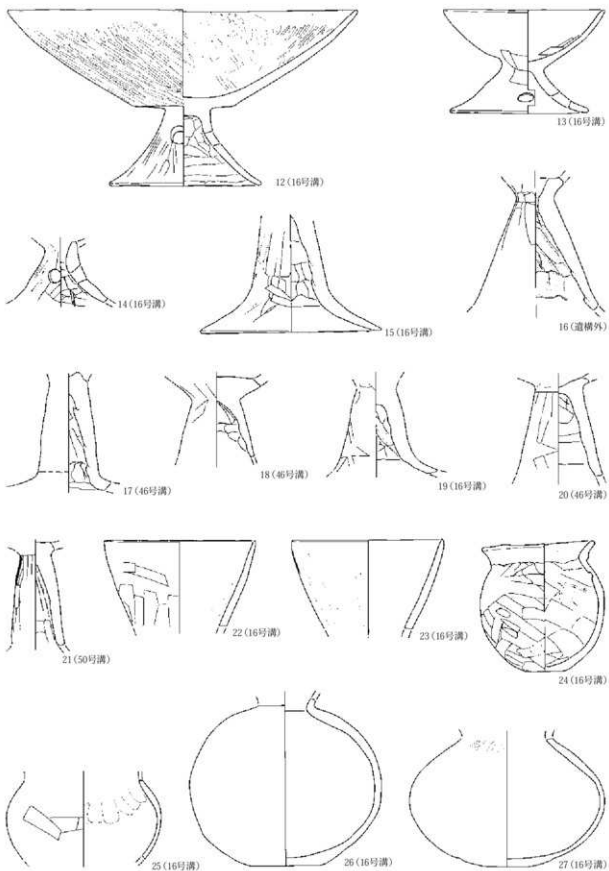
遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
81	77 70	土師器 小形壺	完形	遺構外	14.2 4.8 13.2	粗砂、細かい 黒色粒。普通。	にぶい橙 7.5YR6/4	口縁部外反する複合口縁。底部は若干の上げ底。横位の撫で整形。	
82	77 70	土師器 小形壺	完形	遺構外	10.0 7.3 8.6	粗砂、黒色粒。 普通。	にぶい黄橙 10YR7/4	外面掘削り整形。全体に摩滅多い。	
83	77 70	土師器 小形壺	口縁部 欠損	遺構外	— (2.0) (6.9)	細砂、黒色粒。 良好。	にぶい橙 5YR7/4	外面撫で整形。内面指頭による整形痕。全体に摩滅。	
84	77 71	土師器 小形壺	完形	遺構外	12.7 4.7 13.6	粗砂、軽石粒・ 黒色粒。良好。	にぶい橙 5YR7/4	外面縦位の掘削り整形。	
85	77 71	土師器 小形壺	底部欠損	遺構外	12.2 — (10.9)	粗砂、軽石粒・ 黒色粒。普通。	褐灰 5YR4/1	口縁部横位の撫で整形。胴部撫で整形。	底面 煤付着
86	77 71	土師器 小形壺	胴部	遺構外	— (7.0)	細砂。普通。	橙 5YR6/6	外面掘削り整形。内面輪積み痕、指頭による整形痕残る。	
87	77 71	土師器 小形壺	口縁部～ 胴部1/2	遺構外	(11.2) — (8.6)	粗砂、φ1～ 2mmの小石。 普通。	浅黄橙 7.5YR8/4	外面撫で整形。内面指頭による整形痕。	外面 煤付着
88	77 71	土師器 小形壺	口縁部～ 胴部1/2	遺構外	(12.0) — (8.0)	粗砂、黒色粒。 普通。	にぶい橙 5YR6/3	外面横位の撫で整形。	
89	77 71	土師器 小形壺	ほぼ完形	遺構外	4.7 5.0 7.0	粗砂、φ1mm の白色・黒色 粒。不良。	橙 5YR7/8	外面掘削り整形。全体に摩滅多い。	
90	77 71	土師器 坏	一部欠損	遺構外	12.8 7.1 4.0	粗砂、白色・ 黒色粒。不良。	黄橙 10YR5/8	底面掘削り。全体に摩滅。	
91	77 71	須恵器 高台付坏	底面	遺構外	— 6.2 (2.3)	粗砂、白色粒。 良好。	灰白 7.5YR/1	回転ロクロ成形。高台貼り付け。高台外側に開く。底面回転糸切り。	
92	77 71	土師器 坏	2/3	遺構外	(11.7) 8.5 (9.4)	粗砂。普通。	浅黄橙 10YR8/3	外面輪積み痕。指頭による整形後、莖による撫で。内面掘削り整形。	底面 木炭着
93	78 71	土師器 甗	ほぼ完形	遺構外	16.2 5.6 25.6	細砂、細かい 黒色粒。良好。	にぶい橙 5YR6/3	口縁部内外面横位の撫で整形。胴部縦位の刷毛目整形。輪積み痕を残す。	
94	78 71	土師器 甗	口縁部～ 胴部	遺構外	18.4 — (7.1)	細砂。普通。	明赤褐 5YR5/6	口縁部内外面横位の撫で。胴部外面掘削り整形。内面指頭による凹凸の整形痕が多い。	
95	78 71	土師器 甗	口縁部～ 胴部	遺構外	20.0 — (10.9)	細砂、黒色粒。 良好。	橙 7.5YR6/8	外面撫で整形。	
96	78 71	土師器 甗	胴部	遺構外	— (13.7)	細砂、白色・ 黒色粒。普通。	明褐 7.5YR5/6	外面撫で整形。内面指頭痕。	外面 煤付着
97	78 71	土師器 甗	口縁部～ 胴部	遺構外	17.2 — (18.0)	細砂、細かい 黒色粒。普通。	にぶい橙 5YR7/3	外面掘削り整形。全体に摩滅。	
98	78 72	土師器 甗	口縁部～ 胴部1/2	遺構外	8.5 — (8.0)	粗砂、φ1mm の白色・黒色 粒。不良。	にぶい赤褐 2.5YR5/3	外面掘削り整形。全体に摩滅多い。	
99	78 72	土師器 甗	底面	遺構外	— 7.4 (7.7)	粗砂。普通。	にぶい橙 5YR6/3	外面掘削り整形。	
100	78 72	鉄器	先端部	遺構外	長さ(9.8)cm、幅(2.0)cm、 厚み(0.4)cm、重量18.24g				

第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物

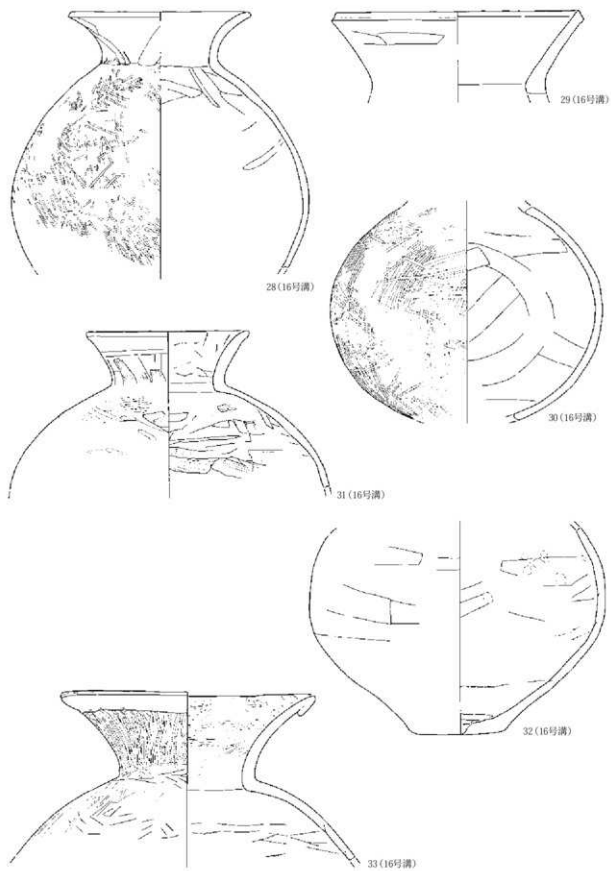


第70図 Ⅲ区出土遺物(1)

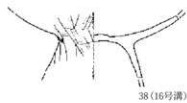
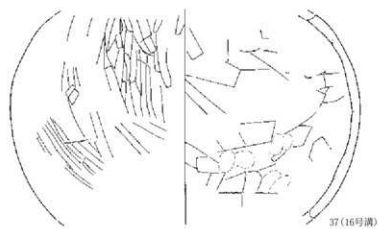
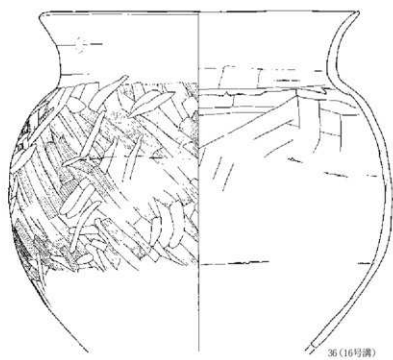
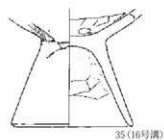
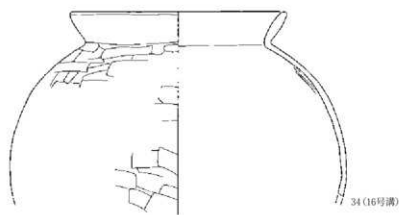
第2節 検出された遺構と遺物



第71図 III区出土遺物(2)

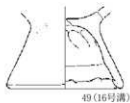
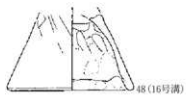
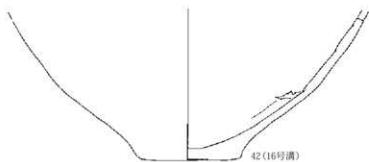
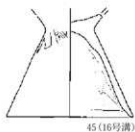
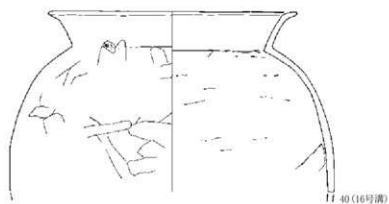
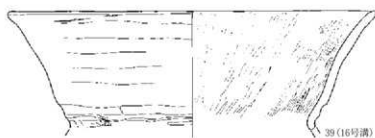


第72図 Ⅲ区出土遺物（3）



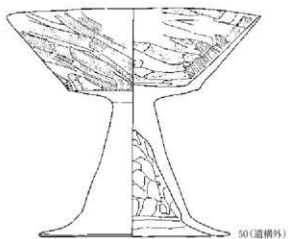
第73図 Ⅲ区出土遺物(4)

第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物



第74図 Ⅲ区出土遺物（5）

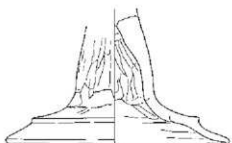
第2節 検出された道構と遺物



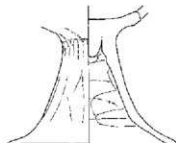
50 (道構外)



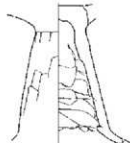
51 (道構外)



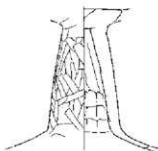
52 (道構外)



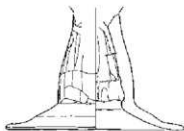
53 (道構外)



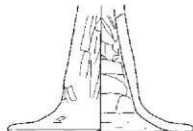
54 (道構外)



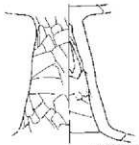
55 (道構外)



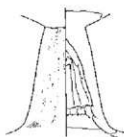
56 (道構外)



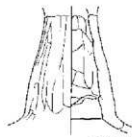
57 (道構外)



58 (道構外)



59 (道構外)



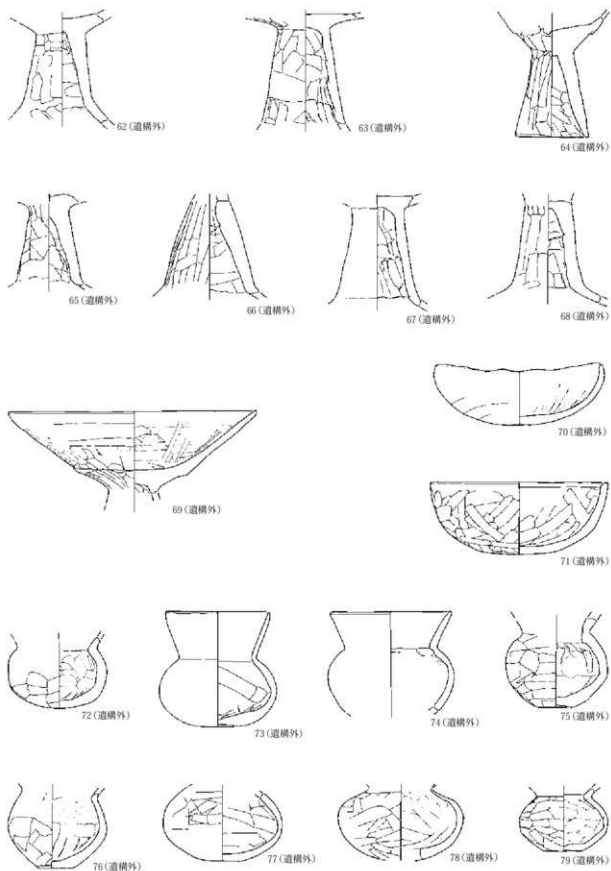
60 (道構外)



61 (道構外)

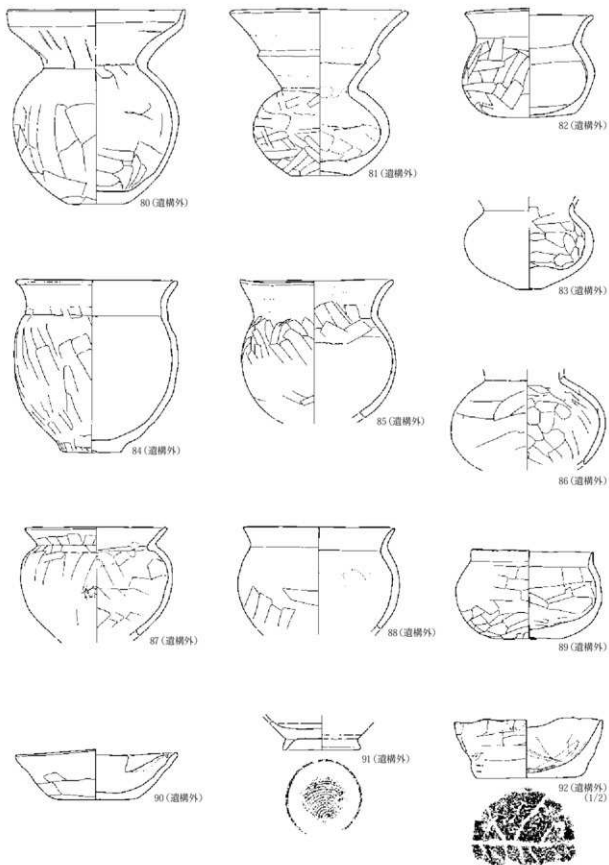
第75図 Ⅲ区出土遺物(6)

第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物



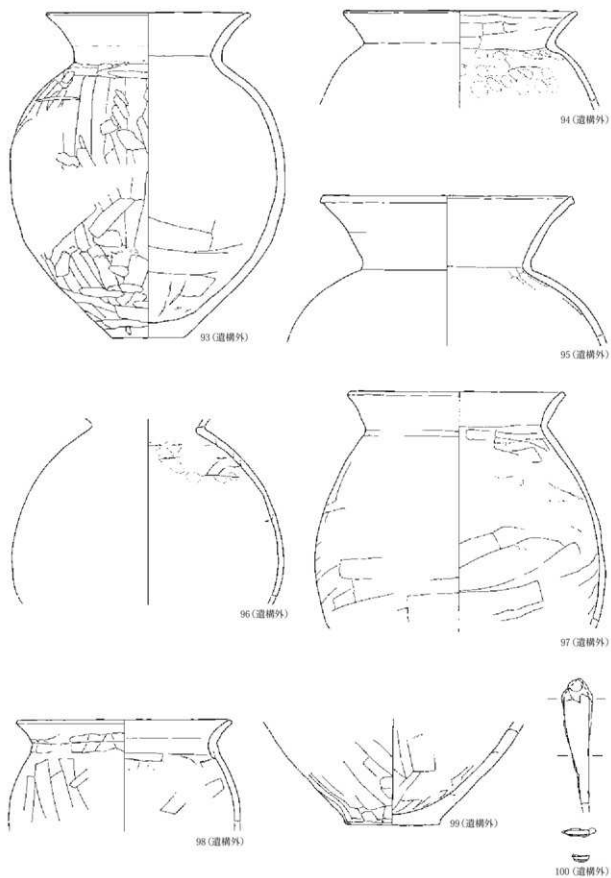
第76図 Ⅲ区出土遺物（7）

第2節 検出された遺構と遺物



第77図 Ⅲ区出土遺物(8)

第4章 Ⅲ区検出された遺構と遺物



第78図 Ⅲ区出土遺物(9)

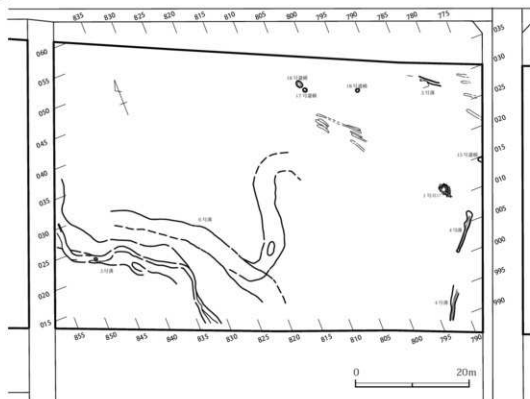
第5章 IV区検出された遺構と遺物

第1節 調査の概要

IV区は、現地表標高が73m程で、調査区の北西から南東に緩やかに傾斜している。本地区は、平成14年度・15年度に調査を行った。用地の関係から南北に二分割し平成14年度に南側部分と縄文時代面を残して終了させた。平成15年度に南側部分と縄文時代面の調査を行った。調査区の大半が縄文の文化層面まで削平されており、北東寄りにAs-B軽石の堆積が僅かに見られるが、表土からの耕作により攪乱されている状況であった。一部As-B軽石が残るところがあり、水田と思われる遺構を確認したが、作図しておらず詳細は不明である。写真のみ掲載した。検出された遺構の内訳は、古墳時代土坑3基、水路3条、井戸1基、古代の井戸1基、古墳時代～古代の小河川1条である。

古墳時代では、Ⅱ区・Ⅲ区から続く小河川が、調査区を北西から南東方向に蛇行して横断している。この流路は、As-C軽石を含む堆積土に埋もれており、古墳時代以前からのものと考えられる。河道からは、古墳時代前期の土器が多量に出土している。調査区の東側では、南北に縦断する水路が検出されている。古代の井戸などが調査区の東側で検出しているが、近年の土地改良により削平されているため、検出遺構が少なく、当時の状況把握ができない。

検出された遺構はさほど多くなく、調査区を縦断する古墳時代の流路が大半である。検出された遺物は、古墳時代前期の土器を主としている。特にS字口縁台付甕が目立った。その他に、高環、器台、碗などが出土している。



第79図 IV区全体図

第2節 検出された遺構と遺物

15号遺構 (80図・PL27)

円形の土坑。長軸(0.52)m、短軸0.76m、深さ0.58m。主軸N-48°-W。

16号遺構 (80図・PL27)

円形で、断面皿状になる土坑。長軸0.77m、短軸0.70m、深さ0.08m。主軸N-21°-W。古墳時代。

17号遺構 (80図・PL27)

礫多い、井戸と考えられる。楕円形を呈する。長軸1.32m、短軸0.93、深さ0.32m。主軸N-20°-W。古墳時代。

18号遺構 (80図・PL27)

円形の土坑。長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.24m。主軸N-68°-E。検出面の状況から古墳時代のものである。

1号井戸 (80図)

壁面に礫を積み上げて井戸を構築している。長軸3.16m、短軸1.87m、深さ1.87m。主軸N-25°-W。古代。

3号溝 (81図)

調査区北東にある。掘り込みが浅いため溝の一部のみ検出された。、断面皿状になる。水路。

4号溝 (81図・PL27)

調査区の東側を南北方向に作られる。確認面からの掘り込みが浅いため、断続的になっている。掘り込みの角度は緩やかで、底面に所々深い部分があるが水の浸食によるものと考えられる。出土遺物は見られなかった。

5号溝 (81図・PL27)

調査区の西南部に東西に蛇行する。底面は凹凸が多く、水による浸食がみられる。6号溝に続く。

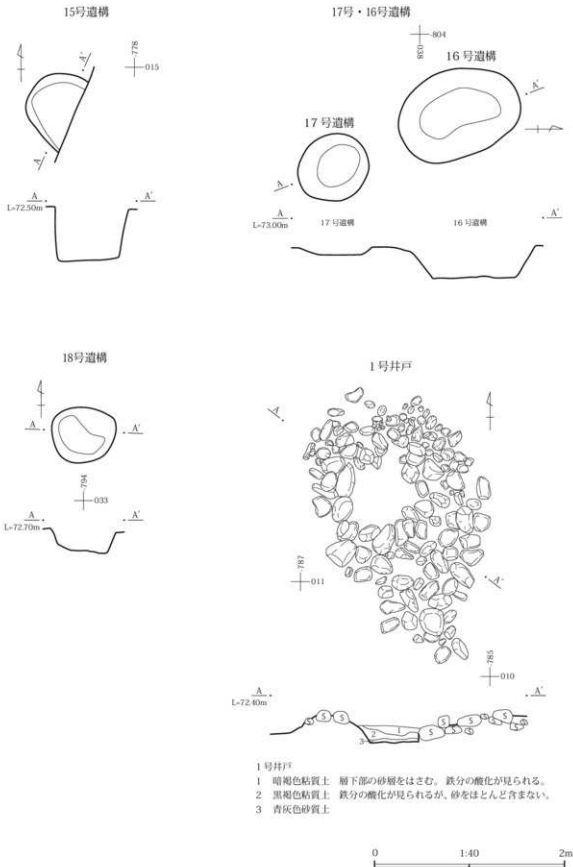
6号溝 (81図・PL27)

東西に蛇行する。底面は凹凸が多く、水による浸食がみられる。古墳時代～古代の土師器が多く出土している。覆土下層にIrr-FA軽石、上層にAs-B軽石層があることから、古墳時代から古代にかけて存続した溝である。

表8 IV区遺構一覧表

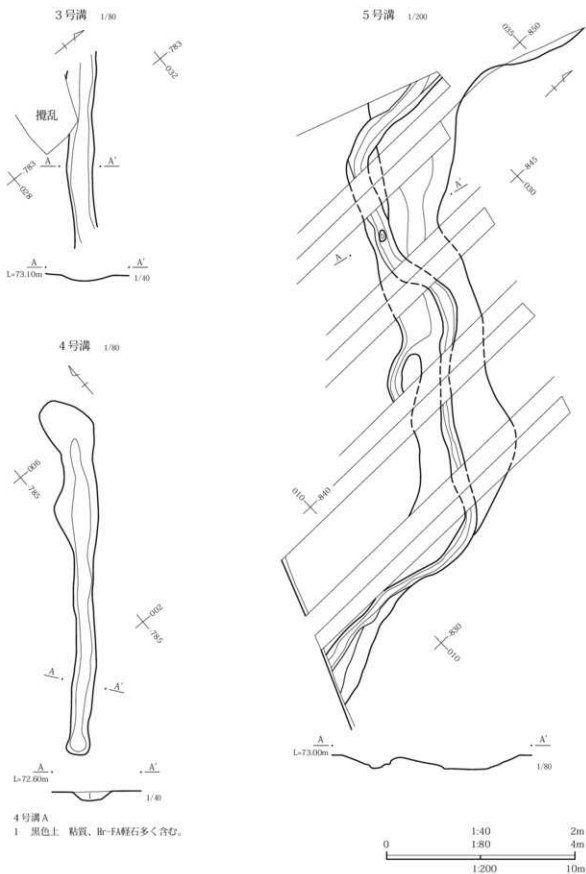
遺構名	遺構種類	図	PL	検出位置 X	検出位置 Y	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期・備考
15号遺構	土坑	80	Z7	38014- 38015	44778- 44779	楕円形	N-48°-W	(0.52)	0.76	0.58	土師器小片	古墳時代
16号遺構	土坑	80	Z7	38036- 38038	44802- 44803	楕円形	N-21°-W	0.77	0.7	0.08	土師器小片	古墳時代
17号遺構	土坑	80	Z7	38036- 38037	44802	楕円形	N-20°-W	1.32	0.93	0.32	土師器小片	古墳時代
18号遺構	土坑	80	Z7	38033	44793- 44794	楕円形	N-68°-E	0.7	0.6	0.24	土師器小片	古墳時代
1号井戸	井戸	80		38010- 38012	44785- 44786	楕円形	N-25°-W	3.16	1.87	(0.18)	土師器小片	古代
3号溝	水路	81		44781- 38030	44781- 44783	直線	N-50°-W	(4.24)	0.52	0.1	土師器小片	古墳時代
4号溝	水路	81	Z7	38000- 38006	44782- 44788	直線	N-40°-E	(7.58)	0.38~ 1.04	0.1	無し	古墳時代
5号溝	水路	81	Z7	38004- 38038	44831- 44852	蛇行	N-51°-W N-0°	(32.6)	3.5~ 12.1	0.36	土師器小片	古墳時代
6号溝	水路	82	Z7	38008- 38029	44819- 44852	蛇行	N-45°-W N-30°-E	(44.6)	3.6	0.68	土師器鬘、 須恵器環	古墳～古代

第2節 検出された遺構と遺物

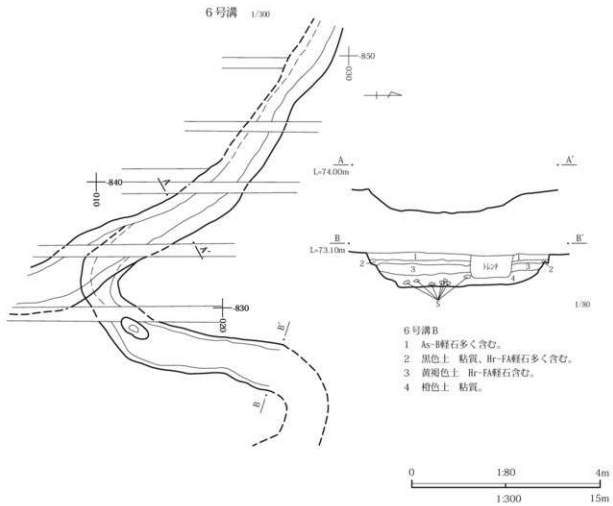


第80図 IV区15号～18号遺構・1号井戸

第5章 IV区検出された遺構と遺物



第81図 IV区3号～5号溝



第82図 IV区 6号溝

第5章 IV区検出された遺構と遺物

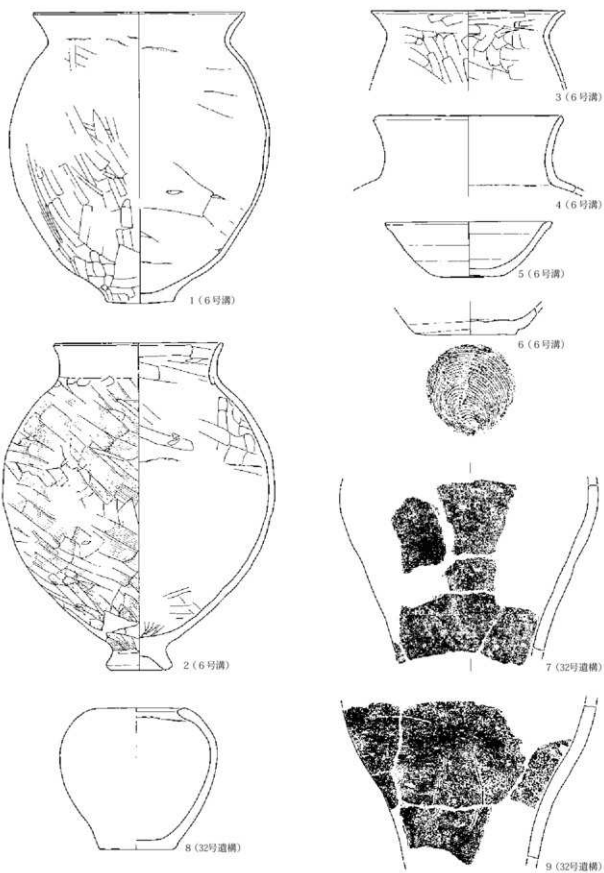
表9 IV区出土遺物観察表

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	83 72	土師器 甕	口縁部～ 底部1/2	6号溝	(16.6) (5.3) 22.8	粗砂、白色・ 黒色粒。普通。	にぶい・橙 7.5YR7/4	外面圓筒形整形。全体に摩滅が多く整形など不鮮明。	煤付着
2	83 72	土師器 台付甕	3/4	6号溝	(13.2) (5.2) 25.7	細砂、白色粒。 普通。	にぶい赤褐 2.5YR4/2	底部に小形の台が付く。胴部外面刷毛目右下方の 整形。	煤付着
3	83 72	土師器 甕	口縁部 1/4	6号溝	15.4 — (5.6)	細砂、細かい 黒色粒。良好。	浅黄 5Y7/3	外面洗擦で。	
4	83 72	土師器 甕	口縁部 1/4	6号溝	(15.0) — (6.0)	細砂。不良。	浅黄 5Y7/3	全体に摩滅が多く整形など不鮮明。	
5	83 72	須恵器 環	1/3	6号溝	13.2 6.0 4.3	粗砂、白色粒。 良好。	褐灰 10YR6/1	回転ロクロ成形。底面右回転糸切り。	
6	83 72	須恵器 環	底部	6号溝	— 7.0 (2.1)	粗砂、良好。	緑灰 10G5/1	回転ロクロ成形。底面右回転糸切り。	
7	83 72	壺	胴部破片	32号遺構	— — (13.1)	粗砂、φ1mm の小石。不良。	にぶい・橙 5YR7/4	無文。	劣生
8	83 72	壺	胴部～ 底部	32号遺構	— 5.9 11.2	細砂。不良。	淡橙 5YR6/3	全体に摩滅が多く整形不明	劣生
9	83 72	壺	胴部破片	32号遺構	— — (12.0)	細砂、φ1mm の小石。普通。	にぶい・橙 5YR7/4	無文。	劣生
10	84 72	土師器 高環	脚部	旧河道	13.8 (9.7)	粗砂、φ1mm の小石・黒色 粒。普通。	にぶい黄褐 10YR7/3	外面撫で整形。内面絞り痕残る。全体に摩滅が多く 整形など不鮮明。	
11	84 72	土師器 高環	脚部	旧河道	— (10.0)	粗砂。普通。	淡橙 5YR8/3	外面履位の磨き整形。内面輪積み痕。	外面 赤色塗彩
12	84 72	土師器 高環	脚部	旧河道	— (10.3)	細砂、白色粒。 普通。	明黄褐 10YR7/6	外面撫で整形。内面輪積み痕残る。指跡による撫で 整形。	
13	84 72	土師器 高環	脚部	旧河道	— (9.7)	細砂、白色粒。 普通。	淡橙 5YR8/3	外面履位の磨き整形。内面輪積み痕。	
14	84 73	土師器 高環	脚部	旧河道	10.2 (7.5)	粗砂、白色・ 黒色粒。良好。	にぶい・橙 7.5YR7/3	外面履位の撫で整形。内面撫で整形。	外面 赤色塗彩
15	84 73	土師器 壺	胴部～ 底部1/3	旧河道	8.2 (16.2)	細砂。良好。	にぶい・橙 7.5YR7/3	外面上下の撫で整形。	
16	84 73	土師器 壺	底部	旧河道	4.6 (3.1)	細砂。良好。	明黄褐 5YR7/2	無文。	
17	84 73	S字口縁 台付甕	口縁部～ 肩部片	旧河道	(15.0) — (4.4)	細砂。良好。	浅黄橙 7.5YR8/3	外面肩部左下方に刷毛目整形。	
18	84 73	S字口縁 台付甕	台部	旧河道	(12.0) (5.5)	粗砂、白色・ 黒色粒。普通。	にぶい・橙 7.5YR7/3	外面履位の撫で整形。台部内面端部折り返し。内面 撫で整形。	
19	84 73	土師器 壺	口縁部	旧河道	(14.6) — (5.3)	細砂、黒色粒。 良好。	淡黄 2.5Y8/4	口縁直立気味に立ち上がる。折り返し口縁。横位の 撫で整形。口縁部指頭痕。	
20	85 73	土師器 環	一部欠損	遺構外	6.5 — (5.3)	粗砂、細かい 黒色粒。良好。	明赤褐 5YK5/6	外面洗削り整形。口縁内面に稜を持つ。底部丸底。	

第2節 検出された遺構と遺物

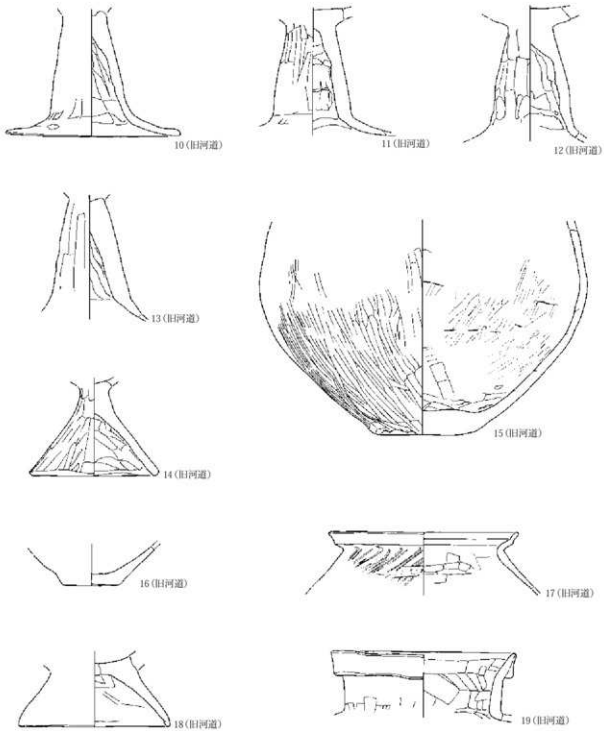
遺物 No	図 Pl	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
21	85 73	土師器 甕	一部欠損	遺構外	13.2 3.9 6.3	粗砂、φ1～ 2mmの小石・ 白色粒、不良。	にぶい、橙 5YR6/4	全体に摩滅が多く整形不明。	
22	85 73	壺	胴部～ 底部1/3	遺構外	— (3.8) (6.4)	粗砂、不良。	明褐色 5YR7/2	外面刷毛目整形。	弥生
23	85 73	土師器 甕	口縁部～ 肩部1/3	遺構外	— (16.1) — (8.9)	粗砂、φ1～ 2mmの小石、 良好。	にぶい、橙 5YR6/3	口縁部輪積み痕。胴部外面右下の刷毛目整形。	
24	85 73	壺	口縁部～ 胴部破片	遺構外	— (8.8)	粗砂、良好。	にぶい、赤褐 5YR5/4	縄文施文後沈澱による斜線。	弥生
25	85 73	S字口縁 台付甕	胴部～ 台部	遺構外	— (10.0) (19.7)	粗砂、白色・ 黒色粒、普通。	灰白 10YR7/1	胴部外面刷毛目整形。台部内面端部折り返し。	
26	85 73	土師器 壺	口縁部～ 胴部	遺構外	— (15.2) — (14.1)	粗砂、白色・ 黒色粒、普通。	暗褐 10YR3/4	胴部外面刷毛目整形。	
27	85 73	土師器 壺	口縁部	遺構外	27.4 — (6.75)	粗砂、黒色粒、 普通。	橙 7.5YR6/6	折り返し口縁。全体に摩滅が多い。	
28	85 73	土師器 壺	胴部～ 底部	遺構外	— 18.3 (12.1)	粗砂、良好。	明黄褐 10YR6/6	外面撫で整形。	外面 煤付着
29	85 73	土師器 甕	胴部～ 底部	遺構外	— (3.4) (7.3)	粗砂、良好。	橙 7.5YR6/6	底面が若干上げ底になる。全体に摩滅が多く整形等 不鮮明。	外面 煤付着
30	85 73	須恵器 高台付杯	完形	遺構外	14.4 6.3 5.6	粗砂、φ1mm 未満の小石、 良好。	灰白 7.5Y7/1	回転口クロ成形。底部回転糸切り。高台貼り付け、 墨書有り。	
31	85 73	土師器 高杯	脚部	遺構外	— (8.8)	粗砂、普通。	淡橙 5YR8/3	外面撫で整形。内面輪積み痕。	
32	85 73	泥面子	完形	遺構外	縦2.9cm、 横3.7cm、 厚30.8cm	粗砂、良好。	淡黄 2.5Y8/4	型押しによる成形。	近世
33	85 73	釘	破片	遺構外	長さ6.65cm、幅0.8cm、 厚み1.0cm、重量13.0g			頭部、先端部欠損。断面角形。	近世

第5章 IV区検出された遺構と遺物



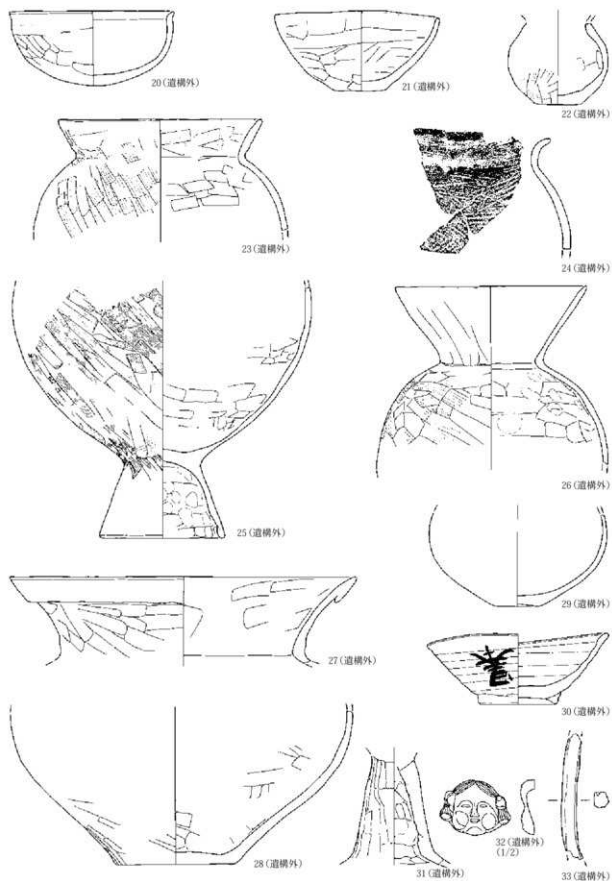
第83図 IV区出土遺物(1)

第2節 検出された遺構と遺物



第84図 IV区出土遺物(2)

第5章 IV区検出された遺構と遺物



第85図 IV区出土遺物(3)

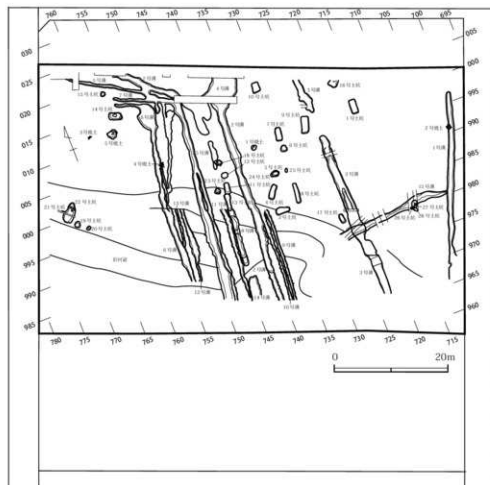
第6章 V区検出された遺構と遺物

第1節 調査の概要

V区は、現地地表標高が72m程で、調査区の北西から南東に緩やかに傾斜している。本調査区は、平成14年度・15年度に調査を行った。用地の関係から南北に二分割し、平成14年度は、北側部分の古墳時代面までの調査を行い、平成15年度に南側部分も含めて調査を行った。V区の調査では、As-軽石は、表土からの耕作により攪乱されている状況であった。Hr-FA軽石層は、本調査区でははっきりしたものは確認出来なかった。検出された遺構は、二次堆積したAs-B軽石を覆土中に含むものが多く、近世以降のものである。検出された遺構の内訳は、近世以降の地割り区画溝15条、土坑28基、焼土跡5箇所などである。

調査区の北側に、西側のIV区から続く古墳時代の小河川が一部見られた他、古墳時代・古代の遺構は確認されなかった。本地区から検出された遺構は、近世の溝が主体であった。溝は、耕作地の地割り区画のもので、ほぼ南北方向に作られている。同じく貯蔵穴についても主軸が溝と同じ向きであることから、これらの遺構は同時期に作られた一連のものと考えられる。この地割り溝は、近世における耕作地の地割り区画の様相を説明する一端となる。

出土した遺物は、古墳時代前期の土器、古代の木器、鉄斧。近世の銭などである。



第86図 V区全体図

第2節 検出された遺構と遺物

1号土坑 (87図・PL30)

調査区北東寄りにある。形状は、長方形を呈する。底面は比較的平坦である。覆土は、As-B 軽石混じりの1層の堆積で人為的である。出土遺物は、縄文土器片が少量出土している。イモ穴と考えられる。長軸2.53m、短軸1.16m、深さ0.36m。主軸N-0°。

3号土坑 (87図・PL30)

調査区のほぼ中央に位置する。形状は、長方形を基本とするが、北側で弧を描く。底面はほぼ平坦である。As-B 軽石混じり覆土の堆積は人為的である。土器器小片が出土している。イモ穴と考えられる。長軸2.48m、短軸0.8m、深さ0.43m。主軸N-88°-W。

4号土坑 (87図・PL30)

調査区のほぼ中央に位置する。形状は、長方形を基本とする。底面はほぼ平坦である。As-B 軽石混じり覆土の堆積は人為的である。土器器小片が出土している。イモ穴と考えられる。長軸2.64m、短軸0.9m、深さ0.42m。主軸N-39°-E。

5号土坑 (87図・PL30)

調査区のほぼ中央に位置する。形状は、ほぼ円形を呈する。24号土坑と重複する。掘り込みは比較的急角度で掘り込まれ、底面に凹凸が多い。覆土中には、As-B 軽石混じりの堆積土がブロック状にはいることから人為的な埋没と考えられる。出土遺物は見られなく、性格不明の土坑である。長軸1.18m、短軸1.02m、深さ0.6m。主軸N-14°-E。

6号土坑 (87図・PL30)

調査区中央北より7号土坑の南に位置する。形状は、不整形円形を呈する。掘り込みは比較的急角度で掘り込まれ、底面は比較的平坦である。底面には、礫が検出された。覆土中には、As-B 軽石混じりの堆積土がブロック状にはいることから人為的な埋没と考えられる。出土遺物は見られなく、性格不明の土坑である。長軸1.14m、短軸1.04m、深さ0.74m。主軸N-20°-E。

7号土坑 (87図・PL30)

調査区中央北寄りにある。形状は、長方形を呈する。底面は比較的平坦である。覆土は1層で、As-B 軽石混じり土がブロック状に堆積していることから人為的な埋没である。形状や堆積状況から、イモ穴と考えられる。長軸2.32m、短軸1.05m、深さ0.26m。主軸N-11°-E。

8号土坑 (87図・PL30)

調査区ほぼ中央にある。形状は、長方形を呈する。底面は比較的平坦である。覆土は1層で、As-B 軽石混じりの灰黄褐色土がブロック状に堆積していることから人為的な埋没である。形状や堆積状況からイモ穴と考えられる。長軸3.56m、短軸0.78m、深さ0.26m。主軸N-8°-E。

9号土坑 (87図・PL30)

調査区ほぼ中央にある。形状は、長方形を呈する。底面は比較的平坦である。覆土は1層で、As-B 軽石混じりの灰黄褐色土がブロック状に堆積していることから人為的な埋没である。形状や堆積状況からイモ穴と考えられる。長軸3.0m、短軸1.24m、深さ0.20m。主軸N-16°-E。

10号土坑 (88図・PL31)

調査区中央北側にある。形状は、長方形を呈する。底面は比較的平坦である。覆土は2層あり、1層に暗

褐色土がブロック状に堆積していることから人為的な埋没である。形状や堆積状況からイモ穴と考えられる。長軸1.74m、短軸1.21m、深さ0.38m。主軸N-2°-E。

11号土坑 (88図・PL31)

調査区中央西寄りにある。形状は、長方形を呈する。底面は湾曲している。覆土は1層にAs-B軽石混じりの暗褐色土がブロック状に堆積していることから人為的な埋没である。形状や堆積状況からイモ穴と考えられる。長軸1.98m、短軸0.98m、深さ0.21m。主軸N-12°-E。

12号土坑 (88図・PL31)

調査区中央西寄りの11号土坑北側にある。形状は、ほぼ円形を呈する。掘り込みは、急角度に掘られ、底面に凹凸が見られる。土坑の堆積土は褐色土がブロック状に入ることなどから人為的である。性格不明の土坑である。長軸1.16m、短軸1.0m、深さ0.6m。主軸N-32°-E。

13号土坑 (88図・PL31)

調査区中央西寄り、11号土坑の南にある。形状は、北側が幅の広がる長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。覆土は1層に黒褐色土がブロック状に堆積していることから人為的な埋没である。形状や堆積状況からイモ穴と考えられる。長軸3.02m、短軸0.62m、深さ0.42m。主軸N-9°-E。

14号土坑 (88図・PL31)

調査区北西部寄りにある。形状は、長方形を呈する。底面は湾曲している。覆土は1層に黒褐色土がブロック状に堆積していることから人為的な埋没である。形状や堆積状況からイモ穴と考えられる。土坑の南東隅からは、近世のコネ鉢が出土している。長軸3.36m、短軸1.24m、深さ0.51m。主軸N-70°-W。

15号土坑 (88図・PL31)

調査区北西部際にある。形状は、ほぼ円形を呈する。掘り込みは浅く、底面は皿状になる。遺構覆土の1層は、炭化物があることから焼き火跡と思われる。φ0.8m、深さ0.12m。

16号土坑 (88図・PL31)

東寄り調査区北壁側、北半部は調査区外にある。形状は方形を呈すると思われる。掘り込みは浅く、底面は比較的平坦で、皿状を呈する。遺構内からは、細かい土師器片が少量出土している。性格は不明である。現状で、長軸(1.38)m、短軸1.4m、深さ0.24m。主軸N-56°-W。

17号土坑 (88図・PL32)

調査区中央東寄りにある。形状は、長方形を呈する。底面は湾曲している。覆土は1層に黒褐色土がブロック状に堆積していることから人為的な埋没である。形状や堆積状況からイモ穴と考えられる。長軸1.62m、短軸0.72m、深さ0.51m。主軸N-8°-W。

18号土坑 (89図・PL32)

調査区中央西寄りにある。不整形で掘り込みも浅く、底面に凹凸が見られる。出土遺物は見られなかった。性格不明である。長軸1.42m、短軸1.04m、深さ0.1m。主軸N-50°-W。

19号土坑 (89図・PL32)

調査区西寄りにある。楕円形を呈し、皿状に掘り込まれている。出土遺物は見られなかった。性格不明の土坑である。長軸1.08m、短軸0.98m、深さ0.19m。主軸N-33°-E。

20号土坑 (89図・PL32)

調査区西寄りにある。楕円形を呈し、掘り込みは深い。出土遺物は見られなかった。性格不明の土坑である。長軸0.78m、短軸0.58m、深さ0.35m。主軸N-69°-E。

第6章 V区検出された遺構と遺物

21号土坑 (89図・PL32)

調査区西寄りにある。22号土坑と重複している。本遺構が新しい。不整形を呈する。掘り込みは緩やかで底面は皿状になり比較的平坦である。性格不明。長軸0.32m、短軸0.08m、深さ0.08m。主軸N-49°-W。

22号土坑 (89図)

調査区西寄りにある。21号土坑と重複している。本遺構が古い。長方形を呈し、掘り込みは急角度である。底面は比較的平坦である。遺構の北側には、礫が出土している。性格不明。長軸1.82m、短軸0.9m、深さ0.2m。主軸N-40°-E。

23号土坑 (89図・PL32)

調査区中央西寄りにある。隅丸方形を呈し、掘り込みは緩やかである。底面は、平坦ではなく湾曲している。出土遺物は見られなく、性格不明である。一辺0.95m、深さ0.26m。主軸N-33°-E。

24号土坑 (89図)

調査区のほぼ中央に位置する。形状は、楕円形を呈する。5号土坑と重複する。掘り込みは浅く、底面に凹凸が多い。覆土中には、焼土と炭化物が多く含むことから焼き火跡と考えられる。長軸0.78m、短軸0.4m、深さ0.08m。主軸N-90°。

25号土坑 (89図)

調査区のほぼ中央に位置する。形状は、楕円形で、すり鉢状に掘り込まれている。性格不明。長軸0.68m、短軸0.4m、深さ0.08m。主軸N-24°-E。

26号土坑 (89図・PL33)

調査区東端にある。ほぼ円形を呈し、すり鉢状に掘り込まれている。性格不明。長軸0.4m、短軸0.36m、深さ0.08m。主軸N-35°-W。

27号土坑 (89図・PL33)

調査区東端にある。不整形で、土坑内に円形の凹みを持つ。覆土中に炭化物、焼土を含むことから焼き火跡と考えられる。長軸1.29m、短軸0.89m、深さ0.12m。主軸N-25°-E。

28号土坑 (89図・PL33)

調査区東端にある。楕円形を呈し、すり鉢状に掘り込まれている。覆土中に炭化物、焼土を含むことから焼き火跡と考えられる。長軸0.88m、短軸0.38m、深さ0.08m。主軸N-48°-W。

1号焼土 (90図・PL33)

調査区中央北よりにある。φ0.9m程の範囲に炭化物、焼土が散らばる。焼き火跡と考えられる。長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.08m。主軸N-60°-E。

2号焼土 (90図)

調査区東寄り1号溝と重複している。本遺構が新しい。φ0.6m程の範囲に炭化物、焼土、礫が認められる。掘り込みは浅く皿状になる。長軸0.66m、短軸0.64m、深さ0.14m。主軸N-25°-W。

3号焼土 (90図・PL33)

調査区西よりにφ0.55m程の範囲に炭化物と焼土の散らばりが認められる。掘り込みは浅く皿状になる。長軸0.55m、短軸0.2m、深さ0.16m。主軸N-70°-E。

4号焼土 (90図・PL33)

調査区西よりに炭化物と焼土の散らばりが認められる。掘り込みは浅く凹凸が見られる。6号溝と重複しているが本遺構が新しい。長軸1.28m、短軸0.64m、深さ0.1m。主軸N-40°-E。

5号焼土 (90図・PL33)

調査区北西3号焼土に隣接する。φ1.7m程の範囲に炭化物が散らばり、礫が置かれる。長軸1.7m、短軸1.65m、深さ0.13m。主軸N-55°-E。

1号溝 (91図・PL34)

調査区の東側に現在の道路と平行して作られている。掘り込みは浅く、断面は皿状になる。地割り区画の溝と考えられる。

2号・4号～15号溝 (90・92図・PL34～PL36)

調査区のほぼ中央を南北に平行に作られている。掘り込みは浅く、底面は凹凸が見られる。地割り区画、或いは道路の溝と考えられる。4号、5号、7号溝はこれに直行する。

3号溝 (91図・PL34)

調査区の中央に南北に作られる。掘り込みは浅く、断面は皿状になる。2号溝と併行しており、地割り区画の溝と考えられる。須恵器の環が出土している。

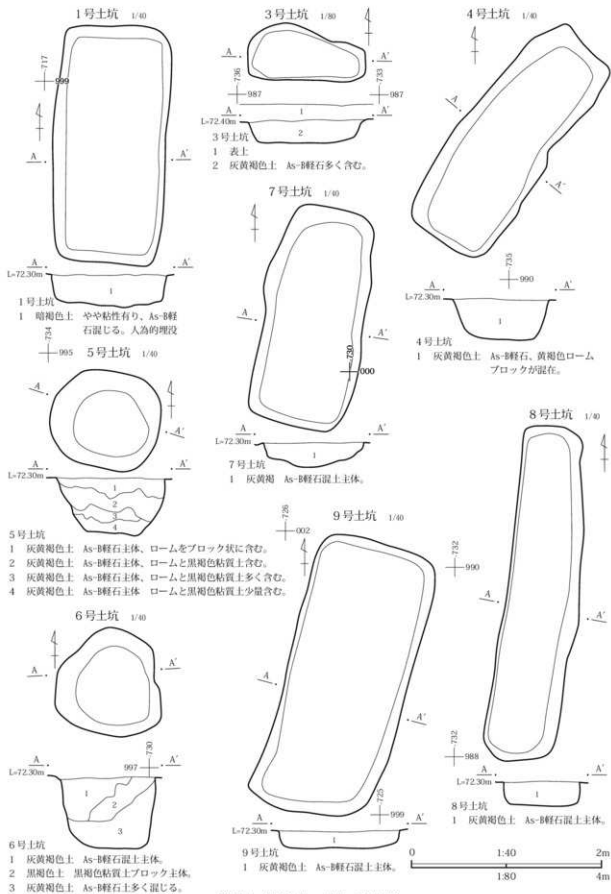
表10 V区遺構一覧表

遺構名	遺構種類	図	PL	検出位置 X	検出位置 Y	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期・備考
1号土坑	貯蔵穴	87	30	37999- 38001	44715- 44716	長方形	N-0°	2.53	1.16	0.36	縄文土器小片・ 土師器小片	古代以降
3号土坑	貯蔵穴	87	30	37987- 37988	44733- 44735	不整形	N-88°-W	2.48	0.8	0.43	土師器小片	古代以降
4号土坑	貯蔵穴	87	30	37990- 37992	44733- 44736	長方形	N-39°-E	2.64	0.9	0.42	土師器小片	古代以降
5号土坑	土坑	87	30	37993- 37994	44733- 44734	ほぼ円形	N-14°-E	1.18	1.02	0.6	土師器小片	古代以降
6号土坑	土坑	87	30	37997- 37998	44729- 44730	不整形	N-20°-E	1.14	1.04	0.74	土師器小片	古代以降
7号土坑	貯蔵穴	87	30	37999- 38001	44729- 44730	長方形	N-11°-E	2.32	1.05	0.26	土師器小片	古代以降
8号土坑	貯蔵穴	87	30	37988- 37991	44730- 44731	長方形	N-8°-E	3.56	0.78	0.26	土師器小片	古代以降
9号土坑	貯蔵穴	87	30	37999- 38002	44724- 44726	長方形	N-16°-E	3.04	1.24	0.2	土師器小片	古代以降
10号土坑	貯蔵穴	88	31	38008- 38010	44730- 44731	長方形	N-2°-E	1.74	1.21	0.38	土師器小片	古代以降
11号土坑	貯蔵穴	88	31	37993- 37995	44741- 44742	長方形	N-12°-E	1.98	0.98	0.21	土師器小片	古代以降
12号土坑	土坑	88	31	37996- 37997	44741- 44742	ほぼ円形	N-32°-E	1.16	1.0	0.6	縄文土器小片・ 土師器小片	古代以降
13号土坑	貯蔵穴	88	31	37991- 37994	44742- 44743	長方形	N-9°-E	3.02	0.62	0.42	土師器小片	古代以降
14号土坑	貯蔵穴	88	31	38013- 38014	44754- 44757	長方形	N-70°-W	3.36	1.24	0.51	土師器小片	古代以降
15号土坑	焼土痕	88	31	38018- 38019	44756- 44757	円形	N-40°-E	0.8	0.8	0.12	土師器小片	古代以降
16号土坑	土坑	88	31	38004- 38006	44717- 44719	方形	N-56°-W (1.38)	1.4	1.4	0.24	土師器小片	古代以降
17号土坑	貯蔵穴	88	32	37981- 37983	44724- 44725	長方形	N-8°-W	1.62	0.72	0.51	縄文土器小片・ 土師器小片	古代以降
18号土坑	土坑	89	32	37999- 38001	44741- 44743	不整形	N-50°-W	1.42	1.04	0.1	土師器小片	古代以降
19号土坑	土坑	89	32	37998- 37999	44768- 44769	楕円形	N-33°-E	1.08	0.98	0.19	土師器小片	古代以降

第6章 V区検出された遺構と遺物

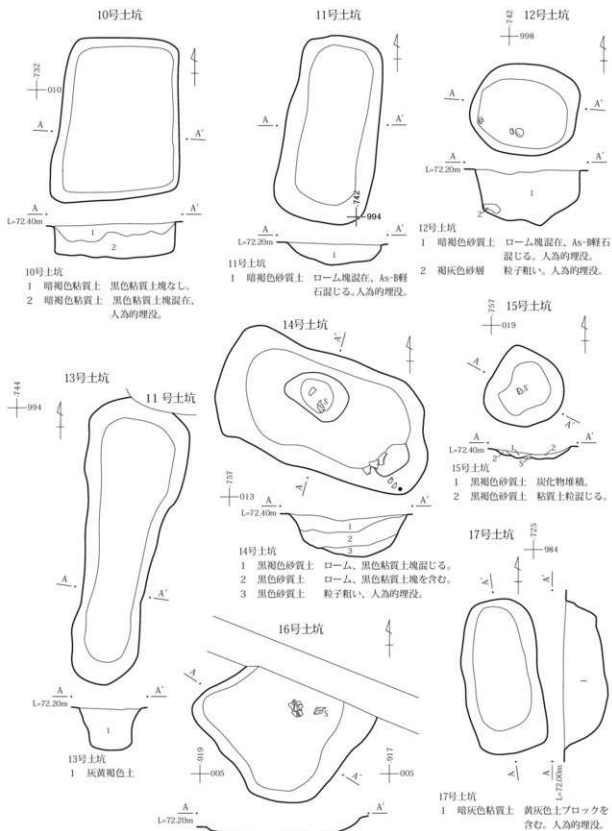
遺構名	遺構種類	図	PL	検出位置 X	検出位置 Y	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期・備考
20号土坑	土坑	89	32	37997- 37998	44767- 44768	楕円形	N-69° -E	0.78	0.58	0.35	土師器小片	古代以降
21号土坑	土坑	89	32	38000- 38001	44770- 44771	楕円形	N-49° -E	0.32	(0.08)	0.08	土師器小片	古代以降
22号土坑	土坑	89	32	37999- 38001	44768- 44770	楕円形	N-40° -E	1.82	0.9	0.2	土師器小片	古代以降
23号土坑	土坑	89	32	37994- 37995	44743- 44744	隅丸方形	N-33° -E	0.95	0.95	0.26	土師器小片	古代以降
24号土坑	埴土痕	89		37992- 37994	44732- 44734	楕円形	N-90°	0.78	0.4	0.08	土師器小片	古代以降
25号土坑	土坑	89		37992- 37993	44731	楕円形	N-24° -E	0.68	0.4	0.08	土師器小片	古代以降
26号土坑	土坑	89	33	37979- 37980	44713- 44714	ほぼ円形	N-35° -W	0.4	0.36	0.08	土師器小片	古代以降
27号土坑	埴土痕	89	33	37979- 37980	44711- 44713	不整形	N-25° -W	1.29	0.89	0.12	縄文土器小片・ 土師器小片	古代以降
28号土坑	埴土痕	89	33	37978- 37979	44712- 44713	楕円形	N-48° -W	0.88	0.38	0.08	土師器小片	古代以降
1号埴土	埴土痕	90	33	37999- 38000	44734- 44736	ほぼ円形	N-60° -E	0.9	0.8	0.08	土師器小片	古代以降
2号埴土	埴土痕	90		37990- 37991	44700- 44702	不整形	N-25° -W	0.66	0.64	0.14	土師器小片	古代以降
3号埴土	埴土痕	90	33	38011- 38012	44761- 44762	不整形	N-70° -E	0.55	(0.2)	0.16	土師器小片	古代以降
4号埴土	埴土痕	90	33	38002- 38003	44751- 44752	不整形	N-40° -E	1.28	0.64	0.1	土師器小片	古代以降
5号埴土	埴土痕	90	33	38010- 38011	44756- 44758	不整形	N-55° -E	1.7	1.65	0.13	土師器小片	古代以降
1号溝	区画溝	91	34	37965- 37966	44699- 44710	直線	N-21° -E	(32.9)	0.5 ~ 1.2	0.16	土師器小片	古代以降
2号溝	区画溝	92	34	37973- 38021	44740- 44754	直線	N-47° -W N-4° -E	(49.1)	0.9 ~ 3.4	0.21	土師器小片	古代以降
3号溝	区画溝	91	34	37967- 38008	44721- 44724	直線	N-2° -W	(41.3)	1.1 ~ 2.5	0.25	土師器小片	古代以降
4号溝	区画溝	91		38009- 38015	44734- 44739	不整形	N-35° -E	(3.5)	4.2 ~ 5.1	0.12	土師器小片	古代以降
5号溝	区画溝	92	35	37976- 38023	44744- 44761	直線	N-58° -W N-7° -E	(57.5)	0.8 ~ 2.5	0.18 ~ 0.28	土師器小片	古代以降
6号溝	区画溝	92		37981- 38015	44749- 44755	直線	N-59° -W N-11° -E	(38.0)	0.8 ~ 3.3	0.08	土師器小片	古代以降
7号溝	区画溝	92		38012- 38017	44745- 44755	直線	N-65° -W	(10.75)	0.8 ~ 1.1	0.12	土師器小片	古代以降
8号溝	区画溝	92	35	37980- 37991	44742- 44744	直線	N-4° -E	(10.5)	0.6 ~ 1.2	0.18	土師器小片	古代以降
9号溝	区画溝	92	35	37972- 37988	44736- 44738	直線	N-3° -E	(17.0)	0.7	0.14	土師器小片	古代以降
10号溝	区画溝	92	35	33972- 37988	44737- 44739	直線	N-4° -E	(16.4)	0.4 ~ 0.8	0.1	土師器小片	古代以降
11号溝	区画溝	92		37975- 37992	44743- 44745	直線	N-5° -E	(16.4)	0.4 ~ 1.0	0.12	土師器小片	古代以降
12号溝	区画溝	92		37981- 37994	44750- 44753	直線	N-8° -E	(13.4)	0.3 ~ 1.4	0.1	土師器小片	古代以降
13号溝	区画溝	92		37987- 37994	44751- 44753	直線	N-8° -E	(16.0)	0.6	0.06	土師器小片	古代以降
14号溝	区画溝	92	35	37975- 37979	44743- 44745	直線	N-8° -E	(4.1)	1.5 ~ 2.0	0.2	土師器小片	古代以降
15号溝	区画溝	91	36	37978- 37981	44706- 44727	直線	N-90°	(20.5)	0.8 ~ 1.5	0.26	土師器小片	古代以降

第2節 検出された遺構と遺物

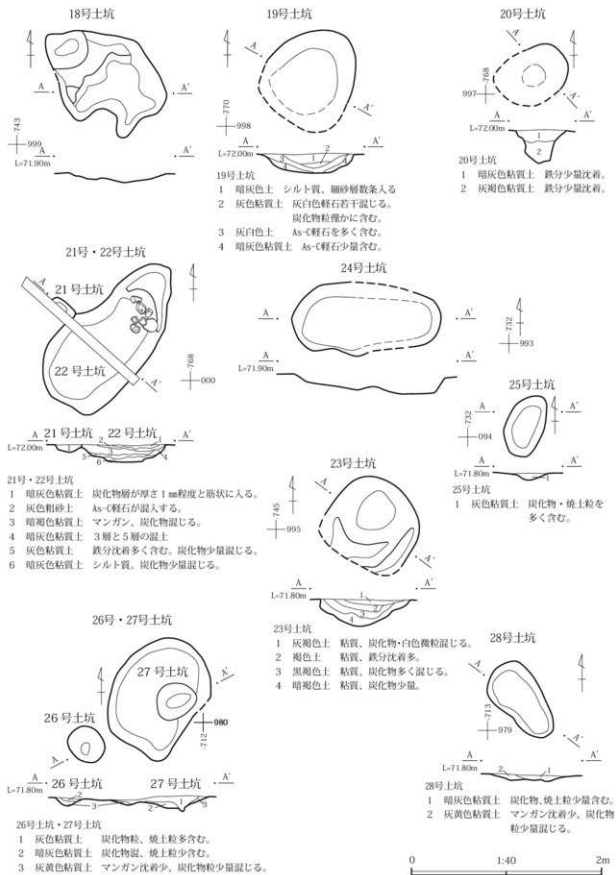


第87図 V区1号・3号～9号土坑

第6章 V区検出された遺構と遺物

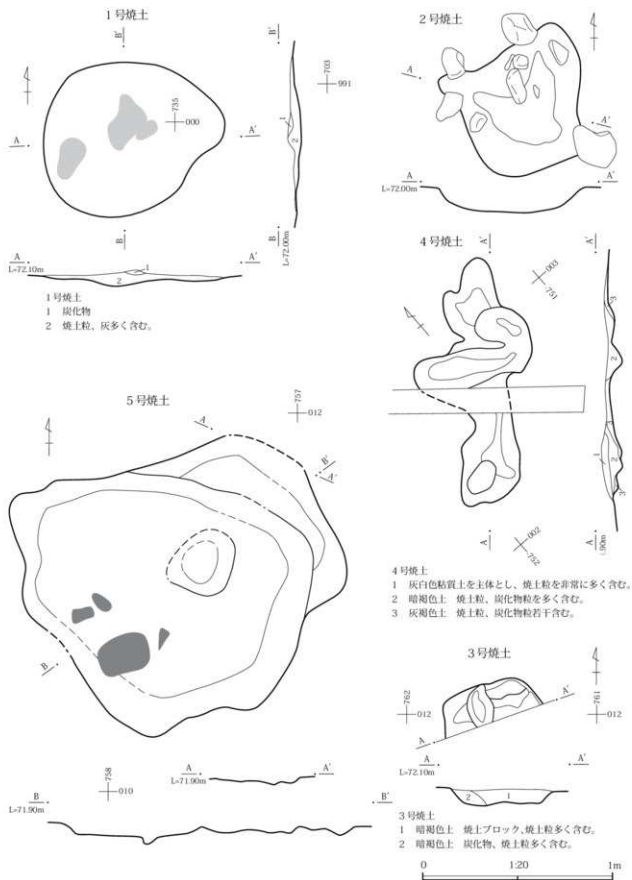


第88図 V区10号～17号土坑

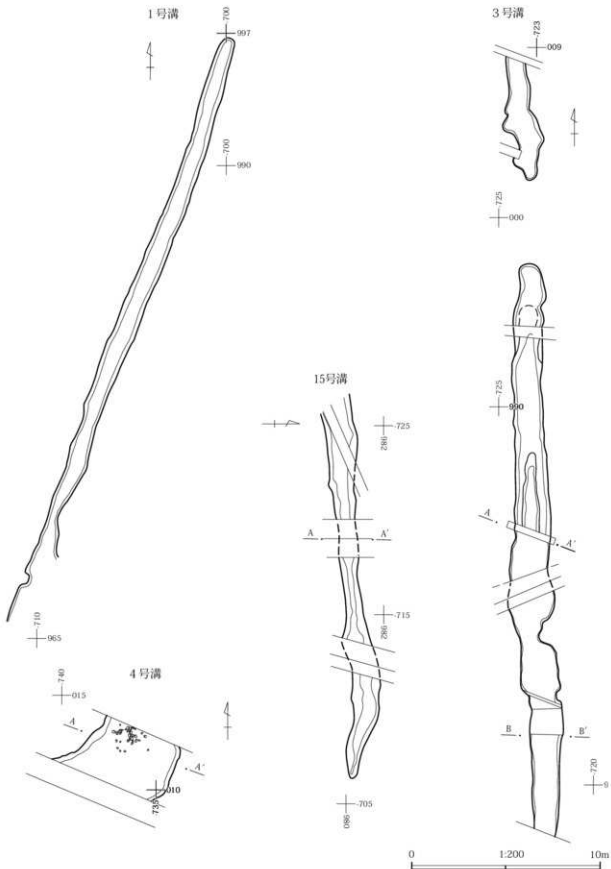


第89図 V区18号～28号土坑

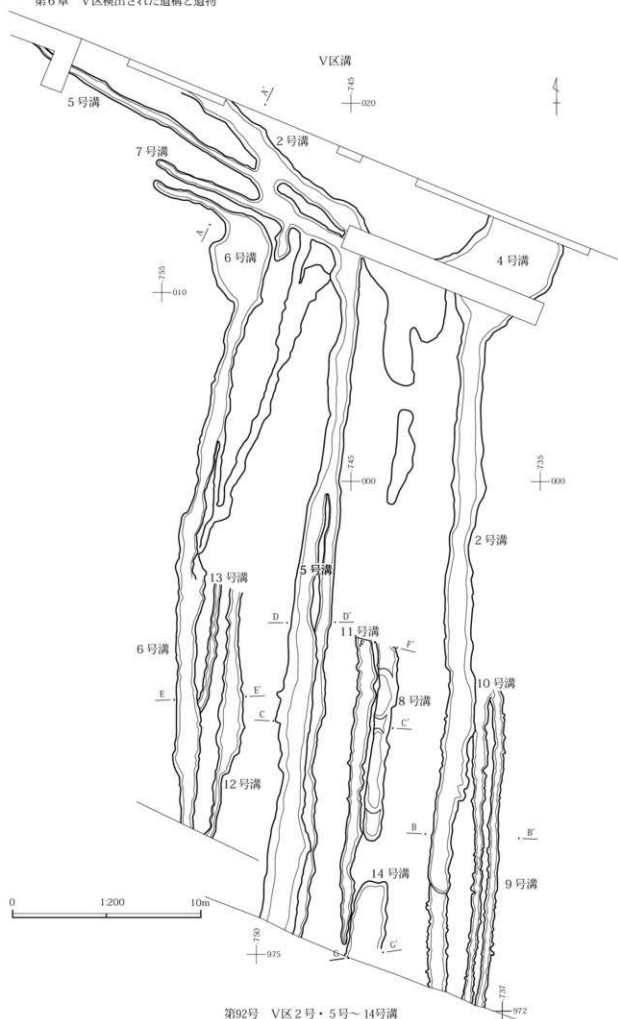
第6章 V区検出された遺構と遺物



第90図 V区1号～5号焼土

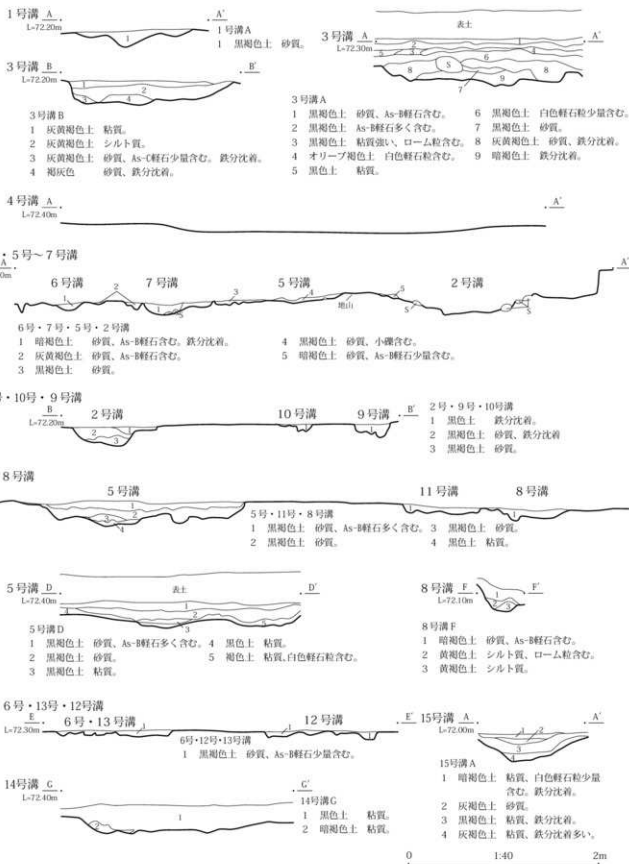


第91図 V区1号・3号・4号・15号溝



第92号 V区2号・5号～14号溝

第2節 検出された遺構と遺物

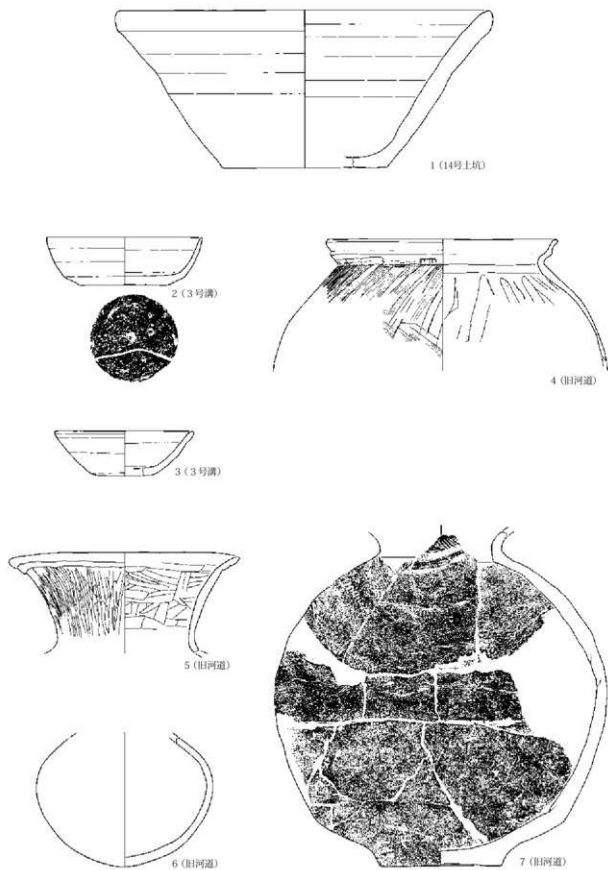


第93図 V区溝セクション・エレベーション図

第6章 V区検出された遺構と遺物

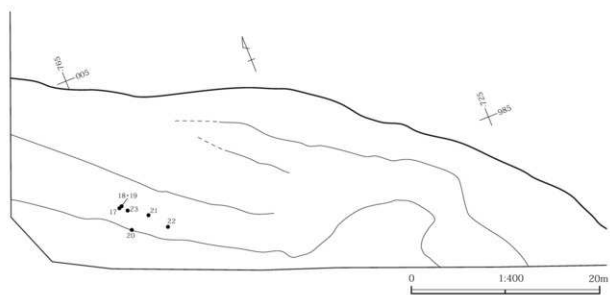
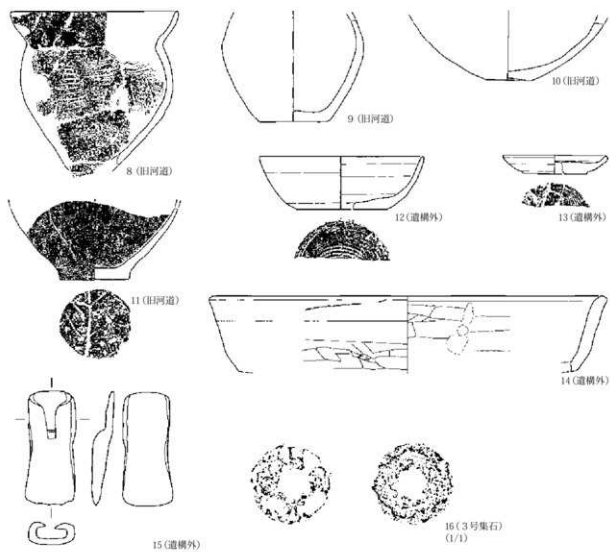
表11 V区出土遺物観察表

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・構成	色調	成・整形の特徴	備考
1	94 74	須恵器 鉢	口縁部～ 胴部1/5	14号土坑	(29.4) (13.0) 12.4	細砂。良好。	灰白 5YR8/1	回転口ロ成形。	内外面 煤付着
2	94 74	須恵器 坏	口縁部～ 底部	3号溝	12.4 7.0 3.8	細砂、φ1～ 2mmの小石、 良好。	灰白 10YR7/1	回転口ロ成形。底面糸切り後造削り。	
3	94 74	須恵器 坏	1/3	3号溝	(11.0) (4.2) 3.5	細砂。細かい 白色粒。良好。	灰白 10YR7/1	回転口ロ成形。底面糸切り後造削り。	
4	94 74	S字口縁 台付甗	口縁部～ 胴部	旧河道	18.2 — (9.7)	粗砂、黒色粒。 普通。	浅黄橙 10YR8/3	肩部に右土刷毛目、胴部左上刷毛目整形。	
5	94 74	土師器 壺	口縁部	旧河道	18.2 — (7.8)	細砂。良好。	灰褐 5YR4/2	折り返し口縁。胴部縦位の磨き。	煤付着
6	94 74	土師器 壺	胴部～ 底部	旧河道	— — (10.1)	粗砂、黒色粒。 不良。	灰白 7.5YR8/2	胴部外面横位の撫で整形。全体に摩滅多い。底部丸底。	
7	94 74	土師器 壺	頸部～ 底部	旧河道	— 9.0 (26.4)	細砂。細かい 黒色粒。普通。	灰白 7.5YR8/2	胴部外面横位の撫で整形。	外面 煤付着
8	95 74	甗	口縁部～ 胴部	旧河道	(13.2) — (12.1)	細砂、黒色粒。 普通。	にぶ赤褐 2.5YR5/3	口縁部は「く」の字状に屈曲し、内湾気味に立ち上 がる。肩部に沈線による縦位区画し、横線が施文さ れる。	共生中期
9	95 74	甗	胴部～ 底部	旧河道	5.4 (8.0)	細砂。不良。	灰白 2.5YR/2	外面造削り整形。	共生
10	95 74	甗	胴部～ 底部	旧河道	— (3.6) (4.5)	細砂、黒色粒。 小石。普通。	にぶい橙 5YR7/3	外面磨き整形。	共生
11	95 74	壺	底部	旧河道	— 5.4 (5.7)	粗砂、細かい 黒色粒。不良。	にぶい橙 5YR7/4	外面磨き整形。	共生 赤色塗彩 木炭着
12	95 74	須恵器 坏	1/2	遺構外	13.0 7.0 4.2	細砂、白色粒。 良好。	青灰 5P86/1	回転口ロ成形。底部造削り。	
13	95 74	カワラケ	1/3	遺構外	8.3 4.5 1.5	細砂。良好。	にぶい橙 5YR7/4	底部回転糸切り。	中世
14	95 74	焙烙	破片	遺構外	(31.4) (26.8) (6.0)	細砂。良好。	にぶい橙 5YR7/3	外面底部に造削り。	中世
遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	法量			特記事項	備考
15	95 74	鉄斧	完形	遺構外	①8.9cm、②3.9cm、③2.1cm、 ④87.0g				
16	95 74	古銭	完形	3号集石	①2.23cm、②1.25cm、③1.84g			「?元通貨」	
17	96 74	木器		旧河道	①52.5cm、②7.3cm、③1.6cm			二股鎌。アサダ。	
18	96 75	木器		旧河道	①28.2cm、②5.7cm、③1.8cm			二股鎌。アサダ。	古墳前期
19	96 75	木器		旧河道	①24.8cm、②6.3cm、③0.7cm			二股鎌。アサダ。	古墳前期
20	96 75	木器		旧河道	①19.7cm、②8.2cm、③2.6cm			平鎌。アサダ。	古墳前期
21	97 75	木器		旧河道	①50.3cm、②15.0cm、③2.0cm			板材。エノキ属。	古墳前期
22	97 75	木器		旧河道	①95.6cm②4.0cm③1.0cm			中央部に孔を持つ。杉。	古墳前期
23	97 75	木器	完形	旧河道	①82.0cm、②14.7cm、③2.7cm			木製鋤。コナラ。	古墳前期

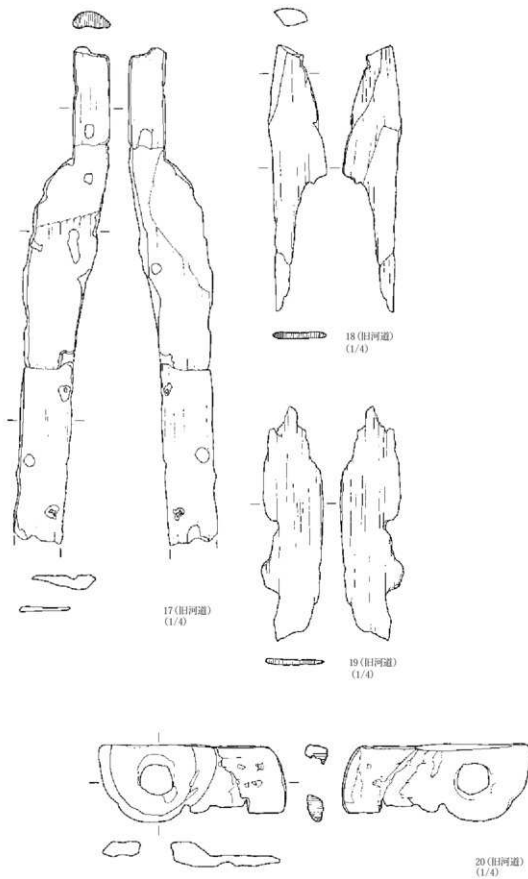


第94図 V区出土遺物(1)

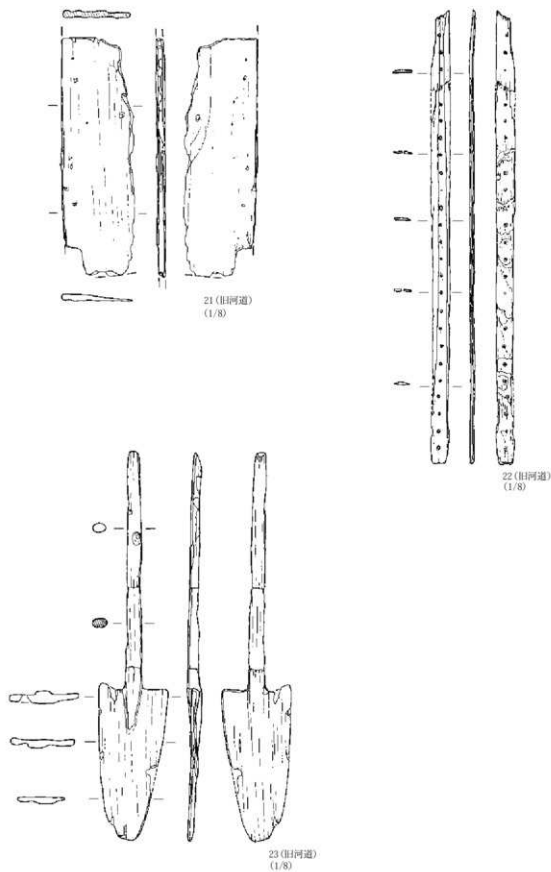
第6章 V区検出された遺構と遺物



第95図 V区出土遺物(2)・旧河道



第96図 V区出土遺物(3)



第97図 V区出土遺物(4)

第7章 VI区検出された遺構と遺物

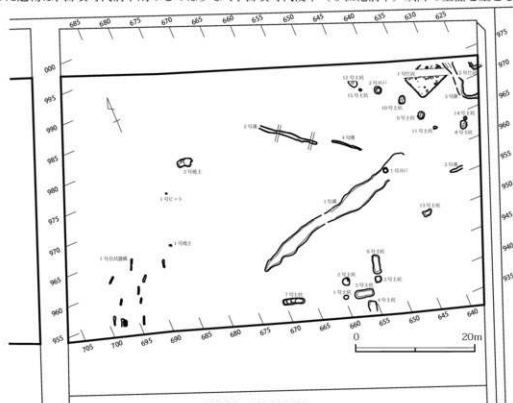
第1節 調査の概要

VI区は、現地表標高が72m～71.5m程で、調査区の北西から南東に緩やかに傾斜している。本地区は、平成15年度に調査を行った。VI区では、他地区に見られたAs-B軽石面は削平されており、表土下に僅かにHr-FA軽石混じり層が見られた。遺構は、この面に掘り込まれており、上層が削平されているため検出されたものは少ない。主な遺構は、古墳時代住居2軒、土坑8基、水路2条。古代の地割りと思われる溝2条、土坑9基、南西部には、畠状遺構、近世の土坑4基などが検出されている。

本調査区からは、北東隅に古墳時代（6世紀前半）の住居址が2軒検出されている。この時期、本調査区から北側方向に若干高くなる微高地があることから、集落が形成されていると考えられる。この集落の南端部分が本区で検出されたと思われる。水路は、集落がある微高地から、南西方向の低地方向へ向かっている。この水路は、形状が不定形で、断面も浅く一定していないため、自然の流路と考えられる。

平安時代では、溝が東西方向（2号・4号溝）が検出された。この溝は、上面が圃場整備による削平を受けているため、地割り区画としての痕跡として検出されたものである。地割り区画一辺の検出のため、区画の方向の確認のみで、全体像はつかめなかった。調査区の南西には、畠の耕作痕による溝が検出されている。溝の方向から地割り区画の2号・4号溝と直行すると思われる。これらのことから、調査区南西部には、平安時代の畠が広がっていたと考えられる。近世の貯蔵穴は、主軸が南北や東西を向いており、V区と同様の遺構と同じ向きであることから、近世においても耕作地であったと考えられる。近世の畠跡は、削平のため確認出来なかった。

出土した遺物は、古墳時代前半期のものは少なく、古墳時代後半（6世紀前半）以降の土器を主としている。



第98図 VI区全体図

第2節 検出された遺構と遺物

1号住居跡 (99図・PL38)

調査区北東隅にある。焼失家屋。東側にカマドを持つが試掘トレンチにより破壊されている。遺構は地山の砂礫層を掘り込んでいる。床面は、砂礫層上にあり、現状では、細かい凹凸が見られる。床面に建築材の炭化したものが僅かに見られた。柱穴は、4本確認された。出土遺物は、古墳時代土師器甕、高坏、坏、須恵器坏等が出土している。遺物は、床面から出土しているもの（1～4、6～8、10）もあるが、細かく破損しており図示できないものも多い。長軸5.9m、短軸4.6m、深さ0.3m程である。柱穴は、 $\phi 25 \sim 35\text{cm}$ 、深さ40～45cmである。主軸N-68°-E。

2号住居跡 (100図・PL39)

調査区北東隅にあり、大部分が調査区域外である。そのため、調査できたのは、住居の北西隅の一部である。遺構は、地山黄褐色シルト層に掘り込まれている。床面は、硬化部分が見られず、調査の結果凹凸の多いものとなってしまった。出土遺物も無く、カマド、柱穴などの施設は検出されなかったため、住居の詳細は不明である。

1号井戸 (100図・PL39)

調査区中央東寄りにある。1号溝と重複している。本遺構が新しい。覆土中にAs-B軽石の混土層が入ることからこれ以降の時期と思われる。ほぼ円形を呈し、掘り込みは急角度で深い。途中で、オーバーハングが見られる。形状から井戸と考えられる。 $\phi 0.9\text{m}$ 、深さ0.84m。

2号井戸 (100図・PL39)

調査区北東部にある。遺構上部の壁面を礫で囲っている。掘り込みは、ほぼ垂直に近く深いため、崩落の危険性があり底面まで調査できなかった。 $\phi 1.38\text{m}$ 、深さ0.74m以上。

1号土坑 (100図・PL40)

調査区南端にある。楕円形を呈する。掘り込みは、急角度で底面は平坦である。長軸0.83m、短軸0.67m、深さ0.3m。主軸N-68°-W。出土遺物は見られなかった。性格不明の遺構である。

2号土坑 (100図・PL40)

調査区南端にある。楕円形を呈する。掘り込みは浅く、底面は平坦である。長軸1.36m、短軸1.27m、深さ0.07m。主軸N-68°-W。出土遺物は見られなかった。性格不明の遺構である。

3号土坑 (100図・PL40)

調査区南端にある。隅丸方形を呈する。掘り込みは、急角度で底面は平坦である。覆土は、褐色土がブロック状に堆積していることから人為的な埋没と考えられる。一辺1.06m、深さ0.32m。主軸N-15°-E。出土遺物は見られなかった。堆積状況からイモ穴と考えられる。

4号土坑 (100図・PL40)

調査区中央南端にある。北半部を試掘トレンチにより壊されている。確認面からは、急角度で掘られ底面は平坦である。As-B軽石や黒色土がブロック状に入ることから、人為的な埋没と考えられる。長軸1.4m、短軸(0.8)m、深さ0.32m。主軸N-11°-E。堆積状況から古代のイモ穴と考えられる。

5号土坑 (100図・PL40)

調査区中央南端にある。形状は、長方形を呈する。確認面からは、急角度で掘られ底面は平坦である。覆土の堆積は、灰褐色土がブロック状に入ることから人為的な埋没と考えられる。堆積状況からイモ穴と考えられ

る。長軸3.3m、短軸1.28m、深さ0.38m。主軸N-79°-W。

6号土坑 (101図・PL40)

調査区中央南端にある。形状は、長方形を呈する。確認面からは、急角度で掘られ底面は平坦である。覆土の堆積は、灰褐色土がブロック状に入ることから人為的な埋没と考えられる。堆積状況からイモ穴と考えられる。長軸3.32m、短軸1.14m、深さ0.42m。主軸N-16°-W。

7号土坑 (101図・PL40)

調査区中央南端にある。形状は、長方形を呈する。確認面からは、急角度で掘られている。底面は、何度か作り直したためか、長方形の凹みが4段に作られている。底面は、平坦である。覆土の堆積は、灰黄褐色土がブロック状に入ることから人為的な埋没と考えられる。堆積状況からイモ穴と考えられる。長軸3.82m、短軸0.95m、深さ0.71m。主軸N-73°-W。

8号土坑 (101図・PL40)

調査区の北東にある。地山の礫層に掘り込まれている。形状は、楕円形を呈する。緩やかな角度で掘り込まれており、底面は凹凸が見られる。堆積土は1層でAs-C軽石を含むことから、古墳時代以降と考えられる。覆土中から縄文土器、須恵器の小片、小形のS字口縁台付甕が出土している。長軸1.45m、短軸1.1m、深さ0.41m。主軸N-38°-E。

9号土坑 (101図・PL41)

調査区の北東にある。地山の礫層に掘り込まれている。形状は、壁面の礫により不整形を呈する。緩やかな角度で掘り込まれ、底面は凹凸が多く見られる。堆積土は1層でAs-C軽石を含むことから、古墳時代以降のものと考えられる。性格不明の遺構である。覆土中から縄文土器、須恵器の小片が僅かに出土している。長軸1.40m、短軸1.03m、深さ0.31m。主軸N-33°-E。

10号土坑 (101図・PL41)

調査区の北東部、1号住居跡の近くにある。形状は楕円形を呈する。長軸1.44m、短軸0.95m、深さ0.28m。主軸N-32°-E。

11号土坑 (101図・PL41)

調査区の北東にある。地山の礫層に掘り込まれている。形状は、不整形を呈する。緩やかな角度で掘り込まれており、断面皿状になる。堆積土は1層でAs-C軽石を含むことから、古墳時代以降と考えられる。覆土中から古墳時代土師器、攪乱によるガラスの小片が僅かに出土している。長軸0.66m、短軸0.35m、深さ0.08m。主軸N-75°-E。

12号土坑 (101図・PL41)

調査区の北東にある。地山の礫層に掘り込まれている。形状は、楕円形を呈する。緩やかな角度で掘り込まれており、底面は凹凸が見られる。堆積土は1層でAs-c軽石を含むことから、古墳時代以降と考えられる。覆土中から縄文土器、須恵器の小片が僅かに出土している。長軸(1.2)m、短軸1.2m、深さ0.49m。主軸N-23°-E。

13号土坑 (101図・PL41)

調査区の北東にある。地山の礫層に掘り込まれている。形状は、不整形を呈する。緩やかな角度で掘り込まれており、底面は凹凸が見られる。堆積土は1層でAs-C軽石を含むことから、古墳時代以降と考えられる。覆土中から縄文土器、須恵器の小片が僅かに出土している。長軸1.65m、短軸0.87m、深さ0.18m。主軸N-90°。

第7章 VI区検出された遺構と遺物

14号土坑 (101図・PL41)

調査区東寄りにある。地山の砂礫層を掘り込んで作られている。形状は、ほぼ円形を呈し、中央に土師器裏が据えられていた。長軸0.64m、短軸0.53m、深さ0.17m。主軸N-10°-E。

15号土坑 (101図・PL41)

調査区の北東にある。地山の礫層に掘り込まれている。形状は、南側に不明な部分があるが、楕円形を呈する。緩やかな角度で掘り込まれており、底面は凹凸が見られる。堆積土は1層で、As-C軽石を含むことから古墳時代以降のものと考えられる。覆土中から縄文土器、須恵器の小片が僅かに出土している。長軸0.48m、短軸0.35m、深さ0.15m。主軸N-27°-E。

1号ピット (102図・PL42)

調査区西側にある。楕円形を呈する。掘り込みは浅く、断面皿状になる。長軸0.26m、短軸0.19m、深さ0.05m。主軸N-54°-W。

1号焼土 (102図・PL42)

調査区中央、東寄りにある。長軸0.45m、短軸0.25mの範囲で焼土が見られた。主軸N-52°-W。焼き火の痕と考えられる。

2号焼土 (102図・PL42)

調査区中央西寄りにある。底面は、礫混じり層を掘り込んでいる。形状は、不整形である。長軸2.7m、短軸1.23m、深さ0.35m。主軸N-87°-W。焼き火の痕と考えられる。

1号溝 (102図・PL42)

調査区中央に南西から北東方向にある。幅1.6～3.2mと一定ではない。掘り込みは、0.4～0.6mあり、底面に凹凸が見られる。水の浸食によるものと考えられる。土師器の小片が多く出土しているが図示できるものはなかった。

2号溝 (102図・PL43)

調査区中央、東西方向にある。延長上に4号溝があり、本溝と一体と思われる。幅0.5～0.8mと一定ではない。掘り込みは浅く、深さ0.1m程で凹凸が見られる。地割り区画に関わるものと思われる。

3号溝 (102図・PL43)

調査区中央東端にある。幅0.5m、深さ0.15m程である。形状が一定ではなく、水の浸食によるものと考えられる。覆土中からは、土師器小片が出土している。

4号溝 (103図・PL43)

調査区中央、東西方向にある。延長上に2号溝があり、本溝と一体と思われる。幅0.2～0.4mと一定ではない。掘り込みは浅く、深さ0.1m程で凹凸が見られる。地割り区画に関わるものと思われる。

5号溝 (103図・PL43)

調査区北東隅にある。蛇行する溝で、幅0.4～1.6m、深さ0.22m、底面に凹凸が見られる。水による浸食が見られることから旧流路と考えられる。

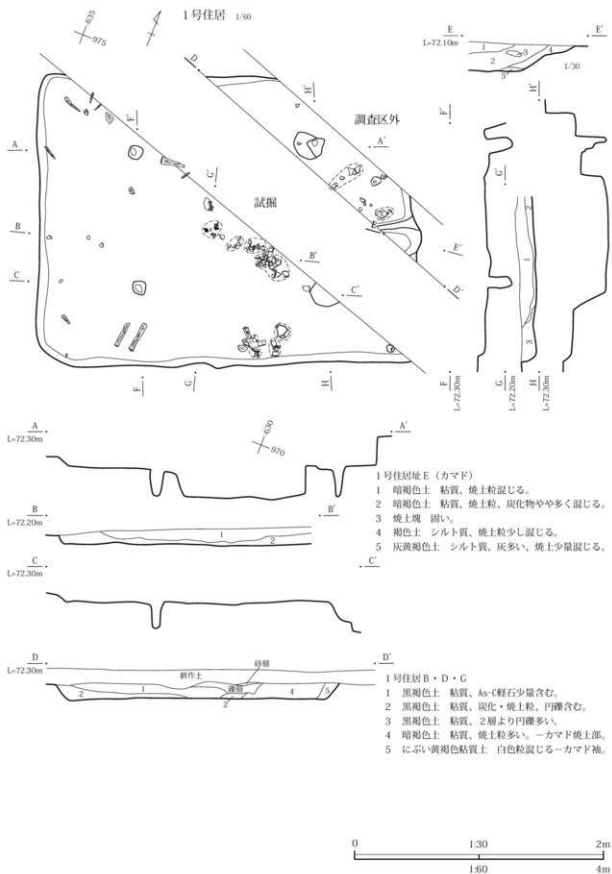
1号畝状遺構 (103図・PL44)

調査区南西部に、幅0.2～0.4mの短い断続的な溝が検出された。断面形と形状から畑の耕作痕と推定される。溝中の覆土から古代以降のものである。

表12 VI区遺構一覧表

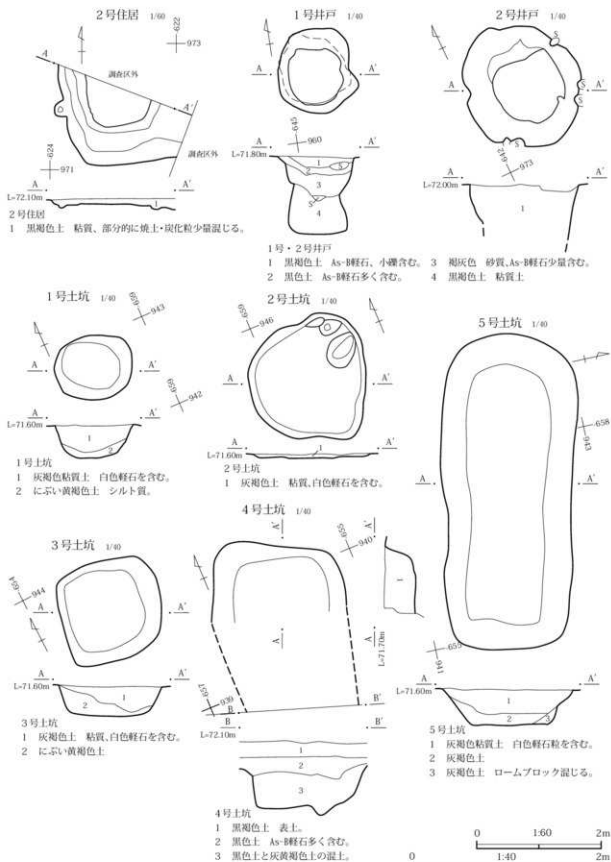
遺構名	遺構種類	図	PL	検出位置 X	検出位置 Y	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期、備考
1号住居	竪穴住居	99	38	37970- 37975	44628- 44635	方形	N-68° -E	5.9	4.6	0.3	土師器、須恵器	古墳時代
2号住居	竪穴住居	100	39	37971- 37972	44621- 44673	方形	N-17° -W	(1.65)	(1.95)	0.15	土師器小片	古墳時代
1号井戸	井戸	100	39	37960- 37961	44644- 44965	円形	N-9° -E	0.9	0.78	0.84	加曾利B少量	古代
2号井戸	井戸	100	39	37974	44639- 44641	ほぼ円形	N-10° -W	1.38	1.23	(0.74)	土師器、須恵器 少量	古代
1号土坑	土坑	100	40	37942- 37943	44659	楕円形	N-68° -W	0.83	0.67	0.3	土師器小片	古代
2号土坑	土坑	100	40	37944- 37945	44657- 44659	ほぼ円形	N-11° -W	1.36	1.27	0.07	土師器小片	古代
3号土坑	貯蔵穴	100	40	37943- 37944	44652- 44654	隅丸方形	N-15° -E	1.06	1.06	0.32	土師器小片	古代以降
4号土坑	貯蔵穴	100	40	37939- 37940	44655- 44656	隅丸方形	N-11° -E	1.4	(0.8)	0.32 ~ 0.44	陶器	古代以降
5号土坑	貯蔵穴	100	40	37941- 37943	44654- 44659	長方形	N-79° -W	3.3	1.28	0.38	縄文土器小片、 土師器小片	古代以降
6号土坑	貯蔵穴	101	40	37944- 37947	44651- 44653	長方形	N-16° -E	3.32	1.14	0.42	土師器、 高環脚部	古代以降
7号土坑	貯蔵穴	101	40	37944- 37946	44666- 44670	長方形	N-73° -W	3.82	0.95 ~ 1.1	0.71	土師器小片	古代以降
8号土坑	土坑	101	40	37962- 37963	44628- 44629	楕円形	N-38° -E	1.45	1.1	0.41	縄文土器小片、 須恵器少量	古墳時代
9号土坑	土坑	101	41	37966- 37967	44634- 44635	楕円形	N-33° -E	1.4	1.03	0.31	土師器小片	古墳時代
10号土坑	土坑	101	41	37970- 37971	44636- 44637	楕円形	N-32° -E	1.44	0.95	0.28	土師器小片	古墳時代
11号土坑	土坑	101	41	37964- 37965	44628- 44629	不整形	N-75° -W	0.66	0.35	0.08	土師器、ガラス	古墳時代
12号土坑	土坑	101	41	37976- 37977	44643- 44644	楕円形	N-23° -W	(1.2)	1.2	0.49	加曾利B少量	古墳時代
13号土坑	土坑	101	41	37950- 37951	44634- 44636	不整形	N-90°	1.65	0.87	0.18	加曾利B少量	古墳時代
14号土坑	土坑	101	41	37963- 37964	44627- 44628	ほぼ円形	N-10° -E	0.64	0.53	0.17	土師器費	古墳時代
15号土坑	土坑	101	41	37975	44643	楕円形	N-50° -W	(0.48)	0.35	0.15	土師器小片	古墳時代
1号 ピット		102	42	37971	44981	ほぼ円形	N-54° -W	0.26	0.19	0.05	土師器小片	古代以降
1号焼土	焼土痕	102	42	37963	44684	楕円形	N-52° -W	0.45	0.25	—	土師器小片	古代以降
2号焼土	焼土痕	102	42	37974- 37976	44675- 44678	不整形	N-87° -W	2.7	1.23	0.35	縄文土器小片、 土師器小片	古代以降
1号 畝状遺構	耕作痕	103	44	37952- 37964	44686- 44699	長方形	N-29° -E	(12.0)	(10.0)	0.4	土師器小片	古代
1号溝	水路	102	42	37952- 37962	44640- 44670	直線	N-73° -E	31.92	1.64 ~ 3.2	0.4 ~ 0.6	土師器小片多い	古墳時代
2号溝	区画溝	102	43	37969- 67977	44652- 44665	直線	N-52° -W	(10.52)	0.5 ~ 0.8	0.1	土師器小片	古代
3号溝	水路	102	43	37950- 37951	44631- 44634	直線	N-90°	(2.38)	0.5	0.15	土師器小片	古墳時代
4号溝	区画溝	103	43	37965- 37969	44647- 44651	直線	N-52° -W	(5.48)	0.2 ~ 0.4	0.1	土師器小片	古代
5号溝	水路	103	43	37966- 37974	44624- 44629	蛇行	N-5° -W N-65° -W	(8.96)	0.4 ~ 1.6	0.22	土師器小片	古墳時代

第7章 VI区検出された遺構と遺物



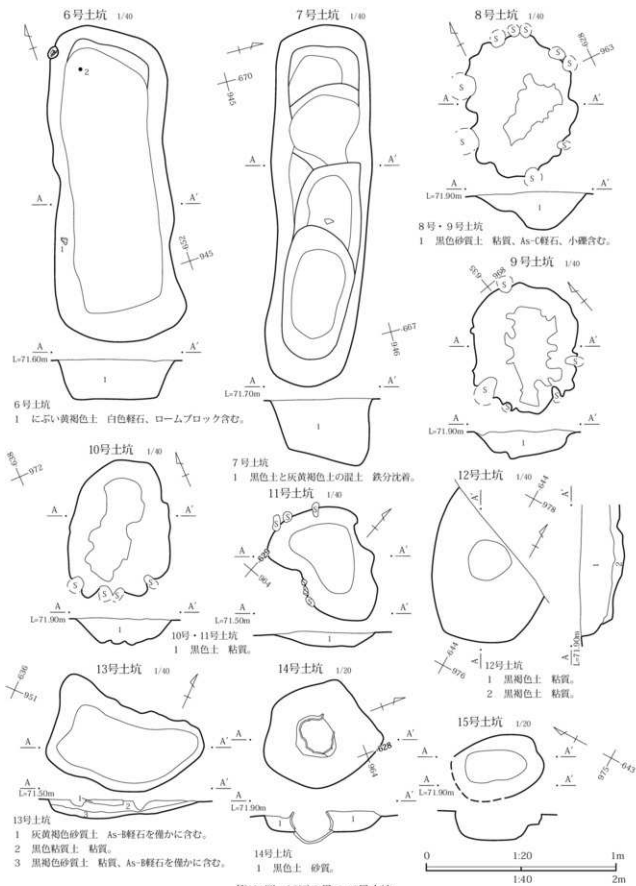
第99図 VI区1号住居

第2節 検出された遺構と遺物

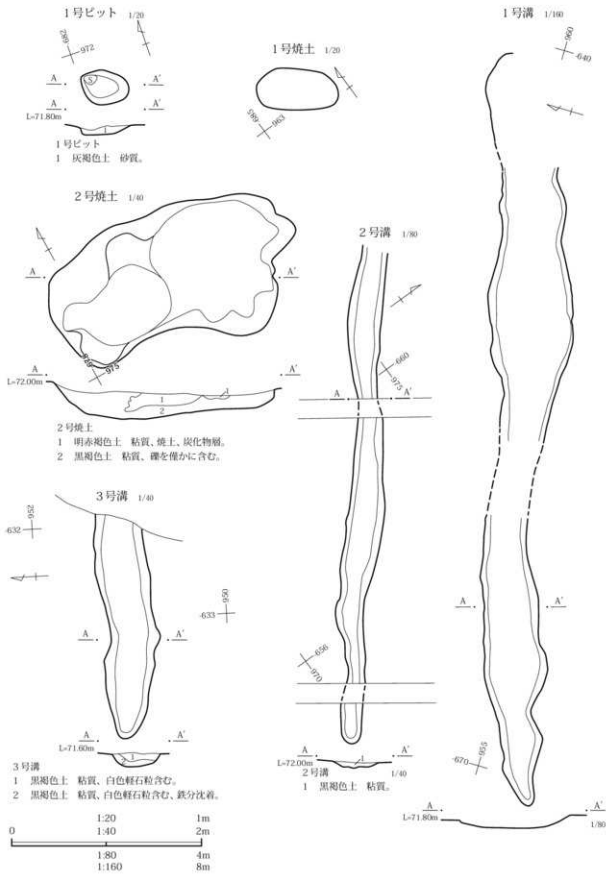


第100図 M区2号住居、1号・2号井戸、1号～5号土坑

第7章 VI区検出された遺構と遺物

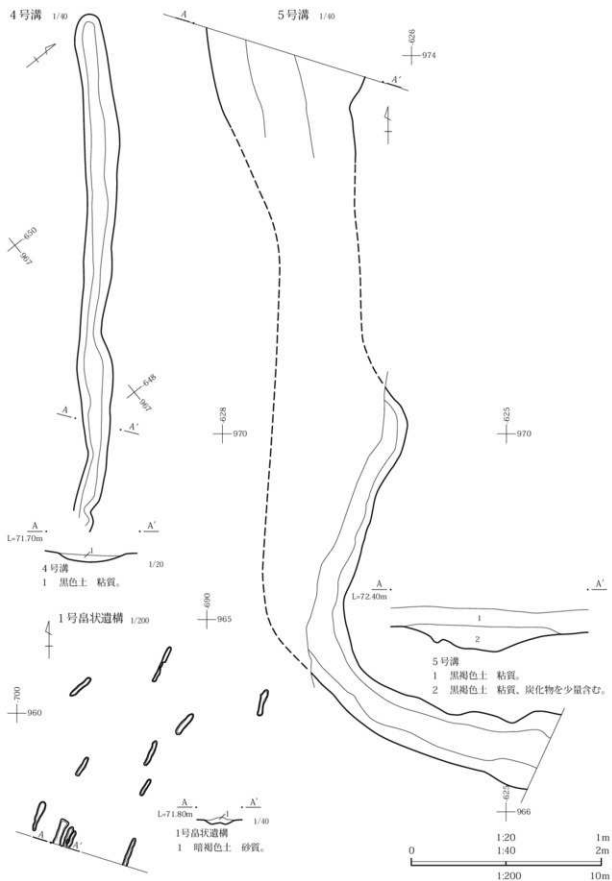


第101図 VI区6号～15号土坑



第102図 VI区1号ピット、1号・2号焼土、1号～3号溝

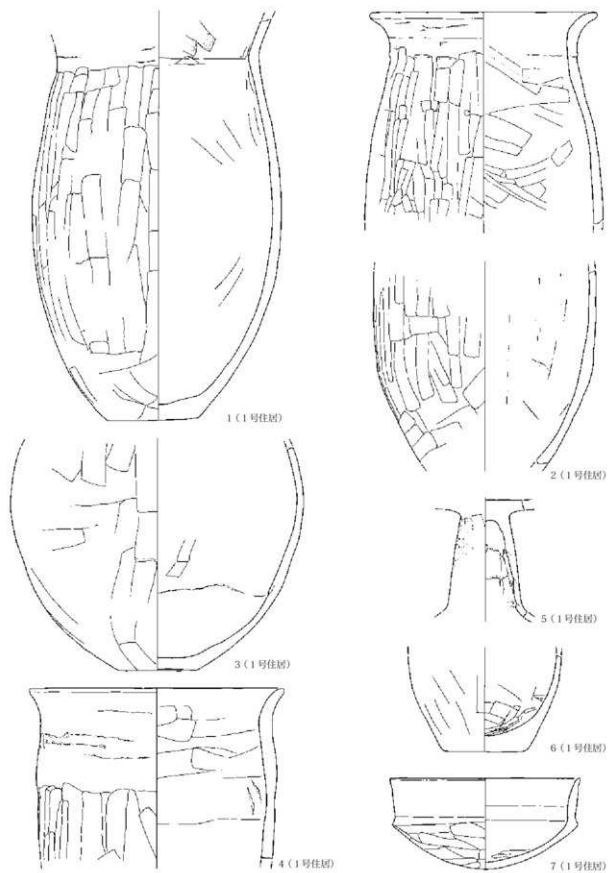
第7章 VI区検出された遺構と遺物



第103図 VI区4号・5号溝、1号竪状遺構

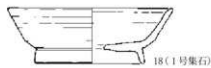
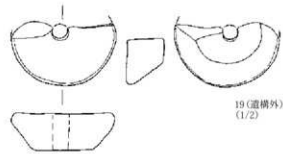
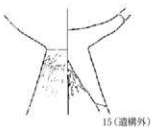
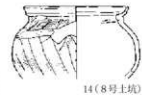
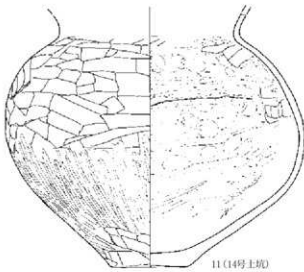
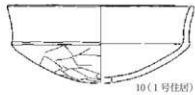
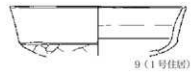
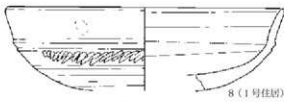
表13 M区出土遺物観察表

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	104 75	土師器 甕	口脣部 欠損	1号住居	— 7.3 (31.7)	細砂、φ1～ 3mmの小石、 良好。	にぶい橙 10YR6/4	胴部外面縦位の磨削り。胴部中程黒褐色。	
2	104 75	土師器 甕	口縁部～ 胴部	1号住居	(18.0) — (32.1)	細砂、φ1～ 2mmの小石、 良好。	明黄褐 10YR7/6	胴部外面縦位の磨削り。胴部中程黒褐色。 内面縦位の磨削り。	口縁部・ 胴部分離
3	104 76	土師器 甕	胴部～ 底部	1号住居	— 6.2 (17.6)	細砂、φ1～ 3mmの小石、 良好。	浅黄橙 7.5YR8/3	胴部外面縦位の磨削り。胴部中程黒褐色。	
4	104 75	土師器 甕	口縁部～ 胴部	1号住居	(20.0) — (13.5)	細砂。良好。	にぶ赤褐 5YR5/3	胴部外面縦位の磨削り。内面縦位の磨削り。	
5	104 75	土師器 高環	脚部	1号住居	— (9.3)	細砂、φ1mm の小石。普通。	橙 7.5YR6/6	胴部外面縦位の磨削り。内面縦位の磨削り。	
6	104 76	土師器 甕	胴部～ 底部	1号住居	— 6.7 (8.7)	粗砂、φ1mm の小石多い、 良好。	にぶ赤褐 5YR4/3	胴部外面縦位の磨削り。	
7	104 76	土師器 環	1/2	1号住居	(15.0) — 7.1	細砂、φ1～ 3mmの小石、 良好。	黄橙 7.5YR7/8	口縁部横撫で。底部外面磨削り。底部内面指頭直による撫で整形。底部丸底。	内面 煤付着
8	105 76	須恵器 環	1/3	1号住居	(21.8) — (6.5)	細砂、細かい 白色粒。良好。	褐灰 7.5YR5/1	回転口ロコ成形。頸部に扇歯状の櫛書き文。	
9	105 76	土師器 環	1/4	1号住居	(14.0) — (3.7)	細砂。良好。	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部横撫で。底部磨削り。	
10	105 76	土師器 環	1/4	1号住居	(14.6) — (6.1)	細砂。良好。	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部横撫で。底部磨削り。	
11	105 76	土師器 壺	口縁部～ 底部	14号上坑	— 5.8 (19.9)	細砂。良好。	明褐灰 7.5YR7/2	肩部から胴部中程縦位の磨削り。下半部縦位の磨削り。	外面 煤付着
12	105 76	土師器 甕	口縁部～ 胴部	11号上坑	(13.4) — (7.0)	細砂、φ1～ 2mm小石、 良好。	橙 2.5YR6/8	口縁部に右下の刷毛目。胴部右下刷毛目。	
13	105 76	甕	肩部破片	8号上坑	— —	細砂。良好。	にぶい褐 7.5YR6/3	右上になる斜位の沈線。	赤生
14	105 76	S字口縁 台付甕	口縁部～ 胴部	8号上坑	(8.2) — (5.2)	細砂。普通。	にぶい橙 5YR7/4	肩部左下刷毛目。肩部に横位の沈線。胴部下平右下刷毛目。	外面 煤付着
15	105 76	土師器 高環	環部～ 脚部	遺構外	— (7.3)	細砂、細かい 黒色粒。普通。	橙 7.5YR6/6	脚部外面縦位の磨削り。脚部内面に指頭による整形痕。	
16	105 76	土師器 小形丸底 土甕	胴部～ 底部	遺構外	(7.4) — 3.8	細砂、細かい 黒色粒。普通。	浅黄橙 7.5YR8/3	外面磨削り整形。内面輪積み痕、磨痕。摩滅多い。	
17	105 76	土師器 小形丸底 壺	口脣部 欠損	遺構外	— (3.7)	粗砂、φ1mm 以下の小石、 普通。	橙 7.5YR7/6	全体に摩滅。	内面 煤付着
18	105 76	須恵器 高台付環	1/2	1号集石	(12.8) (8.4) 4.5	細砂、細かい 白色粒。良好。	灰 N5/	回転口ロコ成形。高台貼り付け。	
19	105 76	土製 紡錘車	1/2	遺構外	大口径部 小径部 φ0.6 φ0.18m	細砂。良好。	にぶ赤褐 2.5YR5/3	丁寧な磨き。	
20	105 76	ガラス 小形瓶	完形	遺構外	1.4 2.5、1.7 5.3			化粧品容器。	近代



第104図 VI区出土遺物(1)

第2節 検出された遺構と遺物



第105図 VI区出土遺物(2)

第8章 VII区検出された遺構と遺物

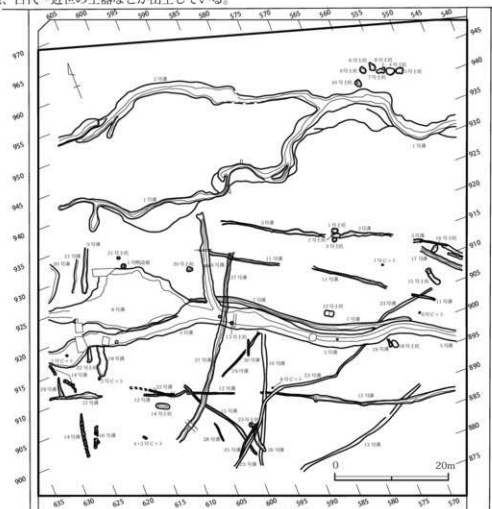
第1節 調査の概要

VII区は、現地標高が71.5m程で、調査区の北西から南東に緩やかに傾斜している。本地区は、平成14年度・15年度に調査を行った。用地の関係から南北に二分割し平成14年度は、北側部分を調査した。平成15年度に南側部分の調査を行った。VII区の調査では、表土からの耕作により攪乱されている状況であったが、一部As-B軽石が残るところが認められた。主な遺構は、古墳時代の小河川1条、溝2条。古代の土坑19基、水路になる溝19条、地割り区画の溝5条、杭列2基、近世水路2条などが検出されている。

古墳時代のものでは、調査区北側を西から東方向に小河川が横断している。この流路は、As-C軽石を含む堆積土に埋もれており、古墳時代以前のもと考えられる。西側で2条であったものが、調査区中程で合流して、1条になっている。流路からは、古墳時代前期の土器が出土している。調査区の中程に南北に縦断する水の流れになる溝が検出されている。検出状況では、途中で止まっており溝の両端がどのようなか把握できなかったが、1号・2号溝とした小河川から水を引き込んで、南へ流した可能性が考えられる。

古代では、東西方向に3号・11号・12号溝がほぼ並行して作られている。これらの溝は、地割りの区画溝で、これに直行するように調査区の南側では、柵列が作られている。耕作の区画単位を表す溝と考えられる。この区画内を近世の水路（5号・6号溝）が、古代の地割り区画を横断し壊しているため、詳細を確認出来なかった。

検出された遺物は、古墳時代前期の土器、近世の溝からは、馬の蹄鉄や銭、キセルの雁首・吸口などの金属器等の他、古代～近世の土器などが出土している。



第106図 VII区全体図

第2節 検出された遺構と遺物

1号土坑 (107図・PL47)

調査区中央東寄りに1号～3号土坑が並んで作られる。形状は、隅丸方形を呈する。確認面から底面に急角度で掘り込まれている。底面に段を持つ。出土遺物は見られなかった。覆土がブロック状に入り人為的な埋没状況から、貯蔵穴と思われる。長軸1.07m、短軸0.76m、深さ0.47m。主軸N-66°-W。

2号土坑 (107図・PL47)

調査区中央東寄りに1号～3号土坑が並んで作られる。形状は、長方形を呈する。確認面から底面に急角度で掘り込まれている。底面はなだらかである。出土遺物は見られなかった。覆土がブロック状に入り人為的な埋没状況から、貯蔵穴と思われる。長軸1.48m、短軸0.72m、深さ0.22m。主軸N-72°-W。

3号土坑 (107図・PL47)

調査区中央東寄りに1号～3号土坑が並んで作られる。形状は、方形を呈する。確認面から底面に急角度で掘り込まれている。底面はなだらかである。出土遺物は見られなかった。覆土がブロック状に入り人為的な埋没状況から、貯蔵穴と思われる。長軸0.77m、短軸0.75m、深さ0.26m。主軸N-58°-E。

4号土坑 (107図・PL47)

調査区北東部に4号～9号土坑が東西方向に並んである。形状は、方形を呈する。確認面から底面に急角度で掘り込まれ、底面は平坦である。覆土がブロック状に入り人為的な埋没状況から、貯蔵穴と思われる。出土遺物は見られなかった。長軸1.5m、短軸1.19m、深さ0.27m。主軸N-57°-W。

5号土坑 (107図・PL47)

調査区北東部に4号～9号土坑が東西方向に並んである。形状は、方形を呈する。急角度で掘り込まれ、底面は平坦である。覆土の状況、形状から貯蔵穴と思われる。出土遺物は見られなかった。長軸1.23m、短軸0.97m、深さ0.13m。主軸N-67°-W。

6号土坑 (107図・PL47)

調査区北東部に4号～9号土坑が東西方向に並んである。形状は、台形を呈する。急角度で掘り込まれ、底面は平坦である。覆土の状況、形状から貯蔵穴と思われる。出土遺物は見られなかった。長軸1.17m、短軸1.02m、深さ0.15m。主軸N-34°-E。

7号土坑 (107図・PL47)

調査区北東部に4号～9号土坑が東西方向に並んである。8号土坑と重複している。形状は、不整形を呈する。緩い角度で掘り込まれ、底面は平坦である。出土遺物は見られなかった。長軸1.47m、短軸0.72m、深さ0.08m。主軸N-35°-W。

8号土坑 (107図・PL47)

調査区北東部に4号～9号土坑が東西方向に並んである。7号土坑と重複している。形状は、不整形を呈する。急角度で掘り込まれ、底面は平坦である。出土遺物は見られなかった。長軸0.53m、短軸0.4m、深さ0.22m。主軸N-34°-E。

9号土坑 (107図・PL48)

調査区北東部に4号～9号土坑が東西方向に並んである。形状は、方形を呈する。急角度で掘り込まれ、底面は平坦である。覆土の状況、形状から貯蔵穴と思われる。出土遺物は見られなかった。長軸1.14m、短軸0.89m、深さ0.18m。主軸N-30°-E。

第8章 VII区検出された遺構と遺物

10号土坑 (107図・PL48)

調査区北東にある。形状は、楕円形を呈する。緩やかな角度で掘り込まれ、底面は、2段になる。底面近くから礫が出土している。覆土に褐色土ブロックが混じり人為的な埋没状況、平面形状から貯蔵穴と思われる。長軸1.32m、短軸1.02m、深さ0.32m。主軸N-10°-W。

12号土坑 (107図・PL48)

調査区中央東寄りにある。形状は、長方形を呈する。急角度で掘り込まれ、底面は平坦である。覆土は、褐色土がブロック状に入ることから人為的な埋没と考えられることから貯蔵穴と考えられる。長軸1.65m、短軸0.89m、深さ0.55m。主軸N-59°-W。

13号土坑 (108図・PL48)

調査区中央にある。形状は、ほぼ円形を呈する。掘り込みは、急角度で深い。覆土中に近現代の瓦が多く入っており、埋め戻す際に廃棄したと考えられる。覆土は単純な堆積である。井戸と考えられる。φ0.56m、深さ0.83m。

14号土坑 (108図・PL49)

調査区中央南寄りにある。形状は、長楕円形を呈する。掘り込みは急角度で、底面は平坦である。覆土は、黄褐色土がブロック状に入ることから人為的な埋没と考えられる。貯蔵穴と考えられる。長軸2.45m、短軸0.95m、深さ0.5m。主軸N-60°-W。

15号土坑 (108図・PL49)

調査区東側にある。形状は、やや湾曲した長楕円形を呈する。急角度で掘り込まれ、底面は平坦である。覆土は、黄褐色土がブロック状に堆積していることから人為的な埋没と考えられる。形状から、二基の土坑が重複した貯蔵穴である。出土遺物は見られなかった。長軸3.47m、短軸0.74m、深さ0.34m。主軸N-80°-W。

16号土坑 (108図・PL49)

調査区東側にあり、17号溝に接している。形状は、楕円形を呈する。急角度で掘り込まれ、底面は平坦である。覆土は、黄褐色土がブロック状に堆積していることから人為的な埋没と考えられる。出土遺物は見られなかった。長軸1.55m、短軸0.89m、深さ0.45m。主軸N-53°-E。

18号土坑 (108図)

調査区の東南寄りにある。形状は、楕円形を呈する。掘り込みは浅く皿状になる。底面は平坦である。覆土は、黄褐色土がブロック状に入る1層のみで、人為的な埋没と考えられる。長軸1.45m、短軸0.85m、深さ0.1m。主軸N-11°-W。

20号土坑 (108図・PL49)

調査区中央西寄りにある。形状は楕円形を呈する。掘り込みは緩やかで、すり鉢状になる。覆土は、黄褐色土がブロック状にはいる1層のみで、人為的な埋没と考えられる。性格は、不明遺構である。長軸1.03m、短軸0.65m、深さ0.3m。主軸N-38°-W。

21号土坑 (108図・PL49)

調査区中央西寄りにある。形状は、楕円形を呈する。掘り込みは緩やかで皿状になる。底面は平坦である。覆土は、1層のみで、黄褐色の小ブロックを含む。長軸0.61m、短軸0.43m、深さ0.9m。主軸N-65°-W。

22号土坑 (108図)

調査区南西寄りにある。形状は、縦長の不整形を呈する。掘り込みは緩やかで浅鉢状になる。底面は平坦である。覆土は、1層のみで、軽石粒を含む土が堆積している。性格は、不明遺構である。長軸2.5m、短軸0.68

m、深さ0.29m。主軸N-22°-E。

23号土坑 (108図・PL49)

調査区中央南寄りにある。形状は不整形を呈する。掘り込みは緩やかで皿状になる。底面は、凹凸が見られる。覆土には、軽石を含む層と黄色土ブロックが堆積している。性格は、不明遺構である。長軸1.02m、短軸0.8m、深さ0.15m。主軸N-45°-W。

2号ピット (109図・PL50)

調査区南西にある。形状は、楕円形を呈する。掘り込みが斜めになり、段を有する。長軸0.57m、短軸0.42m、深さ0.49m。主軸N-47°-E。

3号ピット (109図・PL50)

調査区西端にある。形状は、ほぼ円形を呈する。掘り込みは急角度で掘られ、ほぼ円筒形になる。覆土は、As-B軽石を含む黄褐色土ブロックが入ることから人為的な埋没と考えられる。φ0.37m、深さ0.52m。

4号ピット (109図・PL50)

調査区西南にある。5号ピットと接している。形状は、ほぼ円形を呈する。掘り込みは比較的緩やかな角度で掘られている。覆土には、As-B軽石を含む黄褐色土ブロックが入ることから人為的な埋没と考えられる。φ0.4m、深さ0.19m。

5号ピット (109図・PL50)

調査区西南にある。4号ピットと接している。形状は、ほぼ円形を呈する。掘り込みは比較的緩やかな角度で掘られている。覆土には、As-B軽石を含む黄褐色土ブロックが入ることから人為的な埋没と考えられる。φ0.4m。深さ0.15m。

6号ピット (109図・PL50)

調査区中央東端にある。形状は、ほぼ円形で掘り込みは比較的緩やかな角度で掘られている。覆土は、As-B軽石が堆積する。φ0.3m、深さ0.1m。

7号ピット (109図・PL50)

調査区中央東寄りにある。形状は、ほぼ円形で掘り込みは比較的緩やかな角度で掘られている。覆土は、As-B軽石が堆積する。φ0.3m、深さ0.11m。

8号ピット (109図・PL50)

調査区中央南寄りにある。形状は、ほぼ円形で掘り込みは比較的緩やかな角度で掘られている。覆土は、As-B軽石が堆積する。φ0.23m、深さ0.17m。

1号埋設桶 (109図・PL51)

調査区中央西寄りにある。形状は円形を呈する。中央に桶を据え付けている。桶の底面には礫が円形に並べられている。その下部から骨、銭などが出土している。桶のφ0.9m、高さ0.6m。

1号溝 (110図・PL52)

調査区の北側にある。西から東へ蛇行している。途中で、1号・2号溝は、合流する。断面形はV字状になり、底面に凹凸が見られることから水の流路で浸食によるものと考えられる。古墳時代。

2号溝 (110図・PL52)

調査区の北側にある。西から東へ蛇行している。途中で、1号・2号溝は、合流する。断面形はV字状になり、底面に凹凸が見られることから水の流路で浸食によるものと考えられる。古墳時代。

第8章 VII区検出された遺構と遺物

3号溝 (111図・PL52)

調査区のはぼ中央を東西方向に作られている。断面形は、浅い皿状になる。幅0.5～1mで、11号・12号溝と並行することから地割り区画の溝と考えられる。

5号溝 (111図・PL53)

調査区南側に東西方向に作られている。8号溝と重複している。掘り込みは比較的緩やかな角度で掘られている。底面には、地山の礫が見られる。

6号溝 (111図・PL53)

調査区の中央に南北方向に作られている。5号溝に直行して合流する。掘り込みは、比較的緩やかな角度で掘られている。底面には凹凸や礫が見られる。水の流路と考えられる。

7号溝 (112図・PL53)

調査区のをやや南寄りに5号溝と並行している。掘り込みは比較的緩やかな角度で掘られている。覆土中にAs-B軽石が含まれることから平安時代以降のものである。

8号溝 (112図・PL53・54)

調査区南側に東西方向に作られている。5号溝と重複している。掘り込みは比較的緩やかな角度で掘られている。底面には、地山の礫が見られる。特に、8号溝部分では、底面に礫が多い。陶磁器、瓦など近現代のものも多く出土している。水の流路と考えられる。

11号溝 (114図・PL54)

調査区のはぼ中央を東西方向に作られている。断面形は、浅い皿状になる。幅0.24～0.62mで、3号・12号溝と並行することから地割り区画の溝と考えられる。

12号溝 (113図・PL54)

調査区のはぼ中央を東西方向に作られている。断面形は、浅い皿状になる。幅0.4～1.4mで、3号・11号溝と並行することから地割り区画の溝と考えられる。

14号溝 (113図・PL55)

調査区南西隅にある。16号溝と並行している。南北方向に作られている。溝内に小ピットが連続して作られている。杭もしくは、低木の根痕と考えられる。

15号溝 (114図・PL55)

調査区中央南側にある。南北方向に作られている。幅0.5m程で掘り込みが浅く底面が平坦な溝である。地割り区画の溝と考えられる。

16号溝 (114図・PL55)

調査区南西隅にある。14号溝と並行している。南北方向に作られている。溝内に小ピットが連続して作られている。杭もしくは、低木の根痕と考えられる。

17号溝 (114図・PL55)

調査区中央東端にある。東西方向に作られている。幅0.8m程で掘り込みが浅く、断面が緩やかに湾曲する。区画の溝と考えられる。

18号溝 (113図・PL55)

調査区西南側にある。南北方向に作られ8号溝に直行する。幅1.2～1.8mあり蛇行する不整形の溝である。掘り込みは浅く、皿状になる。底面は、凹凸が有り、地山の礫が露出している。水の流路と考えられる。

19号溝 (113図・PL55)

調査区東側にある。南北方向に作られ5号溝と直行する。幅0.25～0.5mある不整形の溝である。掘り込みは浅く、断面皿状になる。底面は、凹凸が有り、地山の礫が露出している。水の流路と考えられる。

20号溝 (115図・PL55)

調査区中央西端にある。西側を調査区境界外にあり、東側部分のみの調査である。東側に弧を持つ溝で掘り込みは、比較的深く0.5mある。8号溝に繋がると思われる。

21号溝 (114図・PL55)

調査区中央西側に南北方向に作られ8号溝と直行している。9号溝と重複しているが本遺構が新しい。掘り込みは緩やかな角度で掘られ底面に礫が見られる。

22号溝 (115図・PL56)

調査区西よりに12号溝と重複している。東西方向に弧を描く。幅0.22～0.4m、深さ0.06～0.16mと浅い。断面は緩やかな傾斜で湾曲する。水路と考えられる。

23号溝 (115図・PL56)

調査区南東にある。南北方向にクランクする様に作られ、北側で、5号溝と合流する。幅0.18～0.58m、深さ0.05～0.25mある。覆土下層に砂層多く含むことから、水の流路と考えられる。

24号溝 (115図・PL56)

調査区西南部にある。南北方向に作られる。12号溝と直行する。掘り込みは浅く、断面は緩やかに湾曲する。幅0.1～0.8m、深さ0.1m程である。

25号溝 (115図・PL56)

23号溝と接して重複して作られている。23号溝と同様に覆土の堆積から流路と考えられる。

26号溝 (116図・PL56)

調査区南にある。南北方向に蛇行して作られる。23号溝と重複している。本遺構が古い。掘り込みは緩やかで浅く、断面皿状で底面は平坦である。幅0.7～0.8m、深さ0.11mである。

27号溝 (116図・PL57)

調査区中央南寄りにある。南北方向に作られる。幅0.45～0.86m、深さ0.08～0.4mある。断面は、V字形になる。堆積土下層に砂質土が入ることから、水の流路と考えられる。

28号溝 (116図・PL57)

調査区中央南端にある。南北方向に蛇行している。幅0.25m、深さ0.07mと浅く、断面形も緩やかに湾曲している。

29号溝 (116図・PL57)

調査区中央南寄りにある。5号溝に接している。掘り込みは浅く緩やかに湾曲している。幅0.4m、深さ0.07mである。

30号溝 (116図・PL57)

調査区中央南寄りにある。29号溝を切って作られている。本遺構が新しい。幅0.3m、深さ0.12mである。

第8章 VII区検出された遺構と遺物

表14 VII区遺構一覧表

遺構名	遺構種類	図	PL	検出位置 X	検出位置 Y	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期・備考
1号土坑	貯蔵穴	107	47	37920- 37921	44571- 44573	隅丸方形	N-66° -W	1.07	0.76	0.47	無し	古代
2号土坑	貯蔵穴	107	47	37919- 37920	44571- 44573	長方形	N-72° -W	1.48	0.72	0.22	無し	古代
3号土坑	貯蔵穴	107	47	37919	44572- 44573	方形	N-58° -E	0.77	0.75	0.26	無し	古代
4号土坑	貯蔵穴	107	47	37943- 37944	44552- 44553	方形	N-57° -W	1.5	1.19	0.27	無し	古代
5号土坑	貯蔵穴	107	47	37942- 37943	44551- 44552	方形	N-67° -W	1.23	0.97	0.13	無し	古代
6号土坑	貯蔵穴	107	47	37945- 37946	44555- 44556	台形	N-34° -E	1.17	1.02	0.15	無し	古代
7号土坑	貯蔵穴	107	47	37944	44554- 44555	不整形	N-80° -W	1.47	0.72	0.08	無し	古代
8号土坑	貯蔵穴	107	47	37944	44554	不整形	N-80° -E	0.53	0.4	0.22	土師器少量	古代
9号土坑	貯蔵穴	107	48	37945- 37946	44557- 44558	方形	N-30° -W	1.14	0.89	0.18	土師器少量	古代
10号土坑	貯蔵穴	107	48	37943- 37944	44558- 44559	楕円形	N-10° -W	1.32	1.02	0.32	無し	古代
12号土坑	貯蔵穴	107	48	37907- 37908	44577- 44579	長方形	N-57° -W	1.65	0.89	0.55	無し	古代
13号土坑	井戸	108	48	37912	44595	円形	N-0°	0.56	0.55	0.83	近現代瓦	古代
14号土坑	貯蔵穴	108	49	37895- 37897	44607- 44609	楕円形	N-60° -W	2.45	0.95	0.5	無し	古代
15号土坑	貯蔵穴	108	49	37913- 37914	44556- 44559	長楕円形	N-80° -E	3.47	0.74	0.34	無し	古代
16号土坑	貯蔵穴	108	49	37911	44556	楕円形	N-53° -E	1.55	0.89	0.45	無し	古代
18号土坑	貯蔵穴	108		37898- 37899	44569- 44570	楕円形	N-11° -W	1.45	0.85	0.1	無し	古代
20号土坑	不明	108	49	37923- 37954	44598- 44599	不整形	N-38° -W	1.03	0.65	0.3	土師器小片	古代
21号土坑	不明	108	49	37930	44609	楕円形	N-65° -W	0.61	0.43	0.9	土師器小片	古代
22号土坑	不明	108		37914- 37917	44620- 44621	長楕円形	N-22° -E	2.5	0.68	0.29	土師器小片	古代
23号土坑	不明	108	49	37894- 37895	44597- 44598	不整形	N-45° -W	1.02	0.8	0.15	土師器小片	古代
2号ビット		109	50	37911	44620	楕円形	N-47° -E	0.57	0.42	0.49	無し	古代
3号ビット		109	50	37917	44624	円形	N-62° -W	0.37	0.37	0.52	無し	古代
4号ビット		109	50	37899	44617	円形	N-71° -E	0.4	0.4	0.19	無し	古代
5号ビット		109	50	37898- 37899	44616	円形	N-24° -W	0.4	0.4	0.15	無し	古代
6号ビット		109	50	37913	44557	円形	N-50° -E	0.3	0.3	0.1	無し	古代
7号ビット		109	50	37906	44567	円形	N-59° -W	0.3	0.3	0.11	無し	古代
8号ビット		109	50	37899	44592	円形	N-0°	0.23	0.23	0.17	無し	古代
1号埋設桶		109	51	37928- 37929	44608- 44609	円形	N-23° -E	0.9	0.9	0.6	獣骨、古銭	近世
1号溝	水路	110	52	37937- 37948	44545- 44616	蛇行	N-80° -W	(81.0)	0.4 ~ 5.8	0.32 ~ 0.40	縄文土器小片、 土師器、須恵器	古墳時代
2号溝	水路	110	52	37947- 37962	44562- 44612	蛇行	N-76° -W	(50.4)	1.1 ~ 3.6	0.25 ~ 0.35	土師器小片	古墳時代
3号溝	区画溝	111	52	37911- 37929	44554- 44590	直線	N-70° -W	(40.6)	0.5 ~ 1.0	0.8	土師器小片	古代
5号溝	水路	111	53	37895- 37919	44559- 44627	蛇行	N-70° -W	(69.4)	1.7 ~ 3.6	0.29 ~ 0.61	土師器、須恵器、 近現代瓦、 ガラス壺、 江戸時代銭	古代~近代
6号溝	水路	111	53	37917- 37926	44594- 44597	直線	N-16° -E	(9.12)	1.0 ~ 1.8	0.15 ~ 0.23	陶器、近現代瓦 多量	古代~近代

第2節 検出された遺構と遺物

遺構名	遺構種類	図	凡	検出位置 X	検出位置 Y	形状	主軸	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	出土遺物	時期・備考
7号溝	水路	112	53	37901- 37918	44565- 44600	蛇行	N-63° -W	39.6	0.32 ~ 1.32	0.08 ~ 0.19	土師器、須恵器	古代
8号溝	水路	112	53	37917- 37928	44597- 44624	蛇行	N-72° -W	(13.84)	0.72 ~ 5.4	0.64	近現代瓦、 五輪塔	古代～
9号溝	水路	114	54	37926- 37932	44614- 44617	直線	N-26° -E	(8.04)	0.6 ~ 1.05	0.15 ~ 0.2	土師器小片	古代
10号溝	区画溝	106		37887- 37909	44590- 44599	直線	N-65° -E	(23.1)	0.3 ~ 0.7	0.05	土師器小片	古代
11号溝	区画溝	114	54	37903- 37926	44560- 44596	直線	N-58° -W	(40.7)	0.24 ~ 0.62	0.08	土師器小片	古代
12号溝	区画溝	113	54	37887- 37911	44562- 44629	直線	N-71° -W	(71.5)	0.4 ~ 1.4	0.06 ~ 0.17	土師器小片	古代
13号溝	区画溝	106		37883- 37891	44578- 44593	直線	N-75° -E	(25.6)	0.4 ~ 0.8	0.05	土師器小片	古代
14号溝	杭列	113	55	37889- 37917	44624- 44627	直線	N-26° -W N-13° -E	(22.16)	0.25 ~ 0.54	0.08 ~ 0.21	無し	古代
15号溝	区画溝	114	55	37892- 37898	44600- 44603	直線	N-25° -W	7.35	0.32 ~ 0.52	0.03 ~ 0.07	無し	古代
16号溝	杭列	114	55	37900- 37903	44623- 44625	直線	N-26° -W	4.0	0.42 ~ 0.68	0.05 ~ 0.15	土師器	古代
17号溝	区画溝	114	55	37906- 37912	44554- 44559	直線	N-44° -W	(8.10)	0.86	0.15	土師器小片	古代
18号溝	水路	113	55	37911- 37916	44617- 44620	直線	N-17° -E	(5.3)	1.2 ~ 1.8	0.13	土師器小片	古代
19号溝	水路	113	55	37898- 37899	44570	直線	N-6° -W	(1.5)	0.25 ~ 0.5	0.06	土師器、陶磁器	古代
20号溝	水路	115	55	37927- 37933	44620- 44623	蛇行	N-24° -E	(6.8)	(1.7)	0.6	土師器小片	古代
21号溝	水路	114	55	37926- 37932	44617- 44618	直線	N-30° -E	(6.0)	1.2 ~ 1.84	0.10 ~ 0.25	土師器小片	古代
22号溝	水路	115	56	37904- 37906	44607- 44613	蛇行	N-69° -W	(6.85)	0.22 ~ 0.4	0.06 ~ 0.16	土師器小片	古代
23号溝	水路	115	56	37888- 37905	44556- 44604	直線	N-72° -E	(53.5)	0.18 ~ 0.58	0.05 ~ 0.25	土師器小片	古代
24号溝	水路	115	56	37910- 37913	44625- 44626	直線	N-9° -E	(3.5)	0.1 ~ 0.8	0.07 ~ 0.11	土師器小片	古代
25号溝	水路	115	56	37889- 37894	44597- 44602	蛇行	N-47° -E	(6.48)	0.28	0.12	土師器小片	古代
26号溝	水路	116	56	37889- 37893	44597- 44598	直線	N-5° -W	(0.43)	0.7 ~ 0.88	0.11	土師器小片	古代
27号溝	水路	116	57	37896- 37923	44590- 44611	直線	N-35° -E	(34.80)	0.45 ~ 0.86	0.08 ~ 0.40	土師器小片	古代
28号溝	水路	116	57	37893- 37897	44604	直線	N-6° -W	3.54	0.25	0.07	土師器小片	古代
29号溝	水路	116	57	37904- 37909	44591- 44600	直線	N-60° -E	(10.12)	0.4	0.07	土師器小片	古代
30号溝	水路	116	57	37906- 37908	44593- 44594	直線	N-21° -E	2.9	0.3	0.12	陶磁器	古代

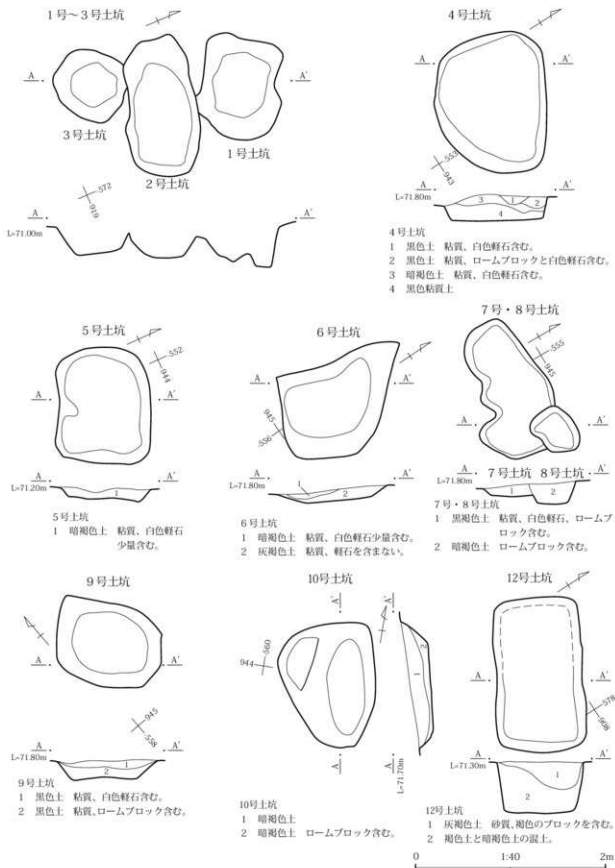
Ⅷ区 8号溝杭列 PL82・83

No.	出土位置	長さ(cm)	直径(cm)
1	No1	82.9	3.2
2	No2	52	4.6
3	No4	44.2	4.9
4	No6	54.2	2.9
5	No7	87	4.2
6	No8	54.6	4.7
7	No10	70.5	5.2

No.	出土位置	長さ(cm)	直径(cm)
8	No11	80.2	3.9
9	No12	81.2	3.9
10	No14	80.8	5.4
11	No15	90.5	4.3
12	No16	85.9	4.1
13	No17	81.6	4.8
14	No18	54.7	2.9

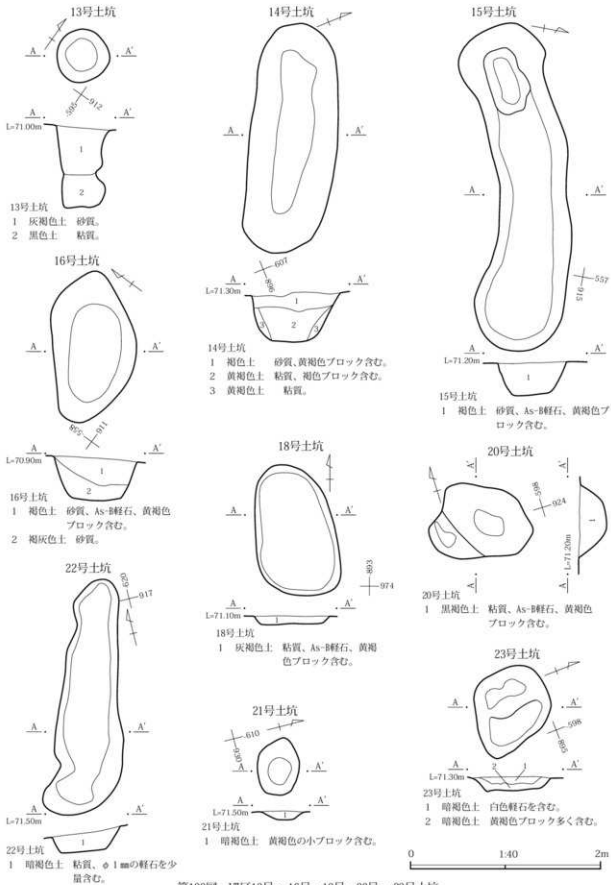
No.	出土位置	長さ(cm)	直径(cm)
15	No19	95	3.7
16	No20	74.2	4.8
17	No21	70.6	4
18	No22	69.8	4.4
19	No23	81	3.4
20	不明	55.9	4.7

第8章 VII区検出された遺構と遺物



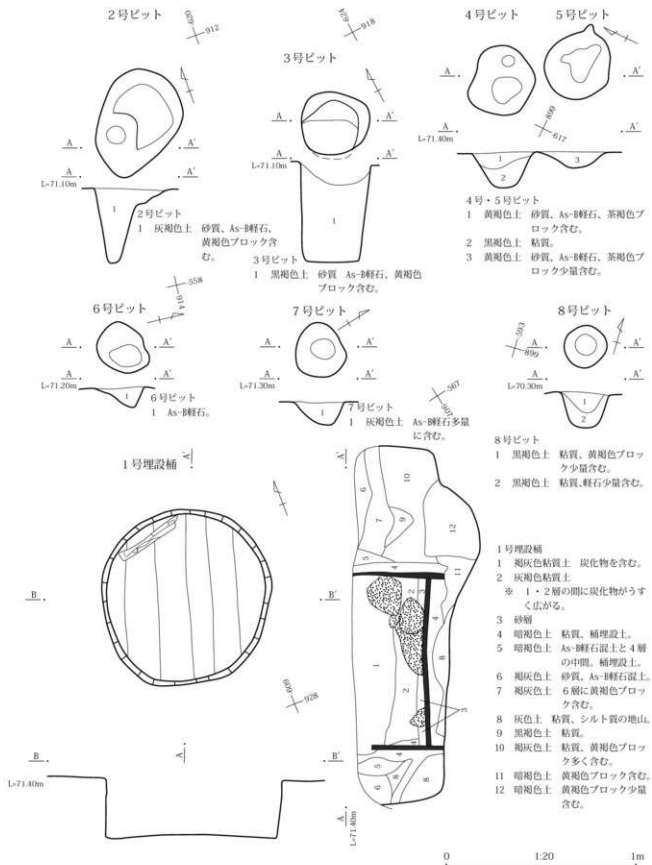
第107図 VII区1号～10号・12号土坑

第2節 検出された遺構と遺物



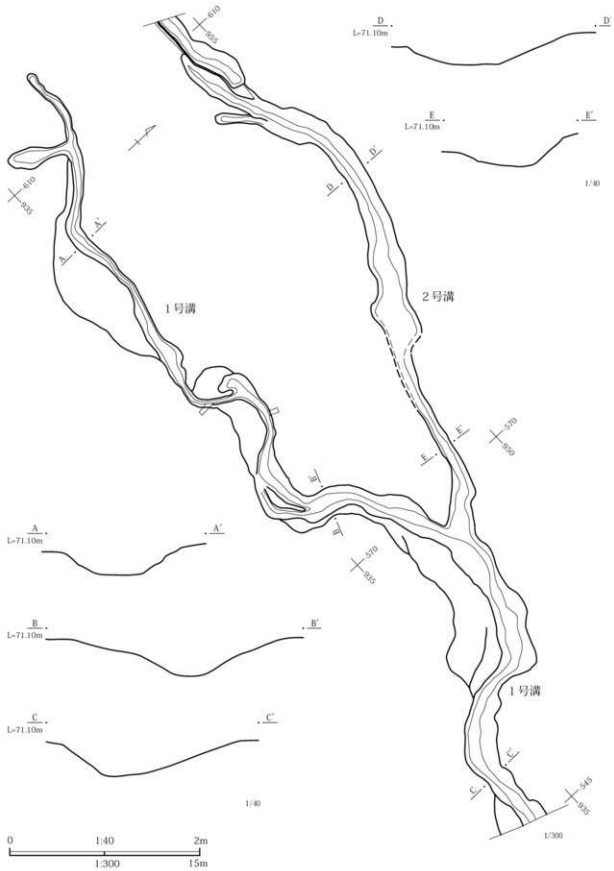
第108図 VII区13号～16号・18号・20号～23号土坑

第8章 VII区検出された遺構と遺物



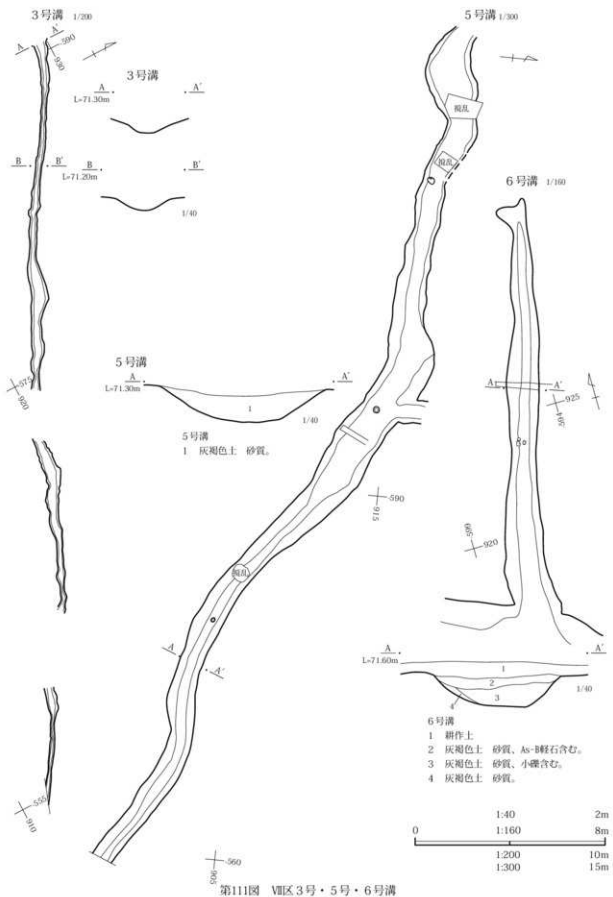
第109図 VII区2号～8号ビット、1号埋設桶

第2節 検出された遺構と遺物

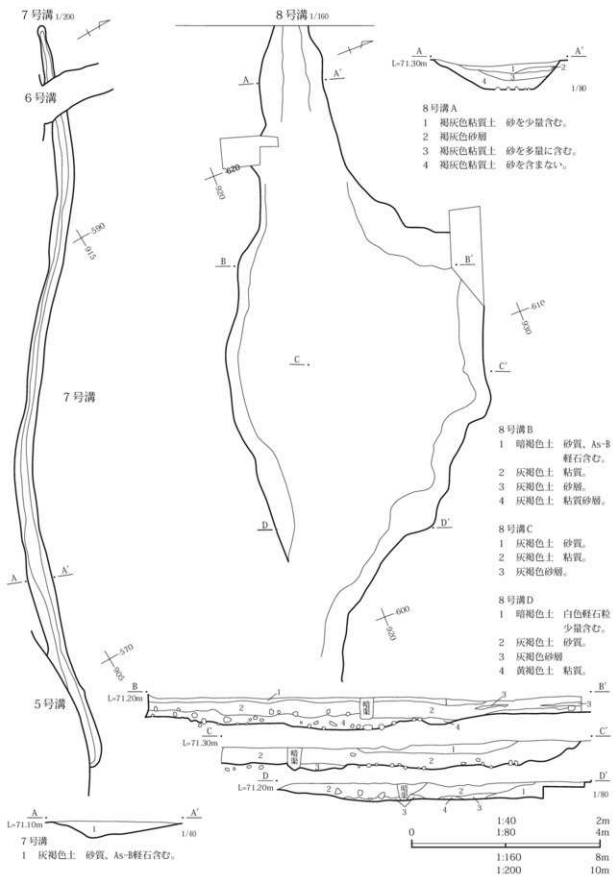


第110图 VII区1号・2号溝

第8章 VII区検出された遺構と遺物

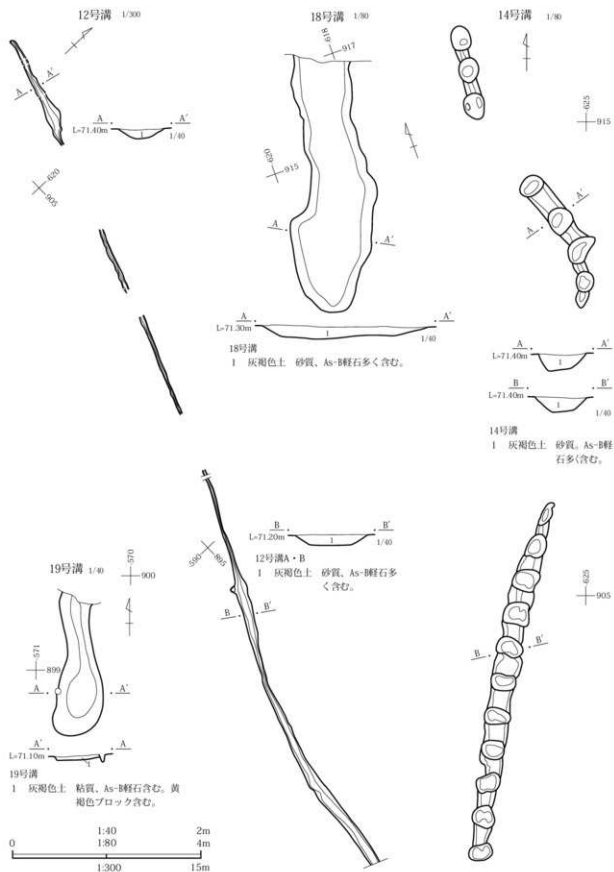


第2節 検出された遺構と遺物

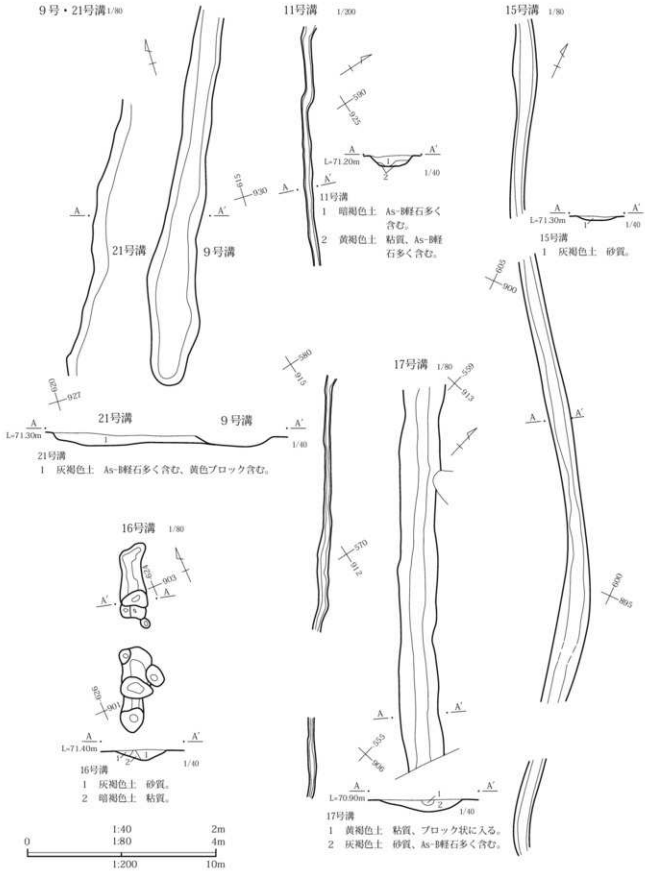


第112図 VII区7号・8号溝

第8章 VII区検出された遺構と遺物

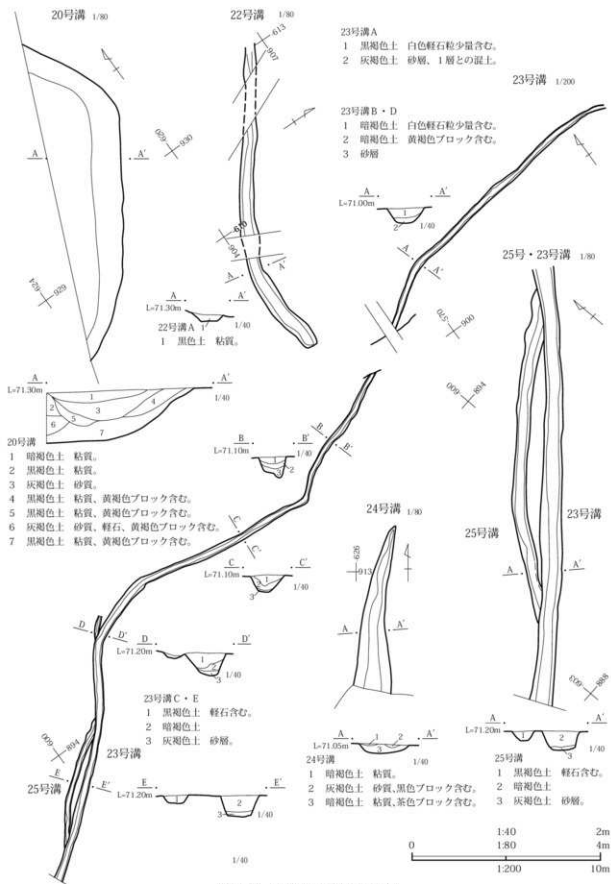


第113図 VII区12号・14号・18号・19号溝



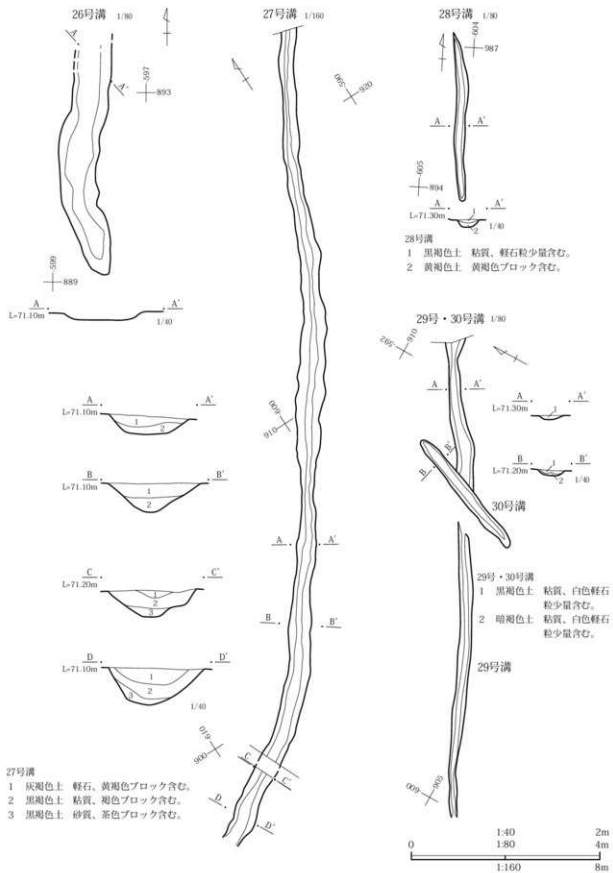
第114図 VII区9号・11号・15号～17号・21号溝

第8章 VII区検出された遺構と遺物



第115図 VII区20号・22号～25号溝

第2節 検出された遺構と遺物



第116図 VII区26号～30号溝

第8章 VII区検出された遺構と遺物

表15 VII区出土遺物観察表

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 或径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
1	117 76	壺	口縁部 1/3	1号溝	(15.8) — (5.6)	細砂。良好。	橙 5YR6/8	頸部に縄文飾を残す。複合口縁により棒状・ボタン状貼付文。	弥生後期
2	117 76	土師器 壺	口縁部 1/5	1号溝	(13.0) — (5.2)	粗砂。細かい 黒色粒。良好。	にぶい・橙 5YR6/4	口縁部返し。複合口縁。頸部に刷毛目。	外面 煤付着
3	117 76	土師器 甗	口縁部 1/5	1号溝	(25.2) — (9.6)	粗砂。細かい 黒色粒。良好。	にぶ赤褐色 5YR5/4	口縁部横撫で。胴部履位の掘削り。	
4	117 76	土師器 甗	底部	1号溝	— 6.0 (3.3)	粗砂。細かい 黒色粒。良好。	にぶい・橙 5YR7/3	内面に刷毛目。	
5	117 76	須恵器 高台付杯	一部欠損	1号溝	14.0 6.4 5.7	細砂。φ1mm 以下の小石。 普通。	明褐色 5YR7/2	回転ロクロ成形。底部右回転糸切り。高台貼り付け。内外面底部付近に黒化している部分がある。	内面 煤付着
6	117 76	須恵器 高台付杯	体部～ 底部	1号溝	— (5.5) (2.5)	細砂。普通。	灰白 5YR8/1	回転ロクロ成形。底部回転糸切り後掘削り。高台消滅している	
7	117 76	形象埴輪	部分破片	1号溝	— — —	粗砂。φ1mm の白色粒。 普通。	橙 5YR7/8	刷毛目整形。円形の突起が付く。	部位不明
8	117 76	形象埴輪	部分破片	1号溝	— — —	粗砂。φ2mm の白色粒。 普通。	橙 5YR7/8	刷毛目整形。円形の突起が付く。	部位不明
9	117 76	形象埴輪	部分破片	1号溝	— — —	粗砂。φ3mm の白色粒。 普通。	橙 5YR7/8	刷毛目整形。円形の突起が付く。	部位不明
10	117 76	土師器 杯	1/3	1号溝	(13.0) — 4.7	細砂。φ1mm の白色粒。 普通。	橙 5YR7/8	口縁部横撫で。底部掘削り。底部丸底。	
11	117 76	土師器 杯	1/4	1号溝	(11.6) — 5.0	細砂。良好。	にぶい・橙 7.5YR6/4	口縁部横撫で。底部掘削り。底部丸底。	
12	117 77	土師器 高環	脚部	1号溝	— (8.2)	細砂。細かい 黒色粒。普通。	浅黄橙 10YR8/3	外面履位の磨き。内面指頭による履位の撫で痕。裾部輪積み痕。	
13	117 77	土師器 高環	環部	4号溝	19.2 — (6.3)	細砂。細かい 黒色粒。良好。	浅黄橙 7.5YR8/6	外面履位の磨き整形。	
14	117 77	土師器 甗	口縁部～ 胴部1/5	4号溝	(14.2) — (11.8)	細砂。細かい 黒色粒。良好。	浅黄橙 7.5YR8/6	口縁部横撫で。胴部履位の撫で。内面に胴部と口縁接合部に輪積み痕。	外面 煤付着
15	118 77	壺	口縁部～ 胴部	4号溝	(19.4) — (20.0)	粗砂。φ1mm の黒色粒。小 石。良好。	浅黄橙 10YR8/3	折り返し口縁。口縁折り返し部と胴部に条痕。頸部履位の磨き。	弥生後期
16	118 77	土師器 甗	口縁部～ 底部3/4	4号溝	— — (11.9)	粗砂。φ1mm の黒色・白色 粒。良好。	浅黄 2.5Y7/3	胴部外面履位の整形。全体に摩滅多い。内面に輪積み痕。	
17	118 77	土師器 小形壺	口唇部 欠損	4号溝	— 2.4 (6.8)	粗砂。細かい 黒色粒。良好。	にぶい・橙 5YR7/3	胴部外面履位の掘削り整形。全体に摩滅。	
18	118 77	土師器 小形壺	口縁部～ 胴部1/3	4号溝	10.0 — (7.5)	粗砂。普通。	明褐 7.5YR5/6	頸部に左下の刷毛目整形。	
19	118 77	土師器 甗	胴部～ 底部1/3	4号溝	— (6.6) (15.8)	粗砂。φ1mm の白色粒。 普通。	にぶい・橙 5YR7/4	胴部外面履位の磨き整形。内面に輪積み痕。	
20	118 77	土師器 甗	ほぼ完形	5号溝	15.4 7.0 25.2	細砂。細かい 黒色粒。良好。	にぶ赤褐色 5YR4/3	胴部外面右下の刷毛目整形後、撫でにより刷毛目を消している。	外面 煤付着

第2節 検出された遺構と遺物

遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
21	118 77	土師器 壺	口縁部～ 底部1/2	5号溝	14.2 4.0 24.4	細砂、細かい 黒色粒。不良。	灰白 7.5YR8/2	口縁折り返しの複合口縁。全体に摩滅している。	
22	119 77	壺	頸部～ 胴部	5号溝	— (10.1)	細砂、細かい 黒色粒。普通。	にぶい橙 5YR6/3	太さ2mmの沈線による横位区画。頸部の区画内に縄 文充填。	赤生後期
23	119 77	土師器 器台	脚部	5号溝	— (6.6)	細砂、細かい 白色粒。良好。	にぶい橙 5YR6/4	脚部外面横位の磨き。内面輪積み痕。φ11mmの孔を 4単位持つ。	
24	119 78	土師器 埴	完形	5号溝	12.5 4.0 12.7	細砂、細かい 黒色粒。普通。	淡橙 5YR8/4	口縁部横位の撫で後、縦位の磨き。体部横位の磨削り。	
25	119 78	土師器 坏	一部欠損	2号溝	15.4 — 3.7	細砂、細かい 黒色粒。普通。	橙 7.5YR7/6	外面磨削り。内面撫で。底部丸底。	
26	119 78	土師器 碗	3/4	2号溝	(11.4) — 6.9	粗砂、細かい 黒色粒。普通。	にぶい黄橙 10YR6/3	口縁部横撫で。	煤付着
27	119 78	壺	頸部～ 底部	6号溝	— 6.2 (13.8)	細砂。普通。	にぶい橙 7.5YR6/4	頸部に沈線が廻る。内面下半部に刷毛目整形痕。 全体に摩滅。	赤生後期
28	119 78	壺	口縁部	6号溝	(4.2) — (5.3)	細砂。普通。	灰白 2.5B/2	頸部に巾2mmの爪形文が2列廻る。	赤生後期
29	119 78	須恵器 坏	3/4	2号溝	(15.4) 11.3 4.8	細砂、細かい 黒色粒。普通。	灰白 10YR7/2	回転口クロ成形。底部は右回転磨削り。	
30	119 78	土師器 甕	口縁部 1/3	2号溝	(16.2) — (7.0)	細砂、細かい 黒色粒。良好。	浅黄橙 10YR8/3	口縁部横撫で。胴部磨削り。	
31	119 78	石版	破片	5号溝	— —				
32	119 78	甕	破片	5号溝	縦9.6cm 幅6.6cm 厚2.8—			陶器製。海部欠損。陸部に磨り痕。	
33	120 78	ガラス瓶	完形	5号溝	1.9 4.9 9.6			薬瓶。目盛付。	近代
34	120 78	ガラス瓶	完形	5号溝	1.6 3.1 7.4			薬瓶。目盛付。	近代
35	120 78	ガラス瓶	完形	5号溝	1.9 3.1 6.6			薬瓶。	近代
36	120 78	鍍金火鉢	破片	5号溝	(51.0) — (14.1)			格子目の甲き。	近代
37	120 78	須恵器 坏	1/2	8号溝	(10.0) 6.0 2.0	細砂、黒色粒。 良好。	灰白 7.5YR8/1	回転口クロ成形。底面磨削り。	
38	120 78	内耳	口縁部～ 底部1/5	8号溝	(38.0) (34.0) 5.6	細砂、細かい 黒色粒。良好。	にぶい橙 5YR7/3		外面 煤付着
39	120 78	陶磁器	体部～ 底部	19号溝	— (5.6) (3.0)			染付。	近世
40	120 78	土師器 高坏	脚部	遺構外	(9.5) (6.8)	細砂。良好。	明期 7.5YR5/9	外面縦位の磨削り整形。内面輪積み痕と磨痕。	

第8章 VII区検出された遺構と遺物

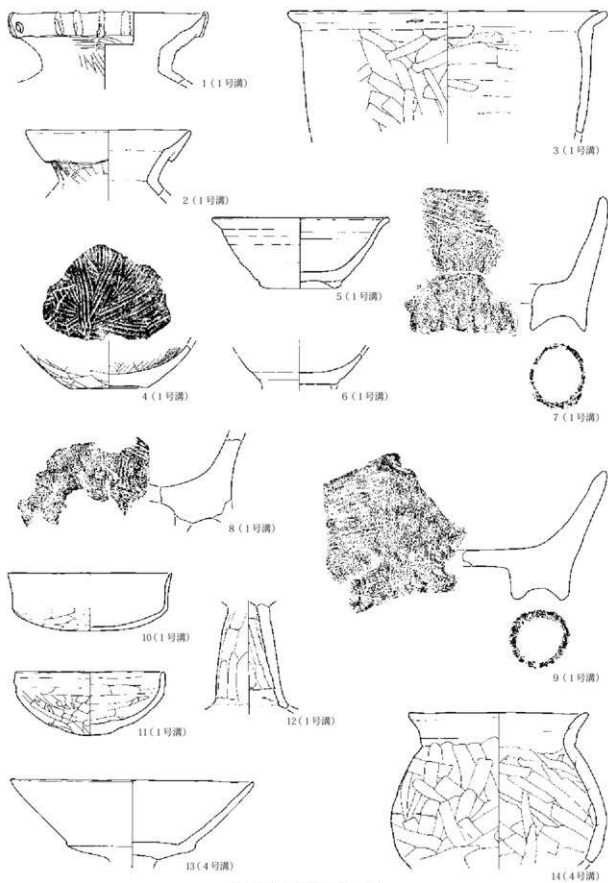
遺物 No	図 PL	器種	残存状態	出土位置	口径 底径 高さcm	胎土・焼成	色調	成・整形の特徴	備考
41	120 78	甕	胴部～ 底部	遺構外	(10.4) (30.0)	細砂、細かい 黒色粒、良好。	灰褐 7.5YR6/2	外面撫で整形。胴部下平直化している部分が多い。	弥生後期
42	121 78	土師器 甕	口縁部～ 肩部	遺構外	(17.0) — (7.1)	細砂、細かい 黒色粒、良好。	浅黄 5Y8/4	口縁部横撫で、肩部縦位の掘削り。	
43	121 78	壺	胴部～ 底部	遺構外	(8.6) (4.0)	細砂、良好。	褐灰 10Y4/1	胴部下平直位の磨き。	弥生後期 底面 副代直
44	121 79	土師器 壺	口縁部～ 胴部	遺構外	— (15.5)	細砂、細かい 黒色粒、不良。	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部横撫で、胴部斜位の磨き。全体に厚減多い。	
45	121 78	須恵器 高台付杯	1/2	遺構外	(15.1) (10.3) 4.0	細砂、良好。	灰白 10YR7/1	回転口口口成形。高台貼り付け。底部掘削り。	
46	121 78	土師器 壺	口縁部	遺構外	(16.8) — (7.2)	粗砂、細かい 黒色粒、普通。	橙 7.5YR6/6	外面横位の撫で整形。	
47	121 79	壺	頸部破片	遺構外	—	細砂、普通。	にぶい、橙 7.5YR6/4	巾3mmの半載竹管を2本並行させて口縁部文様帯を 区画、区画内に平行沈線を縦直状に施文。	弥生後期
48	121 79	壺	胴部破片	遺構外	—	細砂、良好。	明赤褐 5YR5/6	巾3mmの半載竹管を2本並行させ縦直状に施文。	弥生後期
49	121 79	壺	胴部破片	遺構外	—	細砂、細かい 白色粒、良好。	暗赤灰 2.5YR3/1	巾4mmの半載竹管を側開けて斜位・弧状に施文。	弥生後期
50	121 79	壺	口縁部 破片	遺構外	(14.8) (5.9)	細砂、細かい 黒色粒、普通。	褐灰 7.5YR4/1	まばらに縄文を横位に施文。	弥生後期
51	121 79	壺	胴部破片	遺構外	—	粗砂、普通。	にぶい、橙 7.5YR6/4	巾3mmの半載竹管を数本重ねて施文。	弥生後期
52	121 79	壺	胴部破片	遺構外	—	粗砂、普通。	にぶい、褐 7.5YR5/4	内外面に条痕。外面に巾3mmの平行沈線による波状 文。	弥生後期
53	121 79	壺	胴部破片	遺構外	—	細砂、細かい 白色粒、良好。	暗赤灰 2.5YR3/1	巾4mmの半載竹管を側開けて斜位・弧状に施文。	弥生後期
54	121 79	陶磁器	破片	遺構外	—	—	—	—	
55	121 79	陶磁器	破片	遺構外	—	—	—	—	

遺物 No	図	PL	器種	残存状態	出土位置	法量			特記事項
						①径	②厚み	③重量	
56	122	79	古銭	完形	8号溝	①2.75cm、	②1.36mm、	③4.52g	「寛永通宝」。波銭。
57	122	79	古銭	完形	8号溝	①2.84cm、	②1.16mm、	③4.05g	「寛永通宝」。波銭。
58	122	79	古銭	完形	8号溝	①2.82cm、	②1.17mm、	③3.75g	「寛永通宝」。波銭。
59	122	79	古銭	完形	5号溝	①2.80cm、	②1.01mm、	③3.72g	「寛永通宝」。波銭。
60	122	79	古銭	完形	5号溝	①2.80cm、	②1.13mm、	③4.04g	「寛永通宝」。波銭。
61	122	79	古銭	完形	10号溝	①2.78cm、	②1.06mm、	③3.11g	「寛永通宝」。波銭。
62	122	79	古銭	完形	8号溝	①2.82cm、	②1.17mm、	③4.07g	「寛永通宝」。波銭。

第2節 検出された遺構と遺物

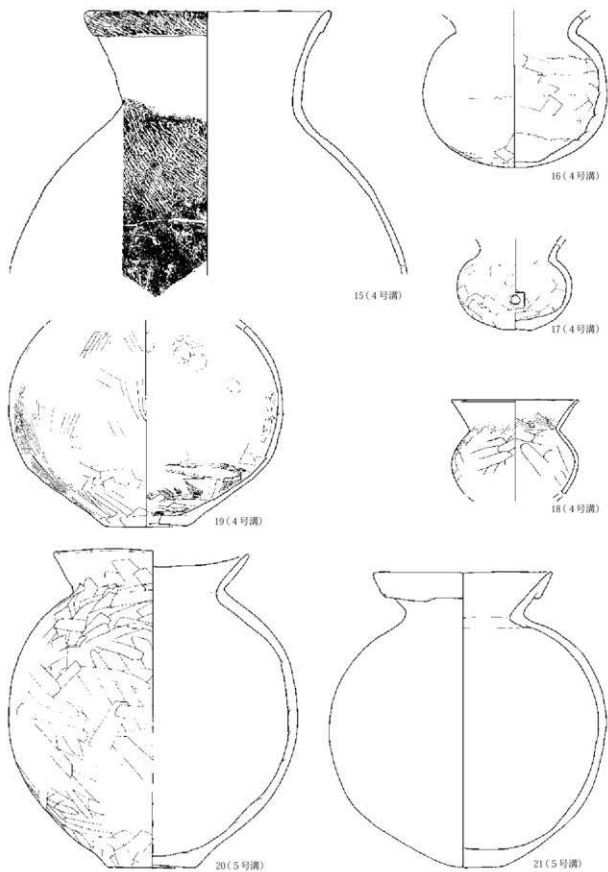
遺物 No	図	PL	器種	残存状態	出土位置	法量			特記事項	
						①径	②厚み	③重量		
63	122	79	古銭	1/3	8号溝	①-	②0.95cm	③1.31g	「寛永通宝」。波銭。	
64	122	79	古銭	完形	5号溝	①2.70cm	②1.22cm	③3.56g	「文久永寶」。波銭。	
65	122	79	古銭	完形	遺構外	①2.55cm	②1.29cm	③3.95g	「寛永通宝」。	
66	123	79	古銭	完形	6号溝	①2.50cm	②1.05cm	③2.75g	「寛永通宝」。	
67	123	80	古銭	完形	1号埋設桶	①2.30cm	②1.01cm	③1.43g	「寛永通宝」。	
68	123	80	古銭	完形	5号溝	①2.32cm	②1.00cm	③1.85g	「寛永通宝」。	
69	123	80	古銭	完形	6号溝	①2.34cm	②1.00cm	③1.76g	「寛永通宝」。	
70	123	80	古銭	完形	5号溝	①2.28cm	②1.23cm	③2.60g	「寛永通宝」。	
71	123	80	古銭	完形	6号溝	①2.32cm	②0.95cm	③2.05g	「寛永通宝」。	
72	123	80	古銭	完形	5号溝	①2.44cm	②1.13cm	③2.54g	「寛永通宝」。	
73	123	80	古銭	完形	6号溝	①2.26cm	②0.96cm	③1.99g	「寛永通宝」。	
74	123	80	古銭	完形	遺構外	①2.25cm	②0.87cm	③1.73g	「寛永通宝」。	
75	123	80	古銭	完形	6号溝	①2.32cm	②1.05cm	③2.25g	不明	
76	123	80	古銭	1/4	5号溝	①-	②1.41cm	③0.84g	不明	
77	123	80	古銭	完形	遺構外	①2.40cm	②1.15cm	③2.14g	「享和通宝」。	
78	123	80	古銭	完形	遺構外	①2.45cm	②1.15cm	③2.92g	「紹聖元宝」。	
遺物 No	図	PL	器種	残存状態	出土位置	法量			特記事項	
①長さ						②幅	③厚み	④重量		
79	124	80	銅用鎌	完形	遺構外	①19.6cm	②2.9cm	③0.7cm	④190.0g	
80	124	80	蹄鉄	1/2	遺構外	①(11.6) cm	②2.05cm	③0.6cm	④80.0g	
81	124	80	蹄鉄	ほぼ完形	遺構外	①(9.0) cm	②10.7cm	③0.7cm	④77.0g	
82	124	80	蹄鉄	一部欠損	遺構外	①9.3cm	②11.1cm	③0.7cm	④73.0g	
83	124	80	蹄鉄	完形	5号溝	①11.3cm	②10.5cm	③1.3cm	④188.0g	
84	124	80	蹄鉄	ほぼ完形	遺構外	①11.35cm	②10.35cm	③0.6cm	④113.0g	
85	124	81	蹄鉄	ほぼ完形	5号溝	①10.8cm	②10.0cm	③0.7cm	④177.0g	
86	125	81	蹄鉄	一部欠損	遺構外	①11.8cm	②11.9cm	③0.6cm	④94.0g	
87	125	81	蹄鉄	完形	5号溝	①10.8cm	②11.0cm	③0.8cm	④164.0g	
88	125	81	輪環	完形	5号溝	①7.5cm	②4.2cm	③1.1cm	④12.0g	外輪4.3cm、内輪3.2cm、環径0.6cm。
89	125	81	輪環	完形	5号溝	①5.9cm	②5.8cm	③0.5cm	④28.0g	内径4.6cm。
90	125	81	鉄棒	完形	遺構外	①18.7cm	②1.5cm	③1.0cm	④58.0g	
91	125	81	釘?	頭部	6号溝	①2.7cm	②2.6cm	③2.5cm	④11.0g	
92	125	81	釘	破片	遺構外	①(3.7) cm	②0.6cm	③0.5cm	④2.0g	
93	125	81	釘	先端部	5号溝	①8.9cm	②0.8cm	③0.8cm	④12.0g	
94	125	81	煙管	一部欠損	遺構外	①6.8~9.5cm	②1.1cm	③1.2cm	④5.0~8.0g	雁首・吸い口
95	125	81	煙管	ほぼ完形	5号溝	①4.6cm	②1.5cm	③1.65cm	④5.0g	雁首
96	125	81	煙管	完形	5号溝	①8.3cm	②1.1cm	③1.1cm	④7.0g	吸い口
97	125	81	煙管	完形	8号溝	①8.4cm	②1.1cm	③1.1cm	④11.0g	吸い口。前面六角形。 打ち出し文様あり
98	125	81	煙管	完形	8号溝	①4.1cm	②1.1cm	③1.0cm	④2.0g	吸い口
99	125	81	煙管	完形	5号溝	①4.8cm	②1.4cm	③1.4cm	④6.0g	吸い口
100	126	81	木器	5号溝	①長さ41.7cm	②幅22.0cm	③厚み0.7~3.4cm		鋸。コナラ。	
101	126	81	木器	6号溝	①58.8cm	②17.6cm	③2.6cm		板材。杉。	
102	126	81	木器	6号溝	①20.6cm	②4.0~7.0cm	③1.4~3.1cm		加工木。オニダルミ属。	
103	127	81	五輪塔	完形	8号溝	①14.8cm	②14.5cm	③14.7cm	④5.95kg	地輪
104	127	81	五輪塔	完形	8号溝	①23.3cm	②24.8cm	③15.5cm	④12.4kg	火輪
105	127	81	砥石	完形	5号溝	①6.8cm	②2.6cm	③2.3cm	④62.0g	砥沢石
106	127	81	砥石	完形	5号溝	①7.6cm	②3.7cm	③1.7cm	④80.0g	砥沢石
107	127	81	凹石		8号溝	径9.2cm	厚み7.9cm	重量712.6 g		安山岩

第8章 VII区検出された遺構と遺物



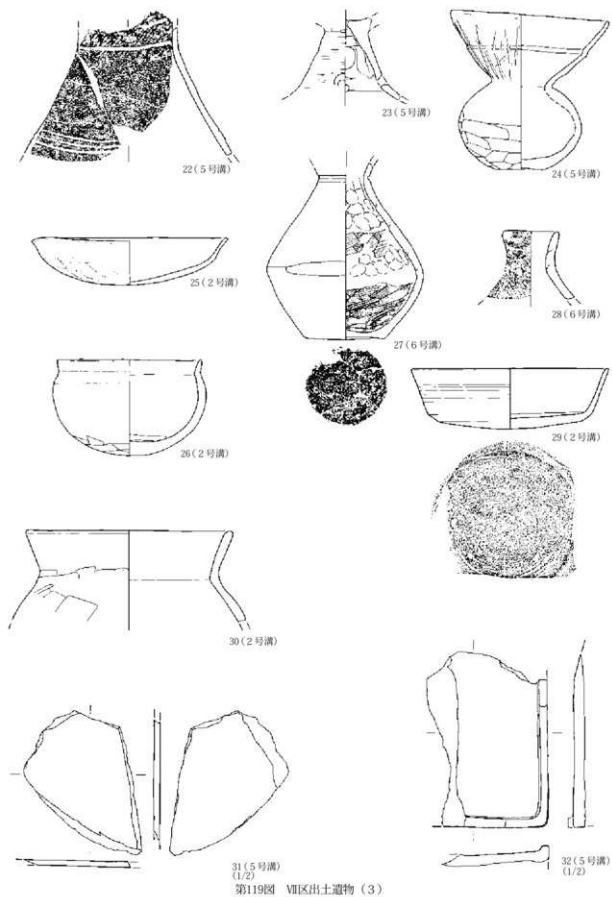
第117図 VII区出土遺物(1)

第2節 検出された遺構と遺物

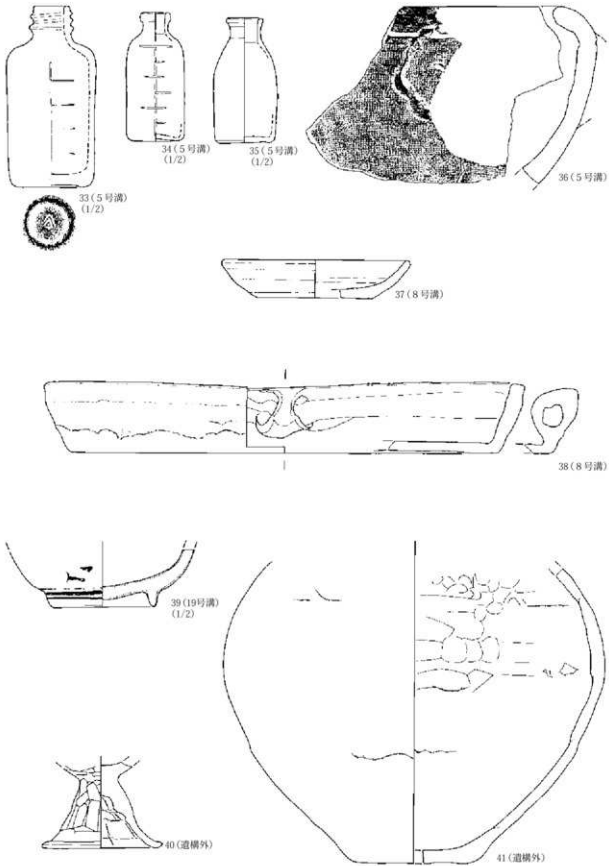


第118図 VII区出土遺物(2)

第8章 VII区検出された遺構と遺物

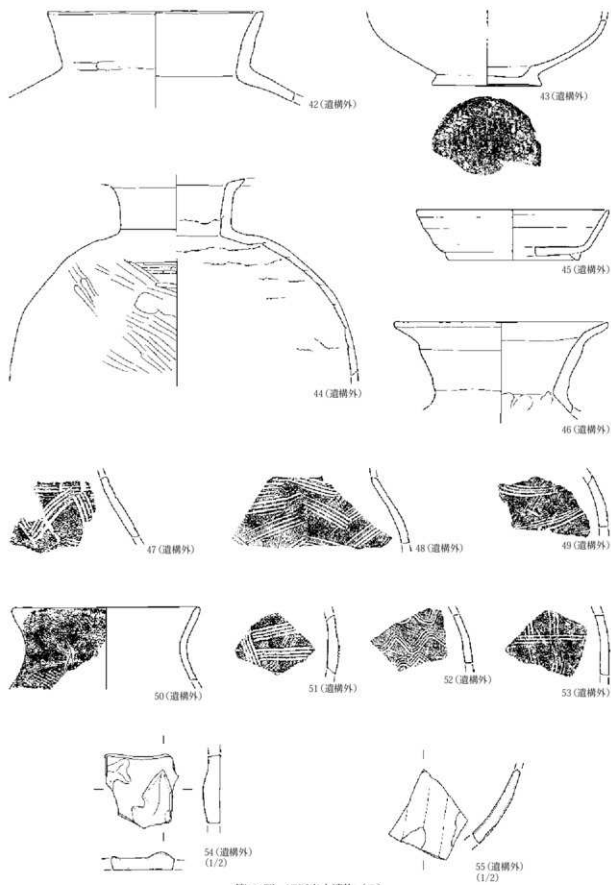


第2節 検出された遺構と遺物



第120図 VII区出土遺物(4)

第8章 VII区検出された遺構と遺物



第121図 VII区出土遺物 (5)

第2節 検出された遺構と遺物



56 (8号溝)
(1/1)



57 (8号溝)
(1/1)



58 (8号溝)
(1/1)



59 (5号溝)
(1/1)



60 (5号溝)
(1/1)



61 (10号溝)
(1/1)



62 (8号溝)
(1/1)



63 (8号溝)
(1/1)



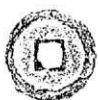
64 (5号溝)
(1/1)



65 (遺構外)
(1/1)

第122図 VII区出土遺物 (6)

第8章 VII区検出された遺構と遺物



66 (6号溝)
(1/1)



67 (1号埋設溝)
(1/1)



68 (5号溝)
(1/1)



69 (6号溝)
(1/1)



70 (5号溝)
(1/1)



71 (6号溝)
(1/1)



72 (5号溝)
(1/1)



73 (6号溝)
(1/1)



74 (道横外)
(1/1)



75 (6号溝)
(1/1)

76 (5号溝)
(1/1)



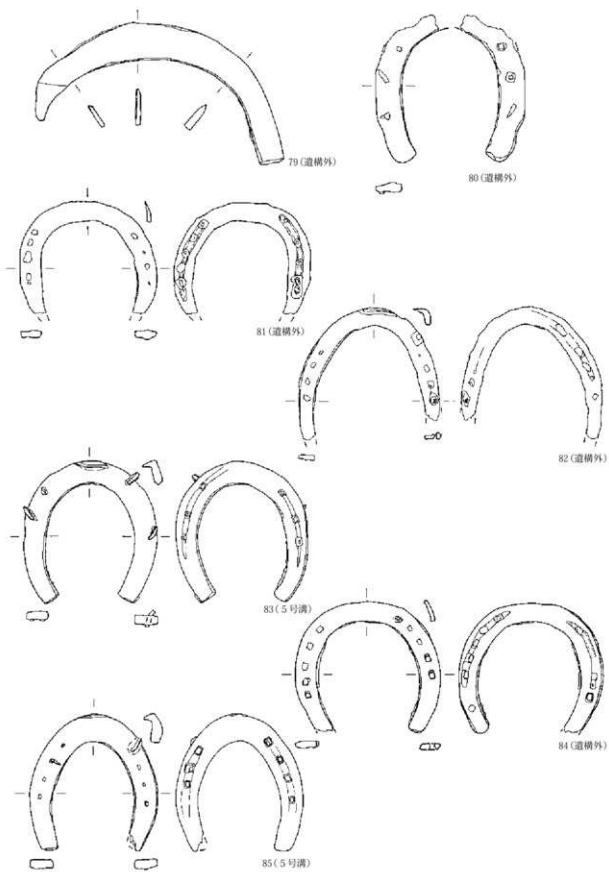
77 (道横外)
(1/1)



78 (道横外)
(1/1)

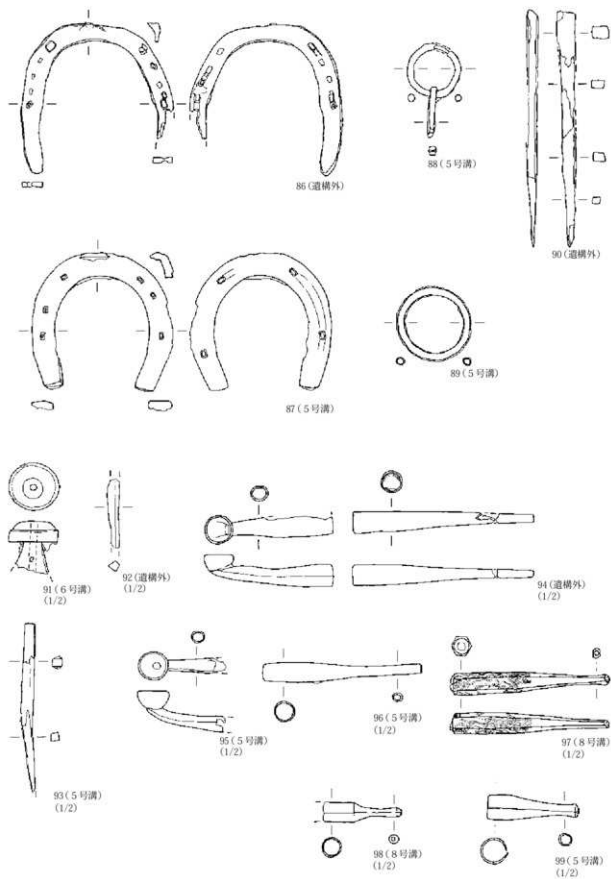
第123図 VII区出土遺物 (7)

第2節 検出された道構と遺物



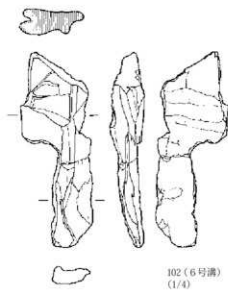
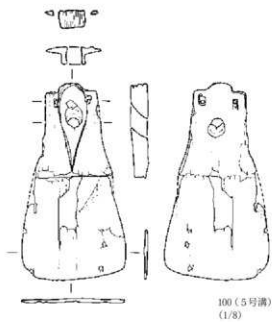
第124図 VII区出土遺物(8)

第8章 VII区検出された遺構と遺物

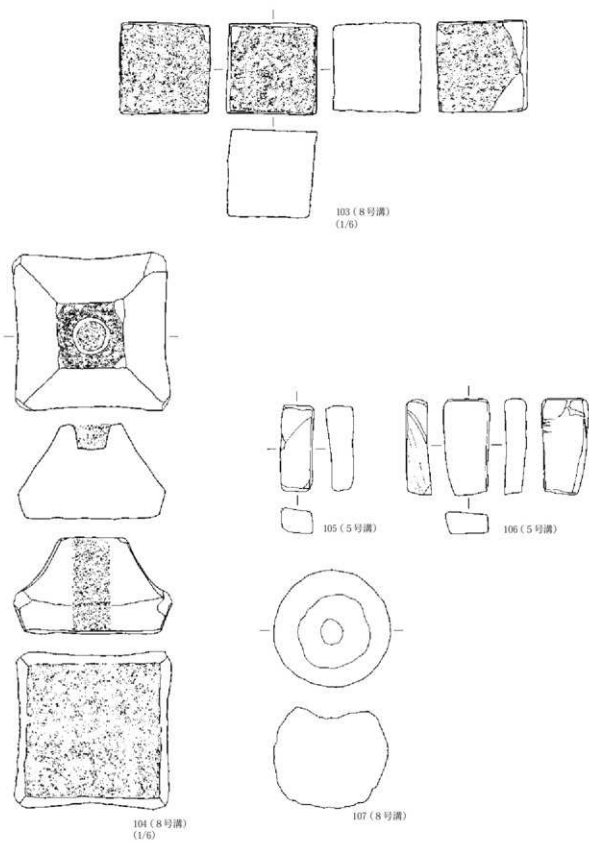


第125図 VII区出土遺物(9)

第2節 検出された遺構と遺物



第126図 VII区出土遺物 (10)



第127図 VII区出土遺物 (11)

第9章 まとめ

第1節 自然化学分析

1 獣骨類の分析

本遺跡からは、各区から検出された溝等の遺構から獣骨類の出土が見られた。そのため、これらの獣骨の種類を同定するため、宮崎重雄氏に計測と獣骨の同定を依頼した。以下、区ごとに同定結果・計測の結果を報告する。

II区出土骨類

本区は、1号溝・4号溝から馬歯が多く出土している。1号溝は、出土遺物から近現代のものと考えられる。4号溝は、As-B軽石下から出土していることからこれ以前の馬歯と推定される。

西長岡宮II区出土骨類計測表

出土位置	図番	種名	部位	計測値	推定年齢	特記事項
1号溝	100-940	1	ウマ 上顎第1後臼歯?片	BH54.0	5-6歳	9片の歯片から成る。歯根分岐あり。蒸気処理で置換
		2	ウマ 右下顎 第4前臼歯?	L24.0, W14.1, BH30.5, LH33.0	11-12歳	
		3	ウマ 左下顎 第4前臼歯?	L25.6, BH58.7	5-6歳	歯根分岐あり
	100-950	4	ウマ 左上顎第1後臼歯?片	BH41.0	8-9歳	少なくとも4本の歯から成る。下顎歯なし
		4	ウマ 右上顎 第2前臼歯	LH42.0	5-6歳	
		5	ウマ 右上顎 第4前臼歯?	BH70.5	3-4歳	
	095-940	6	ウマ 右下顎 第2後臼歯	L25.0, W14.0, BH59.7, LH60.0	5-6歳	
		7	ウマ 左下顎 第3臼歯?	BH20.8, LH31.0	11-12歳	
		8	ウマ 左下顎臼歯	BH39.0	?	
		9	ウマ 右上顎 第3後臼歯	L24.8, W18.0, LH63.8	4-5歳	萌出直後、咬耗面にわずかに咬耗あり
		10	ウマ 左下顎 第4前臼歯	L25.5, W14.4, BH69.0, LH74.5	3-4歳	歯根分岐あり
4号溝B下	080-930	12	ウマ 右上顎 第1後臼歯?	BH58.4	?	14片の歯片から成る

L:歯冠長 W:歯冠幅 BH:頰側歯冠高 LH:舌側歯冠高 H:歯冠高 単位:mm

所見

1 溝100-940

5-6歳の牡馬と、11-12歳の牡馬との少なくとも2個体分の臼歯から成る。いずれも小型在来馬相当の馬格が想定される。性別、死因等は不明である。

上顎第1後臼歯4片は藍鉄鉱で置換されていて、長い間水分の多いところに埋存していたことを示している。埋蔵状況から、この歯は別個体である可能性もあり、だとすれば5-6歳の牡馬がもう一頭いたことになる。

1 溝100-950

ウマの上顎臼歯から成り、下顎歯は検出されない。推定年齢に差があるので、4-5歳の幼馬と7-8歳の牡馬との少なくとも2頭分の個体と見るのが妥当である。体高、性別、死因等は不明である。

1 溝095-940

5-6歳の牡馬と11-12歳の牡馬との2頭分から成る。体高、性別、死因等は不明である。

1 溝番号なし

少なくとも4歳前後の幼馬と7-8歳の牡馬の2個体分の馬歯から成る。体高、性別、死因等は不明である。

4 溝B下

右上顎第1後臼歯と推定される歯を含む14の馬歯から成る。幼馬と思われる。体高、性別、死因等は不明である。

V区出土骨類

本区では、溝から馬歯が出土している。破片が多く資料的には良好なものではなかった。遺構の時期も近世の地割り区画の溝と思われるものである。

西長岡宿V区出土骨類計測表

出土位置	図番	種名	部位	計測値	推定年齢	特記事項
4号溝	13	ウマ	左上顎第1後臼歯	48.8	牡馬	歯根分離あり、4片に分離
8号溝		ウマ	歯片		不明	細片化

L: 歯冠長 W: 歯冠幅 BH: 頬側歯冠高 LH: 舌側歯冠高 H: 歯冠高 単位: mm

所見

4号北端

左上顎第1後臼歯と思われる歯である。牡馬であろう。その他の情報は得られない。

8号溝

馬歯と思われるが、その他の情報は得られない。

VI区出土骨類

本区からは、溝と古墳時代後期の住居から出土している。特に住居からは、まとまって出土していることから、住居内に馬頭部分を住居に持ち込まれたことが予想される。馬頭を住居内に埋葬或いは、何らかの儀礼的行為により住居内に持ち込まれた可能性が考えられる。

西長岡窪Ⅵ区出土骨類計測表

出土位置	図番	種名	部位	計測値	推定年齢	特記事項
1号溝	03	ウシ	左上顎 第3後臼歯	L29.0, W23.0+		咬痕殆どなし
	955-645	?	歯骨片(歯片)			5片
1号住居	No.1-1	ウマ	右下顎 第2後臼歯?	L24.5+, W10.7+, H55.0+		
	No.1-2	ウマ	右下顎 第1後臼歯?	L22.2+, LH55.0+		
	No.1-3	ウマ	右下顎 第4前臼歯	L26.2, LH60.0		歯根分岐あり
	No.1-4	ウマ	臼歯片			
	No.1-5	ウマ	左下顎 第2後臼歯	LH52.8		遠心部の歯片もあり
	No.1-6	ウマ	左下顎 第1後臼歯?	L27.1, W13.1, H52.6		
	No.1-7	ウマ	左下顎 第4前臼歯	L27.4, W13.7, LH62.0, BH61.0		
	No.1-8	ウマ	左下顎 第3前臼歯	L30.9, W13.4, LH52.8		歯根分岐あり?
	No.2-1	ウマ	左上顎第4前 臼歯	L23.2, LH56.0+		
	No.2-2	ウマ	左上顎 第3前臼歯	L26.4, LH57.0		歯根分岐あり
	No.2-3	ウマ	右上顎臼歯			No.2には他にも上顎臼歯と 思われる歯片あり

L: 歯冠長 W: 歯冠幅 BH: 頰側歯冠高 LH: 舌側歯冠高 H: 歯冠高 単位: mm

所見

1号溝-03

ウシの左第3後臼歯と判断される。咬痕痕はほとんどなく、ウシの第3後臼歯は2～3歳に萌出するとされることから3～4歳の年齢が推定され、成獣になりかかったところで死亡したことになる。日本の在来牛相当の体格が推定される。性別、死因は不明である。

1号溝-955-645

細骨又は歯片5片ほどで、種名など得られる情報は乏しい。

1号住居址

馬歯は1個体分の上下左右の臼歯から成り、1頭分の頭部だけが住居址に持ち込まれたことを表している。出土時には全臼歯が揃っていたものと思われるが、その後の破損と、土と一体化していて、保存状況が極めて悪い部分があり、詳細な歯種判定が不可能である。馬齢は5～6歳と推定され、牡馬馬となったばかりの極めて若齢で死に至ったことになる。病死、事故死、屠殺などの死因が考えられるが、そのいずれかは不明である。中型在来馬相当の馬格であろう。雌雄は不明である。

Ⅵ区出土骨類

本区からは、8号溝から右下顎のまとまった骨が出土している。8号溝は旧河道と考えられ、近世から近代の遺物が出土していることから、骨についても近世以降のものと考えられる。その他、旧河道からは、ニホンカモシカの角片が出土している。

第9章 まとめ

西長岡宿Ⅶ区出土骨類計測表

出土位置	回番	種名	部位	計測値	推定年齢	特記事項
8号溝	底部	ウマ	右上顎 第3後臼歯	L24.0, W19.5, LH35.3		
			右上顎 第2前臼歯	L31.1, W21.0, LH27.0, BH27.0		
		ウマ	下顎7小骨片			
		ウマ	右下顎骨	別掲		
4号河道跡	895-610	29	ニホンシカ	角片	保存最大長36.9, 保存最大幅22.8	

L: 歯冠長 W: 歯冠幅 BH: 頰側歯冠高 LH: 舌側歯冠高 H: 歯冠高 単位: mm

別載1 8号溝右下顎骨計測表

	歯冠長	歯冠幅	下顎高	下顎幅	特記事項
下顎第3前臼歯	21.5	12.1	58.6	25.4	咬合面のエナメル質は咬耗で周囲のものしか残っていない。第2前臼歯の歯槽の痕あり
下顎第4前臼歯	21.0	14.0	59.4	26.2	
下顎第1後臼歯	21.0	12.3	65.4	25.6	

保存全長58.9+ 下顎歯高14.7+ 単位: mm

所見

8号溝

8号溝出土の遺骸は、ウマの3頭分からなる。

底部と覆土出土のウマは出土層準からして別個体と思われるが、両者とも推定年齢は10-11歳程の壮齢馬で働き盛りで死んだことになる。馬格は小型在来馬相当と思われる。右下顎骨は水流により磨耗を受けている。第3前臼歯～第1後臼歯が植立して、第2前臼歯の歯槽根が残存する。いずれの歯も咬耗が激しく、エナメル質は咬合面では周辺部だけに残っているだけで、かなりの老齢であることを示している。老齢による自然死が考えられる。体格は小型在来馬相当である。雌雄は不明である。

4号河道跡

ニホンシカの角片である。用途などは不明である。

1号埋設桶

埋設桶	底部	30	ウマ	中足骨	保存全長162.9		

単位: mm

参考文献

西中川駿編『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書、1991年林田重幸『日本在来馬の源流』『日本古代文化の探求・馬』社会思想社、215-26



第9章 まとめ



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



29



28



30

2 Ⅰ区の土層とテフラ・プラントオーバー分析

分析は、株式会社古環境研究所に委託した。分析結果は、下記の通りである。

Ⅰ 西長岡宿遺跡土層とテフラ分析

1. はじめに

群馬県域には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっていく。特に、本地域では、古墳時代初頭のAs-C軽石について明確ではないため、年代が不明な土層が検出された西長岡宿遺跡Ⅰ区においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析や火山ガラス比分析さらに屈折率測定を行って示標テフラの層位を把握し、土層の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、Ⅰ区-Ⅰ南壁およびⅠ区-Ⅰ北壁の2地点である。テフラ資料分析は、古環境研究所に依頼した。

2. 土層層序

(1) Ⅰ区-Ⅰ南壁

Ⅰ区-Ⅰ南壁では、下位より灰色垂円礫層（層厚30cm以上、礫の最大径27.2mm）、斑状に灰色部が認められ鉄分を多く含む褐色砂質土（層厚32cm）、褐色砂質土（層厚15cm）、灰褐色表土（層厚23cm）が認められる（図1）。

(2) Ⅰ区-Ⅰ北壁

Ⅰ区-Ⅰ北壁では、下位より灰色砂層（層厚22cm以上）、灰色土（層厚3cm）、灰色砂層（層厚9cm）、黄褐色砂質土（層厚11cm）、黄灰色土（層厚8cm）、色調が若干暗い灰色土（層厚9cm）、白色軽石混じり暗灰色土（層厚26cm、軽石の最大径7mm）、黒灰色土（層厚4cm）、灰褐色表土（層厚27cm）が認められる（図2）。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

テフラの特徴とその降灰準準を把握するために、Ⅰ区-Ⅰ南壁およびⅠ区-Ⅰ北壁において基本的に5cmごとに採取された試料のうち、19点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。Ⅰ区-Ⅰ南壁では、試料1に細粒の白色軽石（最大径1.2mm）がごく少量認められた。Ⅰ区-Ⅰ北壁では、最下位の試料19に細粒の白色軽石（最大径1.6mm）がごく少量認められた。また試料3、2、1には、さほど発泡が良くない白色軽石（最大径4.1mm）や、スポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径1.8mm）が含まれている。前者の坩品には角閃石や斜方輝石が、また後者の坩品には斜方輝石や単斜輝石が認められる。これらの軽石は、試料2に比較的多く含まれている。

4. 火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

軽石がほとんど認められなかった1区-1南壁において、火山ガラスで特徴づけられるテフラの降灰層準を定量的に求めるために、テフラ検出分析の対象となった試料5点について火山ガラス比分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) テフラ検出済みの試料について、分析師により1/4-1/8mmの粒子を篩別。
- 2) 偏光顕微鏡下で250粒子を同定し、火山ガラスの形態・色調別比率を求める。

(2) 分析結果

分析結果をダイアグラムにして図3に、火山ガラス比の内訳を表2に示す。いずれの試料にも、分厚い中間型ガラスが少量ずつ含まれている。試料3をのぞきスポンジ状に発泡した軽石型ガラスが認められる。さらに試料5には繊維束状に発泡した軽石型ガラス、試料1には無色透明のバブル型ガラスがわずかに含まれている。

5. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

検出されたテフラ粒子の起源を明らかにするために、1区-1南壁の試料5について、温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993)により、テフラ粒子の屈折率測定を試みた。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表3に示す。試料5には、火山ガラスは含まれているものの非常に少量で、屈折率の測定が困難であった。重鉱物としては、斜方輝石、単斜輝石、角閃石がごく少量含まれている。斜方輝石(γ)の屈折率は、1.707-1.711である。

6. まとめ

1区-1南壁において検出されたテフラ粒子は、火山ガラスの形態や斜方輝石の屈折率などから、約1.3～1.4万年前^{*)}に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)に由来する可能性がある。したがって、垂円礫層を覆う砂質土については、As-YP降灰後に形成されたと考えられる。また1区-1北壁の試料19に含まれる火山ガラスについても、その特徴からAs-YPに由来する可能性がある。1区-1北壁の試料3に比較的多く含まれる軽石のうち、灰白色軽石で特徴づけられるテフラは、その特徴から4世紀中葉^{*)}に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。また、班晶に角閃石や斜方輝石をもち、さほど発泡の良くない白色軽石は、その特徴から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)に由来する可能性が高い。

西長岡宿遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、火山ガラス比分析、屈折率測定を行った。その結果、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3～1.4万年前^{*)})に由来すると考えられるテフラ粒子、および浅間C軽石(As-C)や榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)に由来する軽石を認めることができた。

*1 放射性炭素(14C)年代。

表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
I区-1南壁	1	+	白	1.2
	3	-	-	-
	5	-	-	-
	7	-	-	-
	9	-	-	-
I区-1北壁	1	+	白, 灰白	1.8, 1.2
	2	++	白, 灰白	4.1, 1.8
	3	+	白, 灰白	2.1, 1.0
	5	-	-	-
	7	-	-	-
	9	-	-	-
	11	-	-	-
	13	-	-	-
	14	-	-	-
	15	-	-	-
	16	-	-	-
	17	-	-	-
	18	-	-	-
19	+	白	1.6	

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない。
最大径の単位は, mm。bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型。

表2 火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw(c1)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	その他	合計
I区-1南壁	1	1	0	0	1	1	0	247	250
	3	0	0	0	3	0		247	250
	5	0	0	0	2	1		246	250
	7	0	0	0	1	1		248	250
	9	0	0	0	1	1		248	250

数字は粒子数。bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, c1: 透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状。

表3 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス (n)	重鉱物	斜方輝石 (γ)
I区-1南壁	5	-	(opx, cpx, ho)	1.707-1.711

屈折率の測定は、温度一定型測定法(新井, 1972, 1993)による。opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ho: 普通角閃石。()は、量が少ないことを示す。

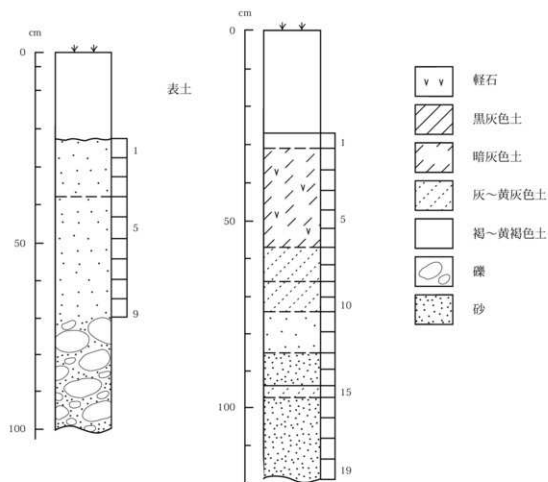


図1 西長岡宿遺跡1区南壁(左)北壁(右)柱状図。数字は、テフラ分析資料番号。

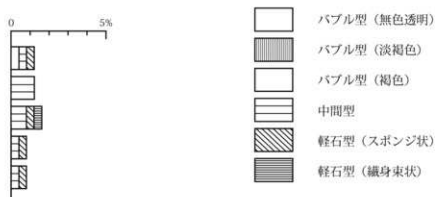


図2 西長岡宿遺跡1区—1南壁の火山ガラス比ダイヤグラム

II、西長岡宿遺跡におけるプラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (杉山, 2000)。本遺跡においても水田耕作の検証のために分析を行った。

2. 試料

試料は、1区-1南壁および1区-1北壁の2地点から採取された計7点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位: 10-5g) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ (赤米) の換算係数は2.94、ヒエ属 (ヒエ) は8.40、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属 (ススキ) は1.24、タケ亜科 (ネザザ節) は0.48である。

4. 分析結果

水田跡 (稲作跡) の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

(1) 水田跡の検討

水田跡 (稲作跡) の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している (杉山, 2000)。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

第9章 まとめ

1) I区-1南壁

As-YP混層(試料1)とその下層(試料2)について分析を行った。その結果、イネは検出されなかった。

2) I区-1北壁

Hr-FA・As-C混層(試料1、2)とその下位層(試料3～5)について分析を行った。その結果、Hr-FA・As-C混層(試料1、2)からイネが検出された。密度はいずれも3,000個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(2) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。I区-1北壁では、全体的にタケ亜科(おもにネザサ節)が多く検出され、ヨシ属も比較的多く検出された。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねヨシ属が優勢であり、タケ亜科も多くなっていることが分かる。

以上のことから、稲作が開始される以前の遺跡周辺は、ヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用してHr-FA・As-C混層の時期に水田稲作が開始されたと推定される。また、調査区周辺ではネザサ節などの竹笹類も多く生育していたと推定される。なお、稲作の開始以降もヨシ属が多く見られることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育していたことや、休閑期間中にヨシ属が繁茂していたことなどが想定される。

6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、I区-1北壁では橋名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA、6世紀初頭)と浅間C軽石(As-C、4世紀中葉)が混在する層準からイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。本遺跡周辺は、稲作が開始される以前はヨシ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、Hr-FA・As-C混層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたと推定される。また、調査区周辺ではネザサ節などの竹笹類も多く生育していたと推定される。

文献

杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール)。考古学と植物学。同成社、p.189-213。

藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-。考古学と自然科学、9、p.15-29。

藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オパール分析による水田址の探査-。考古学と自然科学、17、p.73-85。

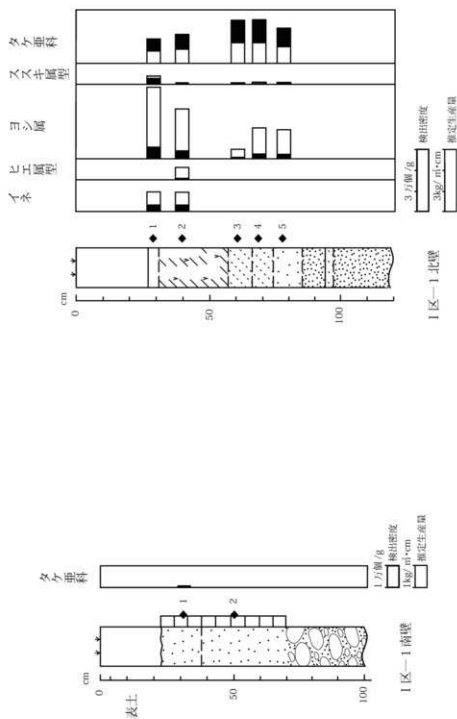
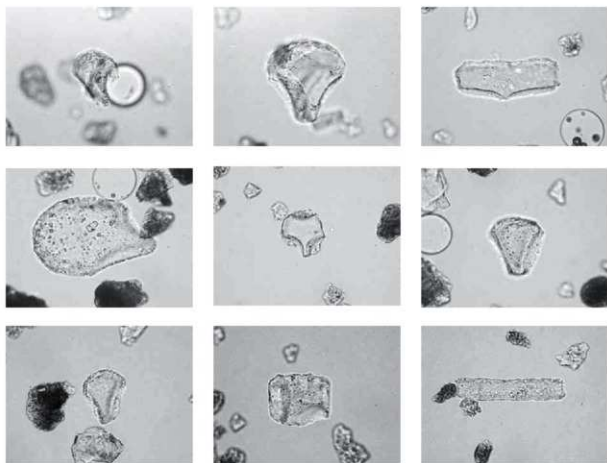


図1 西長岡宿遺跡におけるプラント・オパール分析結果



— 50 μm

第2節 調査の成果

本書で報告した西長岡宿遺跡は、東西方向に約600m続く遺跡である。本遺跡の西には、西野原遺跡・鳥谷戸遺跡があり、東には菅塩遺跡群がある。これらの遺跡は、大間々扇状地のⅡ面に相当する先端部に立地している。八王子丘陵の南麓に位置するため、この丘陵が作り出す支谷を横断するように遺跡が立地している。そのため、各遺跡の調査区により地形的变化も多く見られ、遺跡内に埋没谷や小河川が調査地を縦・横断している。また、大間々扇状地の伏流水が湧水として湧き出し小河川となっている。この小河川から耕作地へと、水を引くための水路がこれらの遺跡から数多く検出されている。これらの地形的状況を踏まえて、本遺跡と西野原遺跡・菅塩遺跡群等の周辺遺跡の調査成果をまとめて結びとする。

本遺跡での遺構は、縄文時代を除くと古墳時代前期4世紀後半段階に見られる。本遺跡周辺の調査では、集落遺構が検出されておらず、湧水などによる小河川と水路が大多数を占めている。本遺跡の東側の八王子丘陵上に、古墳時代前期の成塚向山古墳が作られているが、本遺跡出土の土器と比較すると1～2段階古い土器が出土している。本遺跡出土土器と同時期の遺跡は、成塚団地遺跡などに見られる。古墳時代前期の初めには、丘陵上にあった集落が一段下の微高地に移動し、その集落の人達による生産地として、本遺跡があったと考えられる。

本遺跡のⅠ区では、八王子丘陵のある北側から南側に向けて傾斜し、放射状に溝状の谷地が入る（Ⅰ号・Ⅱ号・Ⅷ号溝）。これらの溝からは、成塚向山Ⅲ期(深澤2008)に相当する古墳時代前期の土器が出土している。また、溝の落ち際や北側の微高地に、祭祀と思われる土器溜まりが見られた。南東側では、墓壇等が確認されている。これらことから古墳時代前期（4世紀後半）には、北側微高地には、集落に関連する施設があり、北側に集落が形成されていたと推定される。そして、この微高地の南側低地に水田などの耕作地が広がっていたと推定される。Ⅰ区の西側に隣接する鳥谷戸遺跡では、おなじく古墳時代前期の水路と思われる溝が検出されている。本区の東側のⅡ区からⅤ区にかけて調査区を縦断するように、蛇行する小河川が検出されている。この小河川から枝分かれするように水路に利用された溝が造られている。菅塩遺跡群でも、微高地にあたる部分で住居跡がⅠ軒検出され、さらにこの縁辺部に水路に利用された溝が検出されており、本遺跡と同様の状況を示す。

本遺跡を含む周辺遺跡では、テフラ分析を行い、As-B軽石・Hr-FA軽石・As-C軽石等の基準となるテフラを検出することが出来た。これらのテフラを基本土層として、プラントオバールの分析を行った。鳥谷戸遺跡では、As-C軽石層の下層でプラントオバールの分析を行っているが、ここでは、ヨシ属が多くイネは、検出されなかった。また、菅塩遺跡群でも同様にAs-C軽石層の下層では、ヨシ属が多く検出されている。一方、西長岡宿遺跡Ⅰ区では、Hr-FA軽石下のAs-C軽石混じり層からイネのプラントオバールが検出されている。これらのプラントオバールの分析から、稲作が開始される以前の遺跡周辺は、ヨシ属などが生息する湿地的な環境であったと考えられる。その湿地的な環境を利用して、本地域での稲作が開始された。稲作の開始時期は、As-C軽石降下後の古墳時代前期（4世紀中）に始まったといえる。

古墳時代前期では、具体的な形として畦畔が確認されており水田が具体的に検出されていないが、プラントオバールの採取により稲作が行われていた可能性が考えられる。そして、これらの耕作に係る遺構には、蛇行する小河川に接続するように溝が作られたり、微高地の縁辺部に地形の傾斜に沿って水路が作られるなど地形に制約された形で検出されていることから、耕作地も規格を持って作られたのではなく、地形の制約を受けたなかで稲作を行っていたと考えられる。

古墳時代後期6世紀前半から中頃の西長岡宿遺跡では、Ⅵ区から住居跡が2軒検出されている。西野原遺跡

からも住居址が検出されていることから、遺跡の立地条件や地形の変化があり、古墳時代前期とは異なる立地条件で集落が作られている。本遺跡でも場所によって僅かな高まりが認められ、そこに古墳時代後期の住居が造られている。耕作による溝は、古墳時代前期と同様に微高地の縁辺部や遺跡を蛇行して縦断する古墳時代前期から続く小河川に接続するように、水路になる溝が地形の制約を受けた形で作られている。水田などの畦畔は、古墳時代前期同様に確認出来なかったが、西長岡宿遺跡・島谷戸遺跡・菅塩遺跡群でのプラントオパール分析では、Hr-F軽石混じり層からイネ科のプラントオパールが採取され、稲作が行われていたと考えられる。

古代の遺構は少なく、集落は検出されていない。検出された遺構は、溝や水田跡、貯蔵用の土坑などが主なものである。西長岡宿遺跡・島谷戸遺跡・菅塩遺跡群では、As-B軽石に埋もれた水田面が検出されている。特に菅塩遺跡群では、水田の畦畔がはっきりと確認されている。島谷戸遺跡から菅塩遺跡群にかけて、As-B軽石層下のプラントオパールを分析したところ、イネ科のものが大量に検出されている。古墳時代では、場所により、プラントオパールの量に多寡がみられた。稲作が地形に影響され部分的に行われたり、稲作が短期間であったためプラントオパールの量にばらつきが見られたのであるが、As-B軽石層下では、この地域周辺に安定して多量に見られることから、稲作が広範囲に行われていたと言える。

本遺跡のⅢ区やⅦ区、島谷戸遺跡・菅塩遺跡群からは、水田の畦畔とは別に土地の区画のための溝や、二本並行した溝が直線的に伸び、道路と思われる遺構が検出されている。菅塩遺跡群では、方形区画の溝に囲まれて掘立柱建物が出されている。また、島谷戸遺跡や本遺跡のⅥ区では、集落域にある微高地に畠跡が検出されている。古代においては、水田耕作地が直線的な溝により区画されるようになる。このことは、地形の傾斜などに影響された古墳時代の土地利用とは異なり、古代の土地利用が、規格性をもって進められていたと推定される。

古代から近世にかけての遺構も検出されている。特に西長岡宿遺跡を東西に蛇行して流れる小河川は、古墳時代から近世に続いていたと思われる。小河川の中からは、古墳時代から近世にいたる土器を初め、板碑や五輪塔などの石造物、木器、銭、馬骨など様々な物が出土している。溝から出土した馬骨については、宮崎重雄氏に1節にあるように鑑定していただいた。その結果、溝に馬骨を遺棄した状態の物が多く、馬を使った祭祀もこの小河川で行われていた可能性も考えられる。

その他、Ⅴ区などでは、地割り区画の溝や貯蔵穴などが検出されている。古代の溝と方向が異なっており、古代とは違った土地利用が行われていたと推測される。

以上、本遺跡を中心としてその概要をまとめた。その結果、古墳時代に、微高地に集落を作り、低地部に稲作水田を設けた稲作が行われている。以後近世まで、土地利用は変遷しているが、基本的に微高地に居住域、低地部に生産域が存在した場所であったと言える。

参考文献

- 宮塚義人 1991 「成塚住宅部地遺跡」 群馬県企業局
- 木津博明 1990 「東長岡戸井口遺跡」 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 深沢敦仁 2008 「成塚向山古墳群」 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 高井佳弘 2008 「西野原遺跡(3)・(4)・島谷戸遺跡」 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 齊田智彦 2008 「菅塩遺跡群」 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

写真図版



I 区調査区近景 (東)



I 区調査区近景 (南)



Ⅰ区調査区近景(西)



Ⅰ区調査区近景(西)



I区1号遺構遺物出土状況(南)



I区1号遺構遺物出土状況(南)



I区1号遺構遺物出土状況(南)



I区1号遺構遺物出土状況(南)



I区1号遺構遺物出土状況(西)



I区1号遺構遺物出土状況(南)



I区3号遺構遺物出土状況(東)



I区3号遺構遺物出土状況(西)



I区4号遺構遺物出土状況 (西)



I区4号遺構遺物出土状況 (西)



I区4号遺構遺物出土状況 (南)



I区4号遺構遺物出土状況 (南)



I区6号遺構遺物出土状況 (東)



I区6号遺構遺物出土状況 (西)



I区6号遺構遺物出土状況 (西)



I区11号遺構遺物出土状況 (西)



I区12号遺構断面(南西)



I区15号遺構全景(東)



I区15号遺構遺物出土状況(東)



I区15号遺構遺物出土状況(東)



I区3号溝断面(東)



I区5号・6号溝全景(西)



I区5号・6号溝全景(西)



I区5号・6号溝全景(南)



Ⅰ区5号・6号溝全景(東)



Ⅰ区6号溝遺物出土状況(東)



Ⅰ区6号溝遺物出土状況(東)



Ⅰ区6号溝遺物出土状況(北)



Ⅰ区6号溝遺物出土状況(東)



Ⅰ区6号溝遺物出土状況(東)



Ⅰ区6号溝遺物出土状況(東)



Ⅰ区6号溝遺物出土状況(東)



I区8号溝遺物出土状況(南東)



I区8号溝全景(南)



I区8号溝遺物出土状況(北)



I区8号溝遺物出土状況(南)



I区8号溝遺物出土状況(北東)



II区調査区全景(西)



II区調査区近景



II区7号遗構全景(西)



II区8号遗構全景(西)



II区17号遗構全景(北)



II区18号~20号遗構全景(南)



II区18号遗構断面(南)



II区19号遗構断面(南)



II区20号遗構断面(南)



II区 21号遺構断面(南)



II区 21号遺構全景(南)



II区 22号遺構断面(西)



II区 22号遺構全景(西)



II区 23号遺構断面(南)



II区 25号遺構全景(西)



II区 33号遺構全景(南)



II区 34号遺構全景(南)



II区1号満石塔出土状況(南東)



II区2号溝遺物出土状況(東)



II区2号溝遺物出土状況(東)



II区2号溝遺物出土状況(東)



II区6号・7号溝全景(南)



Ⅲ区調査区全景(東)



Ⅲ区調査区全景



III区1号土坑断面(南)



III区1号土坑全景(南)



III区2号土坑断面(东)



III区2号土坑全景(南)



III区3号土坑断面(东)



III区3号土坑全景(东)



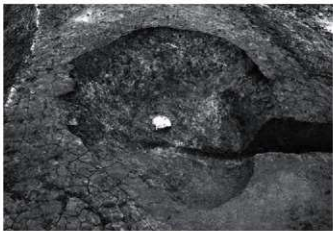
III区4号土坑断面(南)



III区4号土坑全景(南)



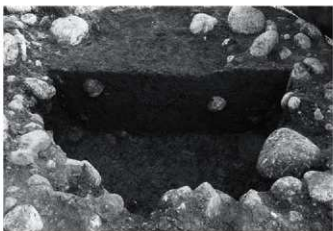
Ⅲ区5号土坑断面(北)



Ⅲ区5号土坑全景(北)



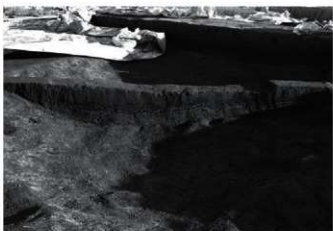
Ⅲ区6号土坑断面(西)



Ⅲ区7号土坑断面(北)



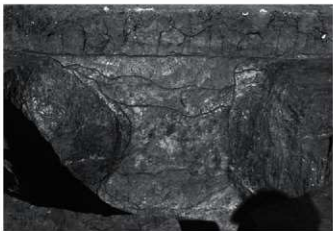
Ⅲ区7号土坑全景(南東)



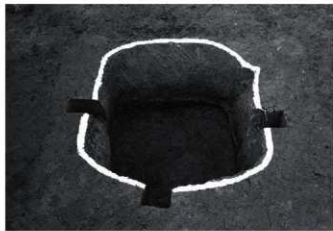
Ⅲ区8号土坑断面(北)



Ⅲ区8号土坑全景(東)



Ⅲ区9号土坑断面(南)



Ⅲ区 9号土坑全景 (南)



Ⅲ区 10号土坑断面 (東)



Ⅲ区 10号土坑全景 (東)



Ⅲ区 14号土坑断面 (南)



Ⅲ区 14号土坑遺物出土狀況 (北)



Ⅲ区 16号土坑檢出狀況 (東)



Ⅲ区 16号土坑断面 (東)



Ⅲ区 16号土坑全景 (東)



Ⅲ区1号ピット群全景 (南)



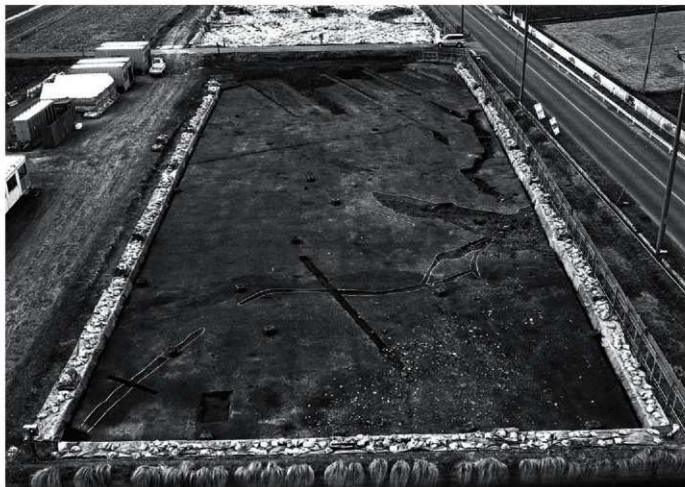
Ⅲ区1号ピット群全景 (南東)



Ⅲ区1号柵列全景 (南)



Ⅲ区1号溝全景 (南)



III区溝調査状況 (東)



III区溝調査状況 (東)



Ⅲ区1号～6号溝調査状況（南）



Ⅲ区2号溝南部分（西）



Ⅲ区2号溝全景（南東）



Ⅲ区6号溝全景（南）



Ⅲ区2号・3号溝全景（南）



Ⅲ区3号・4号溝全景（南東）



Ⅲ区1号～4号溝全景（東）



Ⅲ区5号溝全景（西）



Ⅲ区7号・11号溝全景 (東)



Ⅲ区7号・11号溝全景 (南)



Ⅲ区7号・11号溝全景 (南)



Ⅲ区7号溝遺物出土状況 (北)



Ⅲ区7号溝遺物出土状況 (東)



Ⅲ区8号溝断面 (西)



Ⅲ区8号溝全景 (西)



Ⅲ区9号溝全景(南)



Ⅲ区10号溝全景(南西)



Ⅲ区10号溝全景(東)



Ⅲ区12号溝断面(東)



Ⅲ区13号溝全景(南)



Ⅲ区14号溝全景(南)



Ⅲ区16号溝(東)



Ⅲ区16号溝全景(西)



Ⅲ区 16号溝遺物出土状況 (東)



Ⅲ区 16号溝遺物出土状況 (南)



Ⅲ区 16号溝遺物出土状況 (南)



Ⅲ区 16号溝遺物出土状況 (東)



Ⅲ区 19号溝断面 (南)



Ⅲ区 20号溝断面 (南)



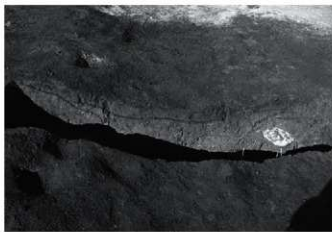
Ⅲ区 21号溝断面 (北)



Ⅲ区 22号溝断面 (南)



Ⅲ区 23号沟断面 (北)



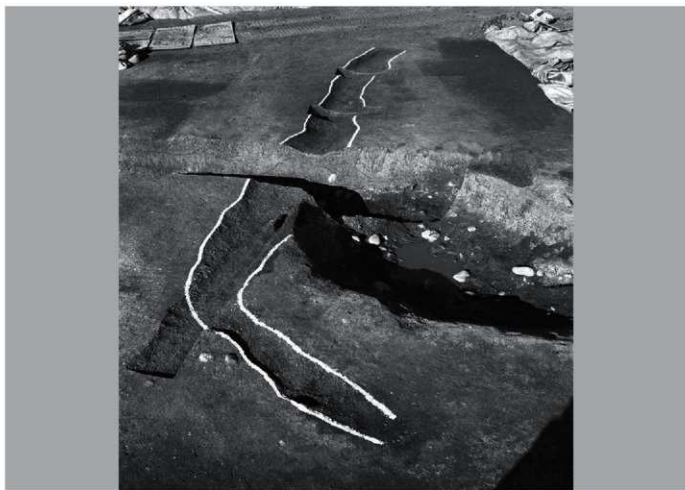
Ⅲ区 29号沟断面 (南)



Ⅲ区 39号沟断面 (西)



Ⅲ区 40号沟断面 (东)



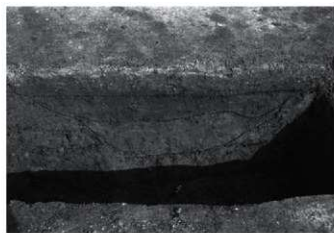
Ⅲ区 43号沟全景 (南)



Ⅲ区 44号～47号・50号溝全景（北）



Ⅲ区 44号溝断面（南）



Ⅲ区 45号溝断面（南）



Ⅲ区 46号溝断面（南）



Ⅲ区 46号溝遺物出土状況（南）



Ⅲ区 47 号溝断面 (南)



Ⅲ区 48 号溝断面 (南)



Ⅲ区 49 号溝断面 (南)



Ⅲ区 50 号溝断面 (南)



Ⅲ区 51 号溝全景 (東)



Ⅲ区 51 号溝全景 (東)



Ⅲ区 51 号溝全景 (西)



Ⅲ区 51 号溝遺物出土狀況 (南)



IV区調査区全景（北西）



IV区調査区全景（北西）



IV区 A5-B下水田 (西)



IV区 A5-B下水田 (西)



IV区 A5-B下水田 (西)



IV区 A5-B下水田 (南西)



IV区 A5-B下水田 (西)



IV区 15号遗構断面 (西)



IV区 16号遗構全景 (西)



IV区 17号遗構全景 (西)



IV区 18号遗構全景 (南)



IV区 4号溝全景 (北東)



IV区 6号溝全景 (北)



IV区 5号溝全景 (西)



IV区旧河道 (西)



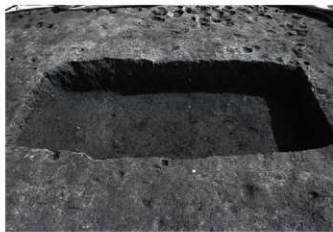
IV区旧河道 (西)



V区調査区全景（南東）



V区調査区全景



V区1号土坑全景 (南)



V区3号土坑全景 (北)



V区4号土坑全景 (东)



V区5号土坑全景 (北)



V区6号土坑全景 (北)



V区7号土坑全景 (东)



V区8号土坑全景 (东)



V区9号土坑全景 (东)



V区10号土坑全景(南)



V区11号土坑全景(东)



V区12号土坑全景(南)



V区13号土坑全景(西)



V区14号土坑全景(南)



V区14号土坑遗物出土状况(北)



V区15号土坑全景(南)



V区16号土坑全景(南东)



V区 17号土坑全景 (东)



V区 18号土坑全景 (南)



V区 19号土坑全景 (南)



V区 20号土坑全景 (南西)



V区 21号·22号土坑全景 (南)



V区 23号土坑全景 (南)



V区 26号·27号土坑断面 (南东)



V区 28号土坑断面 (北东)



V区1号烧土核出状况(南)



V区1号烧土全景(西)



V区3号烧土全景(南東)



V区4号烧土全景(南西)



V区5号烧土全景(南)



V区5号烧土全景(南)



V区旧河道遗物出土状况(西)



V区旧河道遗物出土状况(西)



V区1号溝全景 (南)



V区2号溝全景 (北)



V区3号溝全景 (南)



V区3号溝全景 (北)



V区5号溝全景(北)



V区8号溝全景(南)



V区9号・10号溝全景(北)



V区14号溝全景(北)



V区15号溝全景(東)



V区1面溝群全景(北)



VI区中近世面全景（南）



VI区古墳面全景



VI区1号住居全景（西）



VI区1号住居全景（西）



VI区1号住居遺物出土状況（西）



VI区1号住居遺物出土状況（東）



VI区1号住居遺物出土状況（西）



VI区2号住居全景(西)



VI区2号住居全景(南)



VI区2号住居堀方全景(西)



VI区2号住居堀方全景(西)



VI区1号井戸断面(南)



VI区1号井戸全景(北)



VI区2号井戸断面(南)



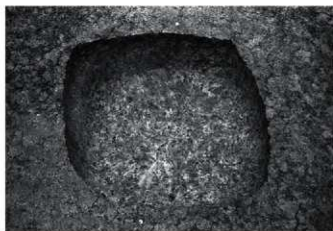
VI区2号井戸全景(西)



VI区1号土坑全景(西)



VI区2号土坑全景(南)



VI区3号土坑全景(东)



VI区4号土坑全景(南)



VI区5号土坑断面(西)



VI区6号土坑全景(东)



VI区7号土坑全景(南)



VI区8号土坑全景(西)



VI区9号土坑全景(西)



VI区10号土坑全景(東)



VI区11号土坑全景(南東)



VI区12号土坑全景(北)



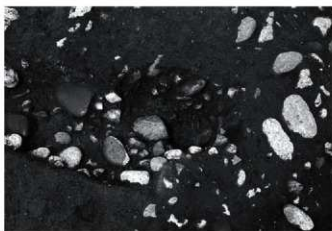
VI区13号土坑全景(南)



VI区14号土坑断面(南)



VI区14号土坑遺物出土狀況(西)



VI区15号土坑遺物出土狀況(西)



VI区1号ピット全景(南)



VI区1号焼土検出状況(南)



VI区2号焼土検出状況(南)



VI区2号焼土全景(南)



VI区1号溝全景(南東)



VI区1号溝断面(東)



VI区1号溝牛歯出土状況(西)



VI区2号溝全景 (北西)



VI区3号溝全景 (西)



VI区4号溝全景 (北西)



VI区5号溝断面 (西)



VI区5号溝全景 (西)



VI区1号畠状遺構検出状況(南)



VI区1号畠状遺構検出状況(西)



VI区旧河道全景(東)



VI区旧河道全景(西)



VI区旧河道全景(東)



VI区旧河道断面(西)



VI区旧河道断面(西)



VII区中近世面全景(南東)



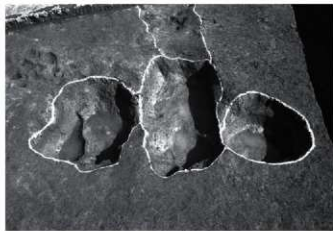
VII区中近世面全景(北西)



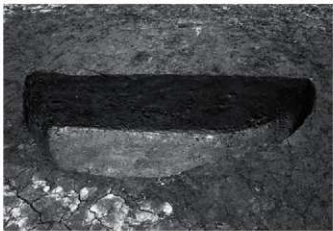
VII区中近世面全景



VII区中近世面近景



VII区1号~3号土坑全景(西)



VII区3号土坑断面(南)



VII区4号土坑断面(東)



VII区4号・5号土坑全景(西)



VII区5号土坑断面(西)



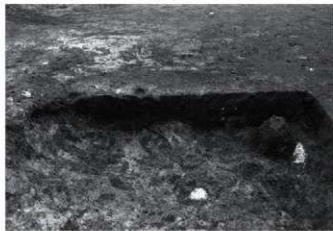
VII区6号土坑断面(東)



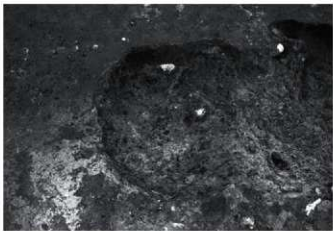
VII区7号・8号土坑断面(東)



VII区7号・8号土坑全景(西)



VII区9号土坑断面(北)



VII区9号土坑全景(东)



VII区10号土坑断面(东)



VII区10号土坑全景(东)



VII区12号土坑断面(西)



VII区12号土坑全景(西)



VII区13号土坑全景(南西)



VII区13号土坑全景(东)



VII区 14号土坑断面(西)



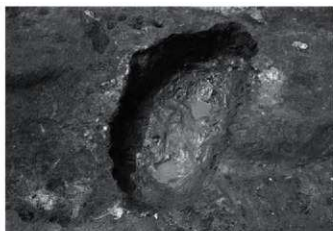
VII区 14号土坑全景(北)



VII区 15号土坑断面(北)



VII区 15号土坑全景(西)



VII区 16号土坑全景(北)



VII区 20号土坑全景(东)



VII区 21号土坑全景(北)



VII区 23号土坑全景(北)



VII区2号ピット全景(東)



VII区3号ピット断面(北)



VII区4号・5号ピット断面(西)



VII区4号・5号ピット全景(西)



VII区6号ピット断面(東)



VII区6号ピット全景(東)



VII区7号ピット断面(北)



VII区8号ピット全景(北)



VII区1号埋設桶出土状況(東)



VII区1号埋設桶全景(東)



VII区1号埋設桶馬骨出土状況(南)



VII区1号埋設桶断面(東)



VII区1号埋設桶外周の籬(北)



VII区1号溝全景(西)



VII区1号溝断面(南)



VII区1号溝全景(東)



VII区2号溝全景(東)



VII区3号溝全景(西)



VII区5号溝全景 (西)



VII区5号溝全景 (東)



VII区6号溝全景 (南)



VII区7号溝全景 (東)



VII区8号溝全景 (東)



VII区8号溝断面(東)



VII区8号溝五輪塔出土状況(東)



VII区8号溝馬歯出土状況



VII区8号溝馬骨出土状況(南東)



VII区9号溝全景(南)



VII区11号溝全景(東)



VII区12号溝全景(東)



VII区12号溝全景(西)



VII区 14号溝全景 (南)



VII区 15号溝全景 (北)



VII区 16号溝全景 (南)



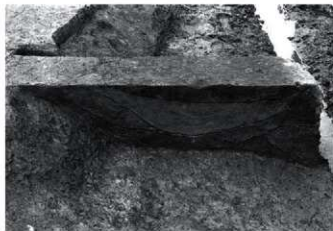
VII区 17号溝全景 (北西)



VII区 18号溝全景 (南)



VII区 19号溝全景 (北)



VII区 20号溝断面 (北)



VII区 21号溝全景 (北)



VII区 22号沟断面 (西)



VII区 23号沟全景 (东)



VII区 23号沟全景 (南)



VII区 23号沟全景 (西)



VII区 24号沟全景 (南)



VII区 23号・25号沟断面 (南)



VII区 26号沟断面 (南)



VII区 26号沟全景 (北)



VII区 27号溝全景 (北)



VII区 27号溝全景 (南)



VII区 28号溝全景 (南)



VII区 28号溝断面 (南)



VII区 29号・30号溝全景 (北)



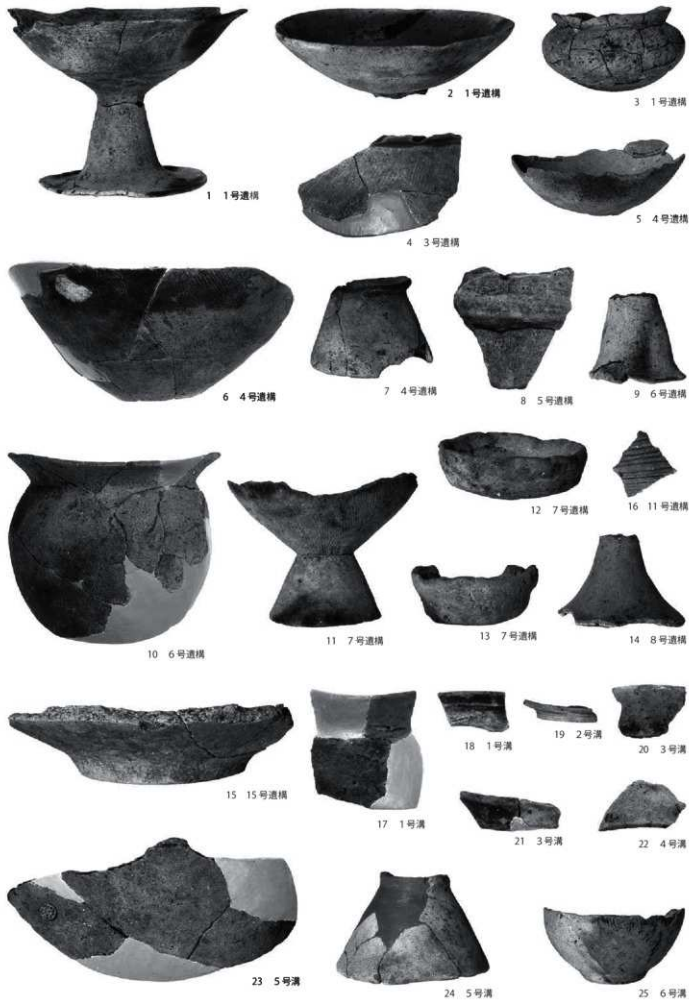
VII区 30号溝断面 (南)



VII区 8号溝調査状況 (北)



VII区 8号溝調査状況 (北)



I区出土遺物(1)



26 6号溝



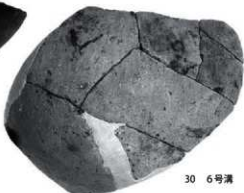
27 6号溝



28 6号溝



29 6号溝



30 6号溝



31 6号溝



32 6号溝



33 6号溝



34 6号溝



35 6号溝



36 6号溝



37 6号溝



38 6号溝



39 6号溝



40 6号溝



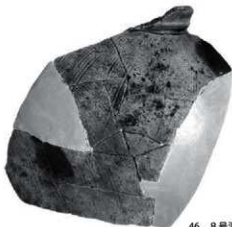
41 6号溝



42 6号溝



43 6号溝



46 8号溝



48 8号溝



44 6号溝



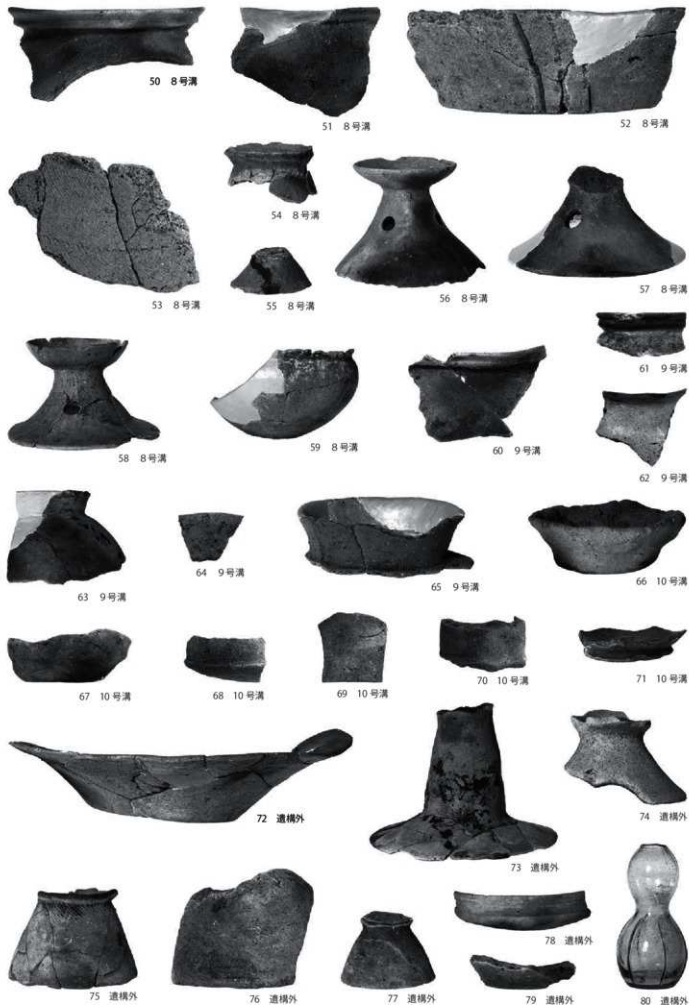
45 7号溝

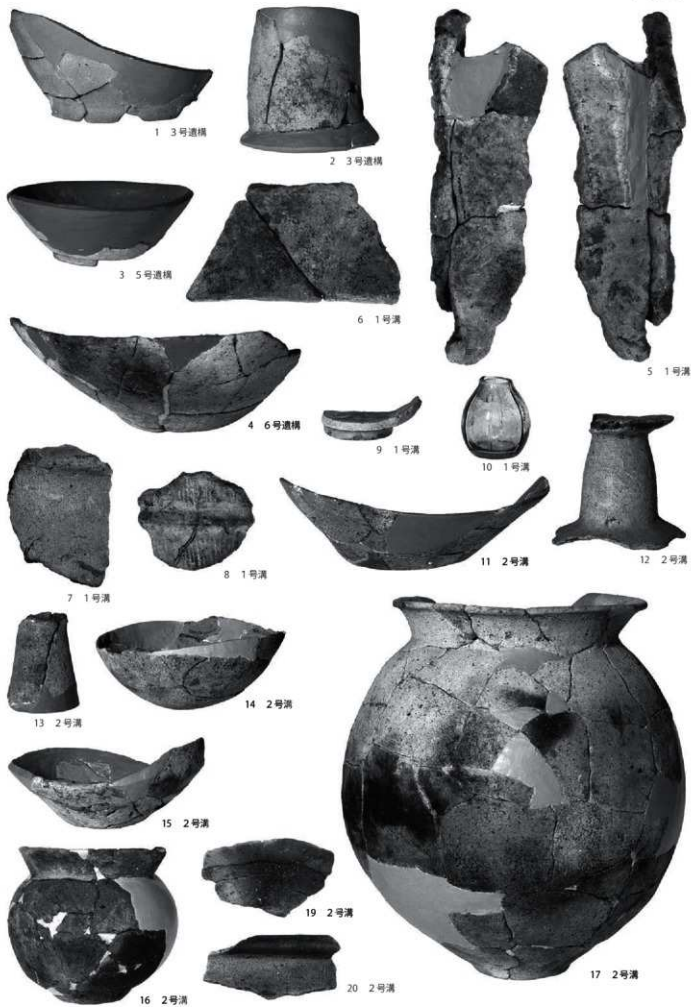


47 8号溝



49 8号溝





II区出土遺物(1)



18 2号溝



23 遺構外



21 2号溝



22 6号溝



24 遺構外



25 遺構外



26 遺構外



27 遺構外



28 遺構外



29 遺構外



34 遺構外



30 遺構外



32 遺構外



35 遺構外



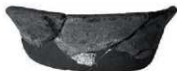
31 遺構外



33 遺構外



36 遺構外



37 遺構外



38 遺構外



39 遺構外



40 遺構外



41 遺構外



42 遺構外



43 遺構外



44 遺構外



45 遺構外



46 遺構外



47 遺構外



48 遺構外



49 遺構外



50 遺構外



51 遺構外



53 遺構外



52 遺構外



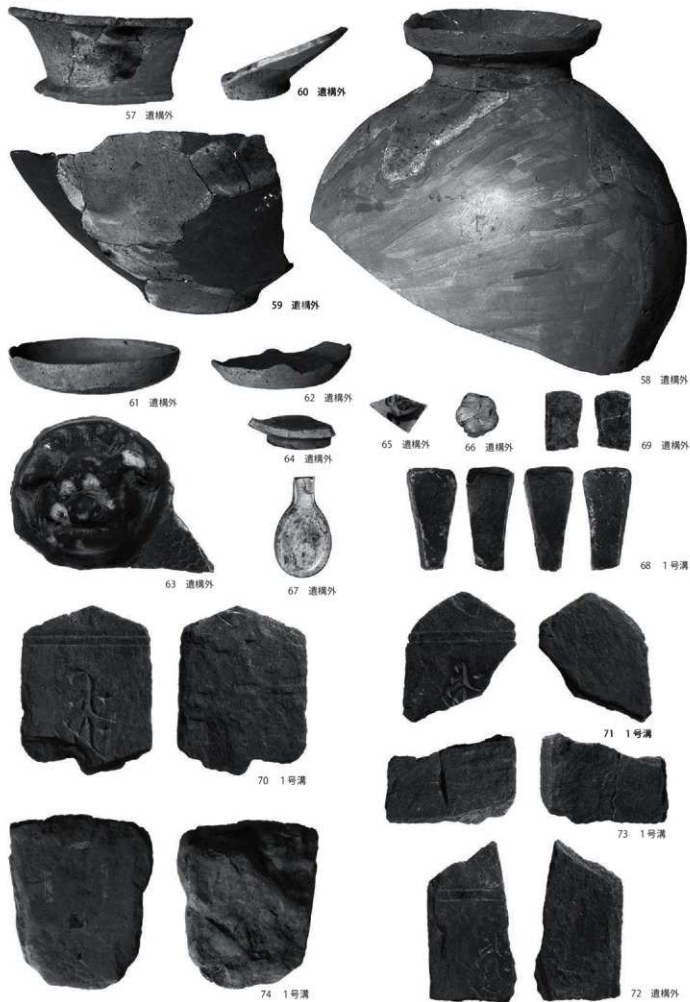
54 遺構外



55 遺構外



56 遺構外





75 1号溝



76 遺構外



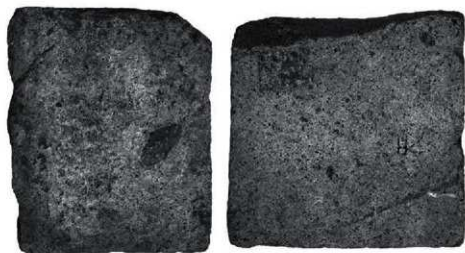
78 1号溝



77 1号溝



79 1号溝



80 1号溝



1 6号遺構



2 7号遺構



4 4号土坑



3 7号遺構



5 14号土坑



6 1号ビット



7 1号溝



8 7号溝



10 16号溝



11 16号溝



9 16号溝



13 16号溝



14 16号溝



15 16号溝



16 遺横外



17 46号溝



18 46号溝



19 16号溝



20 46号溝



21 50号溝



22 16号溝



23 16号溝



24 16号溝



25 16号溝



26 16号溝



27 16号溝



29 16号溝



28 16号溝



30 16号溝



31 16号溝



32 16号溝



34 16号溝



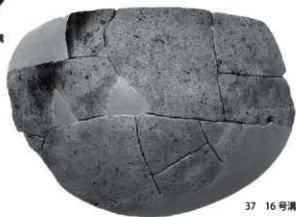
33 16号溝



35 16号溝



38 16号溝



37 16号溝



36 16号溝



41 16号溝



39 16号溝



42 16号溝



40 16号溝



43 16号溝



44 16号溝



45 16号溝



46 16号溝



47 16号溝



48 16号溝



49 16号溝



52 遺構外



53 遺構外



54 遺構外



50 遺構外



51 遺構外



55 遺構外



56 遺構外



57 遺構外



58 遺構外



59 遺構外



60 遺構外



61 遺構外



62 遺構外



63 遺構外



64 遺構外



65 遺構外



66 遺構外



67 遺構外



68 遺構外



69 遺構外



70 遺構外



71 遺構外



72 遺構外



73 遺構外



74 遺構外



75 遺構外



76 遺構外



77 遺構外



78 遺構外



79 遺構外



80 遺構外



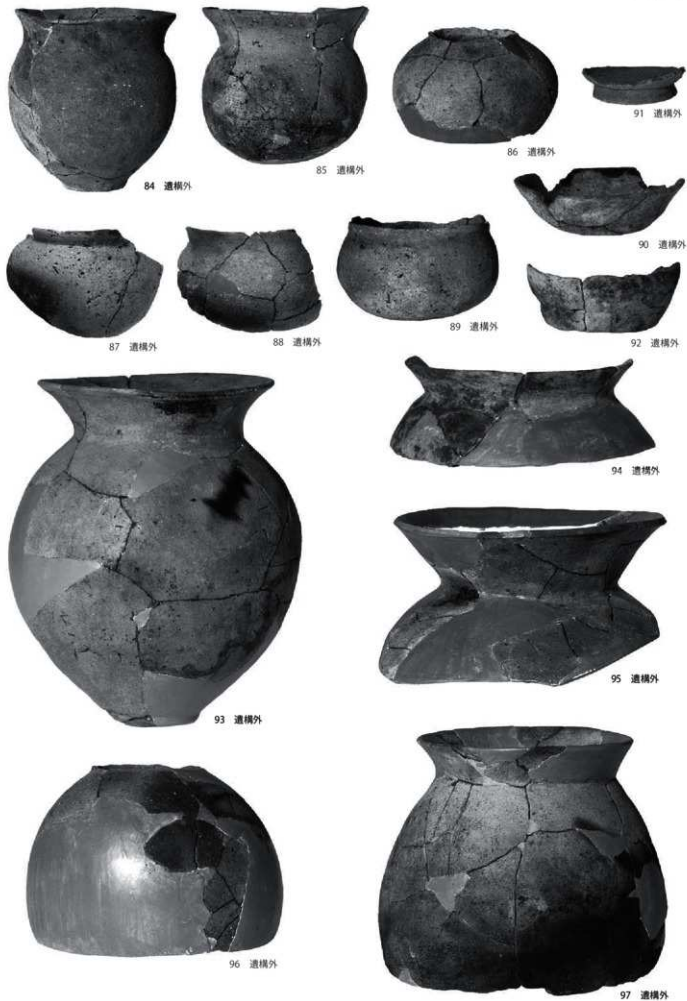
81 遺構外



82 遺構外



83 遺構外





98 遺構外



99 遺構外



100 遺構外



1 6号溝



2 6号溝



3 6号溝



4 6号溝



5 6号溝



6 6号溝



7 32号跡壇



9 32号遺構



12 旧河道



8 32号遺構



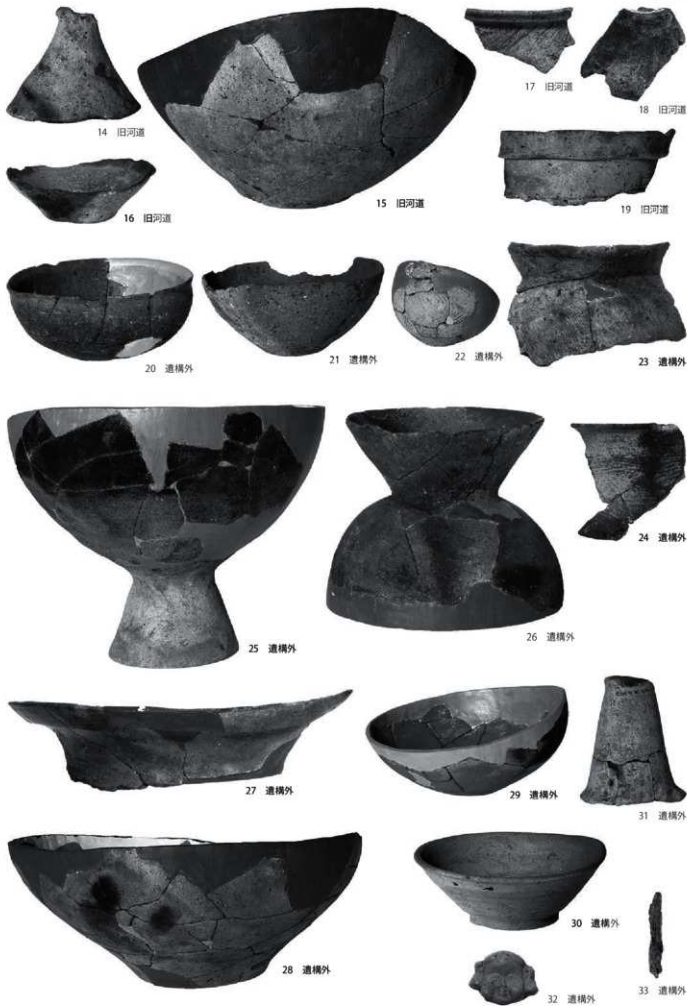
10 旧河道

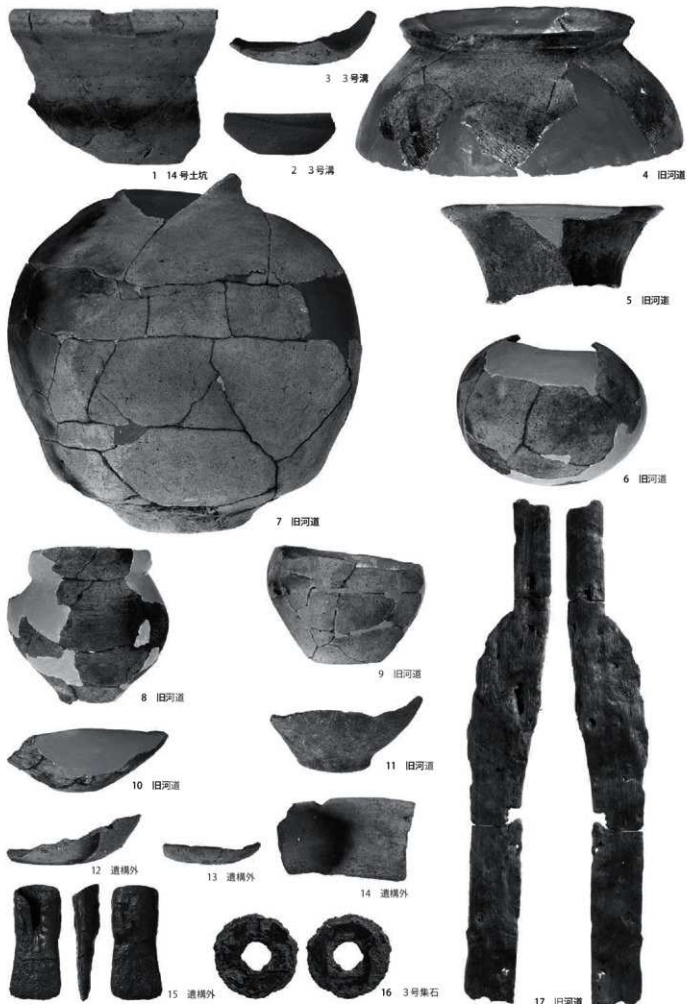


11 旧河道

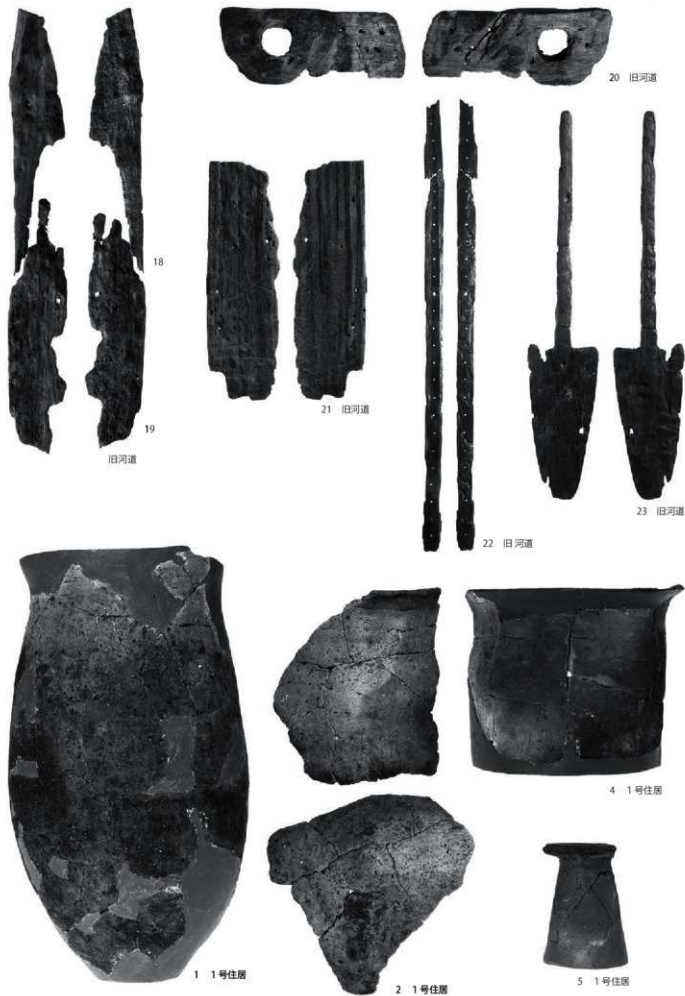


13 旧河道





V区出土遺物(1)



V区出土遺物(2)・VI区出土遺物(1)



VI区出土遺物(2)・VII区出土遺物(1)



12 1号溝



13 4号溝



14 4号溝



15 4号溝



16 4号溝



17 4号溝



18 4号溝



19 4号溝



21 5号溝



20 5号溝



22 5号溝



23 5号溝





44 遺構外



47 遺構外



48 遺構外



49 遺構外



50 遺構外



51 遺構外



52 遺構外



53 遺構外



54 遺構外



55 遺構外



56 8号溝



58 8号溝



57 8号溝



59 5号溝



60 5号溝



61 10号溝



62 8号溝



63 8号溝



64 5号遺構



65 遺構外



66 6号溝





67 1号埋股桶



68 5号溝



69 6号溝



70 6号溝



71 6号溝



72 5号溝



73 6号溝



74 遺構外



75 6号溝



76 5号溝



77 遺構外



78 遺構外



79 遺構外



80 遺構外



81 遺構外



82 遺構外



83 5号溝



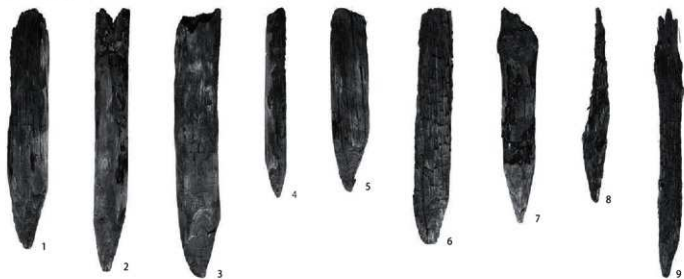
84 遺構外



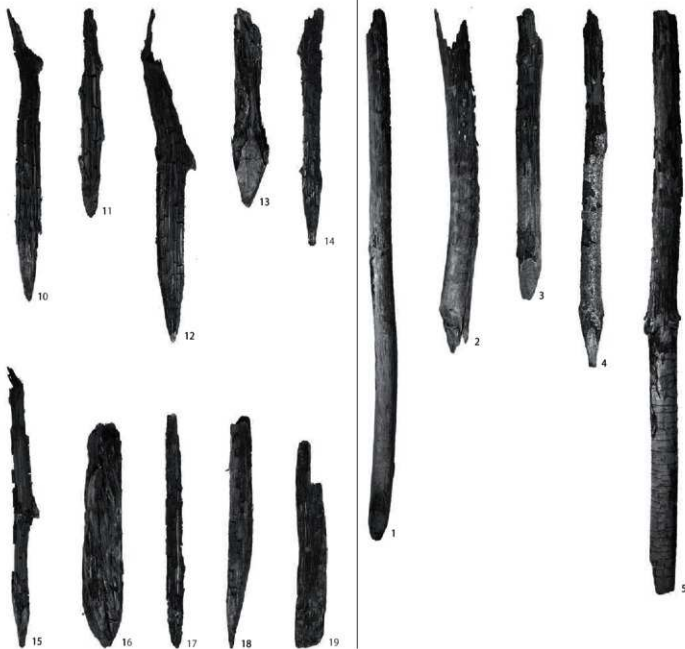
VII区出土遺物 (6)

PL.82

III区1号坑列



VII区8号沟(1)



III区出土遗物·VII区出土遗物(1)

VII区8号溝 (2)



VII区出土遺物 (2)

報 告 書 抄 録

書名ふりがな	にしながおかしゅくいせきいち
書 名	西長岡宿遺跡（1）
副書名	北関東自動車道（伊勢崎～県境）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	490
編著者名	関根徹二/齊田智彦
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20100310
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住 所	群馬県渋川市北極町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	にしながおかしゅく
遺 跡 名	西長岡宿
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしにしながおか
遺跡所在地	群馬県太田市西長岡
市町村コード	10205
遺跡番号	T0388
北緯（日本測地系）	362037-362038
東経（日本測地系）	1391936-1392008
北緯（世界測地系）	362048-362038
東経（世界測地系）	1391924-1391956
調査期間	20010401-20040331
調査面積	27,876㎡
調査原因	道路建設工事
種 別	集落/耕作地
主な時代	古墳時代・平安時代・近世
遺跡概要	包蔵地-弥生/古墳/奈良/平安-土器+石器/集落-古墳-竪穴住居2+土坑41+溝39+井戸2/田畑-古代-溝58+土坑26+井戸4+畑1 /中近世-溝24+土坑29
特記事項	古墳時代から近世にかけて各時代の耕作に伴う水路・土坑
要 約	太田市の八王子丘陵南麓には、古代の耕作地が展開する。本遺跡は、耕作地灌漑のための水路や埋没河川が検出されている。これらの水路からは、古墳時代前期の土器が出土している。水路端では、遺棄された土器があり、水辺の祭祀との関連性も考えられる。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第490集

西長岡宿遺跡(1) (弥生時代以降編)

北関東自動車道《伊勢崎～県境》地域
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成22年(2010)3月3日 印刷

平成22年(2010)3月10日 発行

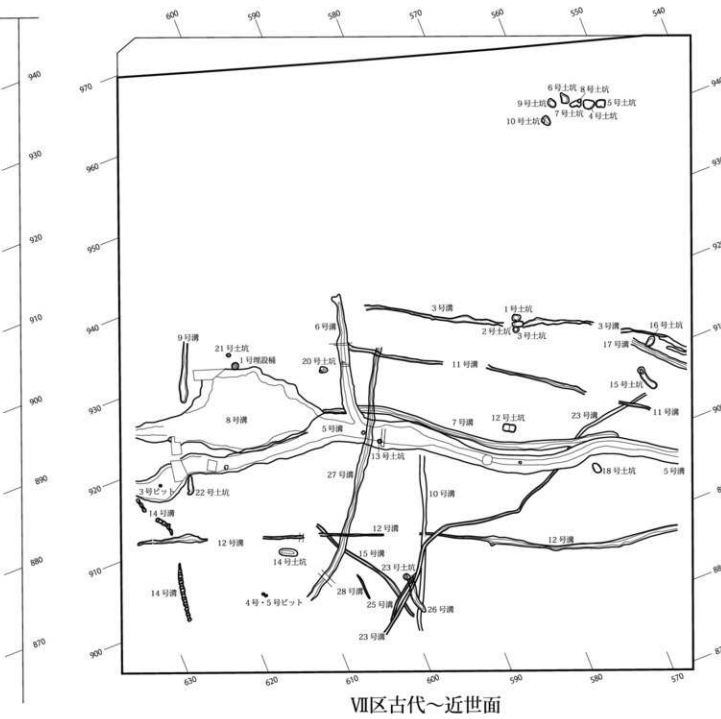
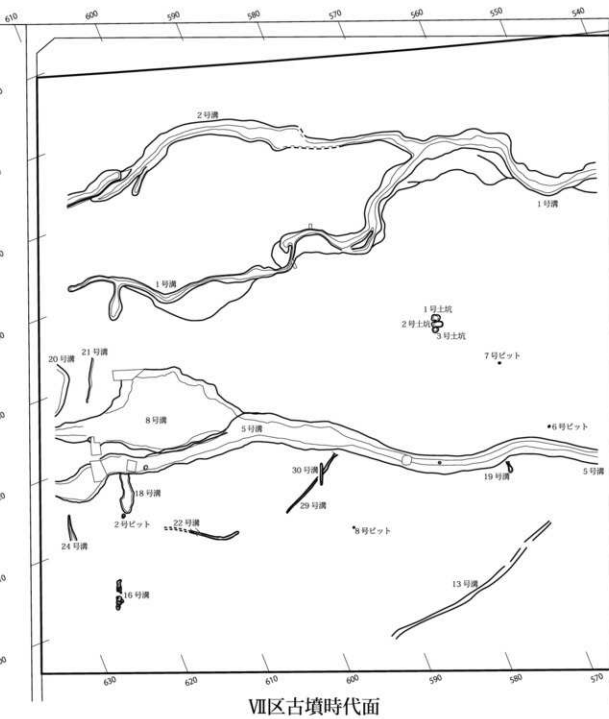
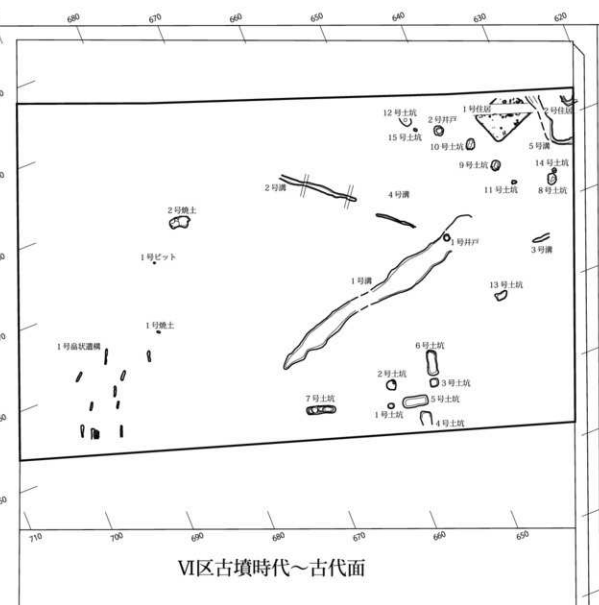
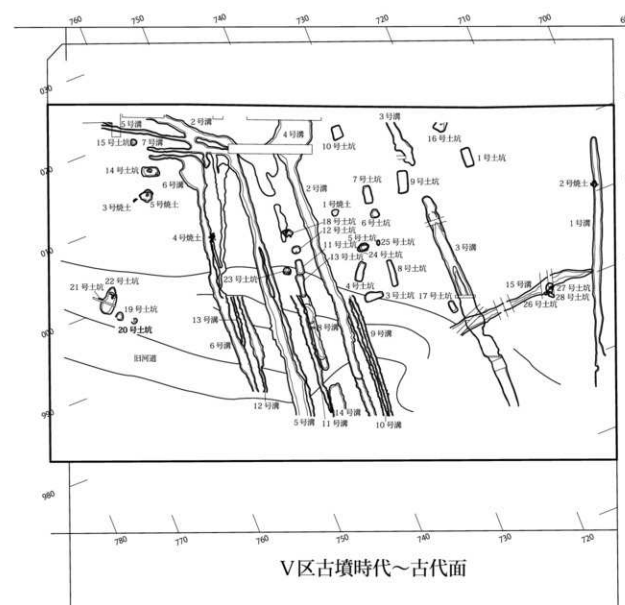
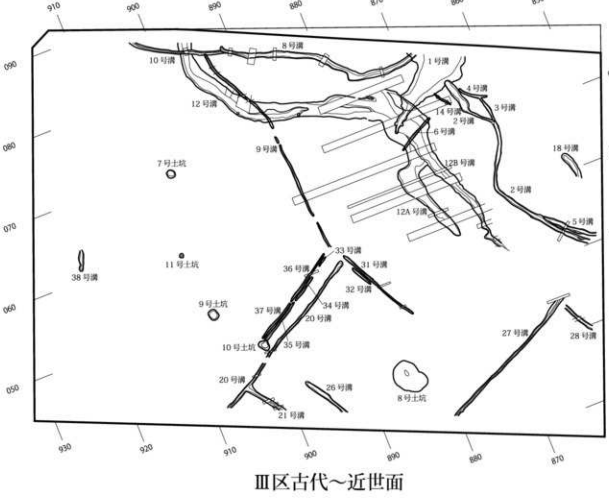
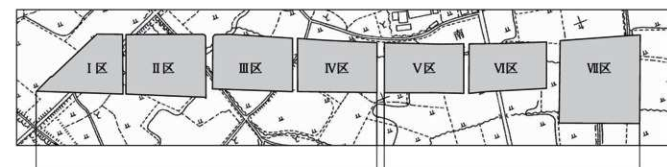
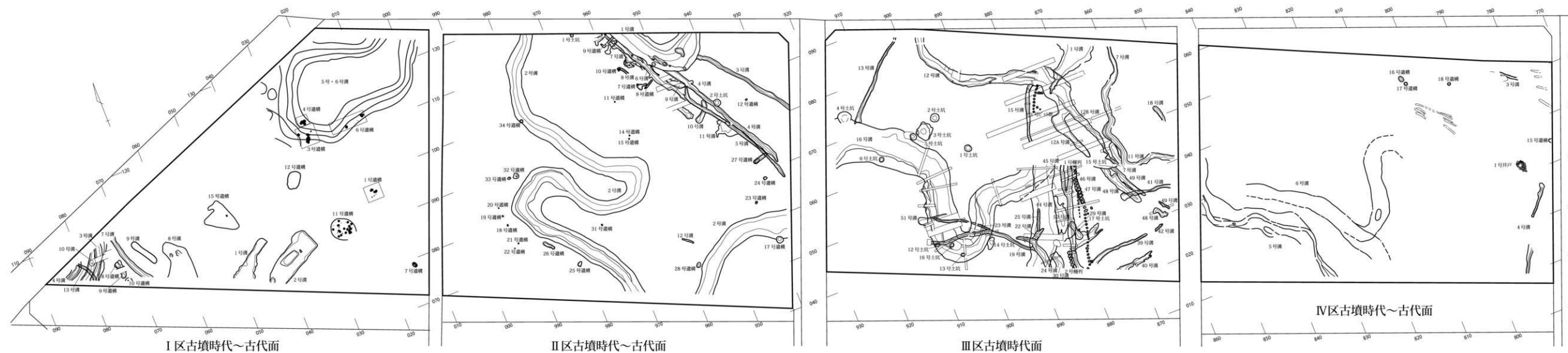
編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北條町下箱田784番地2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／杉浦印刷株式会社



西長岡宿遺跡全体図 1/500

